

笠松町

老人福祉社計画・第10期介護保険事業計画
のためのアンケート結果報告書

令和8年3月

笠 松 町

も く じ

第1章 調査の概要

1 調査の目的.....	1
2 調査の設計.....	1
3 回収結果	2
4 報告書の見方	2

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 調査対象者の家族や生活の状況	3
2 からだを動かすことや外出について	10
3 食えることなどについて.....	17
4 毎日の生活について	24
5 地域での活動について	38
6 就労について.....	43
7 たすけあいについて	47
8 健康について.....	53
9 認知症について	59
10 地域とのつながりについて	65
11 災害時の対応について	71
12 これからの生活について	73
13 高齢者施策について	79
14 活動能力の指標について	83
15 調査票の記入者.....	86

第3章 在宅介護実態調査

1 調査対象者の家族や生活の状況	87
2 健康について.....	91
3 介護保険サービスについて.....	93
4 認知症について	99
5 災害時の対応について	107
6 これからの生活について.....	109

7	高齢者施策（重点に置くべき高齢者施策）について.....	115
8	介護者について	116
9	調査票の記入者	126
第4章 介護支援専門員調査		
1	調査対象者の属性等	127
2	ケアマネジメントと笠松町の現状について	129
第5章 サービス事業所調査		
1	在宅生活改善調査	139
2	居所変更実態調査	141
3	介護人材実態調査	142

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、笠松町老人福祉計画・第 10 期介護保険事業計画の策定にあたって、対象となる住民の健康状態や生活習慣、介護保険サービス、保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握するとともに、介護支援専門員や介護サービス事業者からも課題やニーズを把握し、基礎資料とすることを目的とします。

2 調査票の設計

本調査は、図表 1－1 のとおり設計し実施しました。

図表 1－1 調査の設計

調査の種類		調査対象者	抽出方法	調査基準日	調査期間	調査方法
①介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査		要介護 1～5 以外の 65 歳以上の 人	無作為	令和 7 年 12 月 1 日	令和 7 年 12 月	配布：郵送 回収：郵送 および Web
②在宅介護実態調査		要介護 1～5 の人（施設・居住 系サービス利用者を除く）	全 数			
③介護支援専門員調査		町内の居宅介護支援事業所の 介護支援専門員	全 数	令和 8 年 1 月 1 日	令和 8 年 1 月	
④サ ー ビ ス 事 業 所 調 査	在宅生活改善調査	町内の居宅介護支援事業所お よび小規模多機能型居宅介護 事業所	全 数	令和 8 年 1 月 1 日	令和 8 年 1 月	メー ルに より 配布・ 回収（一部 紙媒体で 実施）
	居所変更実態調査	町内の施設・居住系サービス事 業所	全 数			
	介護人材実態調査	町内の訪問系サービス、通所系 サービス、施設・居住系サービ スおよび小規模多機能型居宅 介護事業所	全 数			

3 回収結果

各対象の配布数及び回収数は、図表 1－2 のとおりです。

図表 1－2 回収結果

調査票の種類	配布数	回収数			回収率	有効回答数	有効回答率
		郵送	Web	合計			
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,784	1,137	88	1,225	68.7%	1,218	68.3%
②在宅介護実態調査	693	352	34	386	55.7%	367	53.0%
③介護支援専門員実態調査	31	26	3	29	93.5%	29	93.5%

調査票の種類		配布数	回収数			回収率	有効回答数	有効回答率
			メール	紙媒体	合計			
④サービス事業所調査	在宅生活改善調査	9	3	1	4	44.4%	4	44.4%
	居所変更実態調査	17	9	0	9	52.9%	9	54.9%
	介護人材実態調査	41	18	1	19	46.3%	19	46.3%

4 報告書の見方

- 表中の n（Number of Case の略）は回答者数を示しています。
- 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると 100%を超えます。
- 回答率（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入しました。そのため、回答率の合計が 100%にならない場合があります。
- 調査項目については、令和 4 年に実施した調査と比較分析をしました。図表中「第 9 期」とあるのは令和 4 年の調査、「第 10 期」とあるのは今回の調査を指します。

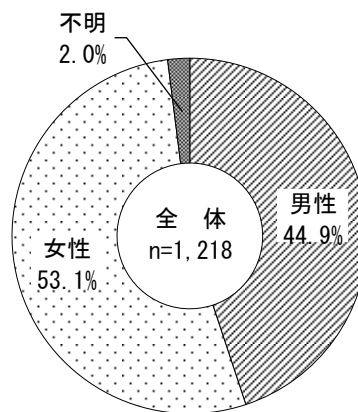
第2章 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

1 調査対象者の家族や生活の状況

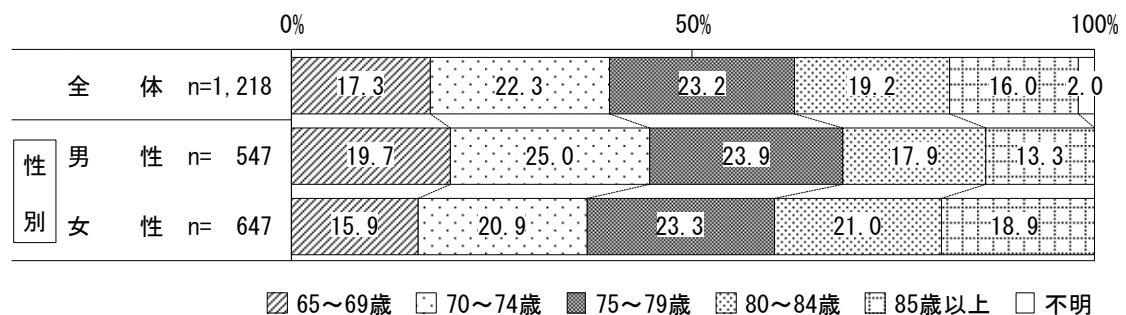
(1) 性別・年齢別

- ▶調査対象者の性別は、男性が44.9%、女性が53.1%です（図表2－1）。
- ▶年齢は、65～74歳が39.6%、75歳以上が58.4%です。性別にみると、女性は男性に比べ75歳以上が8.1ポイント高くなっています（図表2－2）。

図表2－1 性別



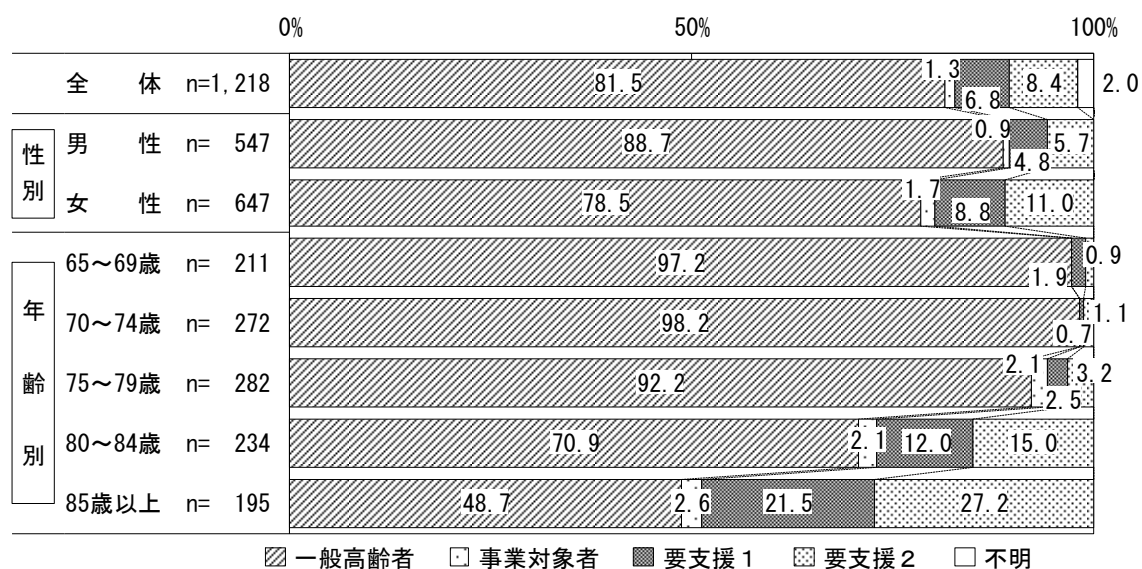
図表2－2 年齢別



(2) 認定等の状況

▶要支援認定等の状況は、認定等を受けていない一般高齢者が81.5%を占めています。年齢が上がるにしたがい、要支援認定者や介護予防・生活支援サービスの事業対象者が高くなる傾向にあります（図表2－3）

図表2－3 援認定等の状況

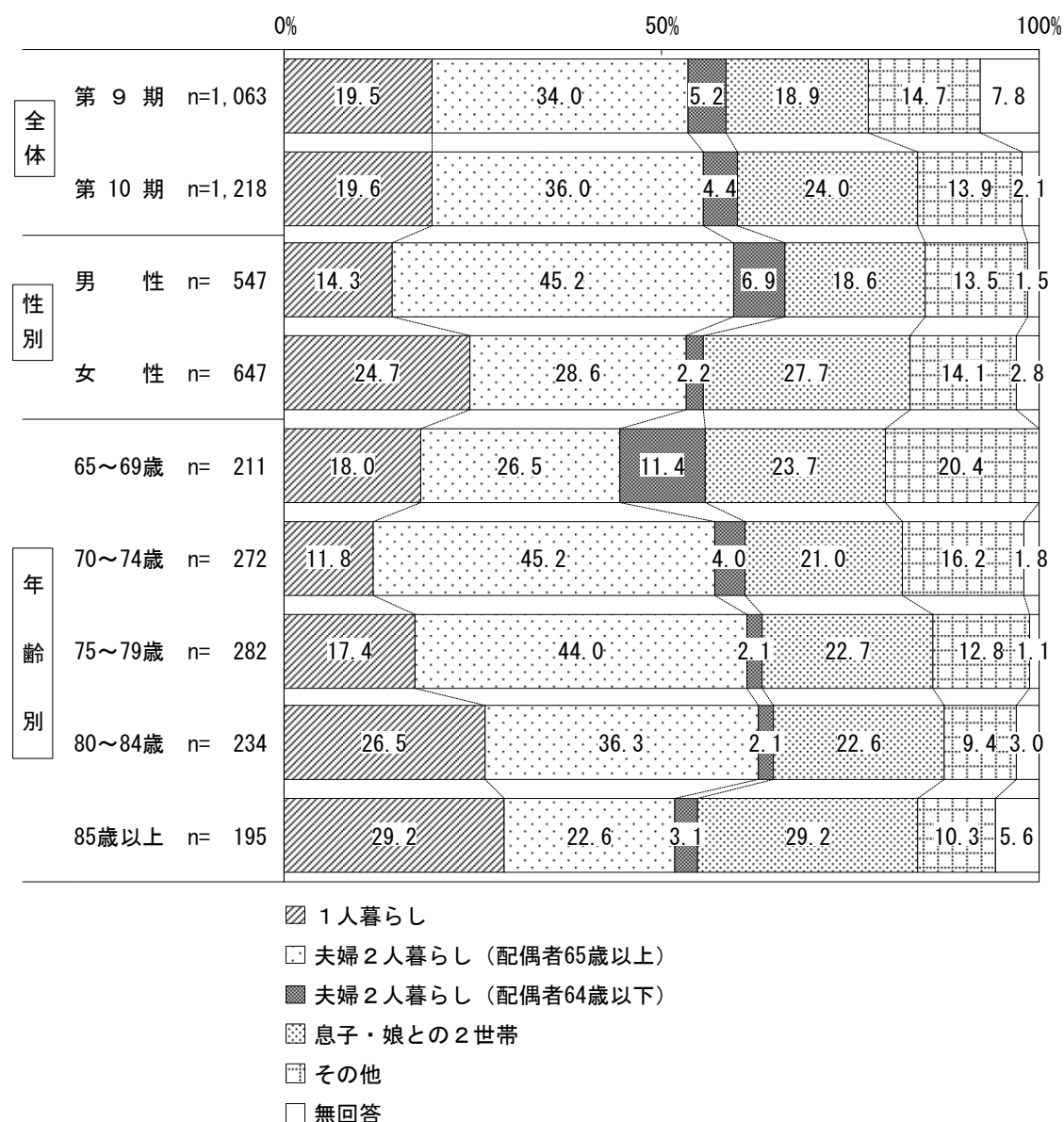


(3) 家族構成

① 家族構成

- ▶家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が36.0%と最も高く、「1人暮らし」(19.6%)との合計《高齢者のみの世帯》は55.6%です。第9期の調査結果に比べ《高齢者のみの世帯》が2.1ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「1人暮らし」が上昇し、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が低下する傾向にあります。

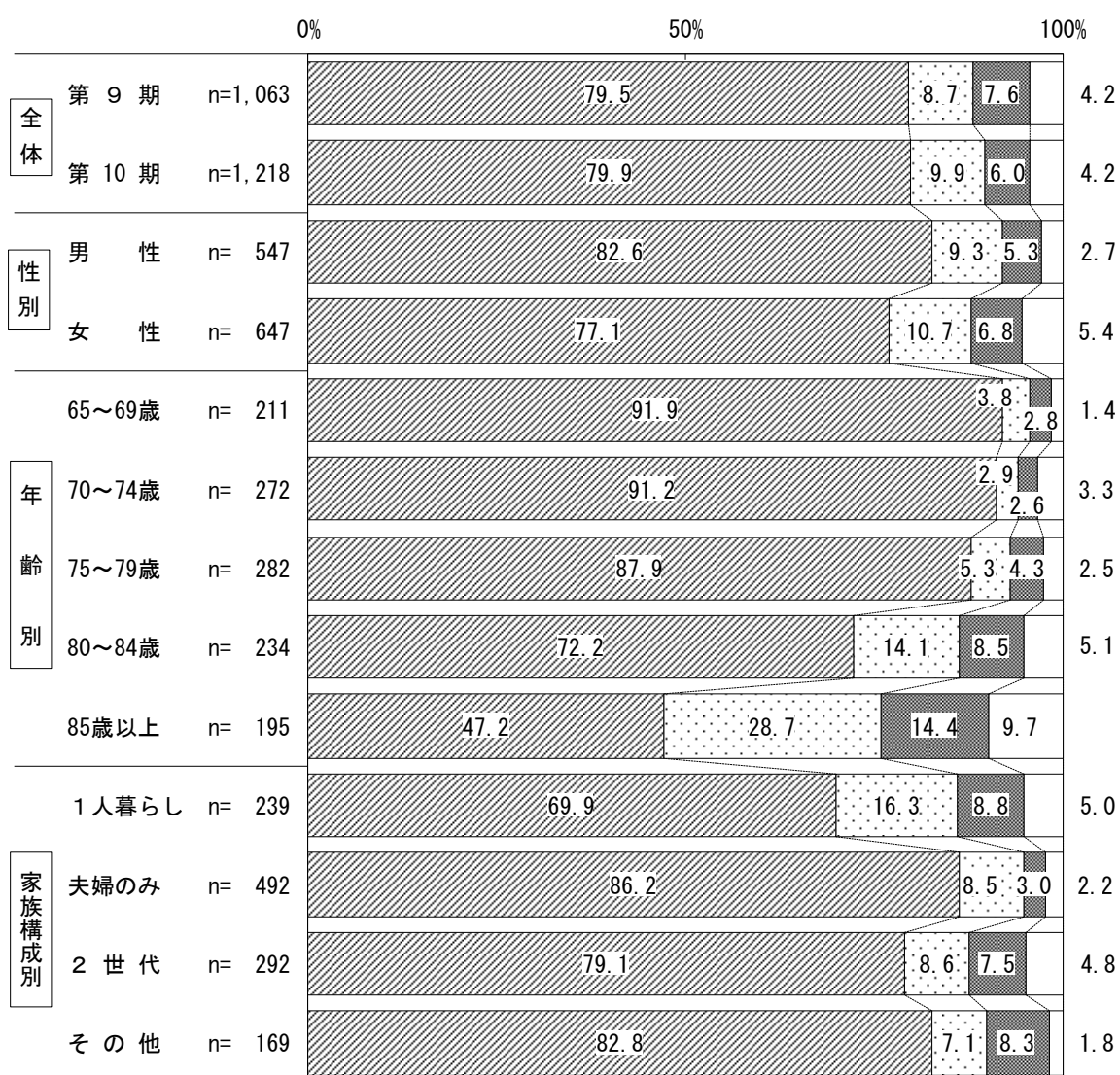
図表2-4 家族構成



(4) 介護・介助の必要性

- ▶ 普段の生活で誰かの介護・介助が必要かをたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が75.8%を占めています。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は9.9%、「現在、何らかの介護を受けている」は6.0%であり、これらの合計《要介護》は15.9%です。
- ▶ 年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「介護・介助は必要ない」が低下し、85歳以上では《要介護》は43.1%となります。
- ▶ 家族構成別にみると、1人暮らしでは《要介護》が25%を超えています。

図表 2-5 介護・介助が必要か



▨ 介護・介助は必要ない

▤ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

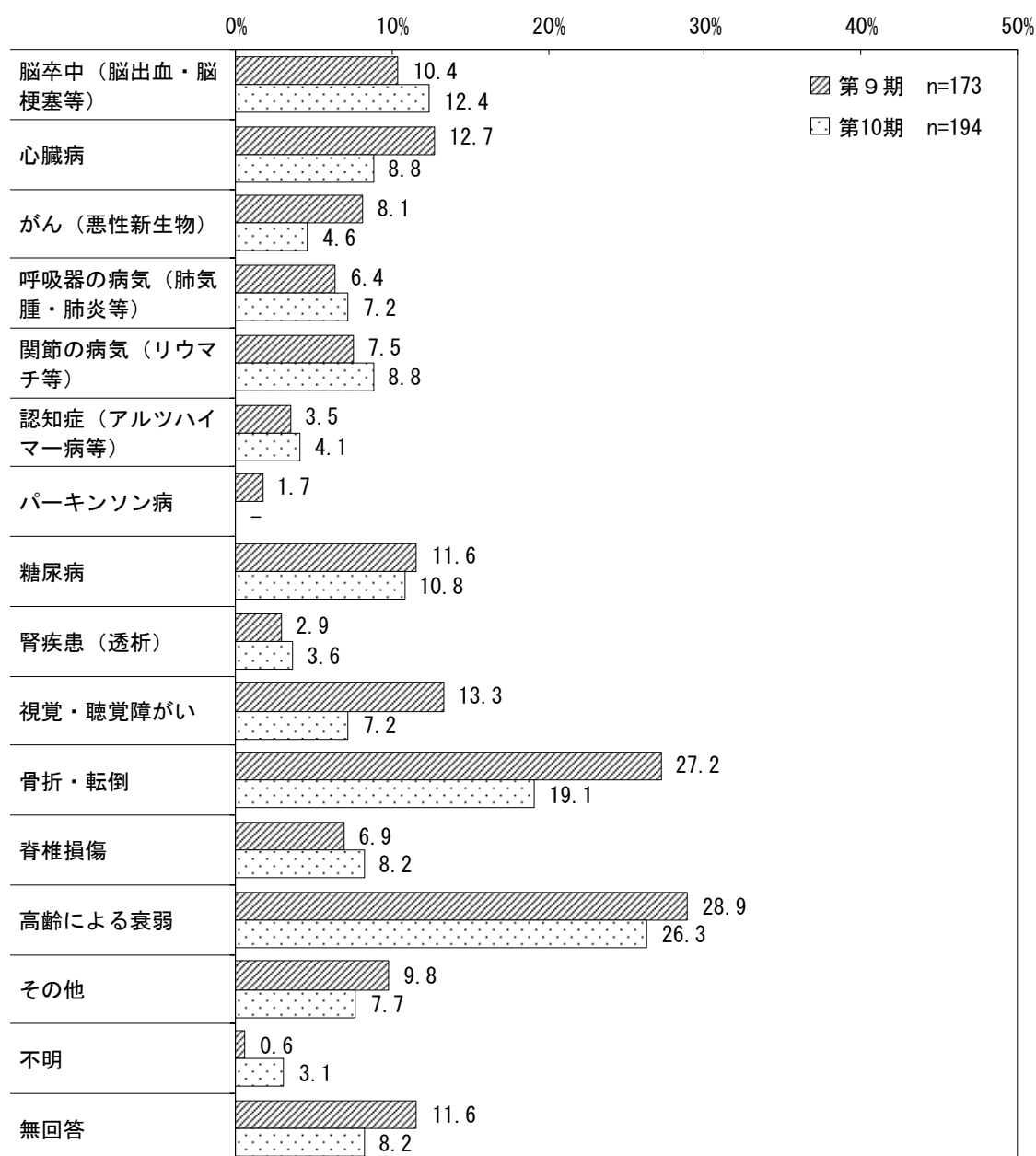
■ 現在、何らかの介護を受けている

□ 無回答

(5) 介護・介助が必要になった原因

- ▶「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した194人の介護・介助が必要になった原因としては、「高齢による衰弱」が26.3%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が19.1%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が12.4%などとなっています。
- ▶第9期の調査結果に比べ「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「関節の病気（リウマチ等）」などが上昇しています。

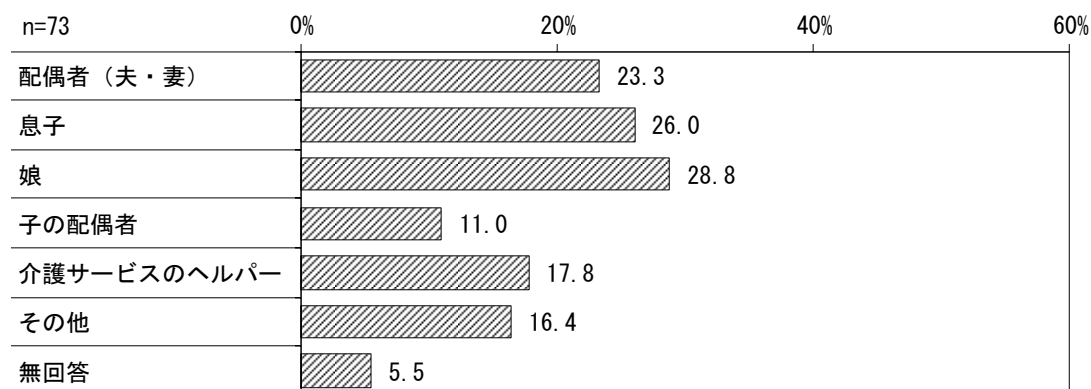
図表 2－6 介護・介助が必要になった原因（複数回答）



(7) 主な介護・介助者の状況

▶「現在、何らかの介護を受けている」と回答した73人に、主な介護・介助者をたずねたところ、「娘」が28.8%と最も高く、次いで「息子」が26.0%、「配偶者（夫・妻）」が23.3%、「介護サービスのヘルパー」が17.8%、「子の配偶者」が11.0%などとなっています。

図表 2-7 主な介護・介助者（複数回答）

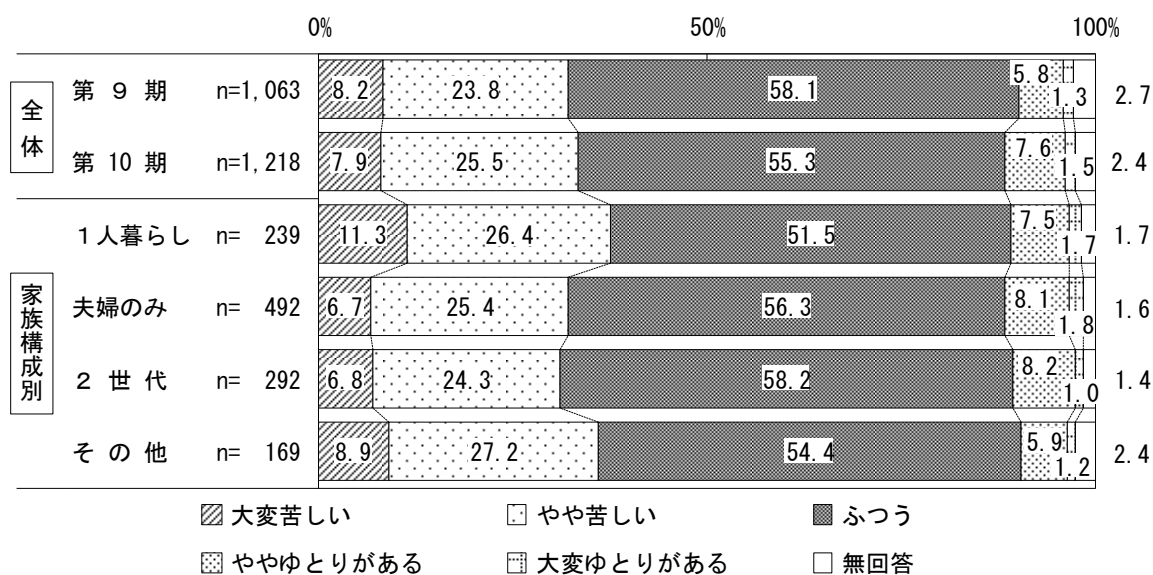


(8) 経済的な状況

▶現在の暮らしの状況は、「ふつう」が55.3%と最も高く、次いで「やや苦しい」が25.5%などとなっています。「大変苦しい」（7.9%）と「やや苦しい」の合計《苦しい》は33.4%、「大変ゆとりがある」（1.5%）と「ややゆとりがある」（7.6%）の合計《ゆとりがある》は9.1%です。

▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「大変苦しい」が10%を超えています。

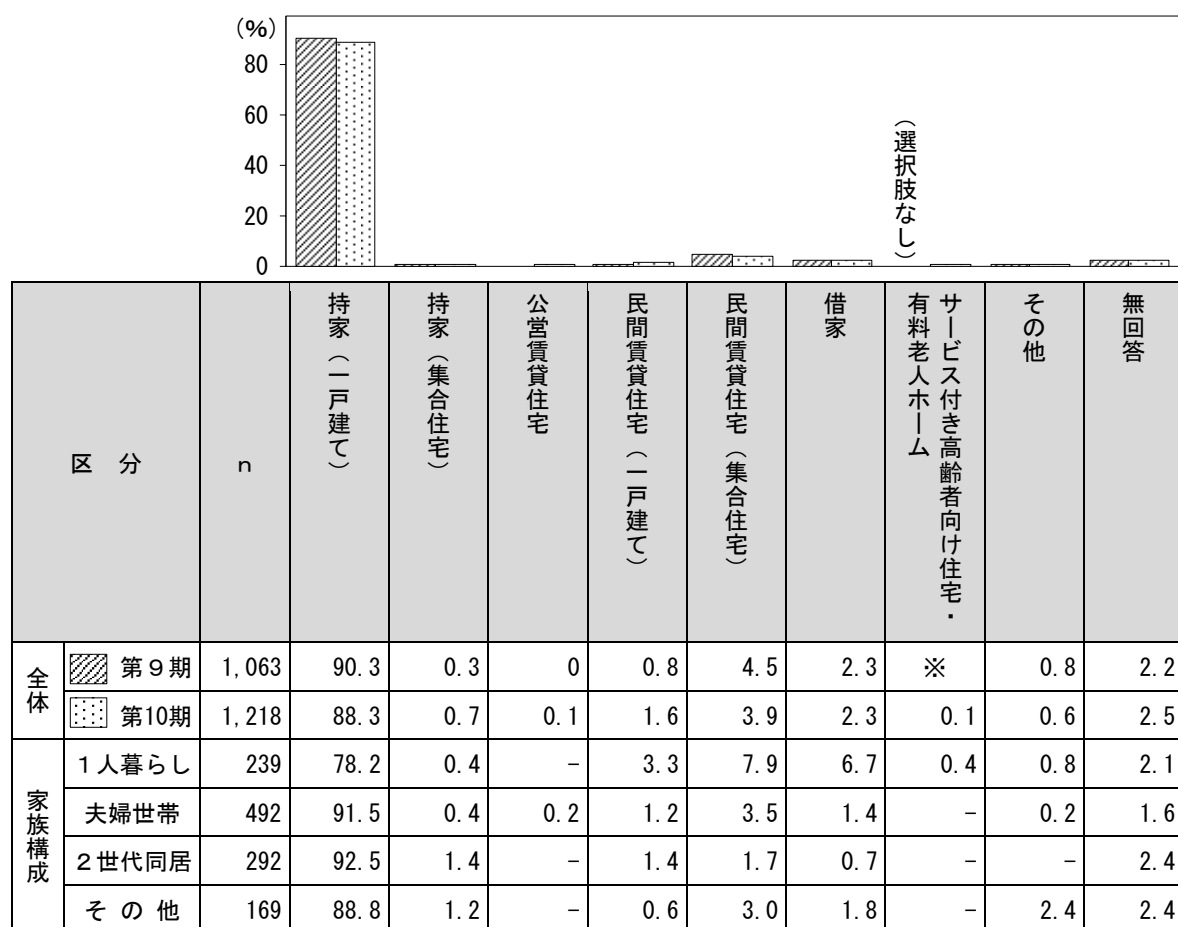
図表 2-10 経済的な状況



(9) 住まいの状況

- ▶住まいは、「持家（一戸建て）」が88.3%を占め、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が3.9%、「借家」が2.3%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「持家（一戸建て）」が2ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「持家（一戸建て）」が他の家族構成に比べ低く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」などが高くなっています。

図表 2-11 住まいの状況

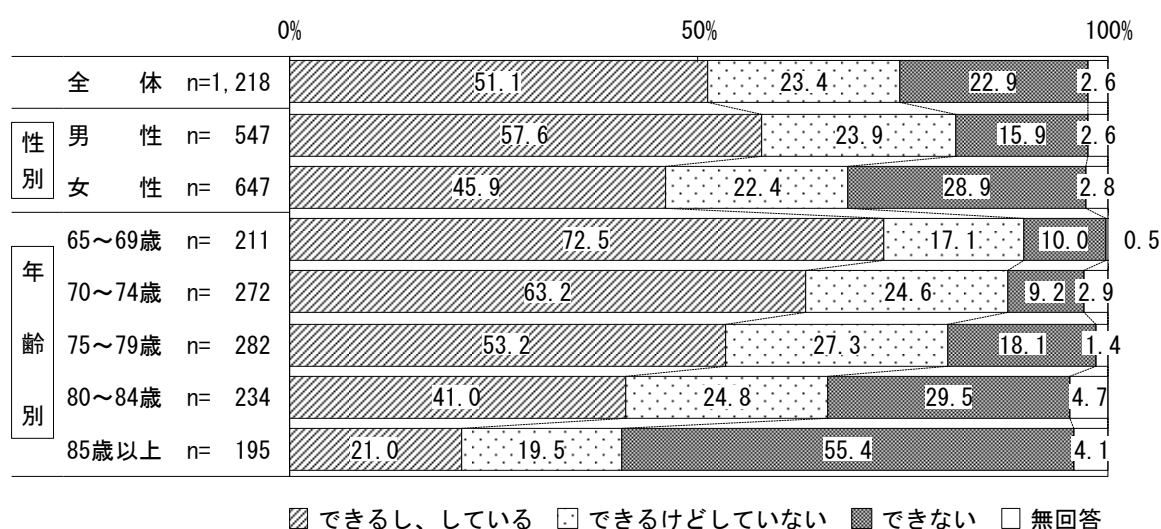


2 からだを動かすことや外出について

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

▶階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が51.1%です。年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなっており、85歳以上になると50%を超えます。

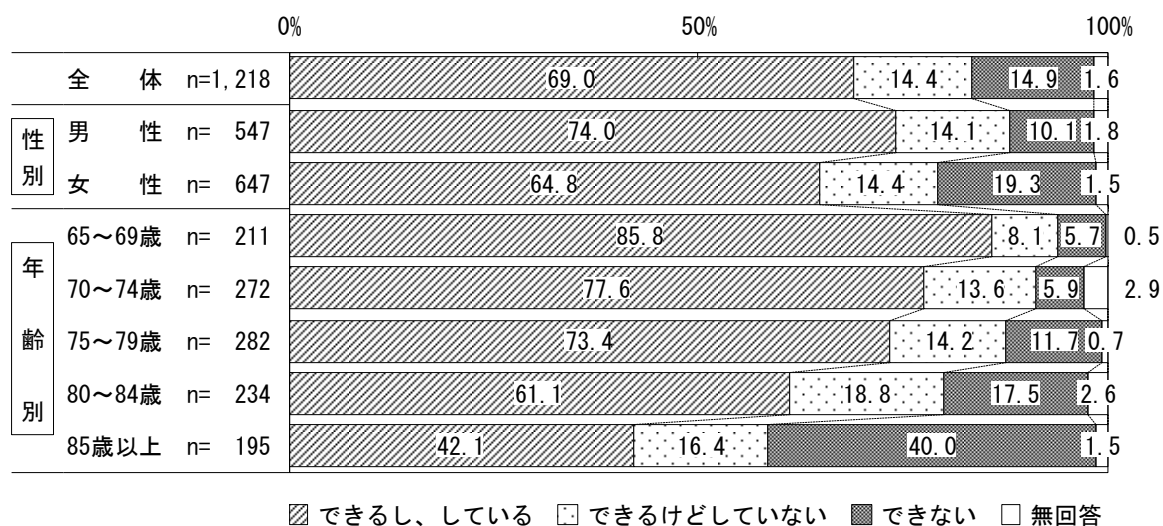
図表 2-12 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



(2) 椅子から何もつかまらずに立ち上がっているか

▶椅子から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が69.0%です。年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなっており、85歳以上になると40%となります。

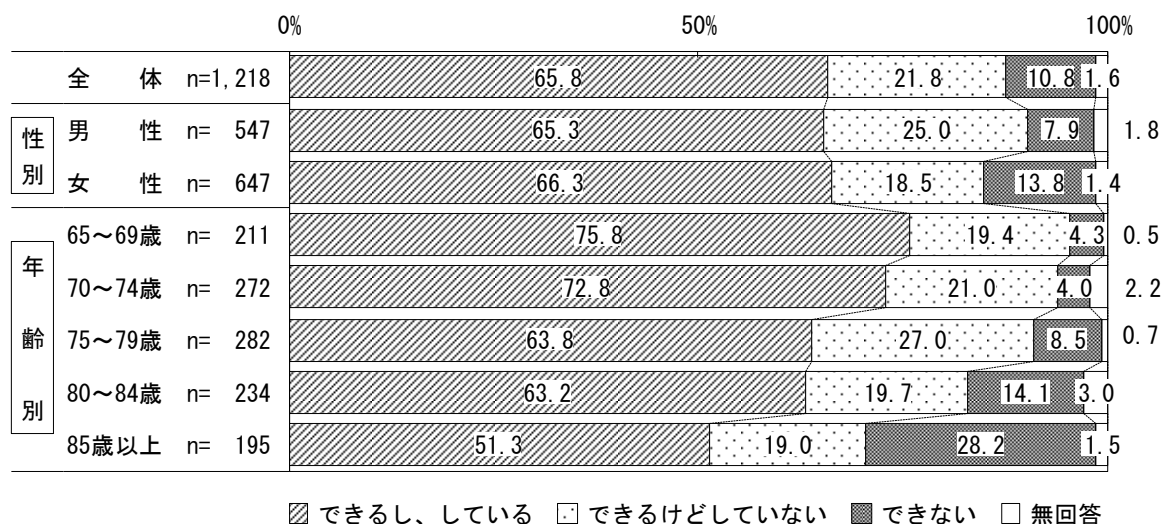
図表 2-13 椅子から何もつかまらずに立ち上がっているか



(3) 15分位続けて歩いているか

▶15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が65.8%です。年齢が上がるにしたがい「できない」が高くなり、85歳以上になると25%を超えます。

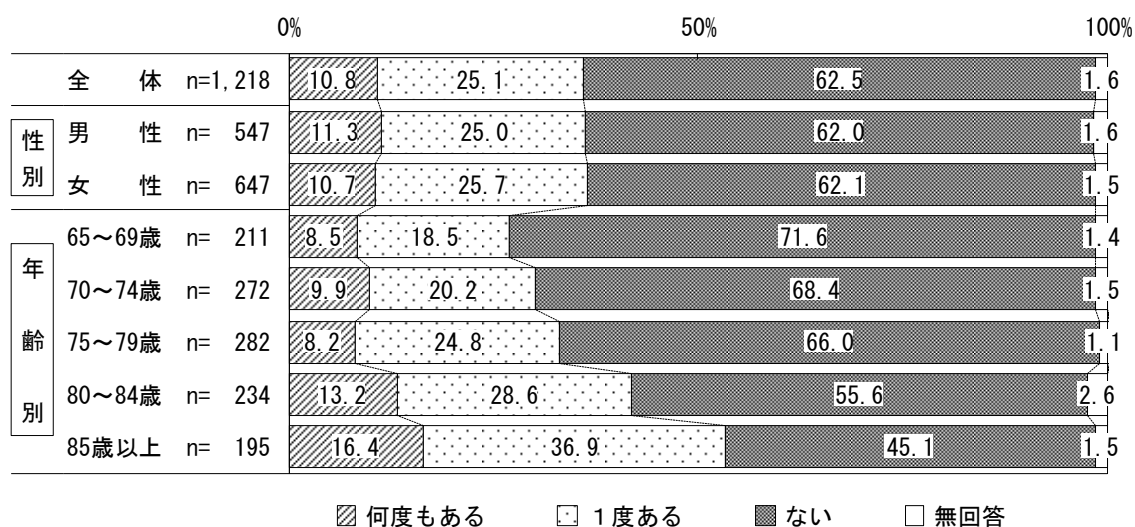
図表 2-14 15分位続けて歩いているか



(4) 転倒経験

▶過去1年間の転倒経験については、「何度もある」（10.8%）と「1度ある」（25.1%）の合計《ある》は35.9%です。年齢が上がるにしたがい《ある》が上昇し、85歳以上になると50%を超えます。

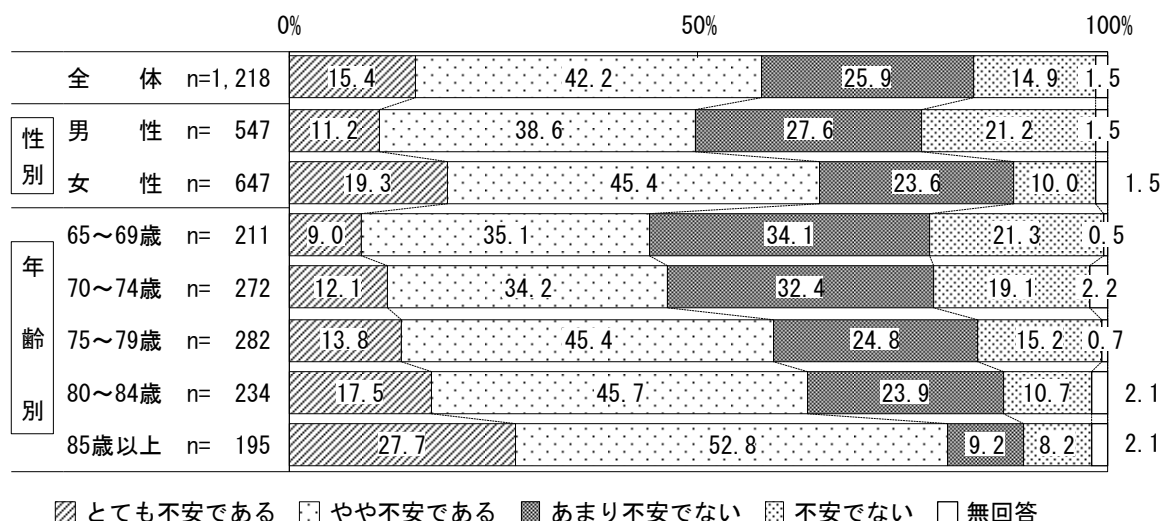
図表 2-15 過去1年間の転倒経験



(5) 転倒に対する不安は大きい

▶転倒に対する不安については、「とても不安である」(15.4%)と「やや不安である」(42.2%)の合計《不安》は57.6%です。年齢が上がるにしたがい《不安》は上昇し、85歳以上では80%を超えます。

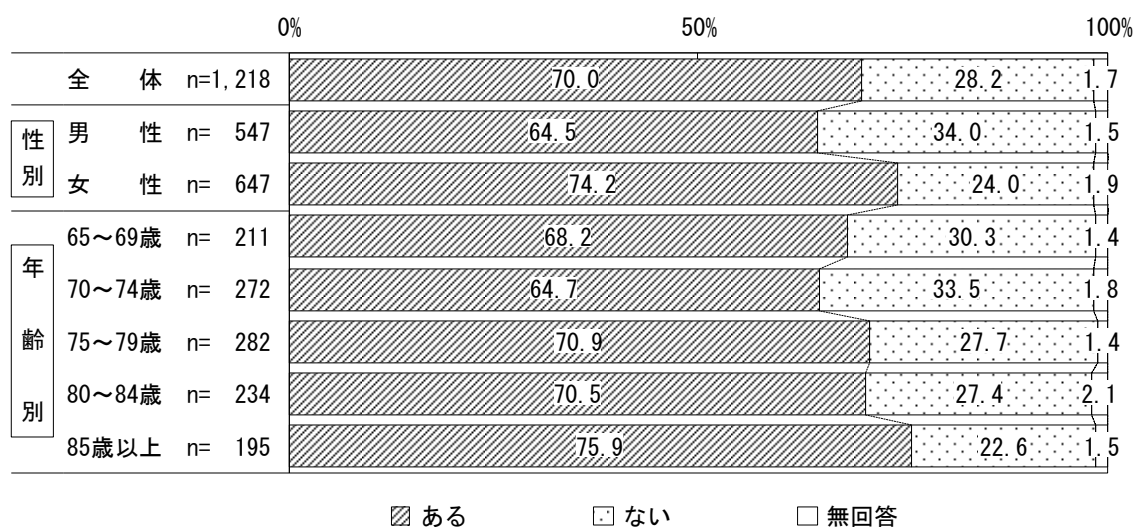
図表 2-16 転倒に対する不安は大きい



(6) 関節が痛むことがある

▶腰や手足の関節の痛みについては、「ある」が70.0%です。年齢別にみると、「ある」は75歳未満では60%台ですが、75歳以上になると70%を超え、85歳以上では75.9%となります。

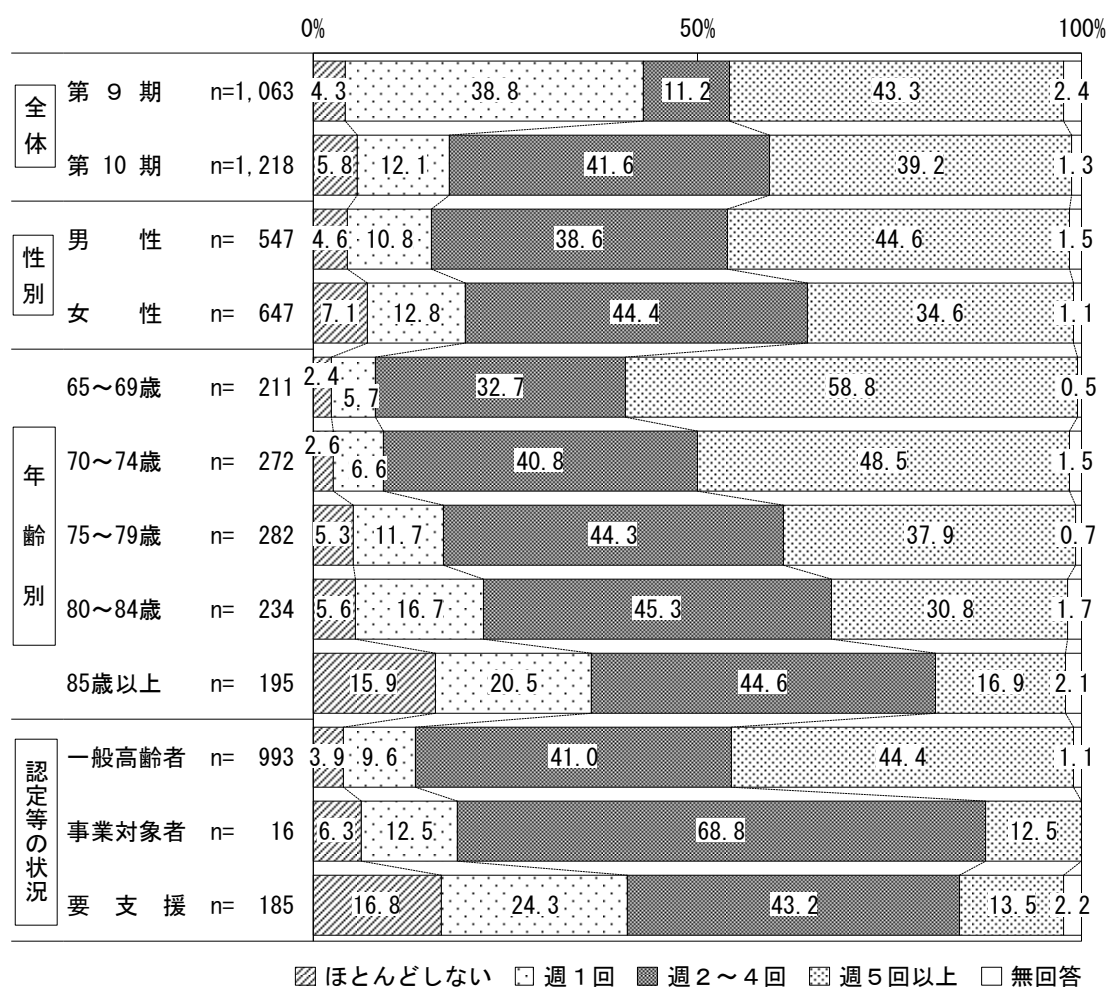
図表 2-17 腰や手足の関節が痛むことがある



(7) 外出頻度

- ▶「週1回以上は外出していますか」という設問については、「週2～4回」が41.6%と最も高く、次いで「週5回以上」が39.2%となっています。「ほとんど外出しない」は5.8%です。第9期の調査結果に比べ「週1回」が大幅に低下した一方で「週2～4回」が大幅に上昇しています。
- ▶性別にみると、男性は「週5回以上」、女性は「週2～4回」が最も高くなっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい外出頻度は低くなっています。
- ▶認定等の状況別にみると、要支援者の外出頻度が低く、「ほとんど外出しない」が16.8%となっています。

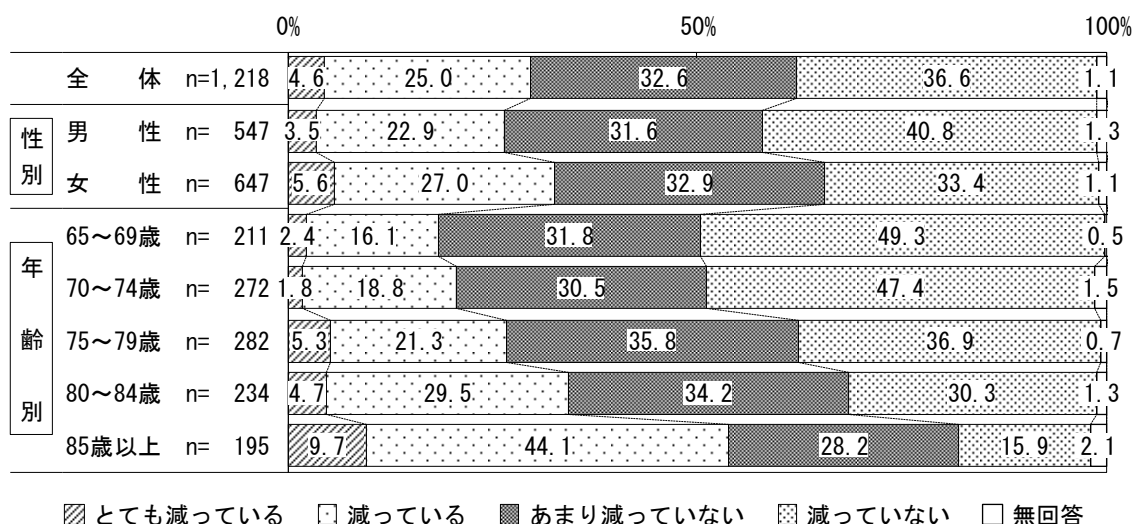
図表2-18 外出頻度



(8) 外出の回数が減っているか

■「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」という設問については、「とても減っている」(4.6%)と「減っている」(25.0%)の合計《減っている》は29.6%です。年齢が上がるにしたがい《減っている》は上昇し、85歳以上になると50%を超えます。

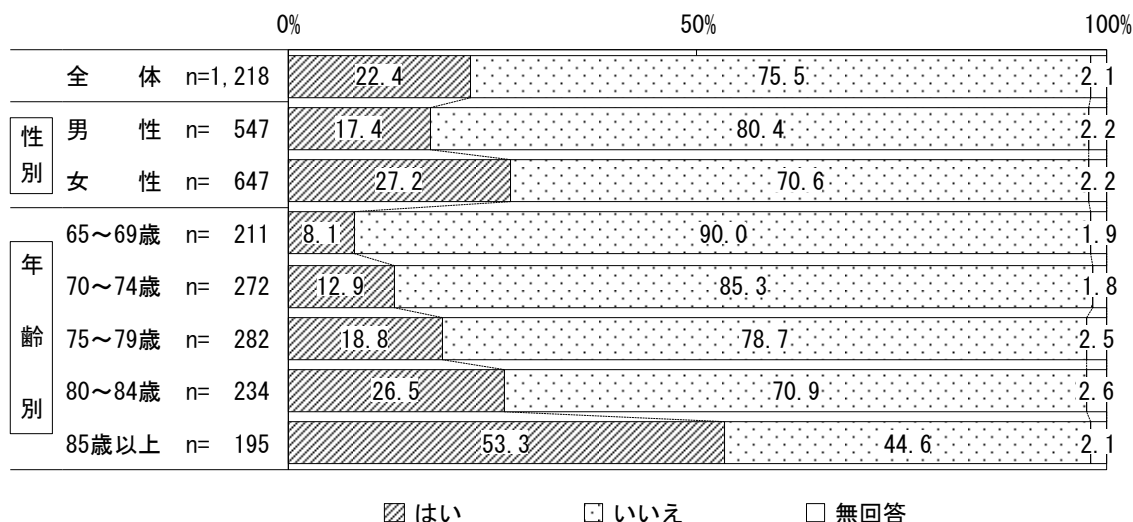
図表 2-19 外出の回数が減っているか



(9) 外出を控えているか

■外出を控えていると答えた人は22.4%です。年齢が上がるにしたがい上昇し、85歳以上になると50%を超えます。

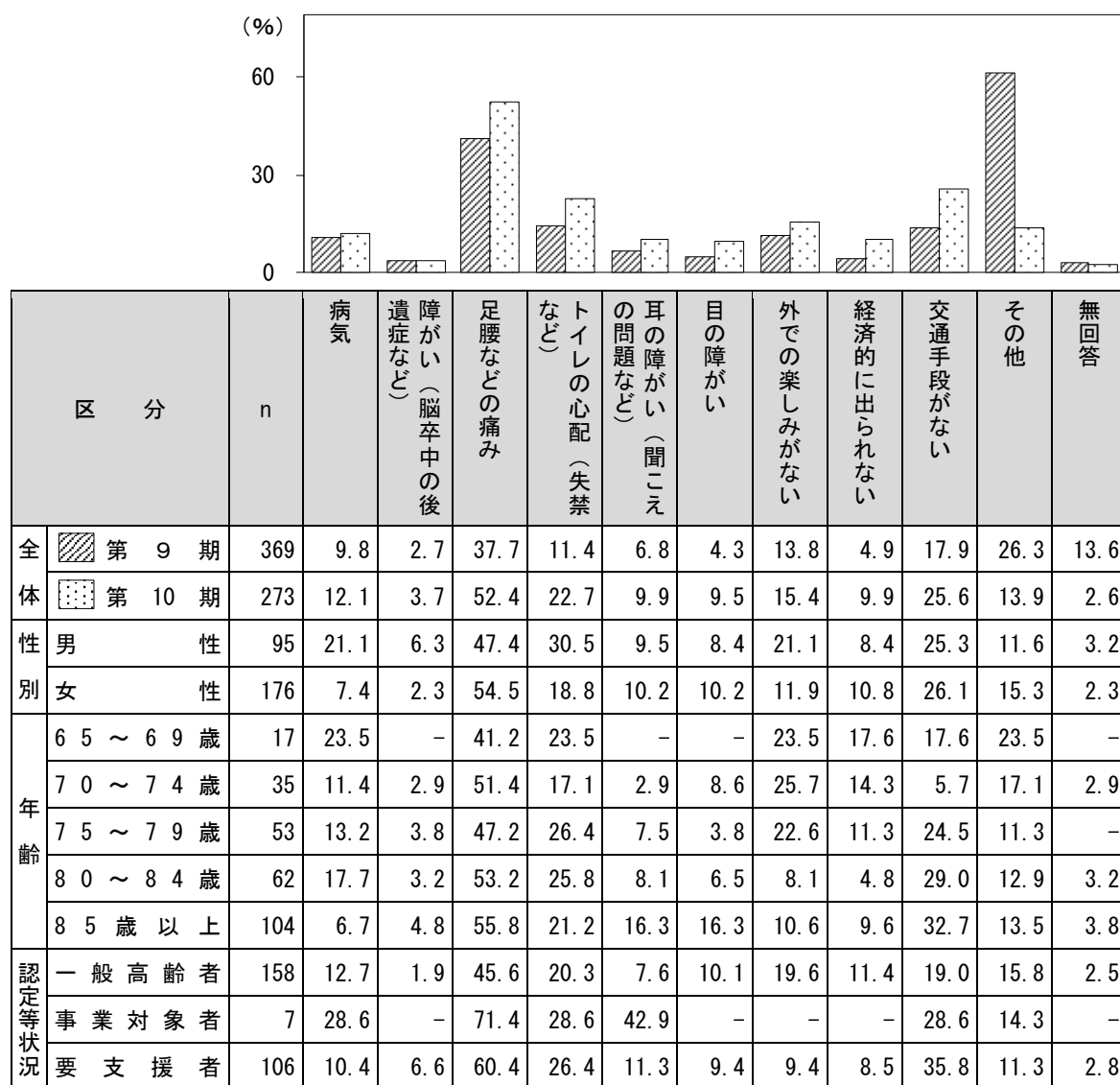
図表 2-20 外出を控えているか



(10) 外出を控えている理由

- ▶外出を控えていると答えた273人の外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が52.4%と突出して高くなっています。次いで「交通手段がない」が25.6%、「トイレの心配」が22.7%、「外での楽しみがない」が15.4%などとなっています。なお、第9期の調査結果において「その他」が高くなっているのは、新型コロナウイルス感染に不安によるものと推測されます。
- ▶性別により5ポイント以上の大きな差があるのは、男性が高い「病気」「トイレの心配」「外での楽しみがない」、女性が高い「足腰の痛み」です。

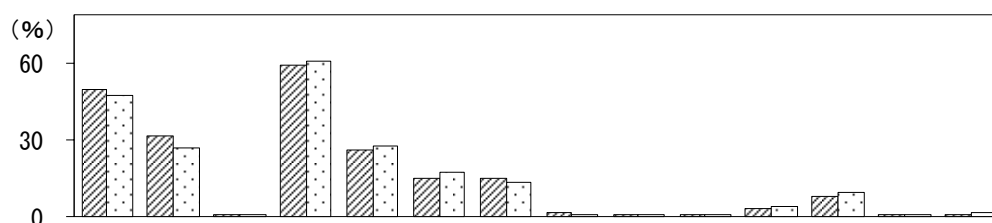
図表2-21 外出を控えている理由（複数回答）



(11) 外出する際の移動手段

- ▶外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が60.5%と最も高く、次いで「徒歩」が47.4%、「自動車（人に乗せてもらう）」が27.7%、「自転車」が27.4%などとなっています。
- ▶性別にみると、男性は「自動車（自分で運転）」が77.5%と突出して高くなっていますが、女性は「自動車（自分で運転）」「徒歩」「自動車（人に乗せてもらう）」がそれぞれ40%前後の高い率となっています。
- ▶年齢別にみると、「自動車（自分で運転）」は年齢が上がるにしたがい低下しますが、85歳以上でも19.0%あります。

図表 2-22 外出する際の移動手段（複数回答）



区 分		n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せても らう)	電車	ス 路線バス・巡回町民バ ス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シル バーカー	タクシー	その他	無回答
全 体	第 9 期	1,063	49.6	31.6	0.7	59.3	26.4	15.4	15.1	1.6	0.7	0.1	3.7	7.8	0.7	0.7
	第 10 期	1,218	47.4	27.4	1.2	60.5	27.7	17.7	13.9	1.4	0.3	0.2	4.2	9.9	1.1	1.6
性 別	男 性	547	49.9	25.8	2.2	77.5	15.4	16.8	9.9	1.5	0.2	—	1.3	8.2	0.5	1.6
	女 性	647	45.1	29.2	0.5	45.4	38.0	18.2	17.6	1.4	0.5	0.3	6.8	11.1	1.7	1.4
年 齢	65～69歳	211	51.7	23.7	2.8	83.4	20.4	22.3	8.5	0.5	0.5	—	0.5	5.2	0.5	0.9
	70～74歳	272	50.0	27.2	1.5	77.6	21.0	18.8	6.6	—	0.4	—	0.4	3.3	1.1	1.8
	75～79歳	282	44.0	27.3	1.8	65.2	24.5	16.0	14.2	0.4	—	0.4	0.7	7.4	1.1	0.7
	80～84歳	234	50.9	30.3	—	47.0	33.8	18.8	21.4	1.7	0.4	0.4	7.3	14.1	1.7	0.9
	85歳以上	195	39.5	29.7	—	19.0	42.1	11.8	21.5	5.6	0.5	—	15.4	22.1	1.5	3.6
認 定 状 況	一般高齢者	993	49.8	28.9	1.5	67.8	23.5	18.8	12.6	0.3	—	0.1	0.9	6.5	0.9	1.3
	事業対象者	16	43.8	31.3	—	43.8	25.0	12.5	25.0	12.5	—	—	—	12.5	—	—
	要支援者	185	34.1	20.5	—	20.5	50.3	11.4	21.1	6.5	2.2	0.5	22.7	27.0	2.7	2.7

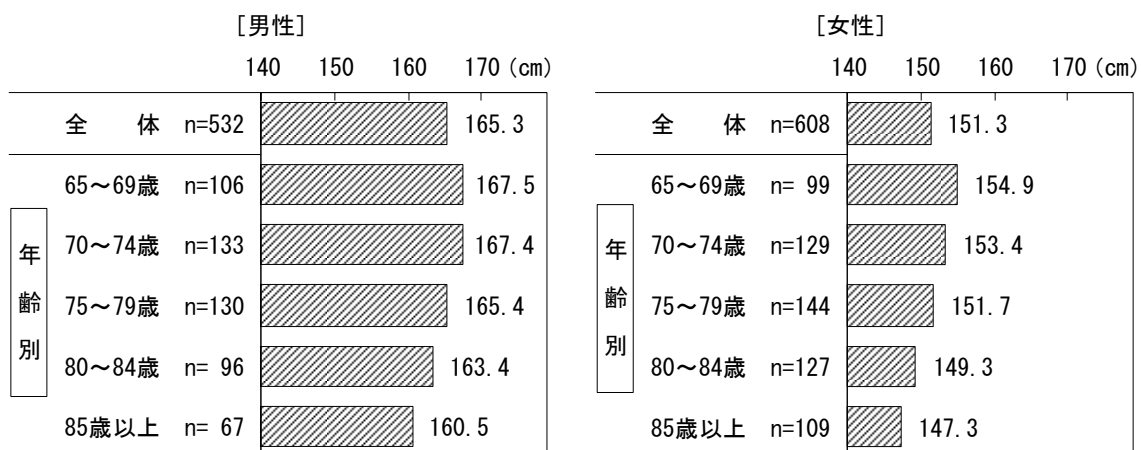
3 食べることなどについて

(1) 身長・体重

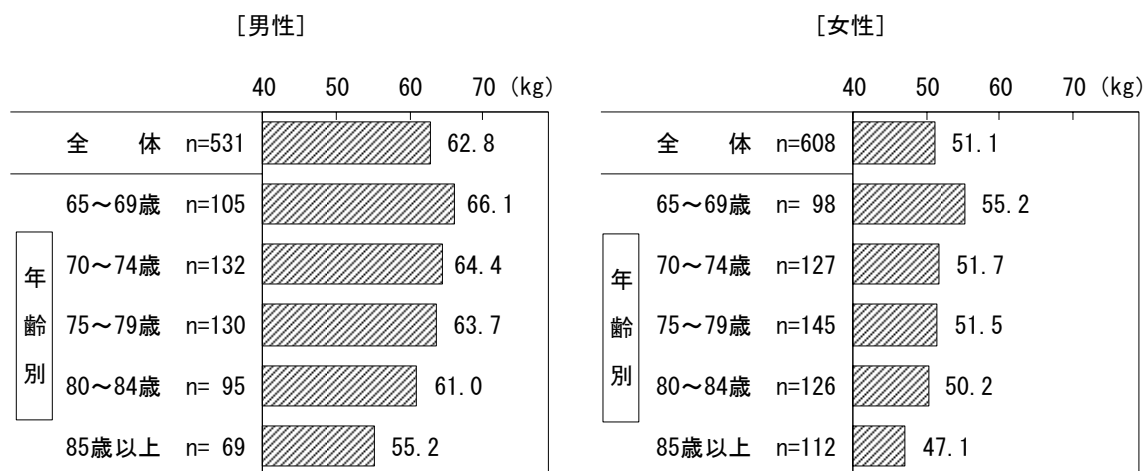
▶身長の平均は、男性が165.3cm、女性が151.3cm、体重の平均は、男性が62.8kg、女性が51.1kgです。年齢が上がるにしたがい身長は低くなり、体重は軽くなります。

図表 2-23 平均身長・平均体重

① 平均身長



② 平均体重

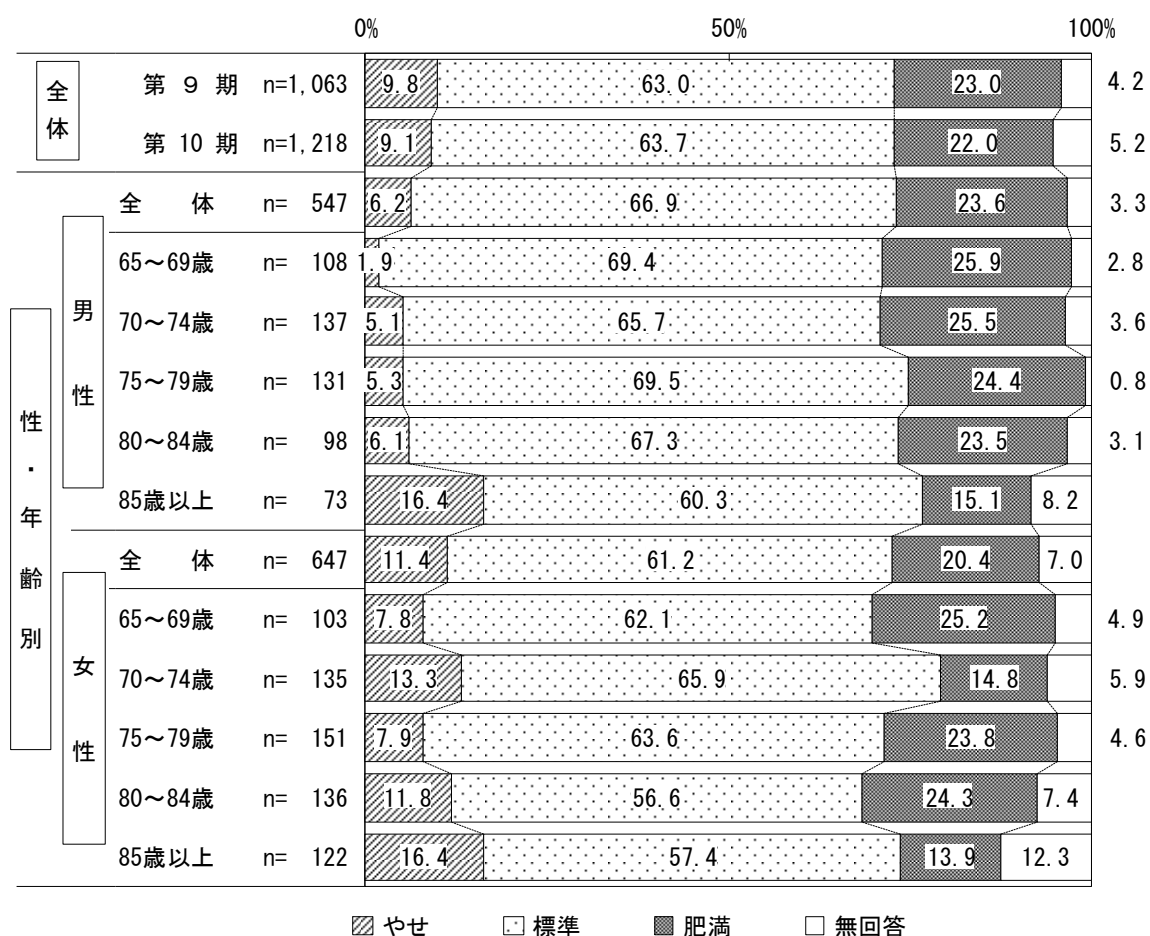


(2) BMI（肥満度指数）

▶調査対象者に身長と体重をたずね、肥満度の指標のBMIを算出しました。BMIとは、体重（kg）を身長（m）の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。

▶「やせ」に該当するのは、男性が6.2%、女性が11.4%です。「肥満」に該当するのは、男性が23.6%、女性が20.4%です。

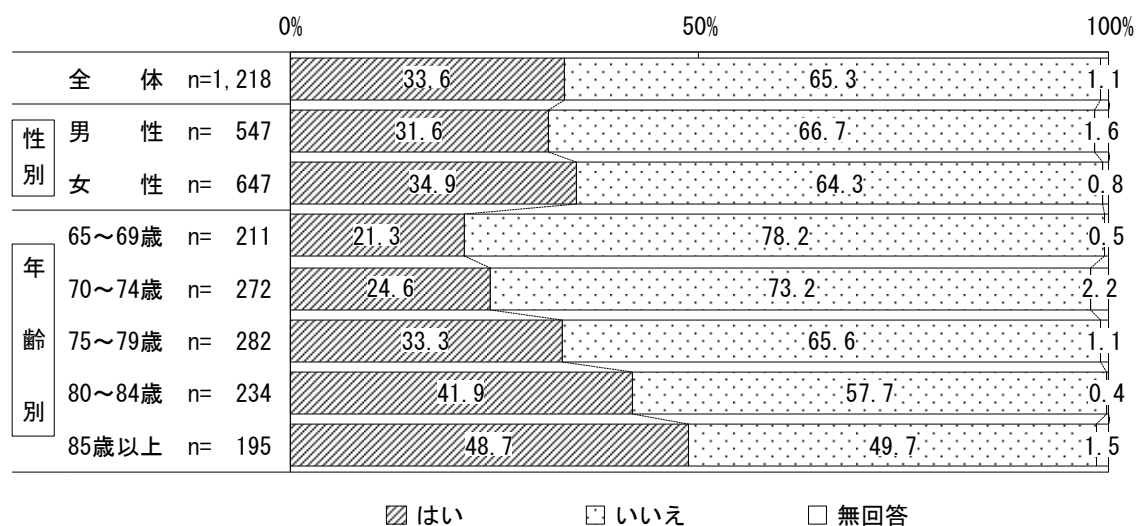
図表2-24 BMI（肥満度指数）



(4) 固いものが食べにくくなったか

▶半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えているのは33.6%です。年齢が上がるにしたがい上昇し、80歳以上になると50%近い率となります。

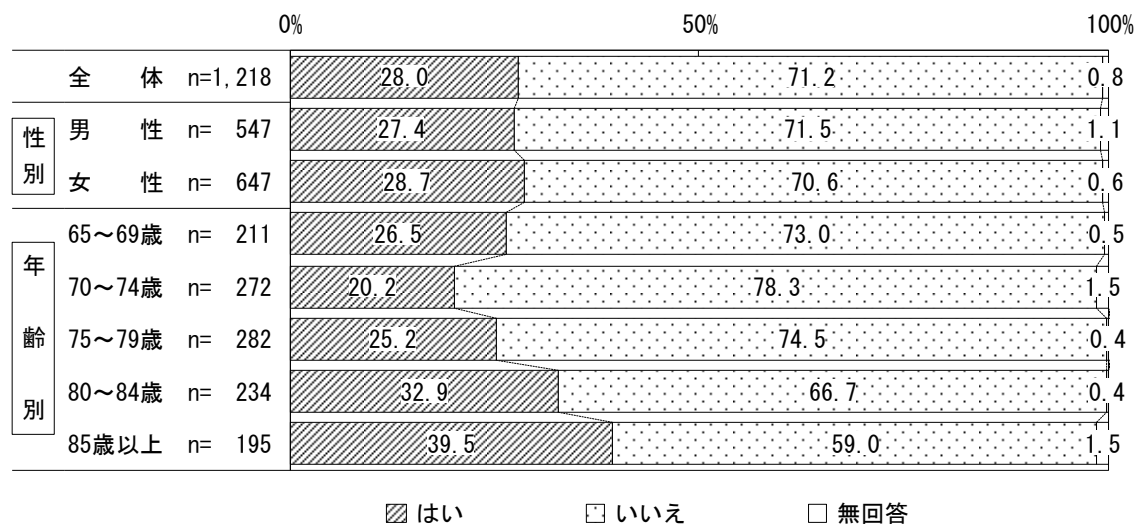
図表 2-25 固いものが食べにくくなったか



(5) お茶や汁物等でむせることがあるか

▶お茶や汁物等でむせることがあるのは28.0%です。年齢が上がるにしたがい上昇し、85歳以上になると40%近い率となります。

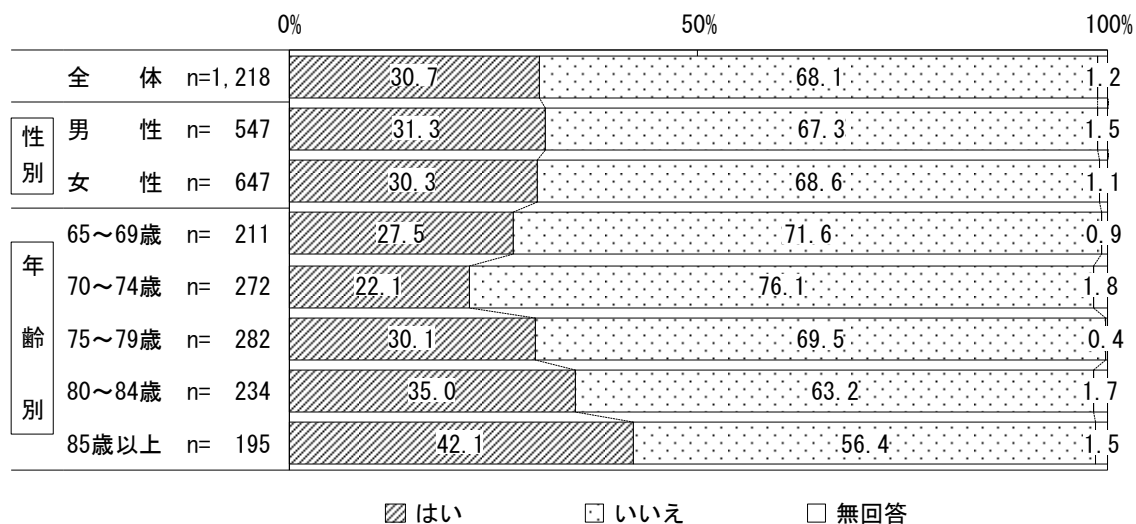
図表 2-26 お茶や汁物等でむせることがあるか



(6) 口の渇きが気になるか

▶口の渇きが気になるのは30.7%です。年齢が上がるにしたがい上昇し、85歳以上になると40%を超えます。

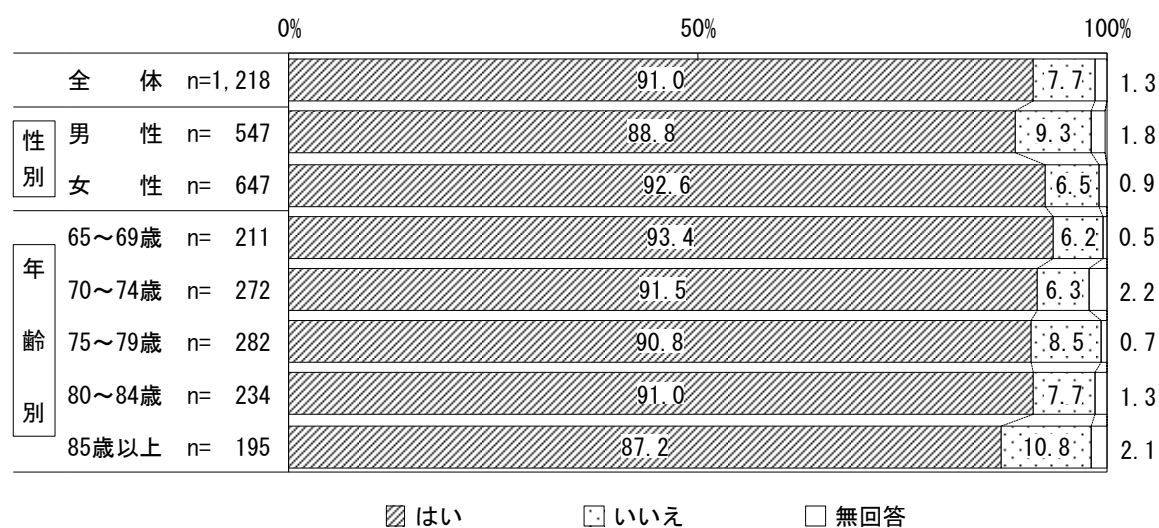
図表 2-27 口の渇きが気になるか



(7) 歯みがきを毎日しているか

▶歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているのは91.0%です。85歳未満では90%台ですが、85歳以上になると87.2%に低下します。

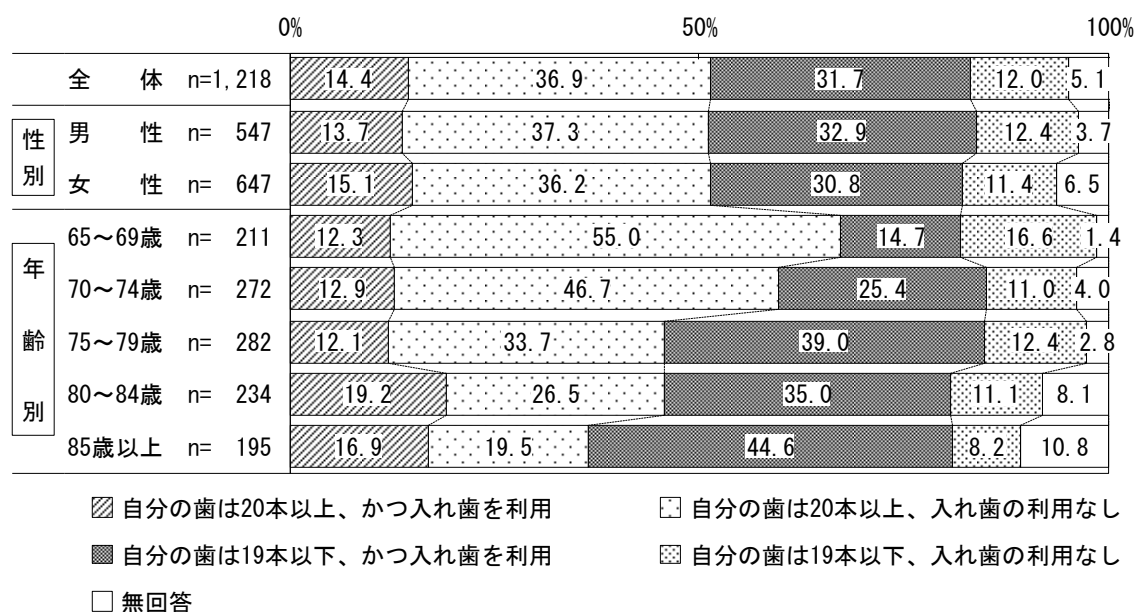
図表 2-28 歯みがきを毎日しているか



(8) 歯の数と入れ歯の使用状況

▶歯の数と入れ歯の使用状況については、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が36.9%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が31.7%です。年齢が上がるにしたがい自歯の数は減り、入れ歯の利用は増える傾向にあり、85歳以上では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が44.6%を占めています。

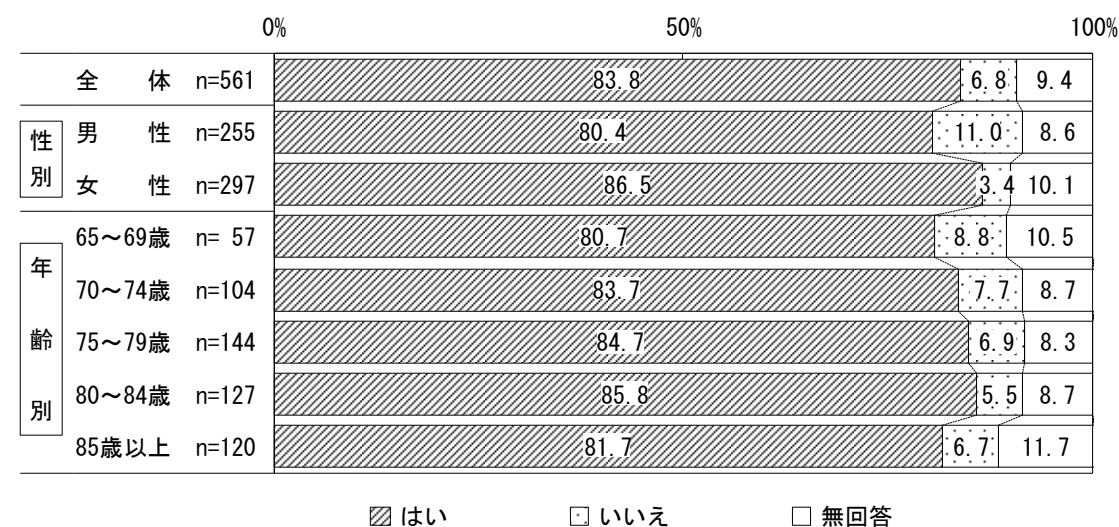
図表 2-29 歯の数と入れ歯の使用状況



(9) 毎日入れ歯の手入れをしているか

▶入れ歯を利用している561人に、毎日入れ歯の手入れをしているかたずねたところ、「はい」は83.8%です。男性は女性に比べ「いいえ」が7ポイント以上高くなっています。

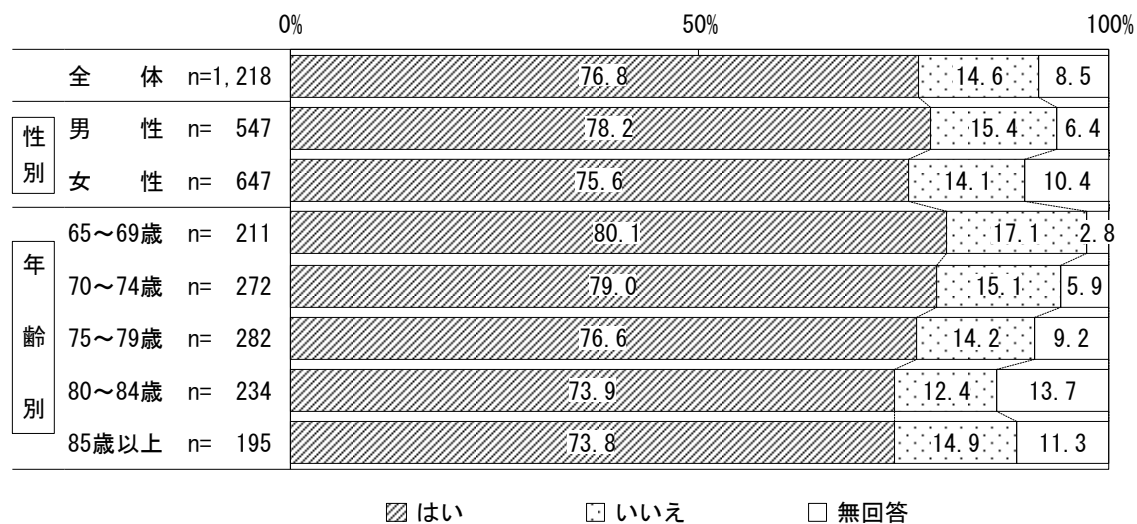
図表 2-30 毎日入れ歯の手入れをしているか



(10) 噛み合わせは良いか

▶ 噛み合わせが良いかをたずねたところ、「はい」（良い）は76.8%です。「いいえ」（良くない）は14.6%です。年齢が上がるにしたがい「はい」が低下します。

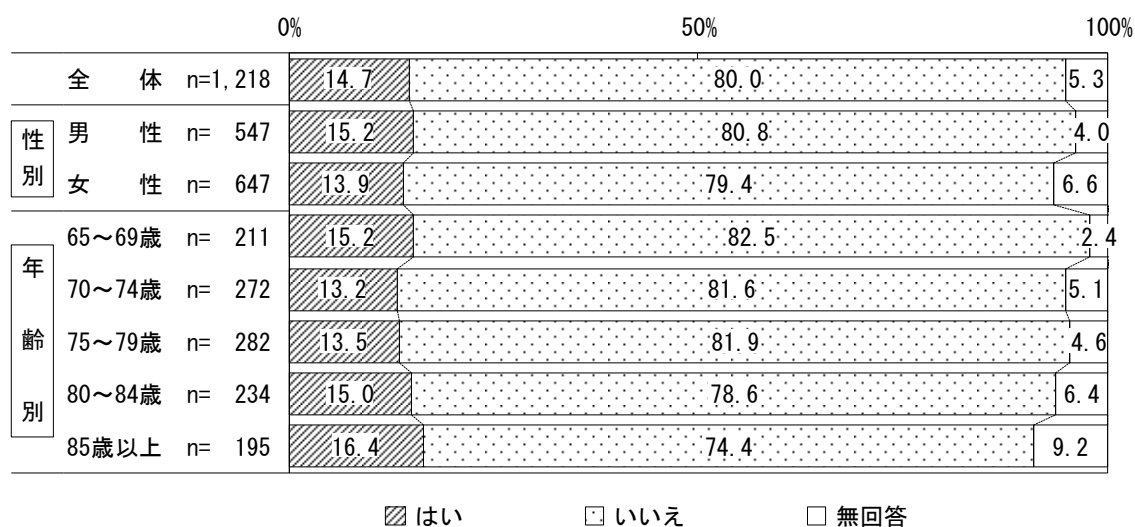
図表 2-31 噛み合わせは良いか



(11) 体重の減少があったか

▶ 6か月間で2～3kgの体重減少があったのは14.7%です。年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあります。

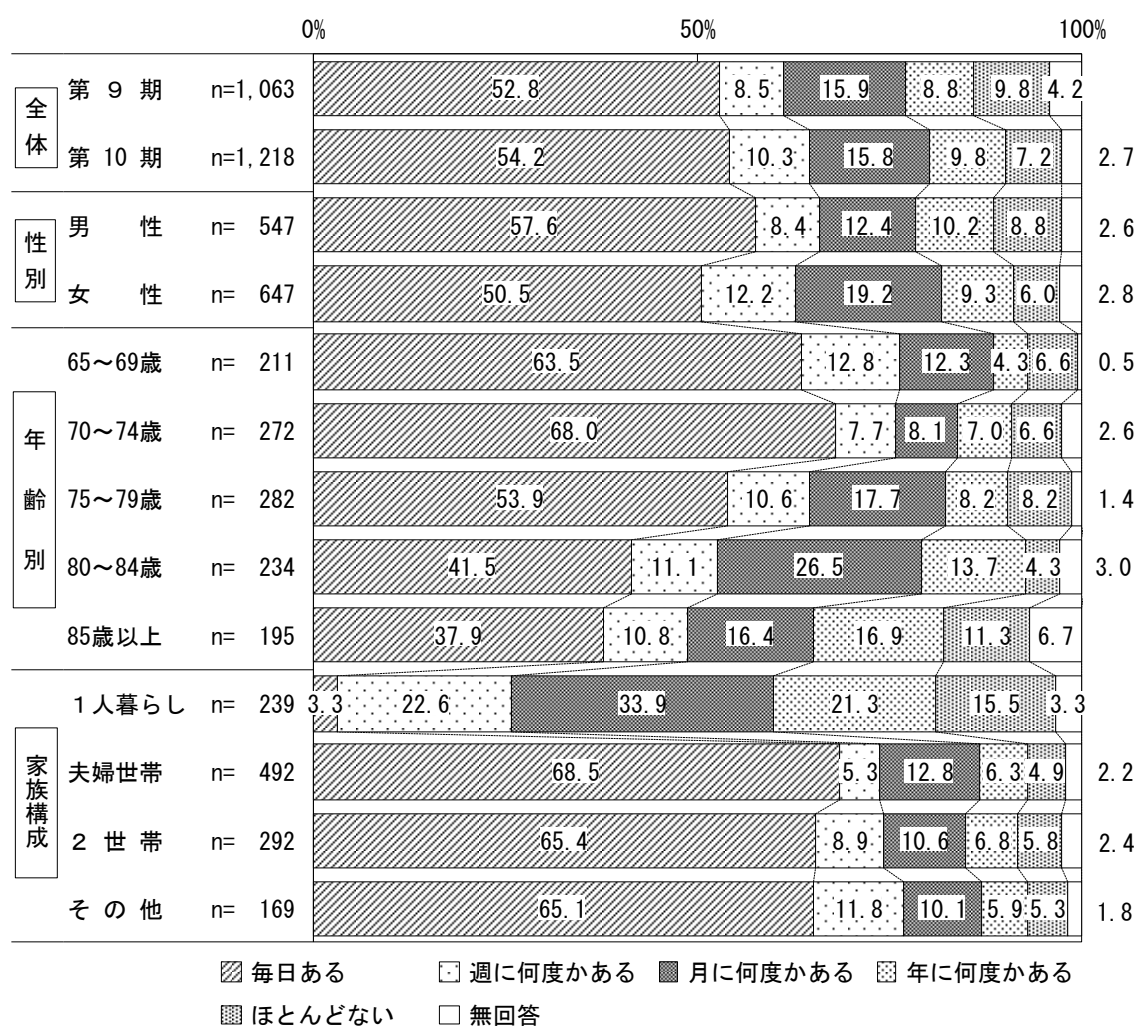
図表 2-32 体重の減少があったか



(12) だれかと食事をとにもする機会

- ▶自分一人ではなく、だれかと食事をとにもする機会があるかをたずねたところ、「毎日ある」が54.2%と最も高く、以下「月に何度かある」（15.8%）、「週に何度かある」（10.3%）、「年に何度かある」（9.8%）、「ほとんどない」（7.2%）の順となっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「月に何度かある」が33.9%と最も高く、次いで「週に何度かある」が22.6%となっていますが、「ほとんどない」が15.5%あります。

図表 2-33 だれかと食事をとにもする機会はあるか

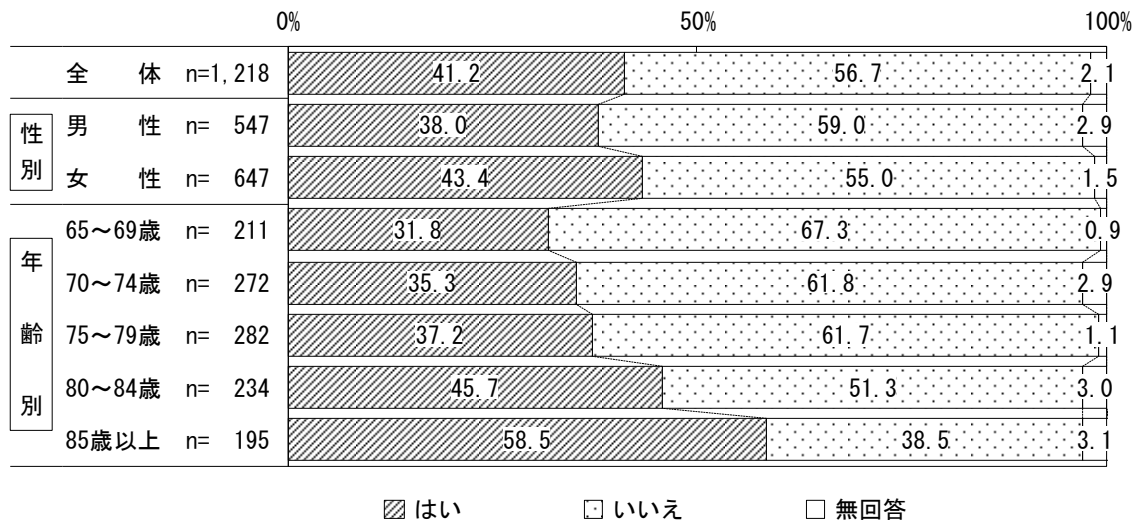


4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

▶物忘れが多いと感じる人は41.2%です。年齢が上がるにしたがい上昇しており、85歳以上になると60%近くを占めます。

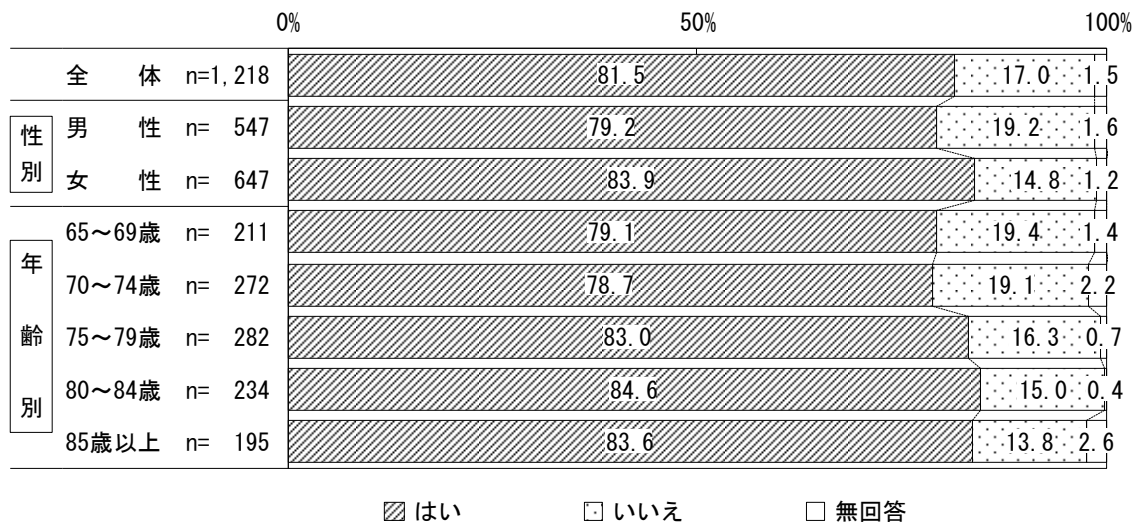
図表 2-34 物忘れが多いと感じるか



(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか

▶自分で電話番号を調べて、電話をかけている人は81.5%です。男性に比べ女性は4.7ポイント高くなっています。

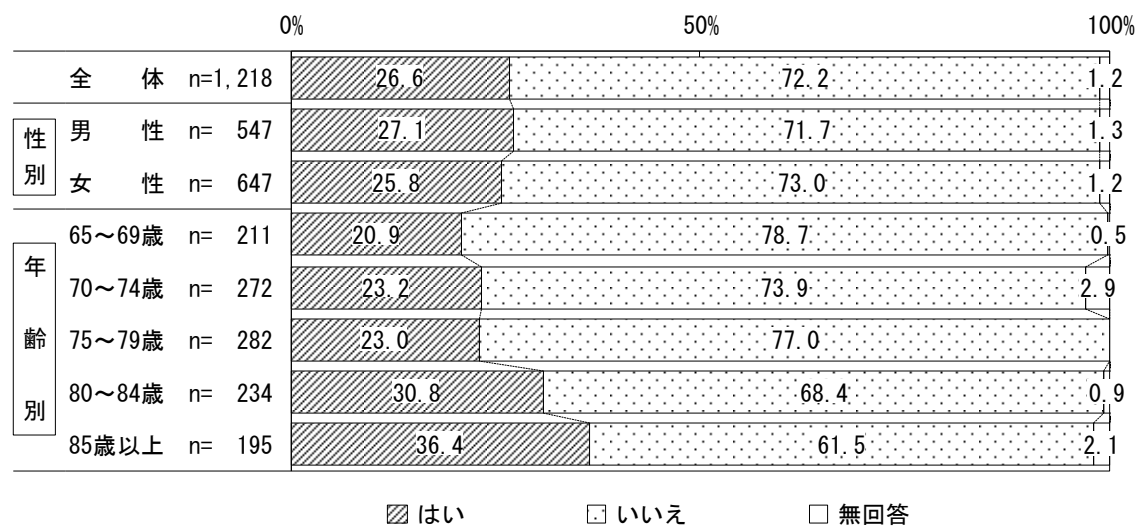
図表 2-35 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか



(3) 何月何日かわからない時があるか

▶今日が何月何日かわからない時がある人は26.6%です。年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、85歳以上になると35%以上を占めます。

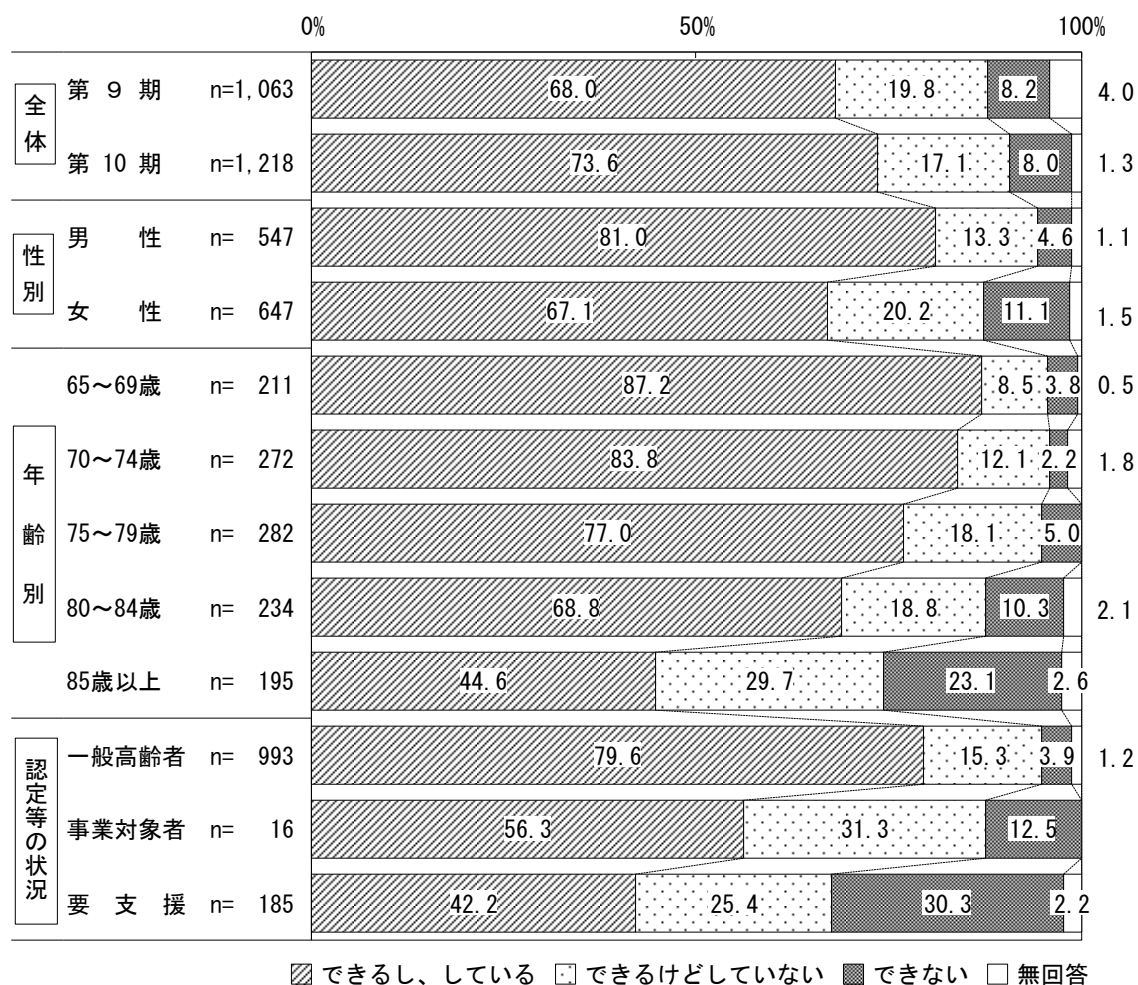
図表 2-36 何月何日かわからない時があるか



(4) バスや電車で一人で外出しているか

- ▶バスや電車（自家用車でも可）で一人で外出しているかをたずねたところ、「できるし、している」が73.6%を占めており、「できるけどしていない」は17.1%、「できない」は8.0%となっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「できない」が上昇する傾向にあり、85歳以上になると20%を超えます。
- ▶認定等の状況別にみると、要支援では「できない」が30%以上を占めています。

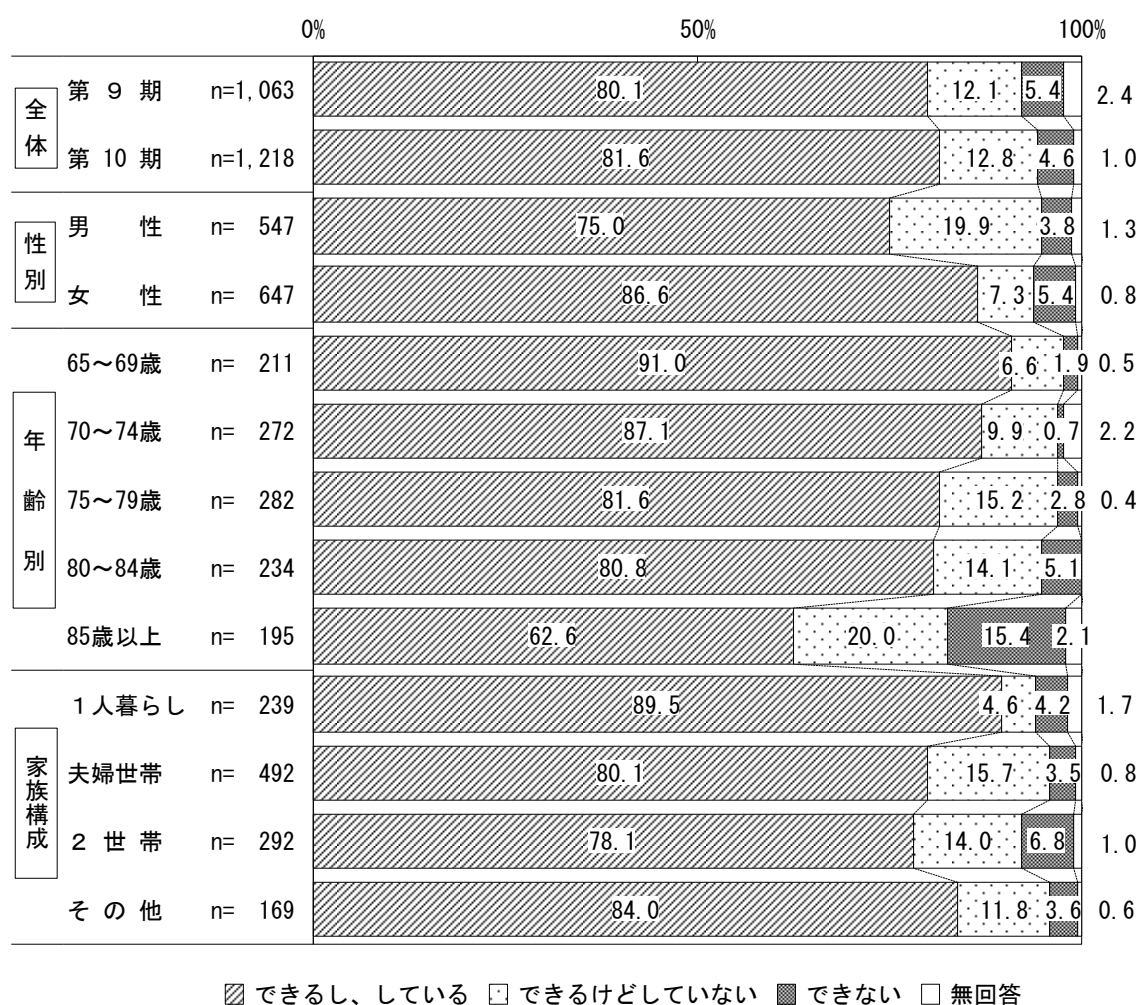
図表 2-37 バスや電車で一人で外出しているか



(5) 買い物をしているか

- ▶自分で食品・日用品の買い物をしているかたずねたところ、「できるし、している」が81.6%を占めています。
- ▶性別にみると、男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「できるし、している」が90%近くを占めていますが、「できない」も4.2%あります。

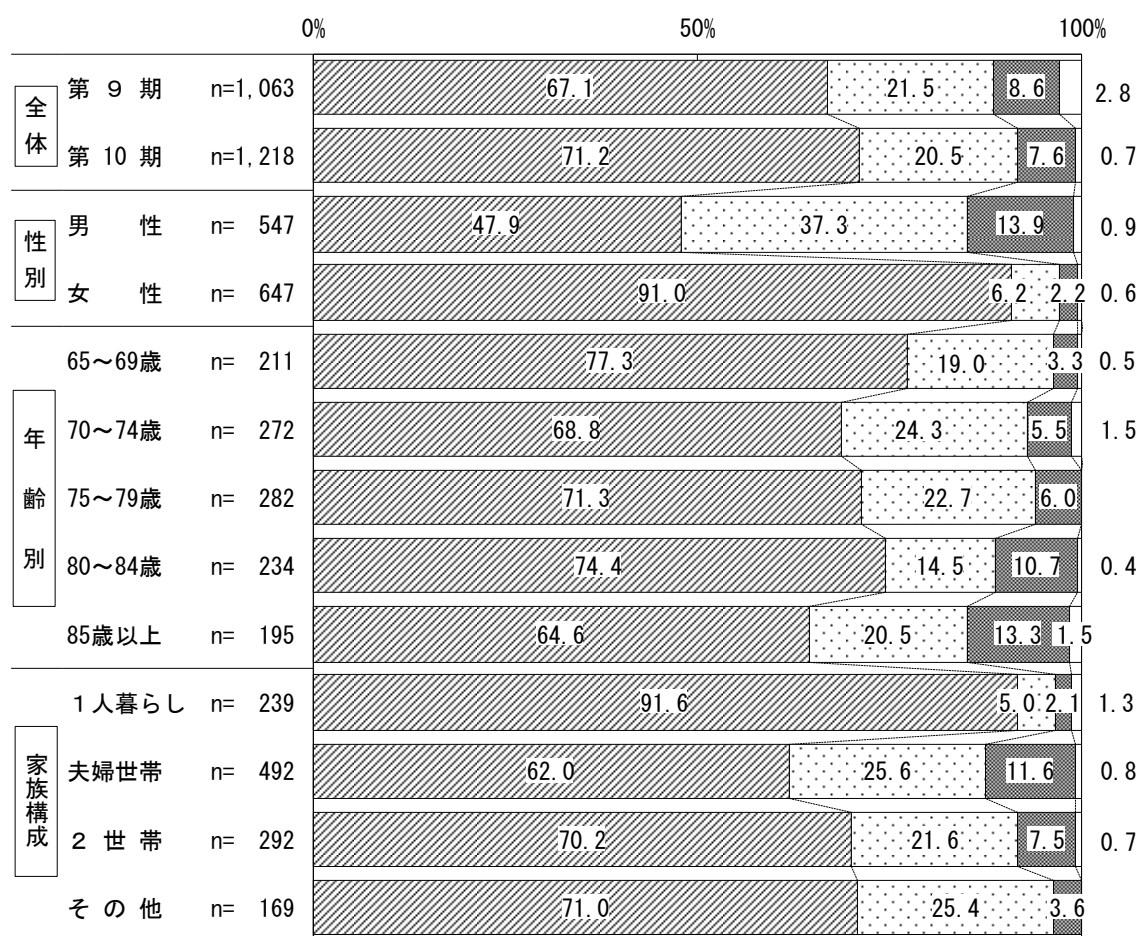
図表 2-38 買い物をしているか



(6) 食事の用意をしているか

- ▶自分で食事の用意をしているかたずねたところ、「できるし、している」が71.2%、「できるけどしていない」が20.5%、「できない」が7.6%となっています。
- ▶性別にみると、男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしは「できるし、している」が90%を超えていますが、それ以外の世帯では60～70%台となっています。

図表 2-39 食事の用意をしているか

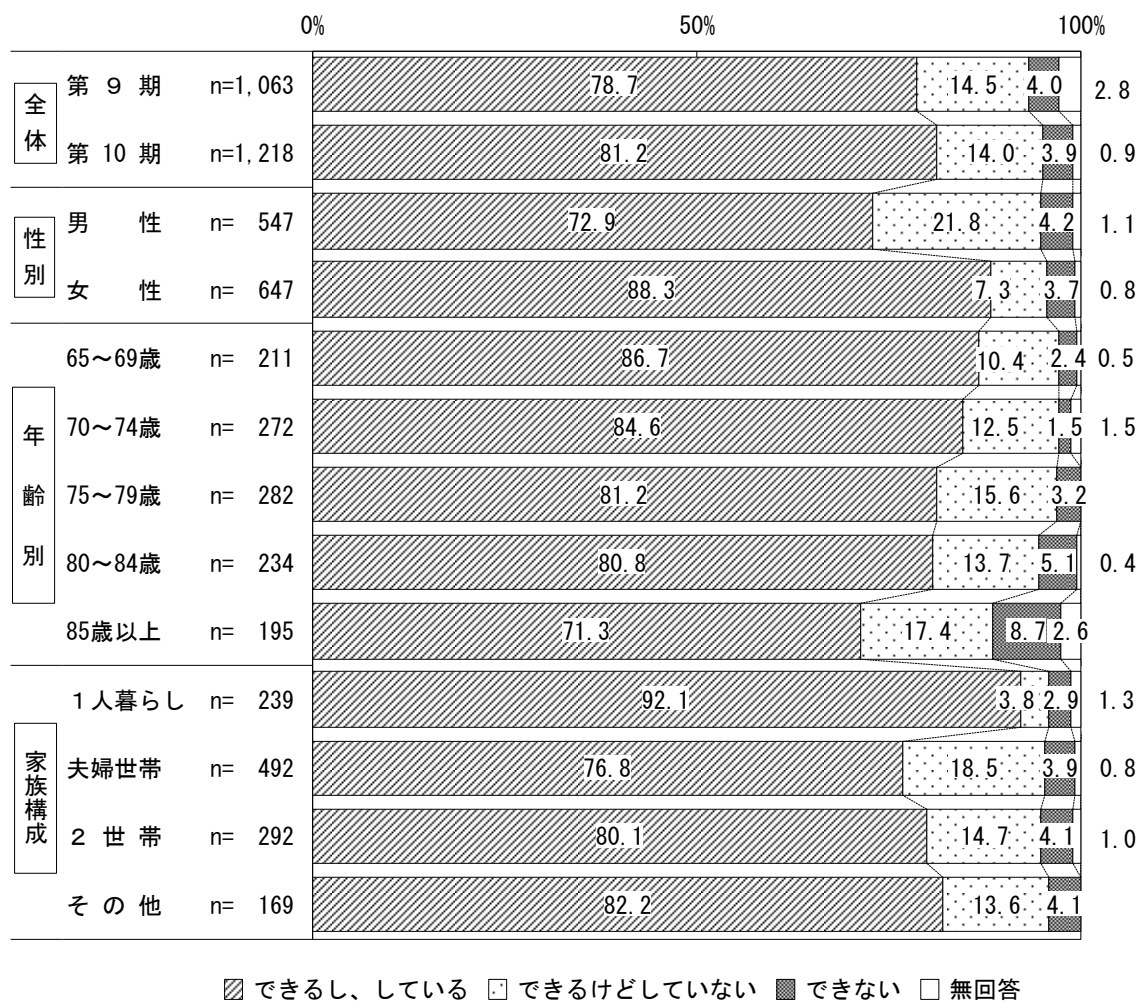


できるし、している
 できるけどしていない
 できない
 無回答

(7) 請求書の支払いをしているか

- ▶請求書の支払いをしているかたずねたところ、「できるし、している」が81.2%、「できるけどしていない」が14.0%、「できない」が3.9%となっています。
- ▶性別にみると、男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「できるし、している」が90%を超えています。

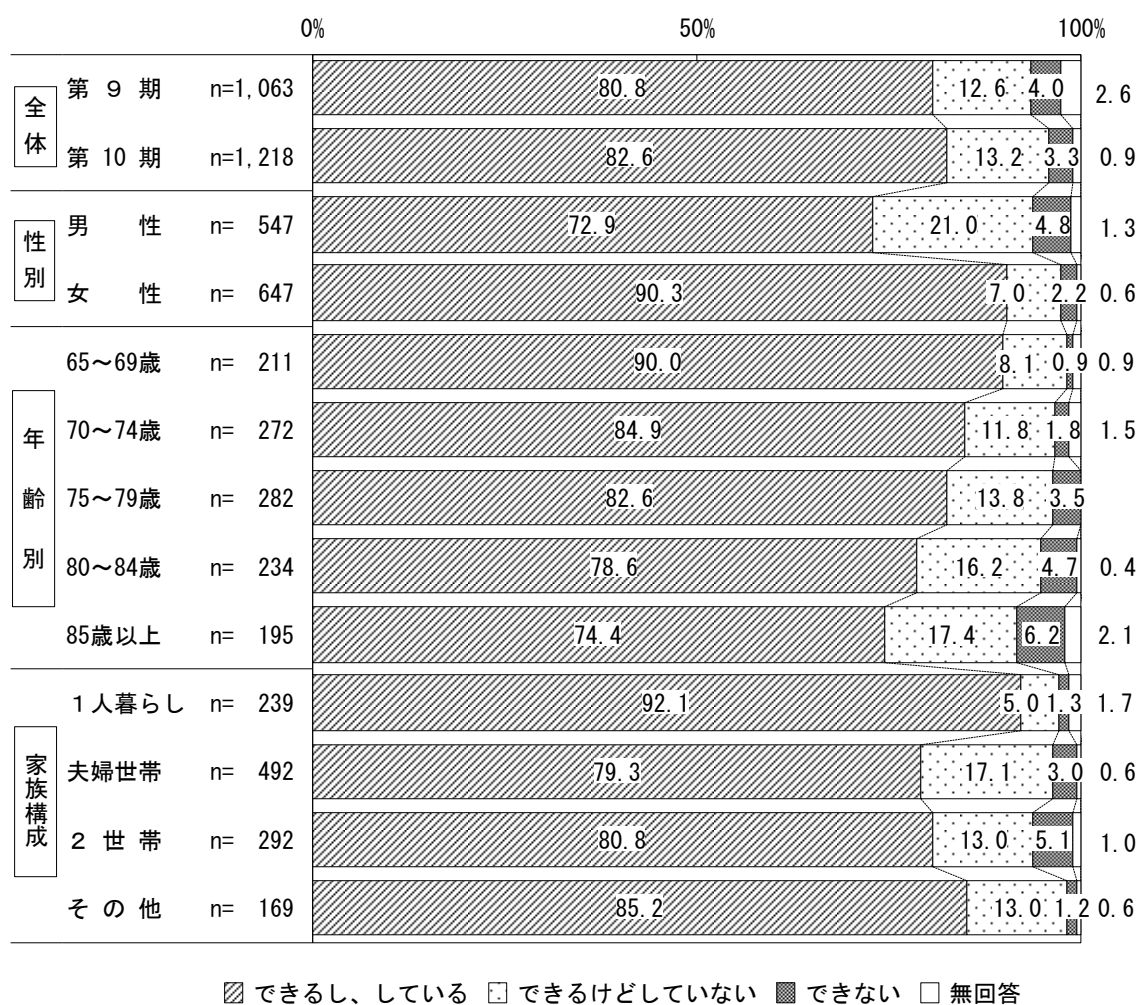
図表 2-40 請求書の支払いをしているか



(8) 預貯金の出し入れをしているか

- ▶ 預貯金の出し入れをしているかたずねたところ、「できるし、している」が82.6%、「できるけどしていない」が13.2%、「できない」が3.3%となっています。
- ▶ 性別にみると、男性は女性に比べ「できるけどしていない」が高くなっています。
- ▶ 家族構成別にみると、1人暮らしでは「できるし、している」が92.1%と、請求書の支払いと同様に高い率となっています。

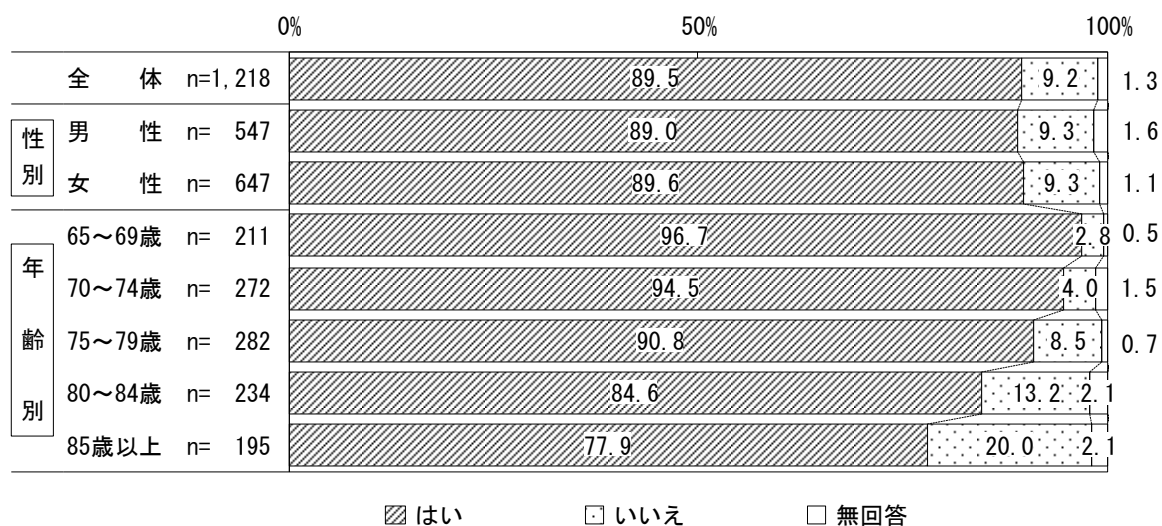
図表 2-41 預貯金の出し入れをしているか



(9) 年金などの書類が書けるか

▶年金などの書類が書ける（「はい」）のは89.5%です。年齢が上がるにしたがい低下し、85歳以上になると80%以下となります。

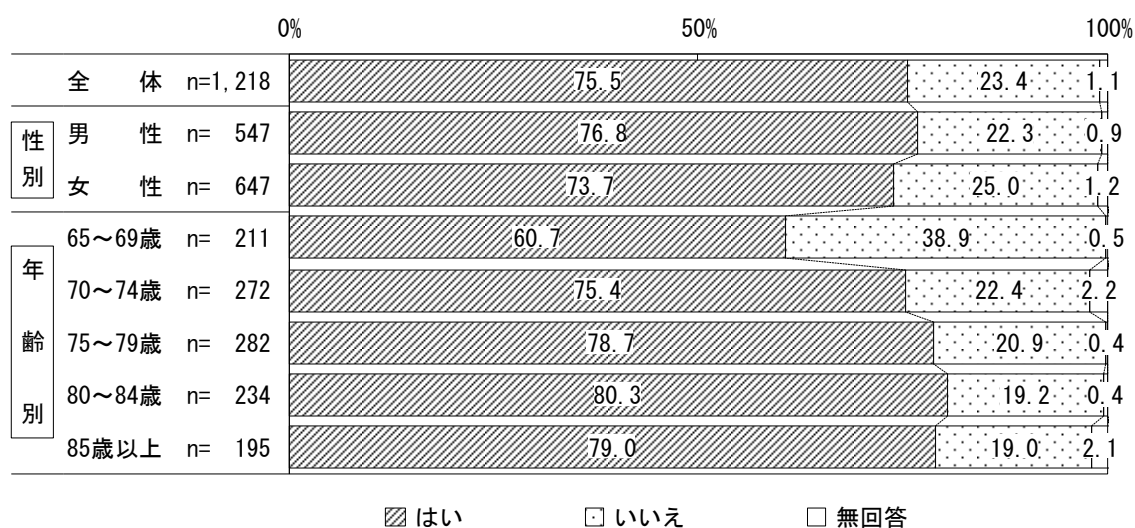
図表 2-42 年金などの書類が書けるか



(10) 新聞を読んでいるか

▶新聞を読んでいる（「はい」）のは76.8%です。年齢が上がるにしたがい上昇する傾向にあり、70歳以上になると75%を超えます。

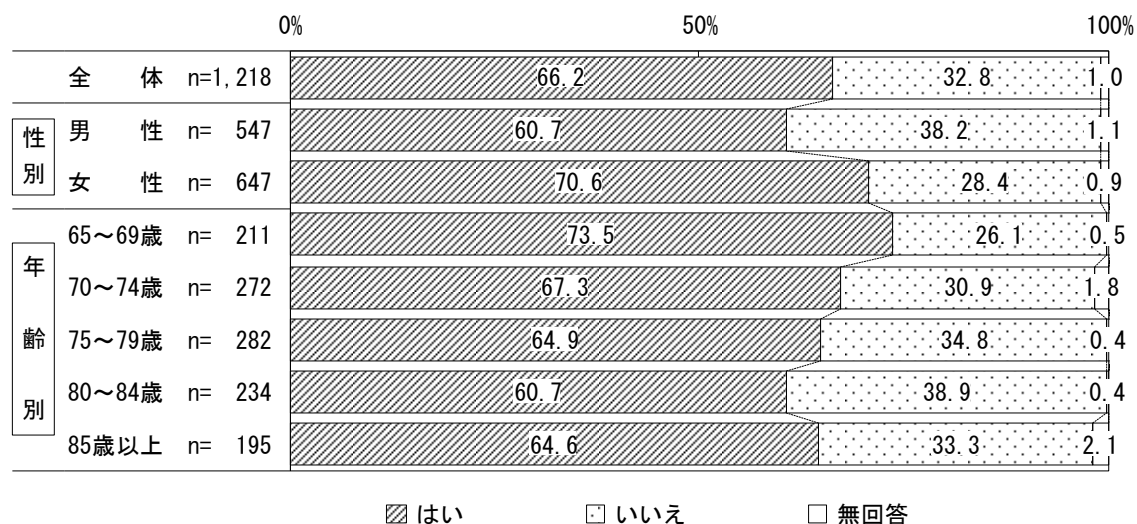
図表 2-43 新聞を読んでいるか



(11) 本や雑誌を読んでいるか

▶本や雑誌を読んでいる（「はい」）のは66.2%です。前項の新聞に比べて9ポイント以上低くなっています。男性に比べて女性が高くなっています。

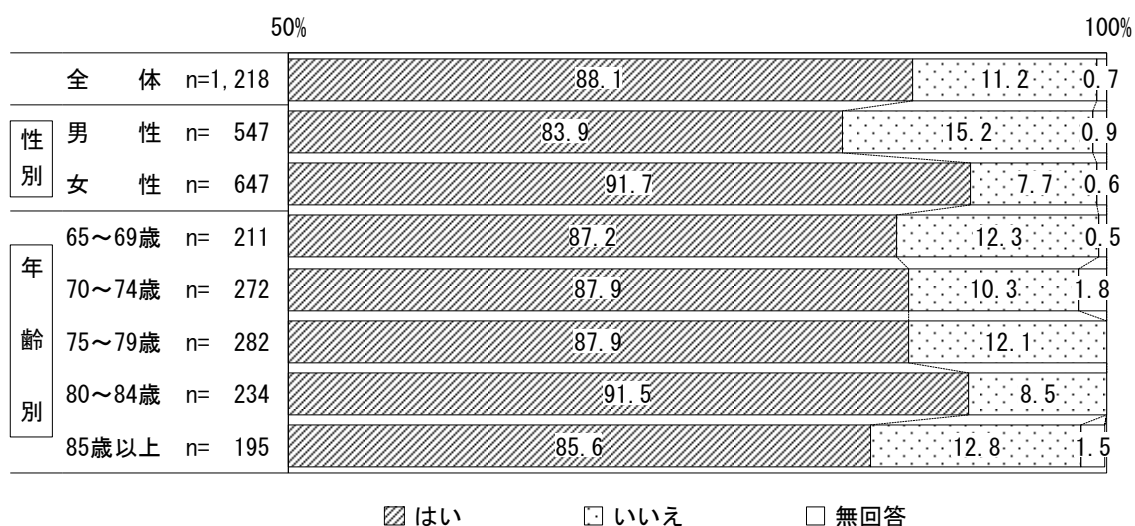
図表 2-44 本や雑誌を読んでいるか



(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

▶健康についての記事や番組に関心がある（「はい」）のは88.1%です。80～84歳では91.5%と他の年齢層に比べ高くなっています。

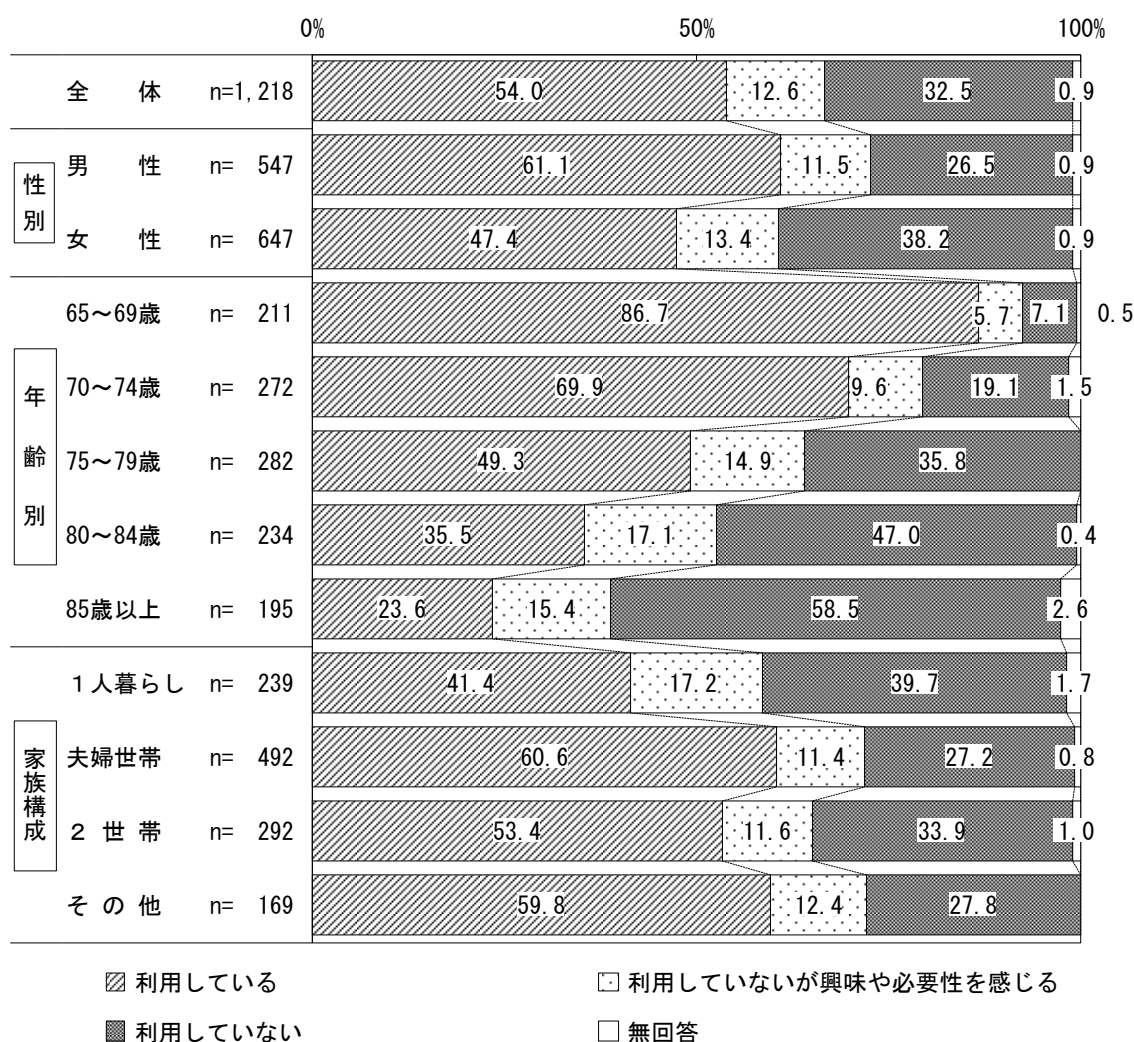
図表 2-45 健康についての記事や番組に関心があるか



(13) インターネットを利用しているか

- ▶必要な情報を得るためのパソコンやスマートフォン（スマホ）などインターネットの利用状況は、「利用している」（利用率）は54.0%、「利用していないが興味や必要性を感じる」は12.6%、「利用していない」は32.5%です。
- ▶性別にみると、利用率は、男性が女性を13.7ポイント上回っています。
- ▶年齢別にみると、若い年齢層ほど利用率が高く65～69歳では85%を超えています。また、85歳以上でも23.6%あります。
- ▶家族構成別にみると、利用率は夫婦世帯が最も高く60%を超えています。一方、1人暮らしでは40%台の低い率となっています。

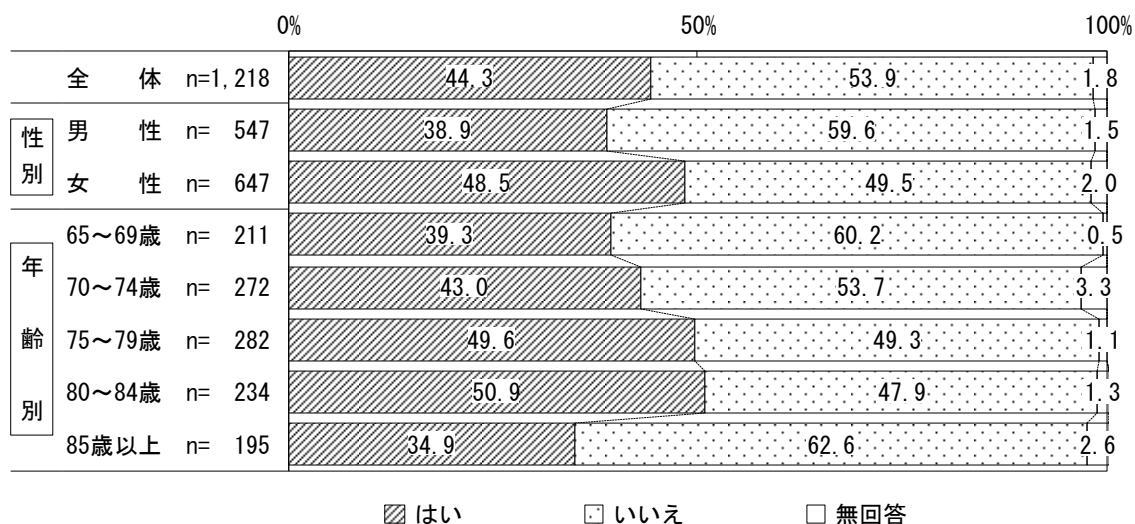
図表 2-46 インターネットを利用しているか



(14) 友人の家を訪ねているか

▶友人の家を訪ねている（「はい」）のは44.3%です。女性は男性を10ポイント近く上回っています。

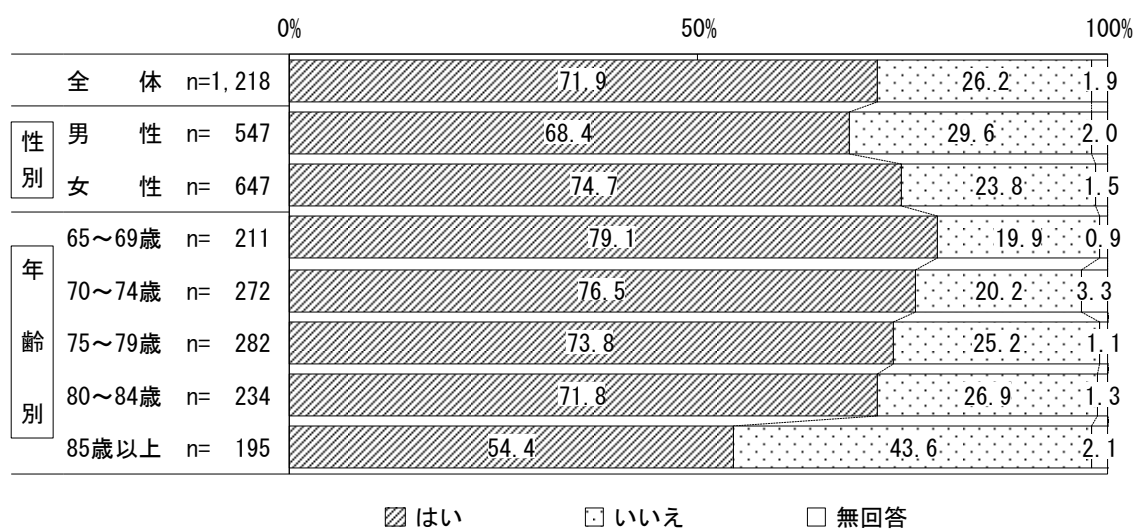
図表 2-47 友人の家を訪ねているか



(15) 家族や友人の相談にのっているか

▶家族や友人の相談にのっている（「はい」）のは71.9%です。年齢が上がるにしたがい低下しており、85歳以上になると50%台まで低下します。

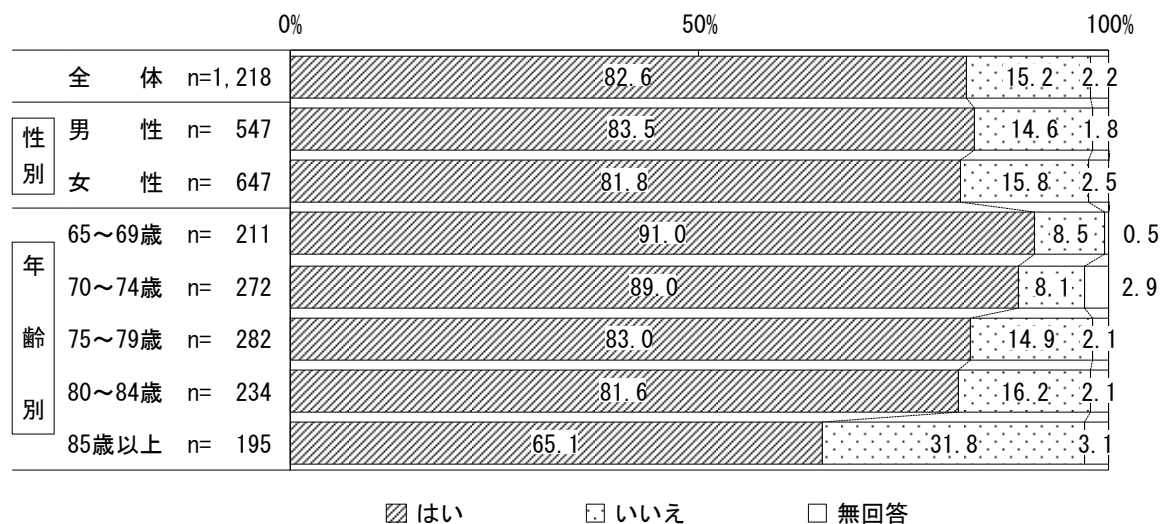
図表 2-48 家族や友人の相談にのっているか



(16) 病人を見舞うことができるか

▶病人を見舞うことができる（「はい」）のは82.6%です。年齢が上がるにしたがい低下しており、85歳以上になると65%近くまで低下します。

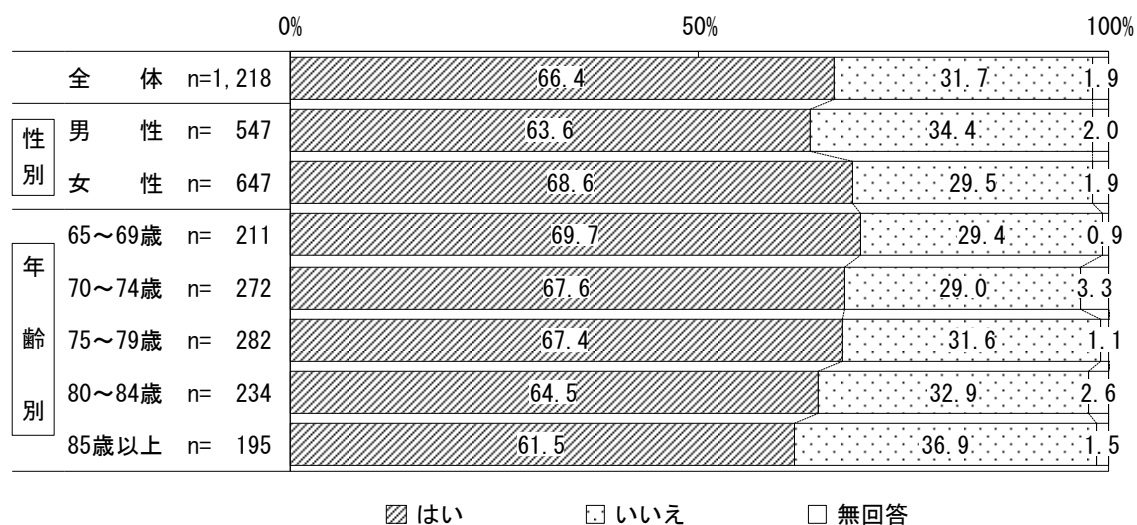
図表 2-49 病人を見舞うことができるか



(17) 若い人に自分から話しかけることがあるか

▶若い人に自分から話しかけることがある（「はい」）のは66.4%です。女性は男性を5ポイント上回っています。

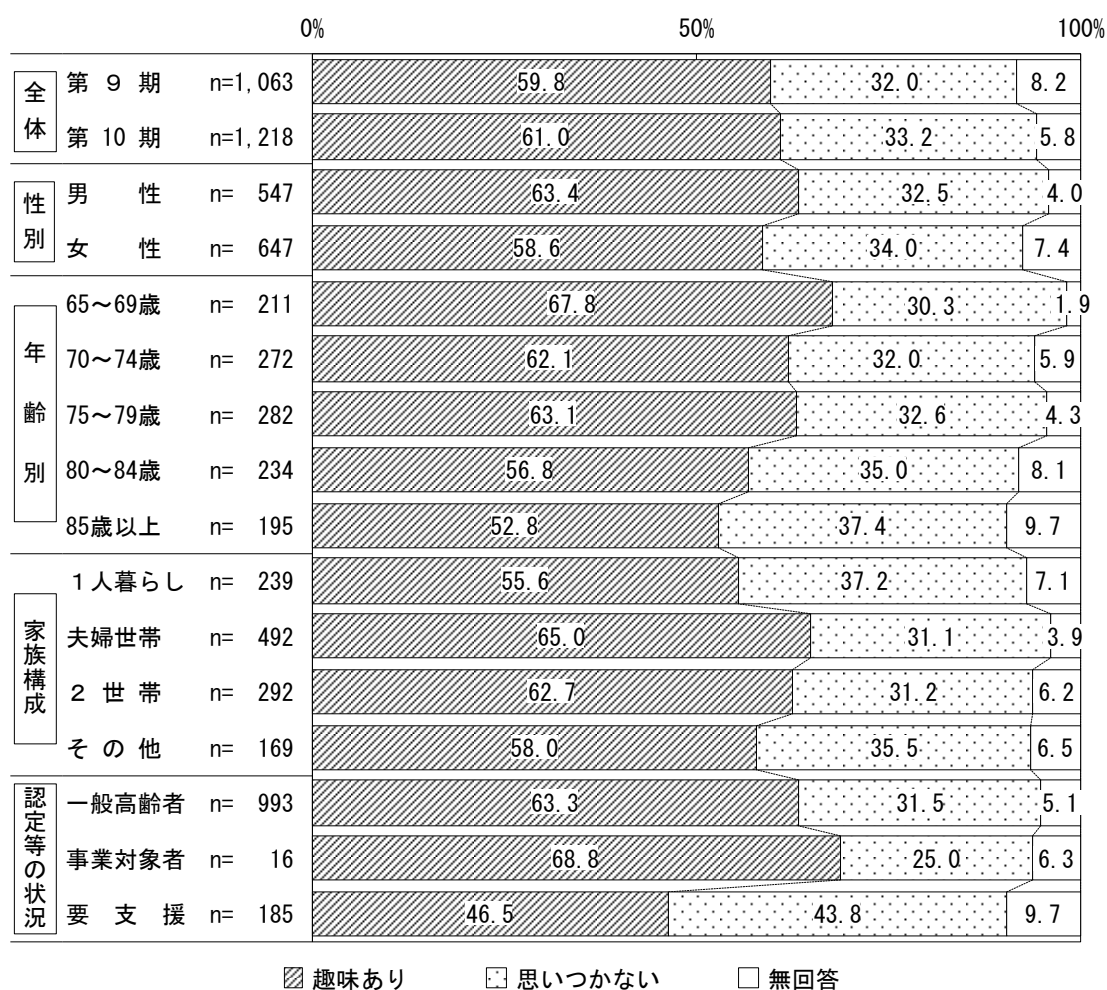
図表 2-50 若い人に自分から話しかけることがあるか



(18) 趣味はあるか

- ▶趣味については、「趣味あり」が61.0%、「思いつかない」が33.2%です。
- ▶性別にみると、「趣味あり」は女性に比べ男性が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、「趣味あり」は年齢が上がるにしたがい低下します。
- ▶家族構成別にみると、「趣味あり」は夫婦世帯が他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶認定等の状況別にみると、要支援では「趣味あり」が40%台となっています。
- ▶「趣味あり」と回答した人に具体的な内容を書いていただいたところ、「家庭菜園・畑仕事」「読書」「園芸・花づくり・庭」「旅行」「ゴルフ」などが多数記載されていました。

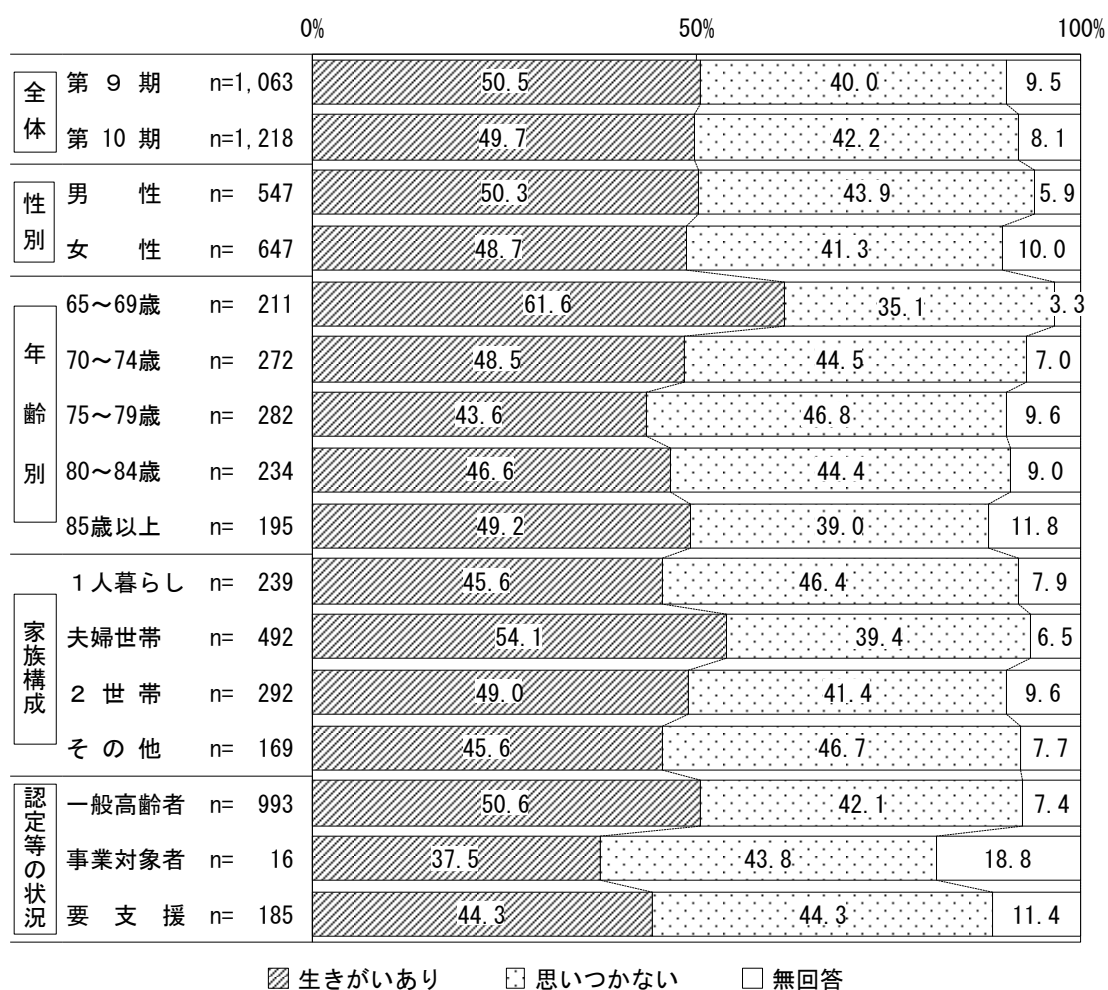
図表 2-51 趣味はあるか



(19) 生きがいはあるか

- ▶生きがいについては、「生きがいあり」が49.7%、「思いつかない」が42.2%です。第9期の調査結果に比べ「生きがいあり」が0.8ポイント低下しています。
- ▶性別にみると、「生きがいあり」は、女性に比べ男性が高くなっています。
- ▶年齢別にみると、「生きがいあり」は、65～69歳では60%台ですが、70歳以上になると40%台まで低下します。
- ▶家族構成別にみると、「生きがいあり」は夫婦世帯が他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶認定等の状況別にみると、事業対象者では「生きがいあり」が30%台となっています。
- ▶「生きがいあり」と回答した人に具体的な内容を書いていただいたところ、「子・孫・ひ孫の成長」が圧倒的に多く、その他では「仕事・働くこと」「家族」「旅行」「家庭菜園・畑仕事」「友だちとの交流」などが多数記載されていました。

図表 2-52 生きがいはあるか



5 地域での活動について

(1) 会・グループ等への参加頻度

- ▶会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合計した《参加している》人の割合は、①町内会が41.1%と最も高く、次いで⑧収入のある仕事が22.2%、②スポーツ関係のグループやクラブが21.5%、③趣味関係のグループが20.9%、①ボランティアのグループが12.8%、⑥いきいきクラブ（老人クラブ）が11.3%、⑤介護予防のための通いの場（貯筋クラブ）が8.8%、④学習・教養サークルが8.2%の順となっています。
- ▶⑦町内会は「年に数回」、⑧収入のある仕事は「週4回以上」、③趣味関係のグループ、①ボランティアのグループ、④学習・教養サークルおよび⑤介護予防のための通いの場（貯筋クラブなど）は「月1～3回」、②スポーツ関係のグループやクラブは「週2～3回」が比較的高くなっています。
- ▶《週1回以上》が10%を超えているのは、⑧収入のある仕事および②スポーツ関係のグループやクラブです。

図表2-53 会・グループ等への参加頻度

単位：％

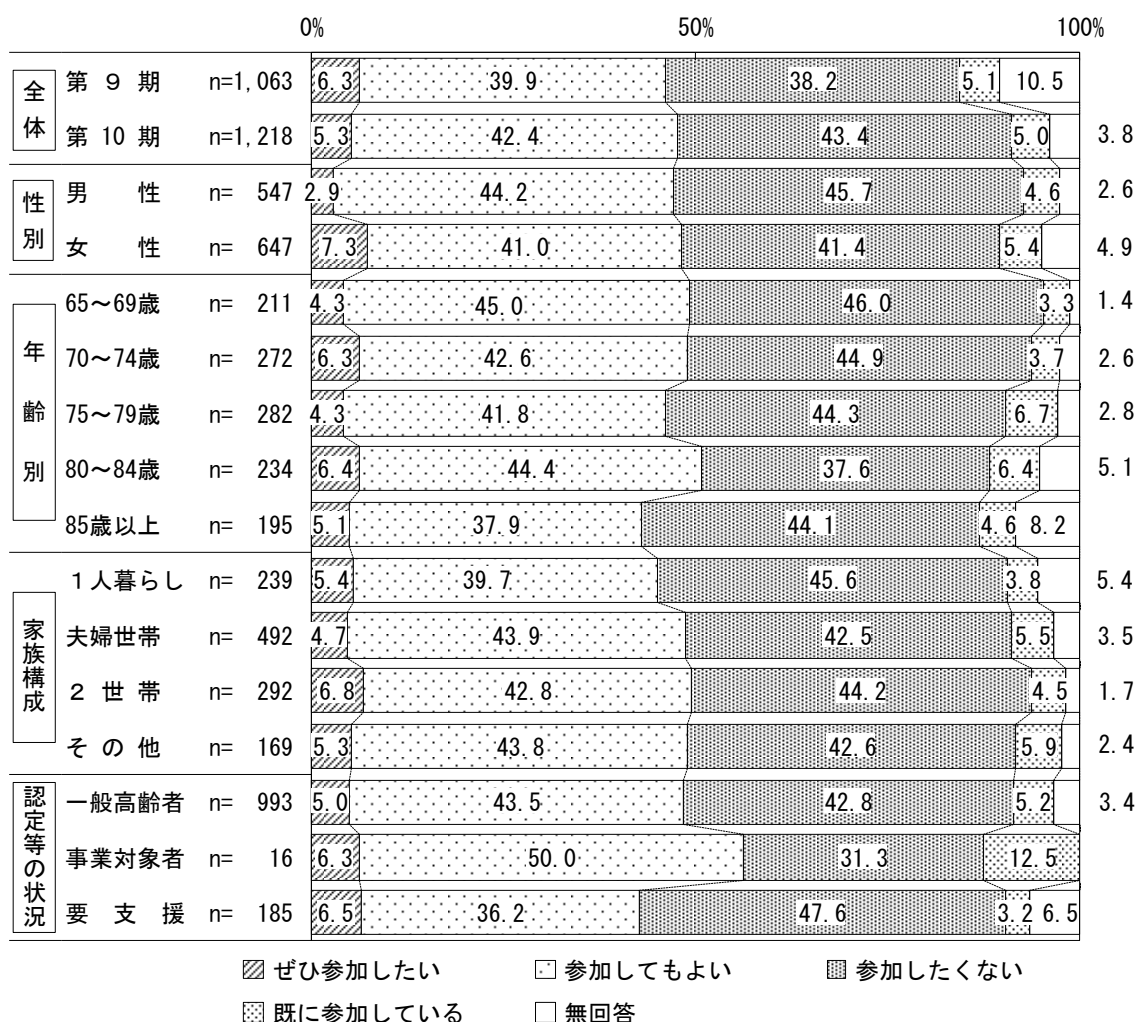
区 分 n=1,218	《週1回以上》				月1～3回	年に数回	《参加している》	参加していない	無回答
	週4回以上	週2～3回	週1回	《週1回以上》					
①ボランティアのグループ	1.1	0.9	0.9	2.9	5.3	4.6	12.8	61.8	25.4
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.3	5.9	4.7	13.9	5.3	2.3	21.5	56.7	21.8
③趣味関係のグループ	1.1	3.2	4.1	8.4	8.8	3.7	20.9	55.9	23.2
④学習・教養サークル	0.2	1.2	1.1	2.5	4.3	1.4	8.2	64.4	27.4
⑤介護予防のための通いの場（貯筋クラブなど）	0.4	3.0	1.6	5.0	3.1	0.7	8.8	64.7	26.4
⑥いきいきクラブ（老人クラブ）	0.3	0.7	0.7	1.7	1.9	7.7	11.3	63.0	25.7
⑦町内会	0.6	0.6	0.4	1.6	7.1	32.4	41.1	36.0	22.9
⑧収入のある仕事	12.4	5.3	1.0	18.7	1.4	2.1	22.2	54.1	23.7

(注)『参加している』＝「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」

(2) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<参加者として>

- ▶「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか」という設問については、「ぜひ参加したい」が5.3%、「参加してもよい」が42.4%、「既に参加している」が5.0%となっており、これらを合計した参加意向は52.7%で、第9期の調査結果に比べ1.4ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、参加意向は80～84歳では57.2%ですが、85歳以上になると急速に低下し47.6%となります。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしの参加意向が他の家族構成に比べ低くなっています。

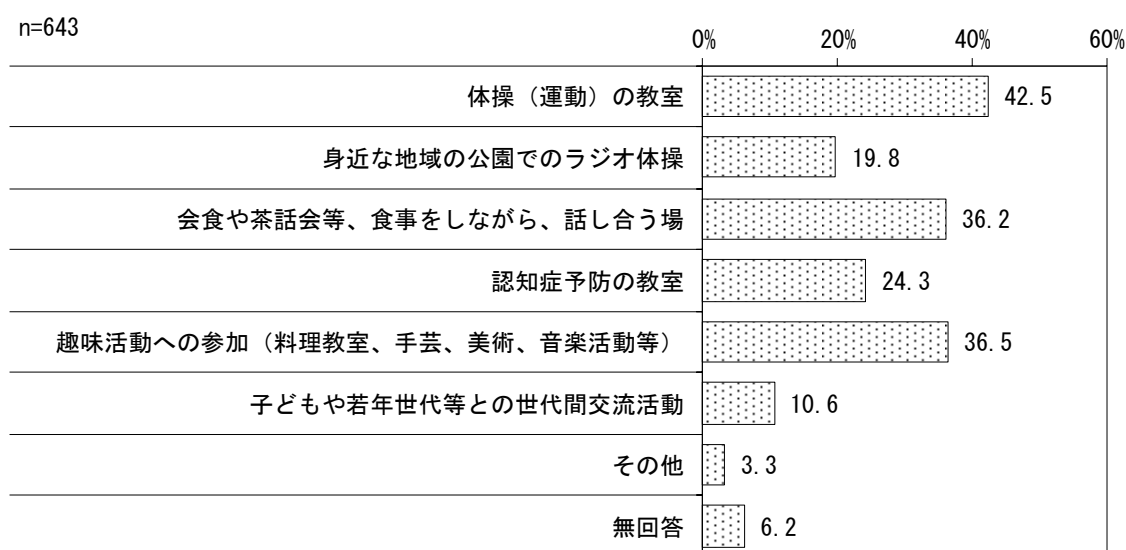
図表 2-54 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<参加者として>



(3) 参加したい健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜参加者として＞

▶地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に＜参加者として＞の参加意向があった人にどのような活動に参加したいかをお聞きしたところ、「体操（運動）の教室」が42.5%と最も高く、次いで「趣味活動への参加（料理教室、手芸、美術、音楽活動等）」が36.5%、「会食や茶話会等、食事をしながら、話し合う場」が36.2%、「認知症予防の教室」が24.3%などとなっています。

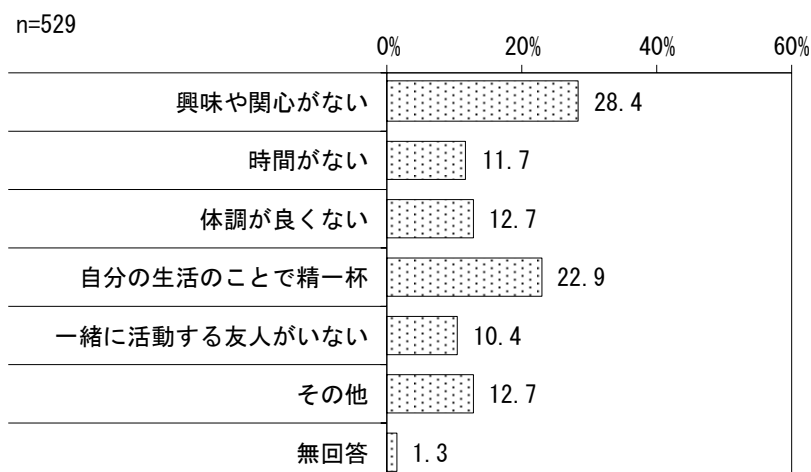
図表 2-55 参加したい健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜①参加者として＞



(4) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜参加者として＞に参加したくない理由

▶地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に＜参加者として＞参加したくない人にその理由をお聞きしたところ、「興味や関心がない」が28.4%と最も高く、次いで「自分の生活のことで精一杯」が22.9%などとなっています。

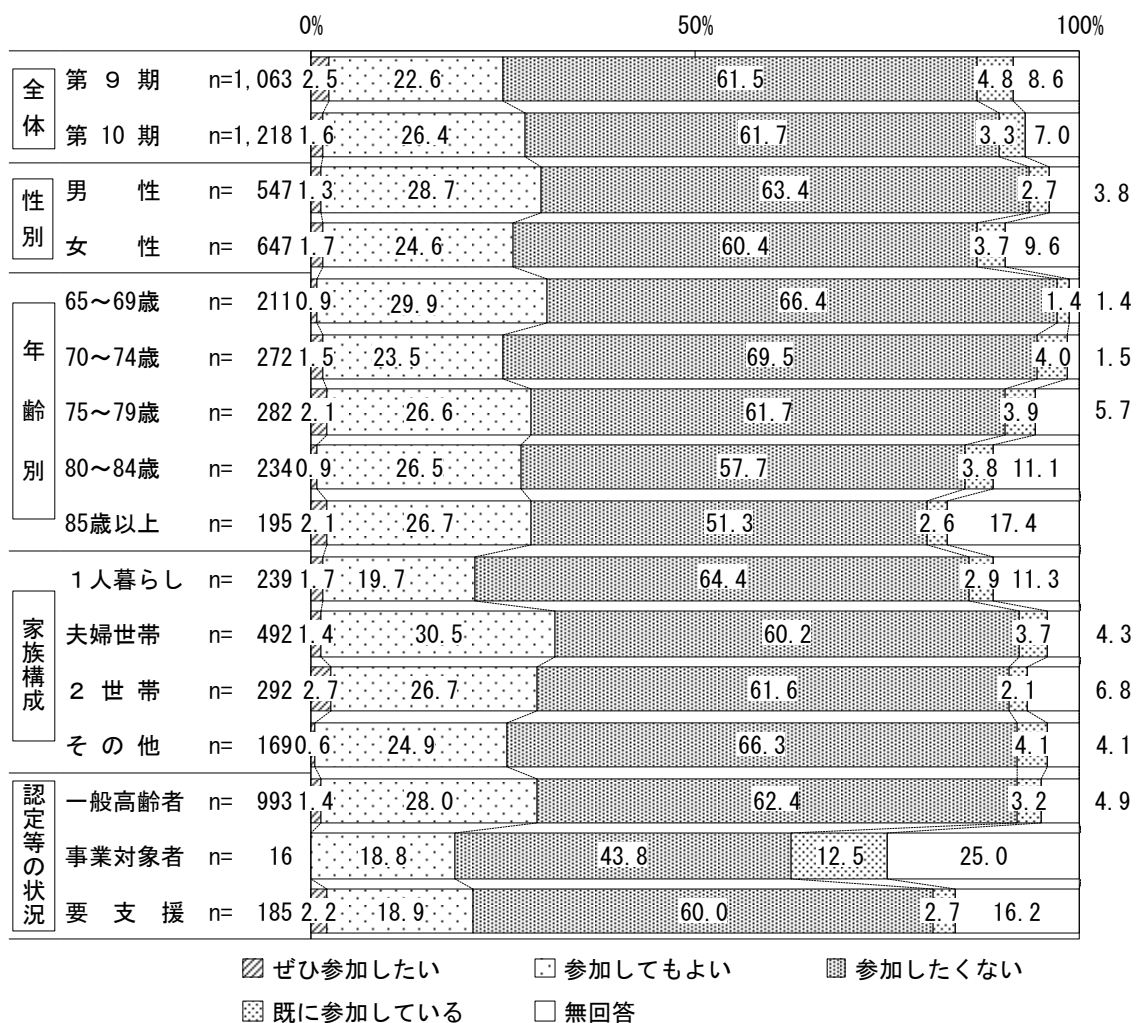
図表 2-56 健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜参加者として＞に参加したくない理由



(5) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<企画・運営（お世話役）として>

- ▶「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか」という設問については、「ぜひ参加したい」が1.6%、「参加してもよい」が26.4%、「既に参加している」が3.3%となっており、これらを合計した参加意向は31.3%で、第9期の調査結果に比べ1.4ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、女性に比べ男性の参加意向が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、＜参加者として＞と同様に1人暮らしの参加意向が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶認定等の状況別にみると、状態が悪化するにしがたい参加意向は低下しますが、要支援であっても20%以上あります。

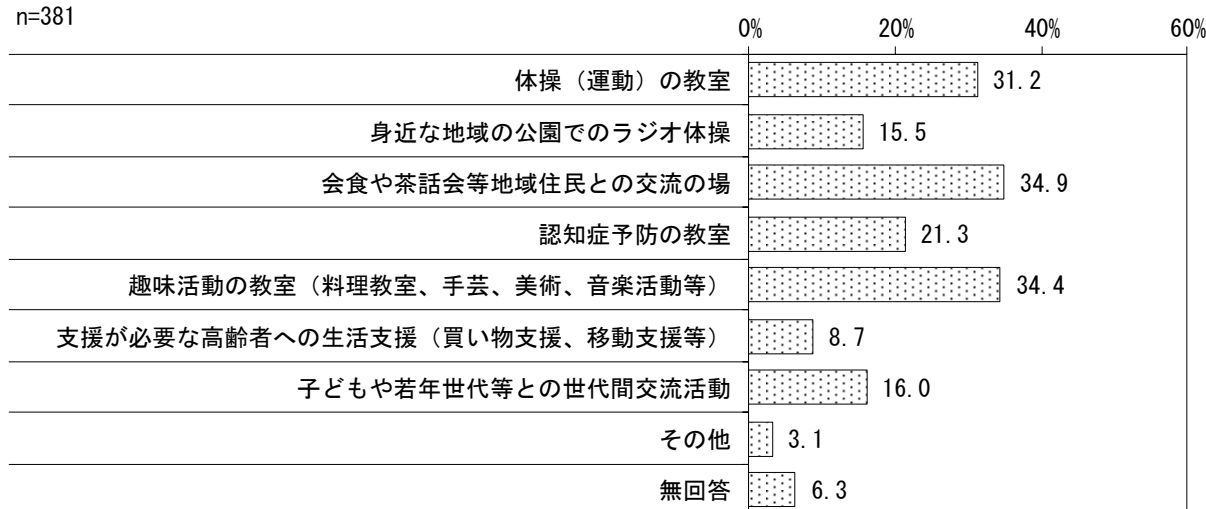
図表 2-57 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<企画・運営（お世話役）として>



(6) 参加したい健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜企画・運営（お世話役）として＞

▶地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に＜企画・運営（お世話役）として＞の参加意向があった人にどのような活動に参加したいかをお聞きしたところ、「会食や茶話会等、食事をしながら、話し合う場」が34.9%と最も高く、次いで「趣味活動への参加（料理教室、手芸、美術、音楽活動等）」が34.4%、「体操（運動）の教室」が31.2%などとなっています。

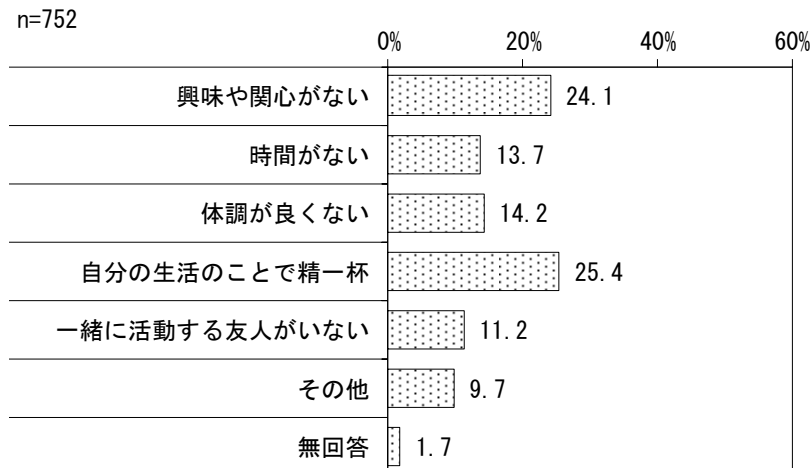
図表 2-58 参加したい健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜企画・運営（お世話役）として＞
n=381



(7) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜企画・運営（お世話役）として＞に参加したくない理由

▶地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に＜企画・運営（お世話役）として＞参加したくない人にその理由をお聞きしたところ、「自分の生活のことで精一杯」が25.4%と最も高く、次いで「興味や関心がない」が24.1%などとなっています。

図表 2-59 健康づくり活動や趣味等のグループ活動＜企画・運営（お世話役）として＞に参加したくない理由
n=752

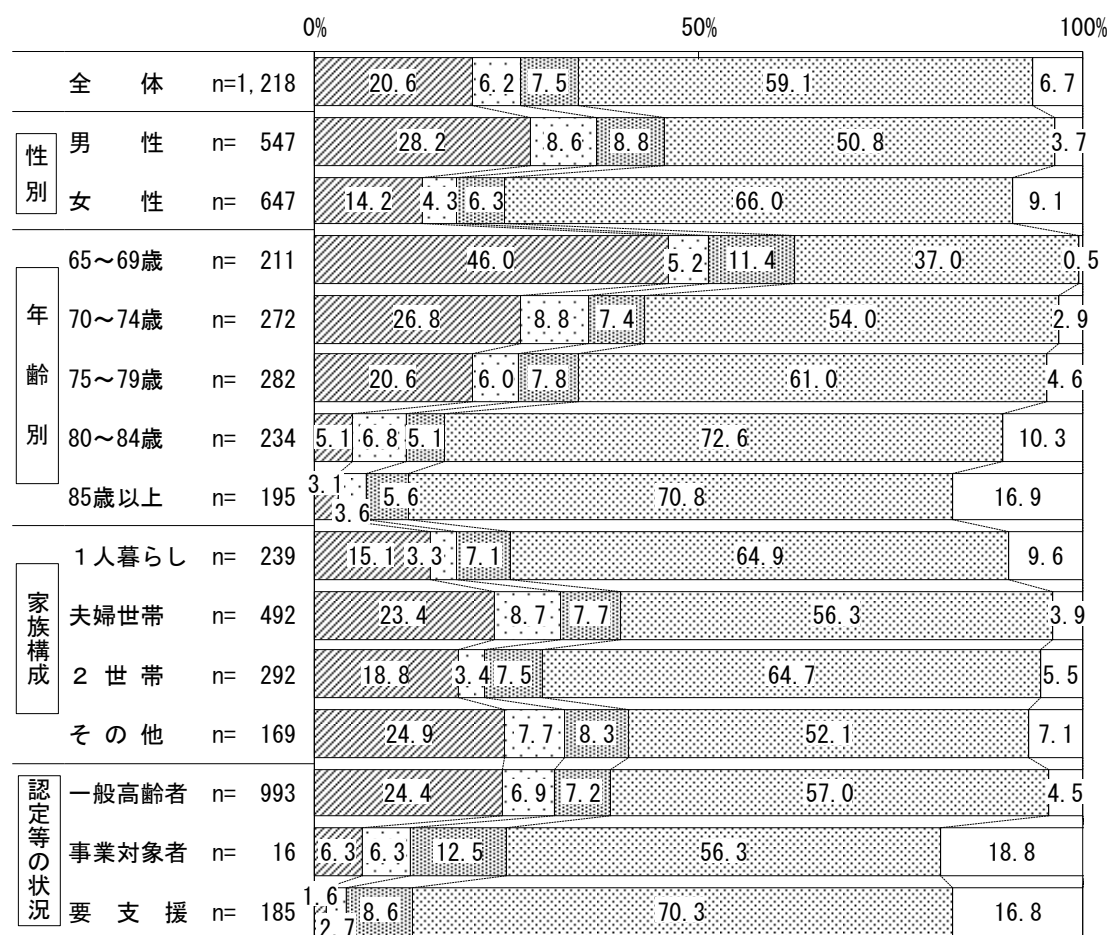


6 就労について

(1) 就労状態

- ▶現在の就労状況は、「収入を伴う仕事はしておらず、今後もしないつもりはない」が59.1%と最も高くなっていますが、「定期的に収入を伴う仕事をしている」が20.6%、「不規則ではあるが、収入を伴う仕事をしている」が6.2%あります。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「定期的に収入を伴う仕事をしている」は低下しますが、85歳以上でも3.1%あり、「不規則ではあるが、収入を伴う仕事をしている」も3.6%、「収入を伴う仕事はしていないが、今後したいと考えている」が5.6%あります。

図表 2-60 就労状態

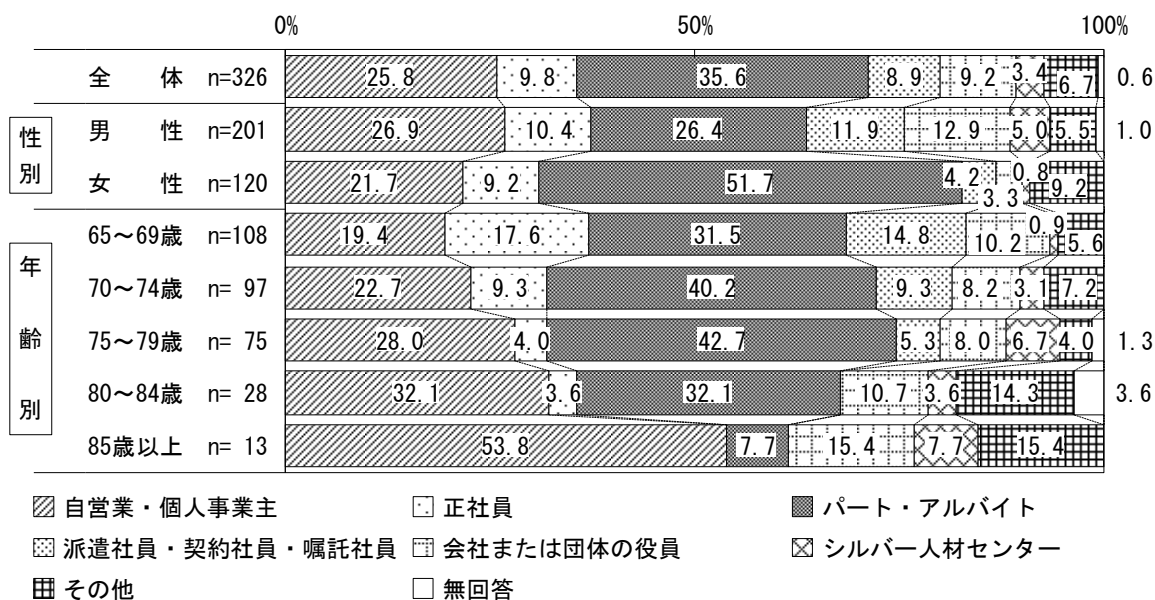


- ☒ 定期的に収入を伴う仕事をしている
☒ 不規則ではあるが、収入を伴う仕事をしている
☒ 収入を伴う仕事はしていないが、今後したいと考えている
☒ 収入を伴う仕事はしておらず、今後もしないつもりはない
☐ 無回答

(2) 就労形態

- ▶現在、収入を伴う仕事をしている326人の就労形態は、「パート・アルバイト」が35.6%、「自営業・個人事業主」が25.8%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「自営業・個人事業主」が高くなっています。

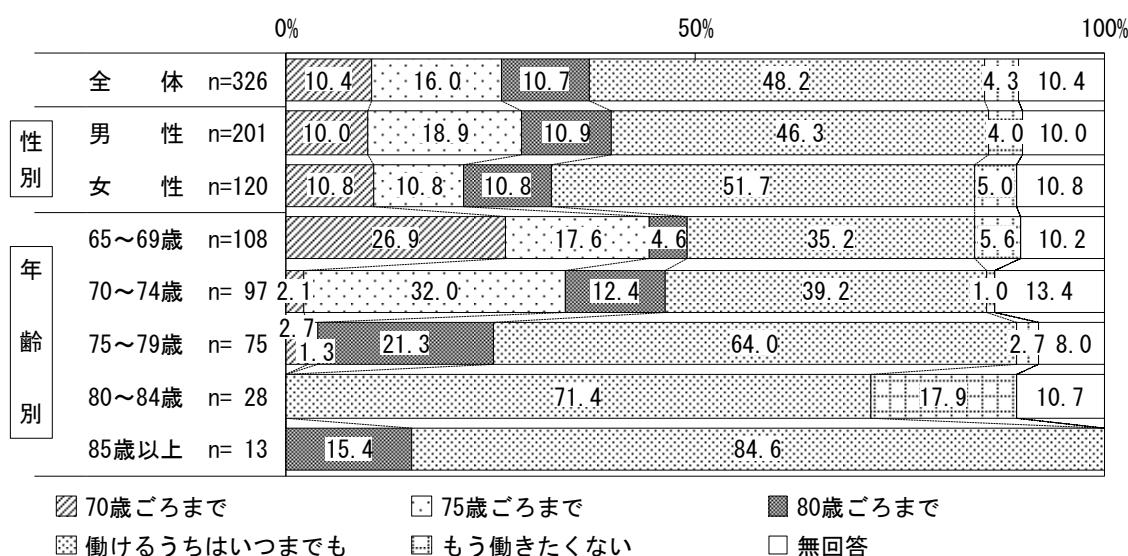
図表 2-61 就労形態



(3) いつまで仕事を続けたいか

- ▶現在、収入を伴う仕事をしている326人に、何歳頃まで仕事を続けたいかをお聞きしたところ、「働けるうちはいつまでも」が48.2%と最も高く、次いで「75歳ころまで」が16.0%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、「働けるうちはいつまでも」は年齢が上がるにしたがい高くなっており、85歳以上では80%を占めています。

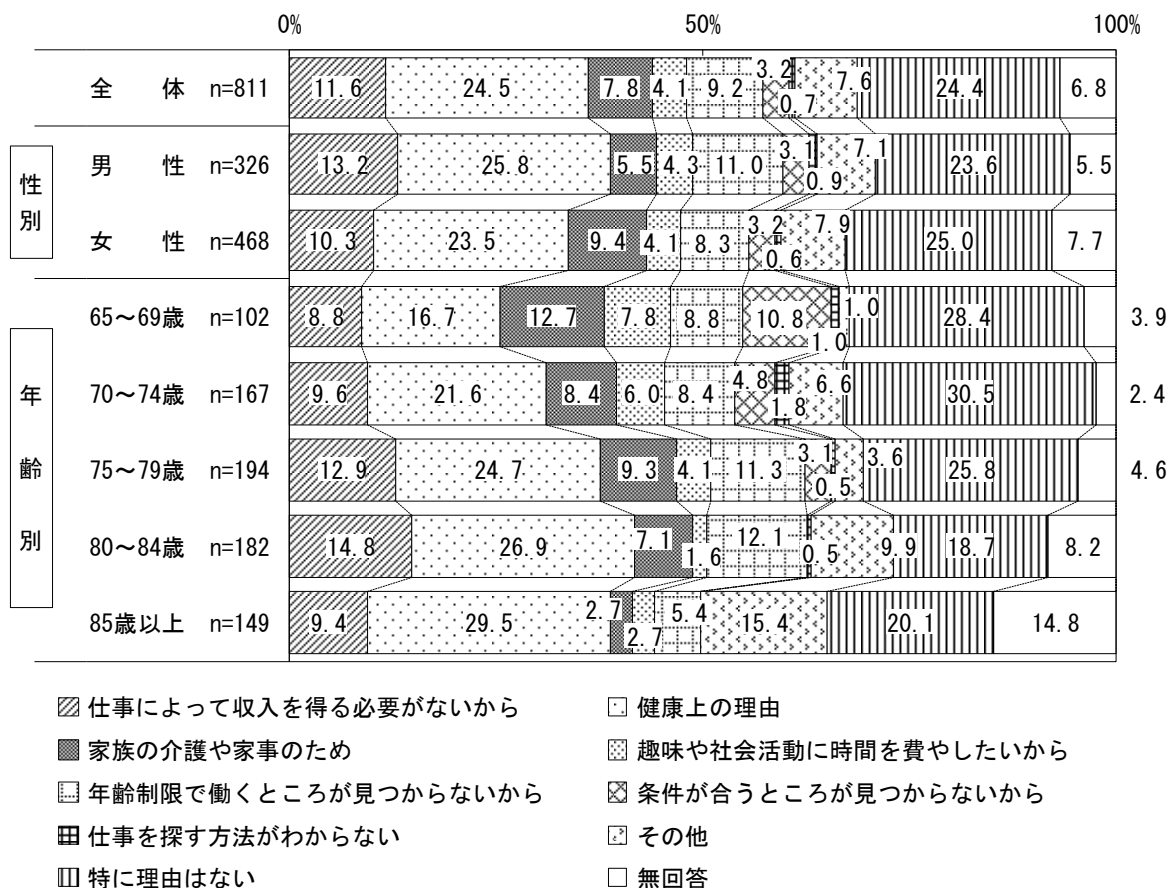
図表 2-62 いつまで仕事を続けたいか



(4) 仕事をしていない理由

- ▶ 現在、収入を伴う仕事をしていない811人に、その理由をお聞きしたところ、「健康上の理由」が24.5%と最も高く、次いで「特に理由はない」が24.4%などとなっています。
- ▶ 年齢別にみると、「健康上の理由」は年齢が上がるにしたがい高くなっています。

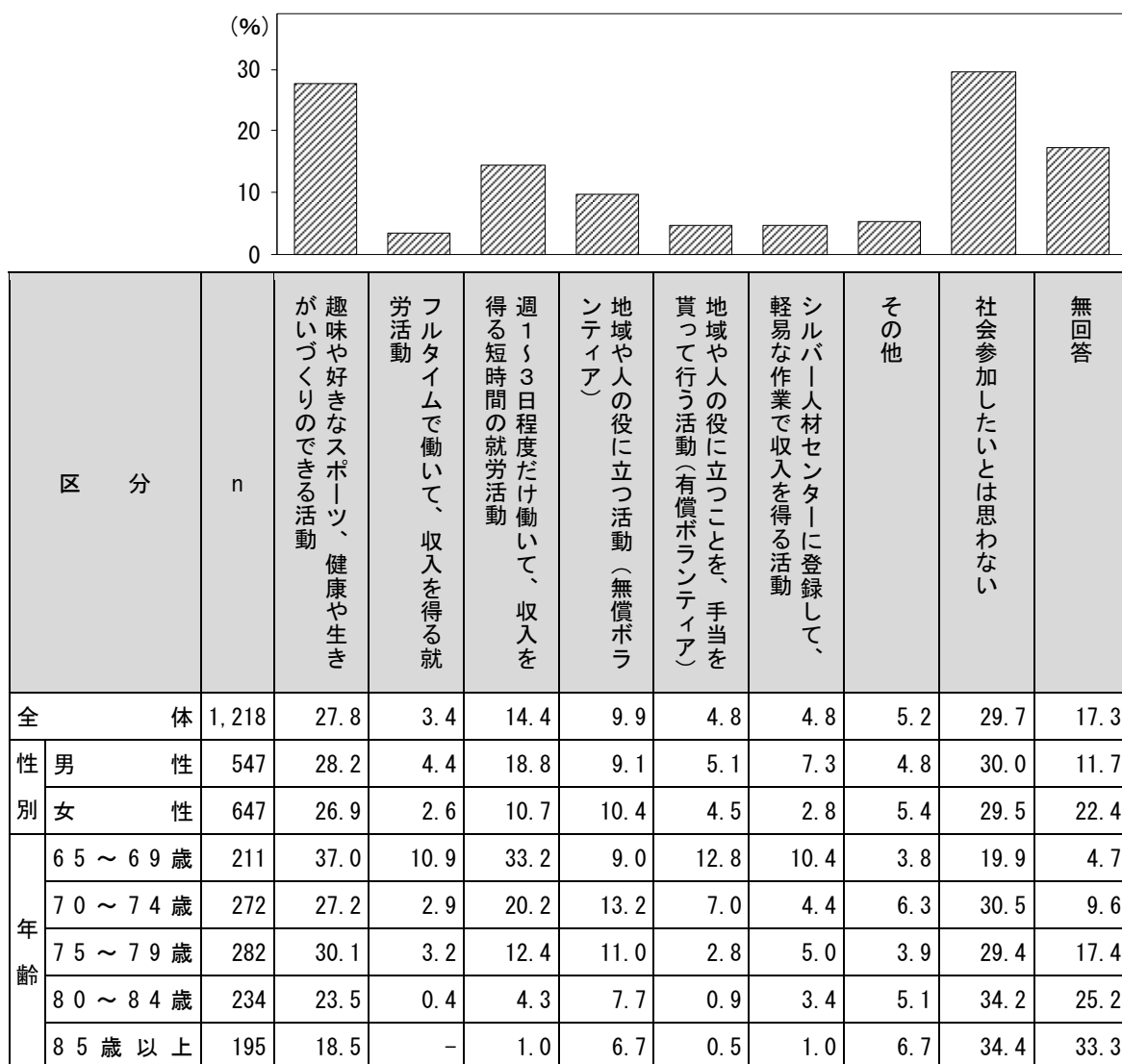
図表 2-63 いつまで仕事を続けたいか



(5) 参加したい活動

- ▶「就労に限らず、社会参加にはさまざまな方法がありますが、あなたはどのような活動に参加したいですか」という設問については、「社会参加したいとは思わない」が29.7%と最も高く、次いで「趣味や好きなスポーツ、健康や生きがいをづくりのできる活動」が27.8%、「週1～3日程度だけ働いて、収入を得る短時間の就労活動」が14.4%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「社会参加したいとは思わない」が高くなる傾向にあります。

図表2-64 参加したい活動（複数回答）



7 たすけあいについて

(1) 周りの人とのたすけあいの状況

- ▶周りの人とのたすけあいの状況をみると、『該当する人がいる』は、①心配事や愚痴を聞
いてくれる人および③看病や世話をしてくれる人では90%前後の高い率を示していま
す。②心配事や愚痴を聞いてあげる人は86.7%、④看病や世話をしてあげる人は76.9%
とやや低くなっています。
- ▶①～④のいずれの項目も「配偶者」が最も高くなっていますが、①および②の心配事や愚
痴については「友人」が「同居の子ども」をはじめとする親族を上回っており、心の健康
には友人との交流やコミュニケーションが重要であることがわかります。

図表2-65 周りの人とのたすけあいの状況（複数回答）

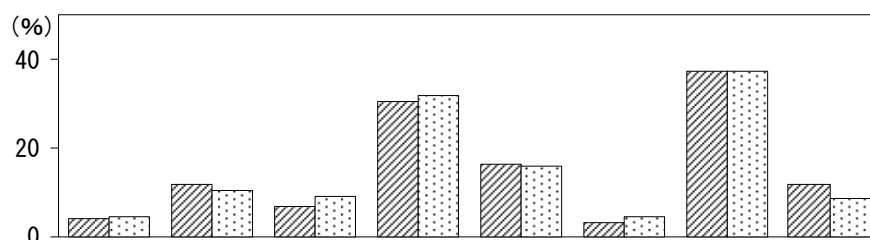
区 分 n=1,218	配 偶 者	同 居 の 子 ど も	別 居 の 子 ど も	親・ 孫 兄弟 姉妹・ 親戚・	近 隣	友 人	そ 他	な い そ の よ う な 人 は い ない	無 回 答	該 当 す る 人 が い る
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	48.9	18.6	32.8	27.6	8.5	37.8	1.2	4.5	4.9	90.6
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	46.1	15.3	28.5	26.8	10.6	37.0	0.9	6.9	6.4	86.7
③看病や世話をしてくれる人	53.4	25.7	30.5	11.3	0.7	2.9	1.6	6.4	4.2	89.4
④看病や世話をしてあげる人	54.4	20.2	19.5	16.7	1.8	3.9	1.1	13.5	9.6	76.9

（注）『該当する人がいる』＝100%－「そのような人はいない」－無回答

(2) 相談相手

- ▶家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」が37.2%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が31.9%、「地域包括支援センター・役場」が16.0%、「社会福祉協議会・民生委員」が10.3%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「社会福祉協議会・民生委員」が17.6%と他の家族構成に比べ大幅に高くなっています。

図表 2-66 相談相手（複数回答）



区分		n	町内会・いきいきクラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役場	その他	そのような人はいない	無回答
全体	第9期	1,063	4.1	11.7	6.9	30.4	16.2	3.1	37.4	11.7
	第10期	1,218	4.4	10.3	9.1	31.9	16.0	4.4	37.2	8.4
性別	男性	547	7.3	11.0	6.9	31.4	13.0	4.8	41.7	6.0
	女性	647	2.0	10.2	10.7	32.3	18.5	4.2	33.4	10.2
年齢	65～69歳	211	2.8	8.5	7.1	30.3	15.2	6.2	47.9	2.4
	70～74歳	272	4.8	7.4	2.9	30.9	13.6	4.4	45.6	5.5
	75～79歳	282	6.4	9.6	7.8	29.4	16.7	4.6	35.8	8.5
	80～84歳	234	4.3	13.2	15.0	37.6	15.8	3.0	28.6	11.1
	85歳以上	195	3.1	15.4	13.8	31.8	19.5	4.1	26.2	14.9
家族構成	1人暮らし	239	1.7	17.6	7.9	26.8	14.2	2.9	40.2	9.2
	夫婦世帯	492	6.5	9.1	9.1	33.5	17.9	4.1	37.6	6.5
	2世代同居	292	3.8	8.9	10.6	33.6	17.8	4.1	34.2	8.2
	その他	169	3.0	7.7	7.7	32.5	9.5	7.1	39.6	9.5

(3) 友人関係

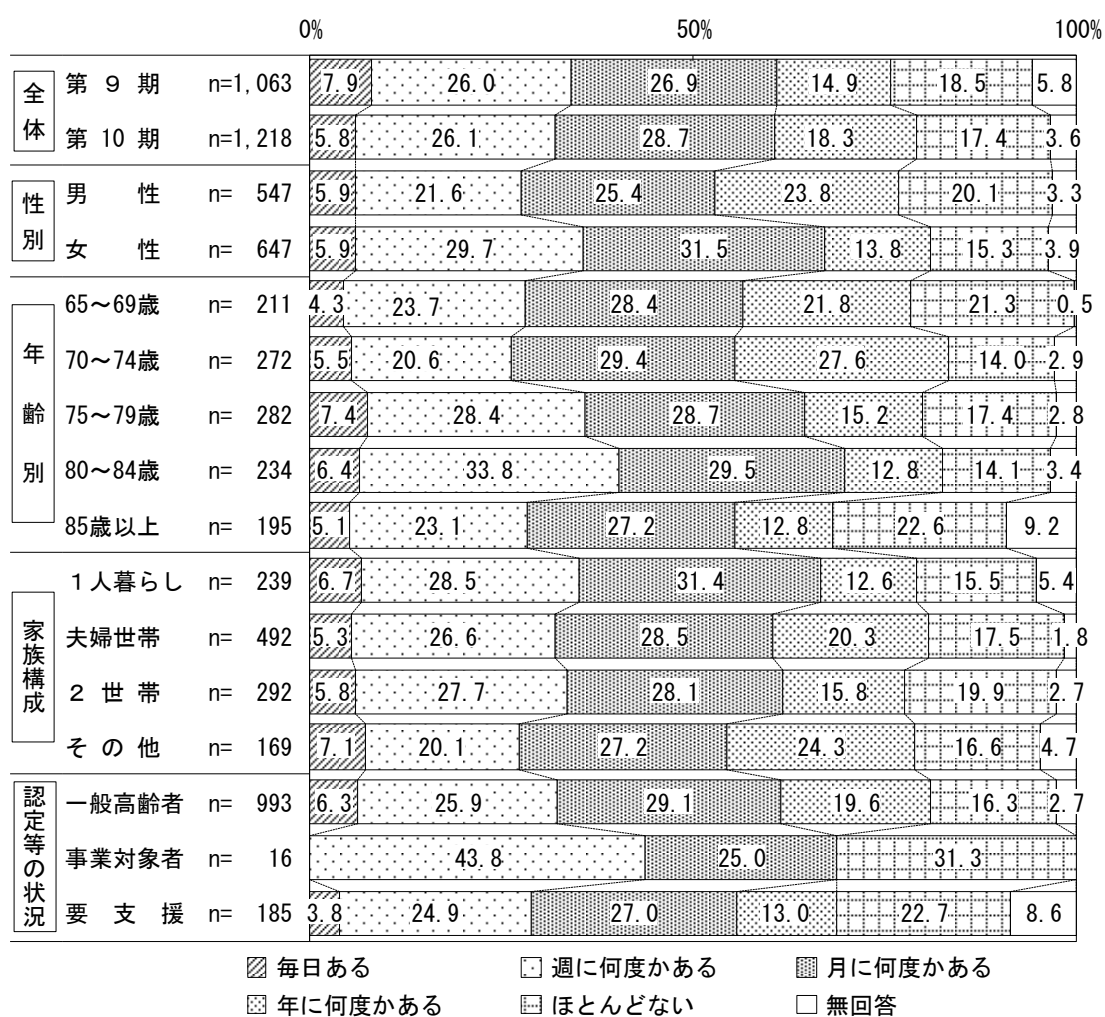
① 友人・知人と会う頻度

▶友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「月に何度かある」が28.7%と最も高く、次いで「週に何度かある」が26.1%、「年に何度かある」が18.3%、「ほとんどない」が17.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「毎日ある」が2.1ポイント低下しています。

▶性別にみると、男性は「ほとんどない」が20%を超えています。

▶年齢別にみると、85歳以上では「ほとんどない」が20%を超えています。

図表2-67 友人・知人と会う頻度



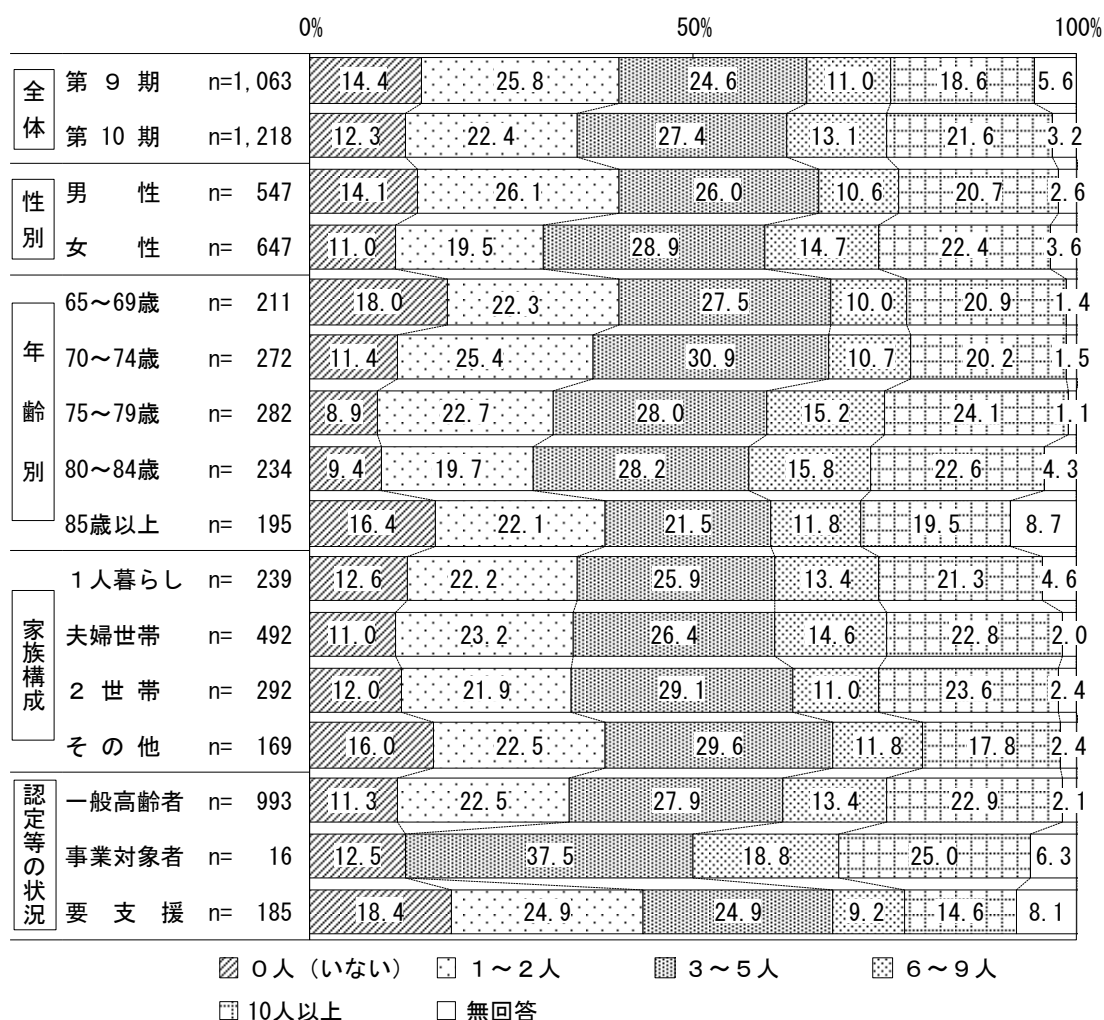
② 友人・知人と会った人数

▶「この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか（同じ人には何度会っても1人と数えることとします）」という設問に対しては、「3～5人」が27.4%と最も高く、次いで「1～2人」が22.4%、「10人以上」が21.6%などとなっています。「0人（いない）」が12.3%あります。第9期の調査結果に比べ人数が増えており、「10人以上」が3ポイント上昇しています。

▶年齢別にみると、79歳までは年齢が上がるにしたがい「0人（いない）」が低下していますが、80歳以上になると上昇します。

▶認定等の状況別にみると、重度化にしたがい「0人（いない）」が上昇しています。

図表2-68 友人・知人と会った人数

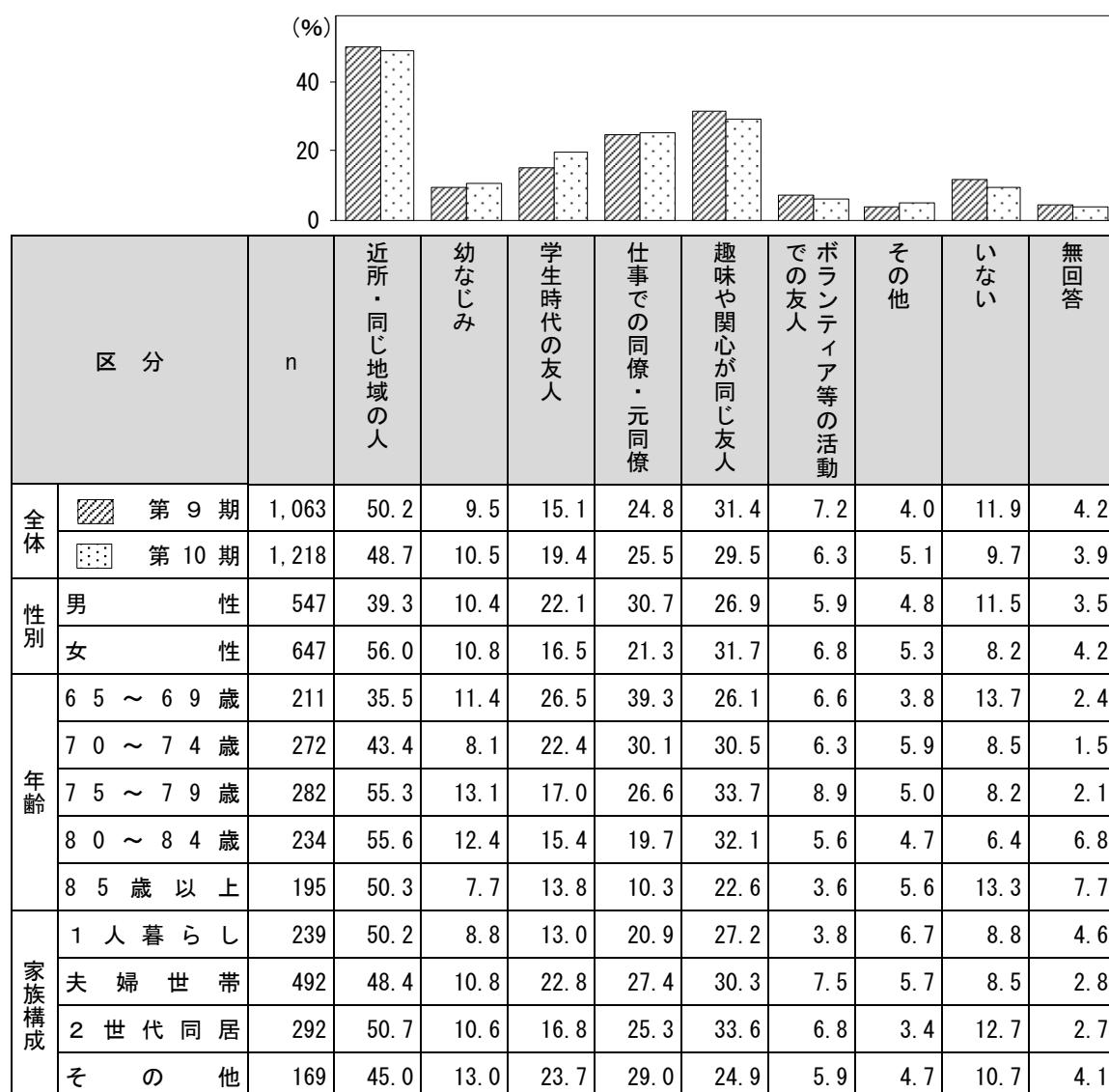


③ よく会う友人・知人との関係

▶よく会う友人・知人との関係をたずねたところ、「近所・同じ地域の人」が48.7%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が29.5%、「仕事での同僚・元同僚」が25.5%などとなっています。

▶性別により5ポイント以上の大きな差があるのは、女性が高い「近所・同じ地域の人」、男性が高い「仕事での同僚・元同僚」および「学生時代の友人」です。また、女性に比べ男性は「いない」が3ポイント以上高くなっています。

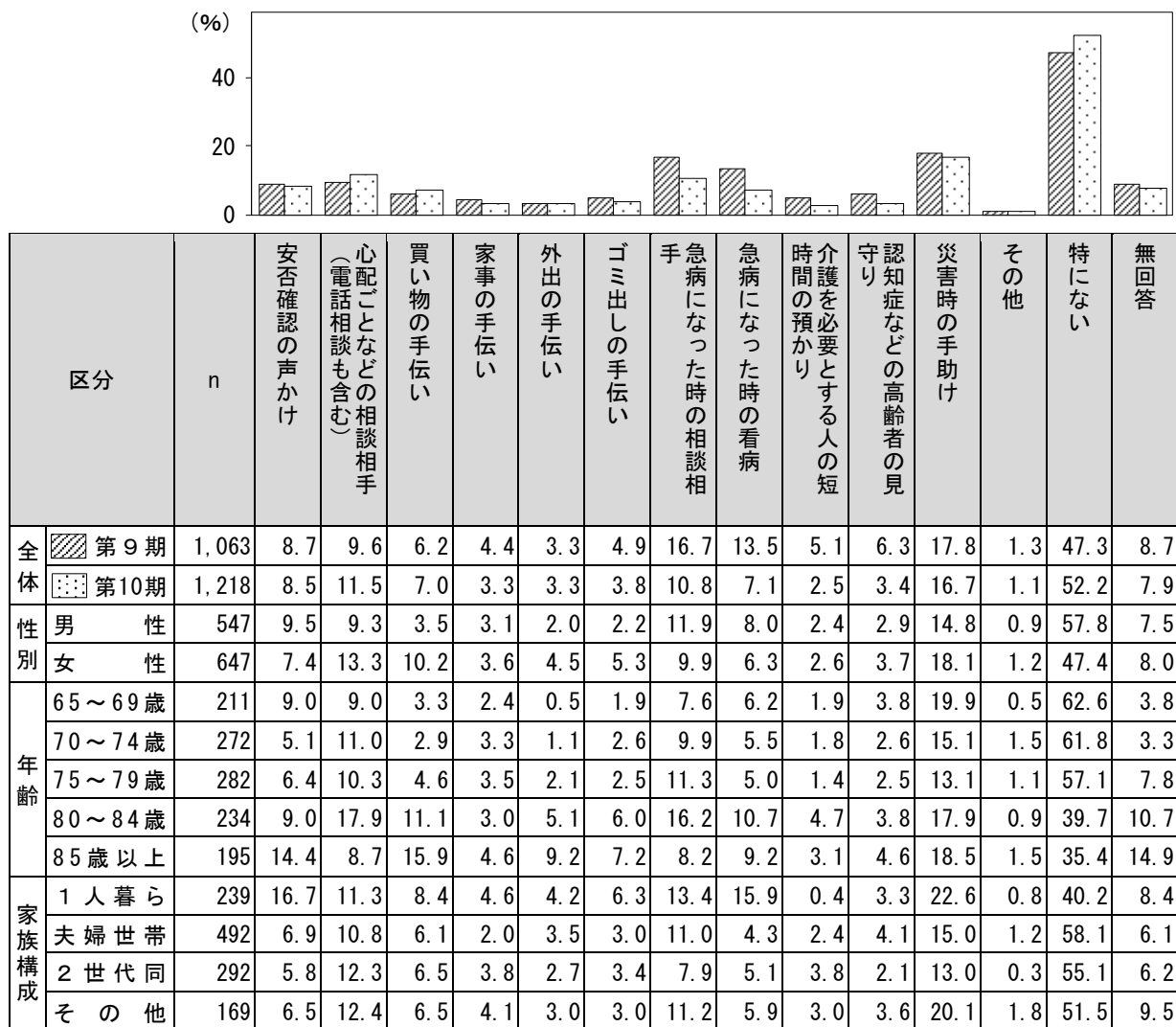
図表 2-69 よく会う友人・知人との関係（複数回答）



(4) 家族以外の誰かに手助けをしてもらいたいこと

- ▶「日常生活で、家族以外の誰かに手助けをしてもらいたいことはありますか」という設問については、「災害時の手助け」が16.7%と最も高く、次いで「心配ごとなどの相談相手（電話相談も含む）」が11.5%、「急病になった時の相談相手」が10.8%などとなっています。「特にない」が52.2%あります。第9期の調査結果に比べ多くの項目が低下している中、「心配ごとなどの相談相手（電話相談も含む）」および「買い物の手伝い」が上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは多くの項目が他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶「その他」として「入浴」「仕事の手伝い」「スポーツ」などの記載がありました。

図表2-70 家族以外の誰かに手助けをしてもらいたいこと（複数回答）



8 健康について

(1) 自分で健康だと思うか

- ▶主観的健康感をみると、「まあよい」が69.3%を占めており、「とてもよい」（5.7%）と合計した《健康》は75.0%となります。「あまりよくない」（20.4%）と「よくない」（2.4%）の合計《健康でない》は22.8%です。第9期の調査結果に比べ《健康でない》が2.1ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい《健康》が低下し《健康でない》が上昇しており、85歳以上になると《健康でない》が35%を超えます。
- ▶家族構成別にみると、《健康でない》が最も高いのは1人暮らしであり、24.3%あります。

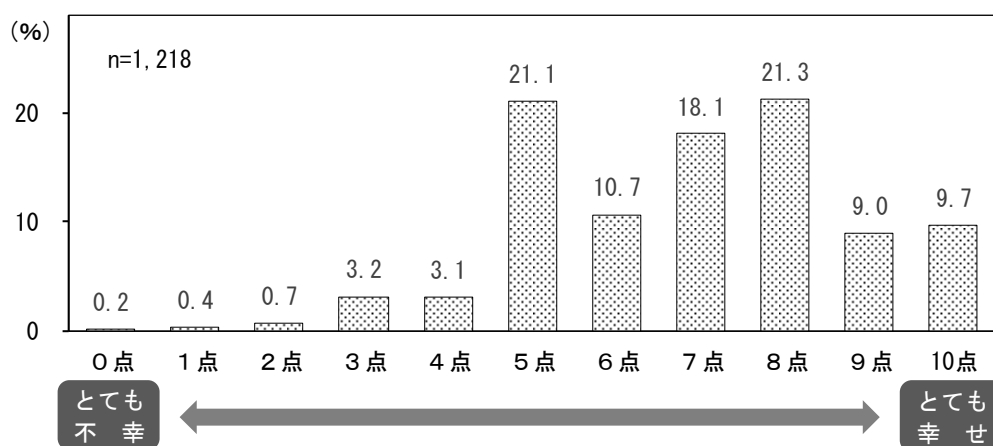
図表2-71 自分で健康だと思うか



(2) 幸福感

- ▶「あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という設問では、8点と回答した人が21.3%と最も高く、次いで5点が21.1%、7点が18.1%、6点が10.7%の順となっており、8点以上は40%を占めています（図表2-72）。
- ▶平均は6.86点で、第9期の調査結果に比べ0.22点低下しています。属性別にみると、女性（7.07点）に対し男性（6.62点）が低く、同居世帯（2世代同居（7.09点）、夫婦世帯（6.99点））に対し1人暮らし（6.53点）は低くなっています（図表2-73）。

図表2-72 幸福感



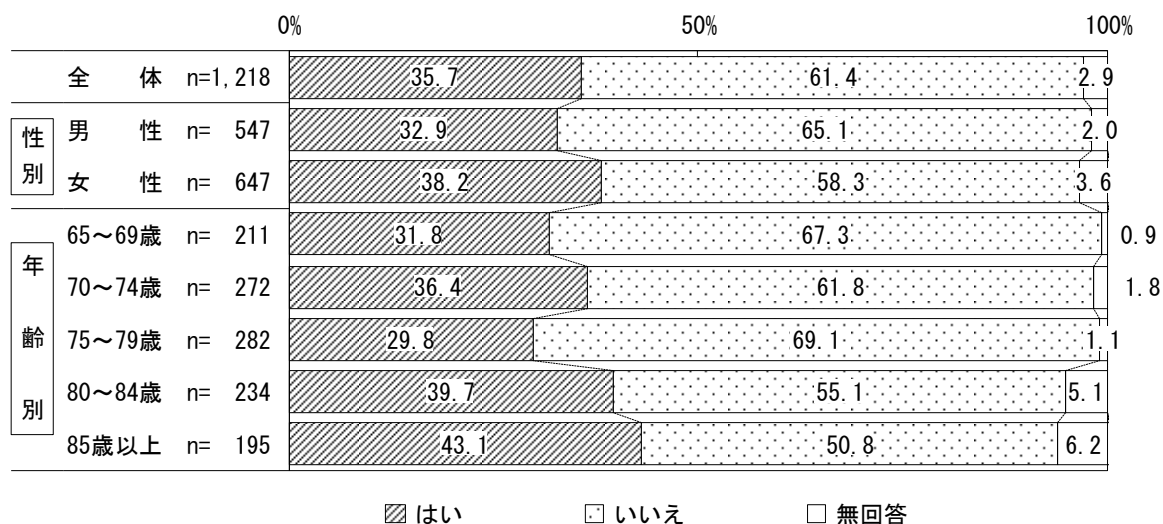
図表2-73 幸福感（平均点）

				5	6	7	(点)
全体	第9期	n=1,027					7.08
	第10期	n=1,187					6.86
性別	男性	n= 537					6.62
	女性	n= 628					7.07
年齢	65～69歳	n= 208					6.92
	70～74歳	n= 266					6.97
	75～79歳	n= 280					6.76
	80～84歳	n= 224					6.88
	85歳以上	n= 187					6.76
家族構成	1人暮らし	n= 231					6.53
	夫婦世帯	n= 482					6.99
	2世代同居	n= 289					7.09
	その他	n= 164					6.57

(3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった経験

▶この1か月の間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがある（「はい」）は35.7%です。男性に比べ女性が高く、年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。

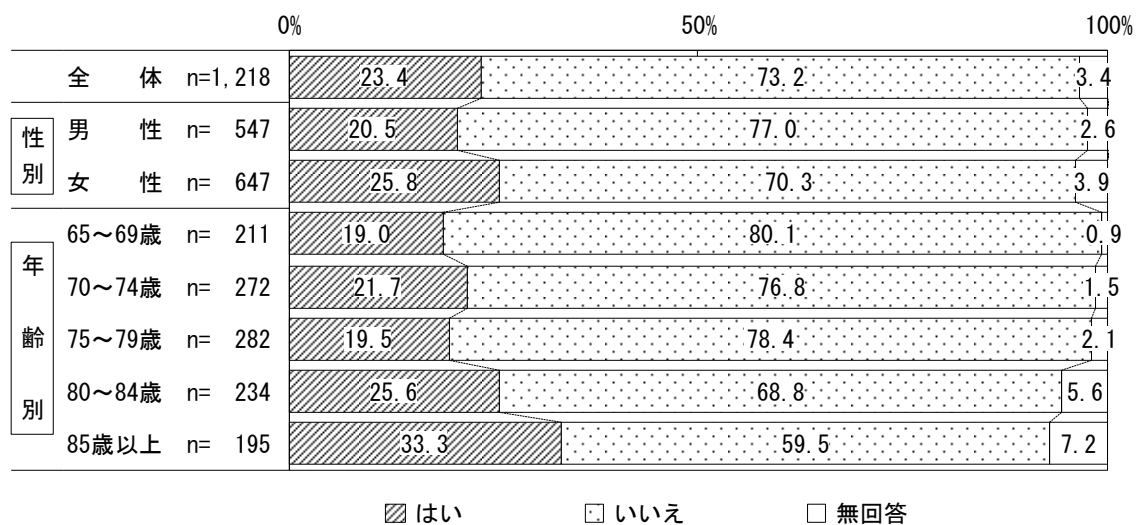
図表2-74 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった経験



(4) 物事に興味がわかない、心から楽しめない感じ

▶この1か月の間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった（「はい」）は23.4%です。男性に比べ女性が高く、年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。

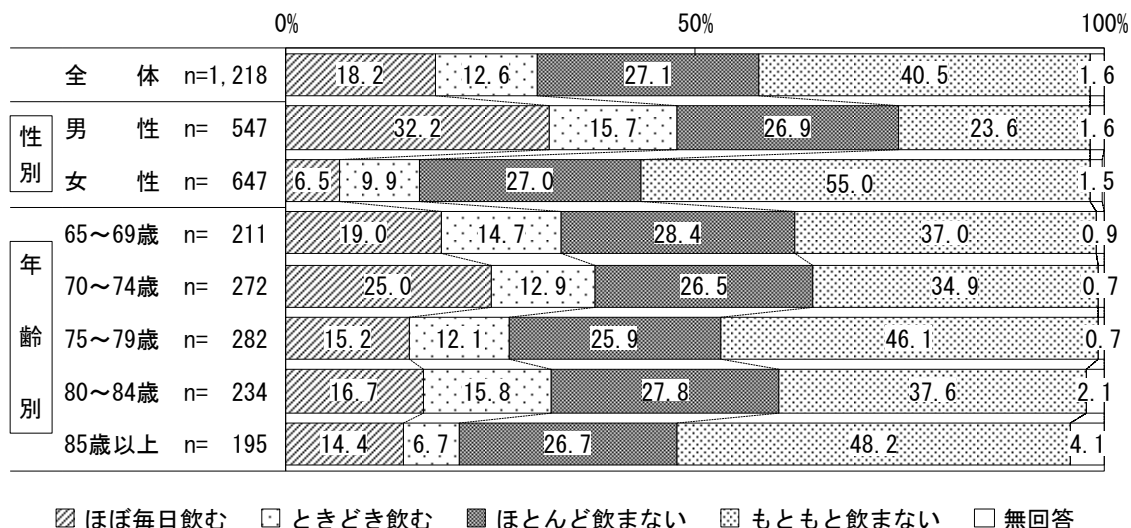
図表2-75 物事に興味がわかない、心から楽しめない感じ



(5) 飲酒

▶酒を「ほぼ毎日飲む」は18.2%、「ときどき飲む」は12.6%となっています。飲酒習慣は女性に比べ男性が圧倒的に高くなっています。年齢別にみると、70～74歳では「ほぼ毎日飲む」が25.0%と他の年齢層に比べ高くなっています。

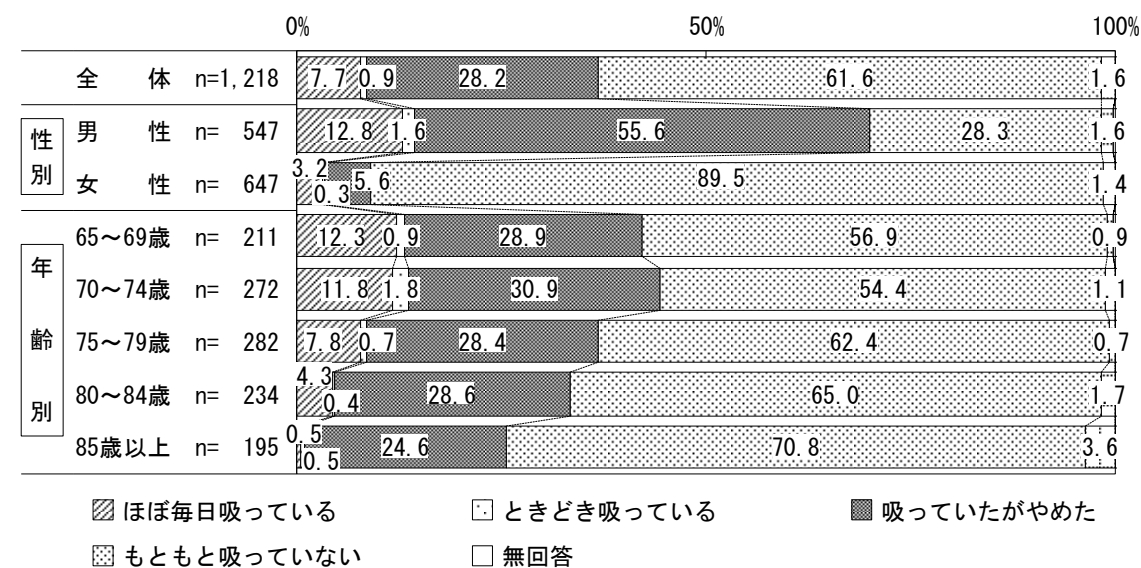
図表 2-76 飲酒



(6) 喫煙

▶タバコを「ほぼ毎日吸っている」(7.7%)と「ときどき吸っている」(0.9%)を合計した喫煙率は8.6%です。女性の喫煙率は3.5%ですが、男性は14.4%と10ポイント以上の差があります。

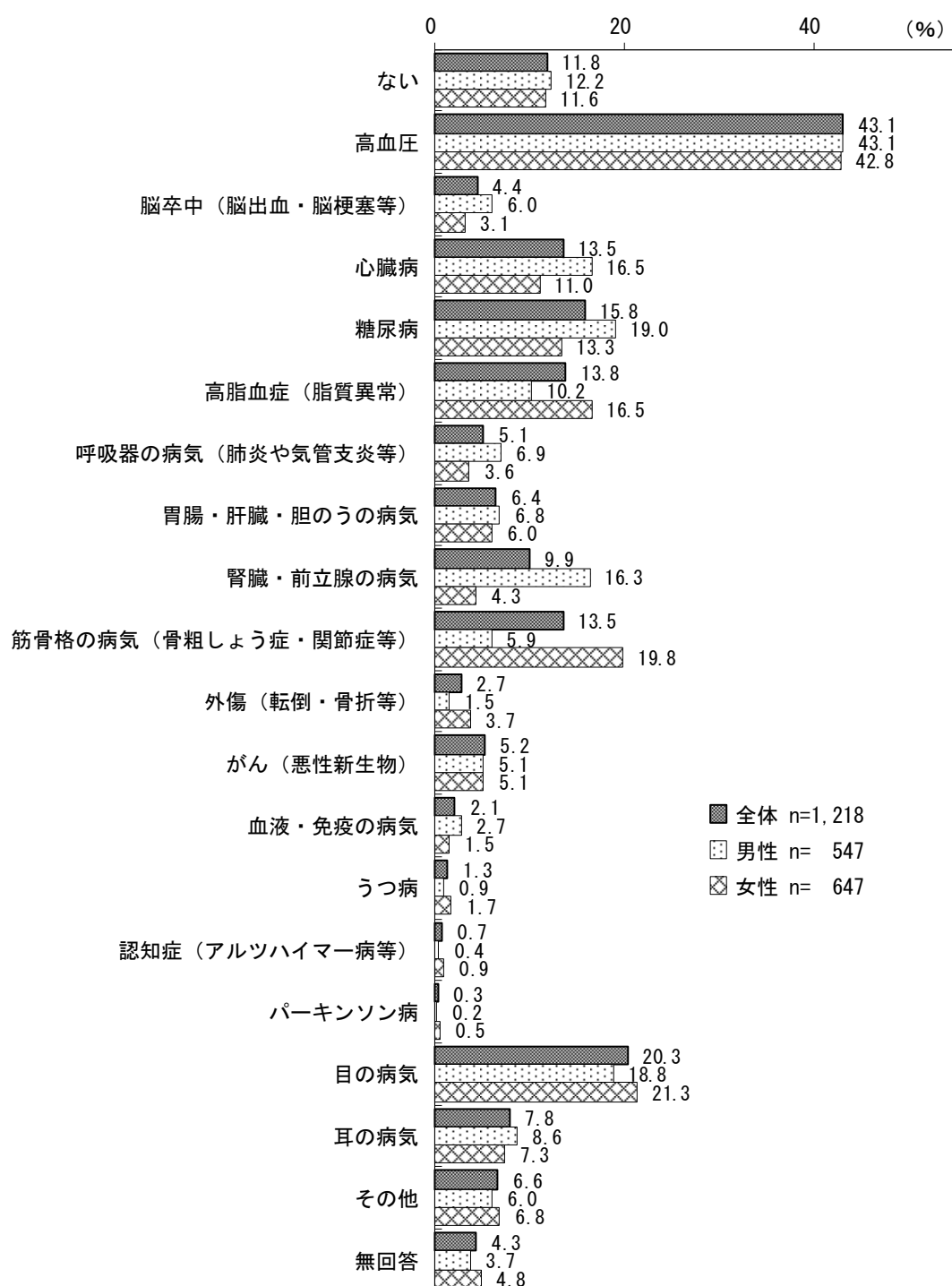
図表 2-77 喫煙



(7) 治療中または後遺症のある病気について

- ▶現在、治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」が43.1%と突出して高く、次いで「目の病気」が20.3%、「糖尿病」が15.8%などとなっています。
- ▶性別により5ポイント以上の差がある疾病は、男性が高い「腎臓・前立腺の病気」「糖尿病」「心臓病」、女性が高い「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」「高脂血症（脂質異常）」です。

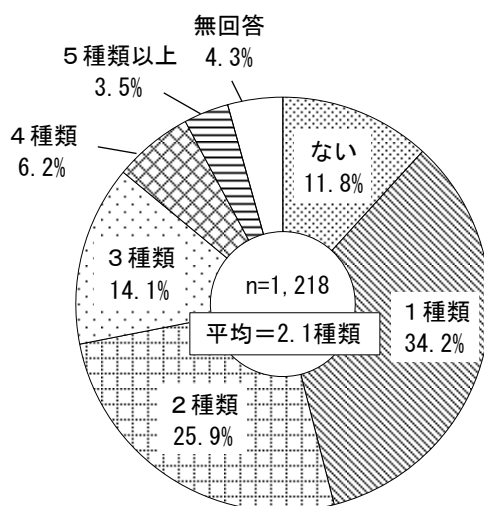
図表 2-78 現在、治療中または後遺症のある病気（複数回答）



(8) 治療中または後遺症のある病気の数

- ▶ 治療中または後遺症のある病気の数、「1種類」が34.2%と最も高く、次いで「2種類」が25.9%、「3種類」が14.1%などとなっており、「5種類以上」が3.5%あります。「ない」は11.8%です。
- ▶ 1人当たりの病気の平均数は2.1種類です。

図表2-79 治療中または後遺症のある病気の数

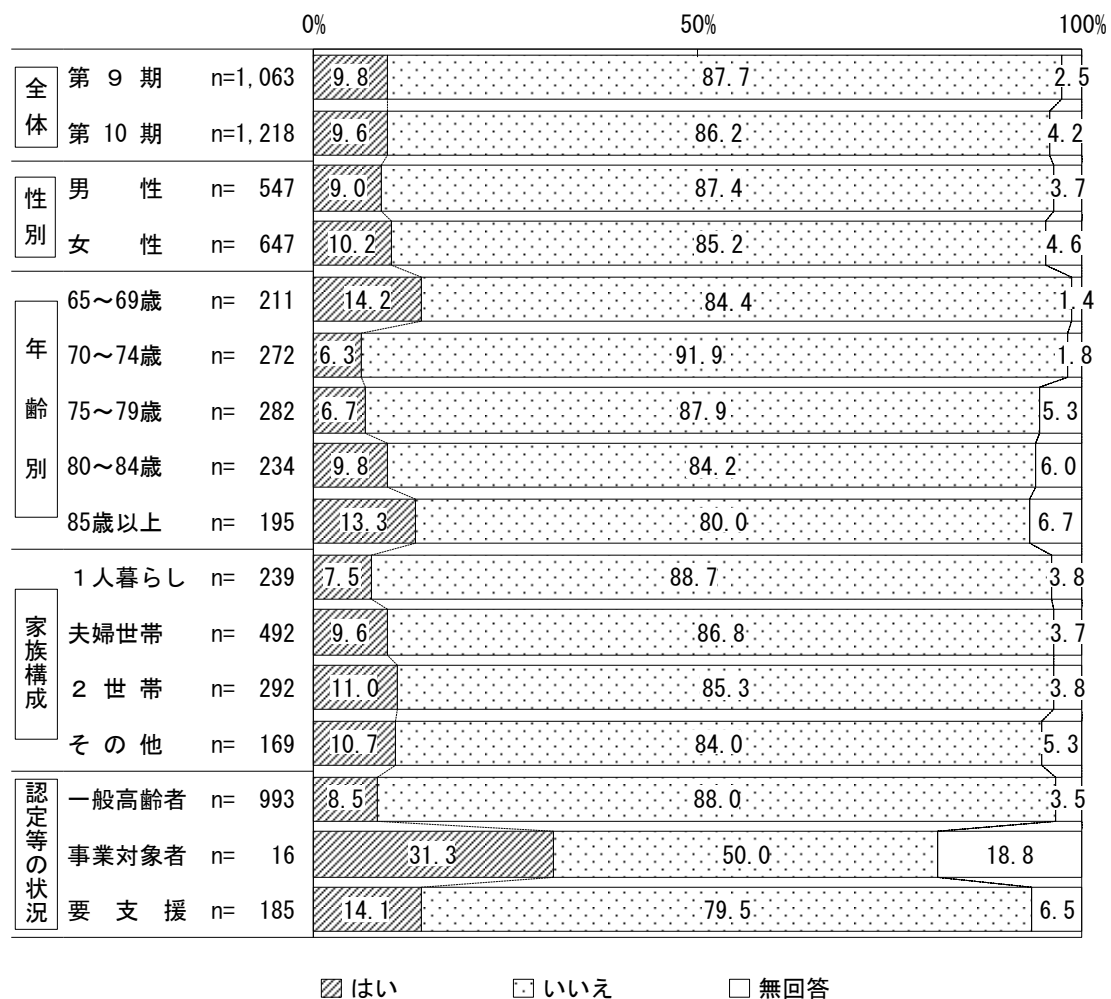


9 認知症について

(1) 認知症の症状の有無

- ▶「認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか」という設問については、「はい」が9.6%、「いいえ」が86.2%となっています。第9期の調査結果に比べほとんど変化はありません。
- ▶年齢別にみると、65～69歳の14.2%から70歳台で一旦6%台に低下しますが、80歳以上になると再び上昇します。これは、65～69歳では本人の親が、80歳以上では本人又は配偶者が該当するものと考えられます。

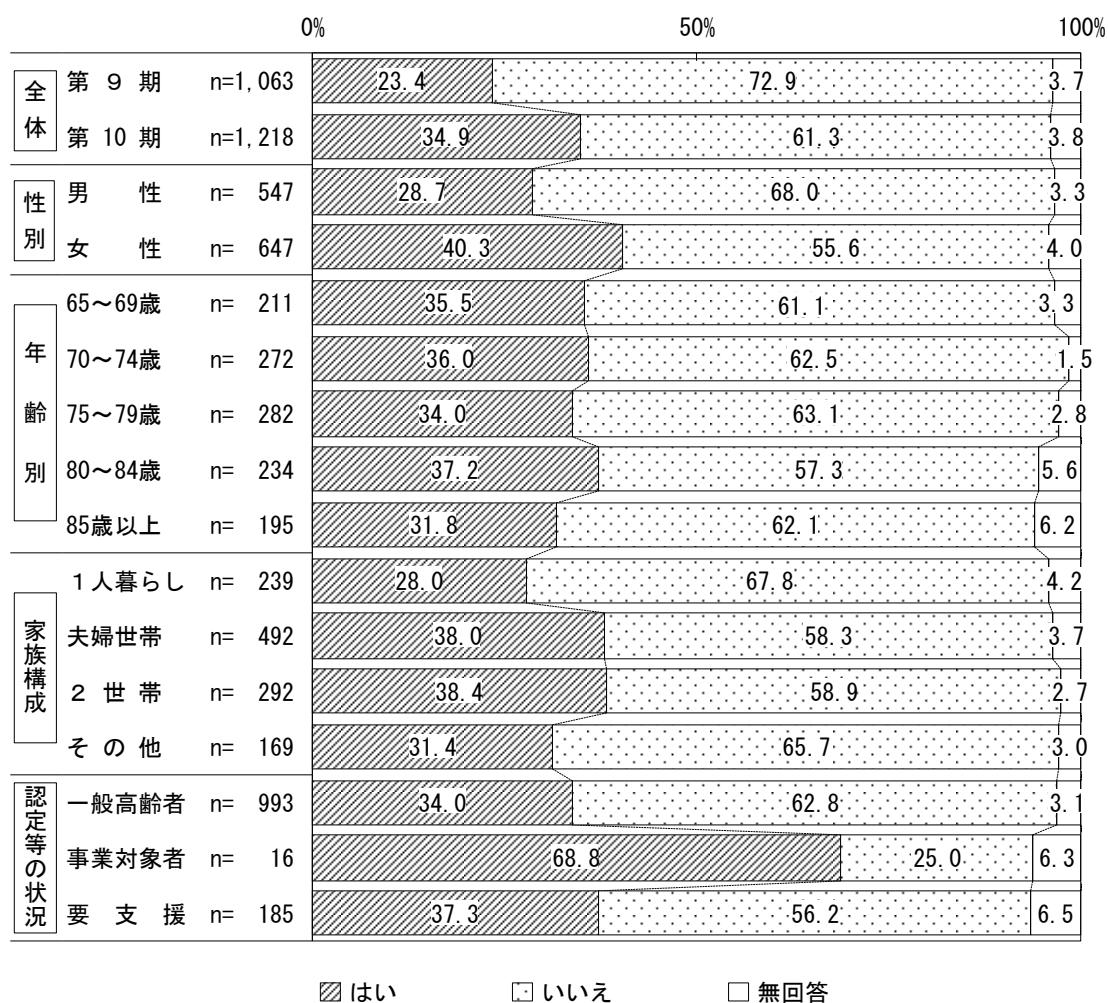
図表 2-80 認知症の症状の有無



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ▶「認知症に関する相談窓口を知っていますか」という設問については、「はい」が34.9%、「いいえ」が61.3%となっています。第9期の調査結果に比べ認知度が11.5ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、認知度は男性に比べ女性が11.6ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、認知度は1人暮らしが他の区分に比べ低くなっています。
- ▶認定等の状況別にみると、認知度は事業対象者では70%近い率となっています。

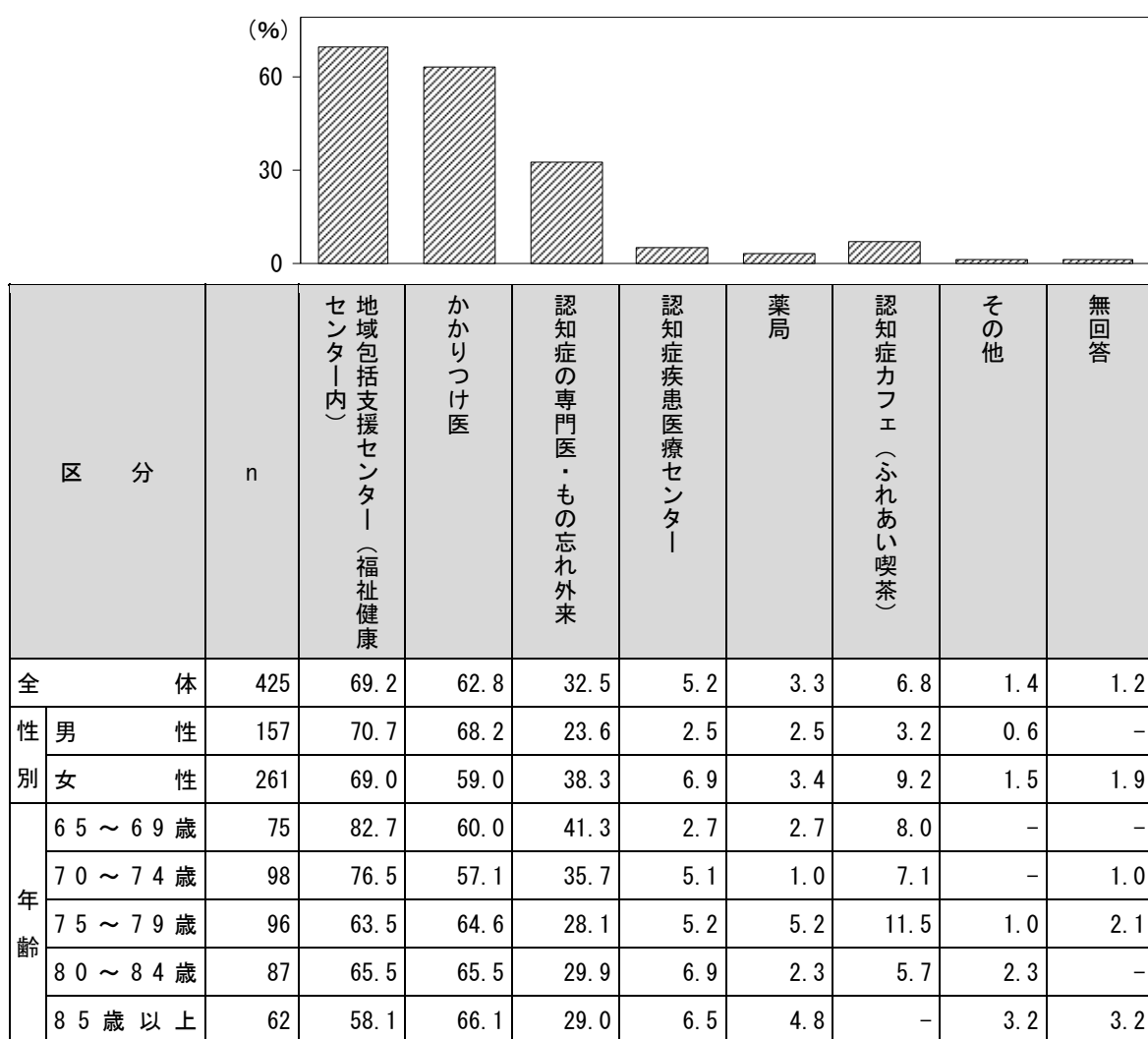
図表 2-81 認知症に関する相談窓口の認知度



(3) 知っている認知症相談窓口

- ▶認知症に関する相談窓口を知っていると回答した425人の知っている相談窓口については、「地域包括支援センター（福祉健康センター内）」が69.2%と最も高く、次いで「かかりつけ医」が62.8%、「認知症の専門医・もの忘れ外来」が32.5%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、65～69歳では「認知症の専門医・もの忘れ外来」が41.3%と他の年齢層に比べ高くなっています。また、75～79歳では「認知症カフェ（ふれあい喫茶）」が10%を超えています。

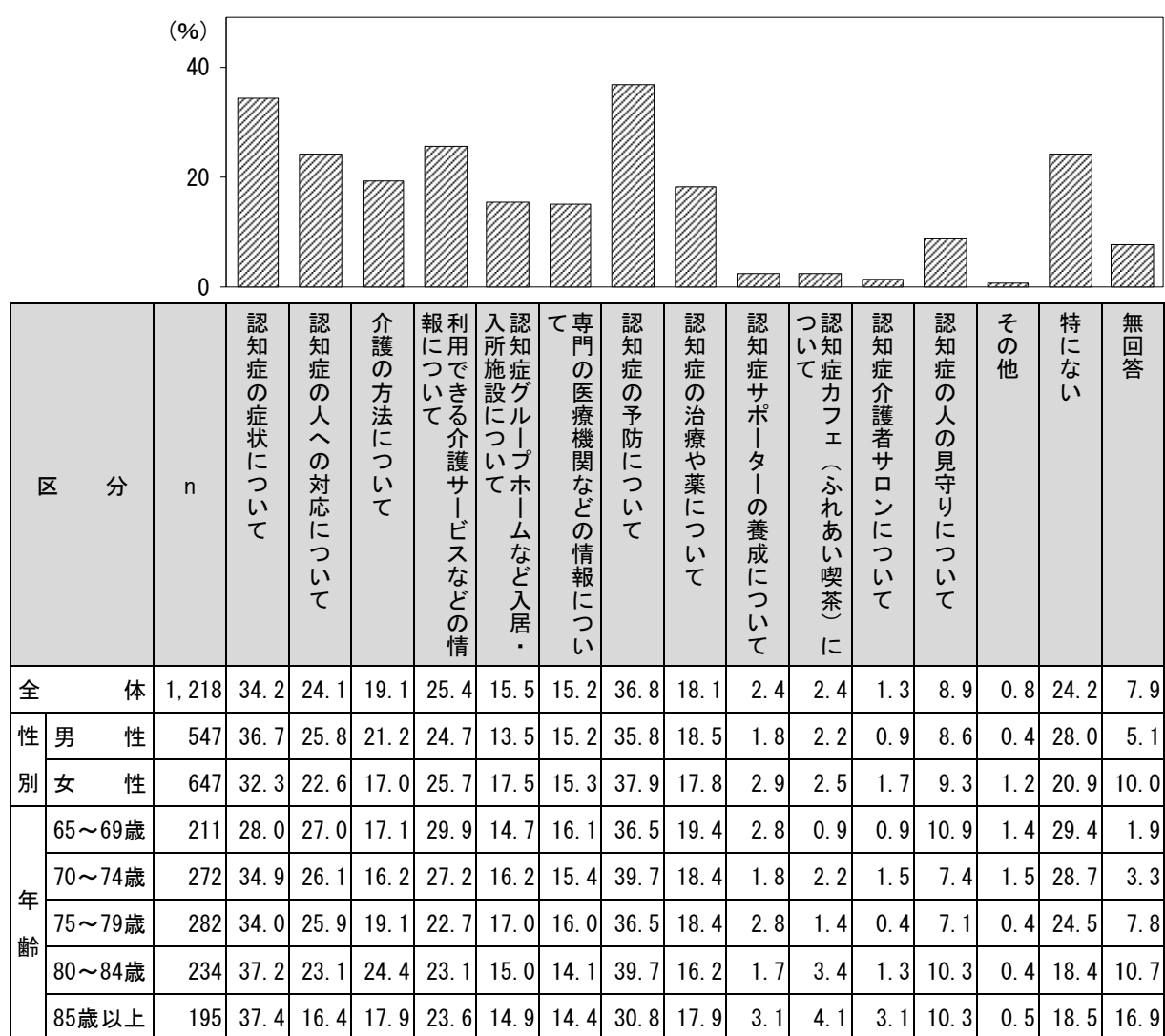
図表 2-82 知っている認知症相談窓口（複数回答）



(4) 認知症について知りたいこと・関心があること

- ▶認知症について知りたいこと・関心があることについては、「認知症の予防について」が36.8%と最も高く、次いで「認知症の症状について」が34.2%、「利用できる介護サービスなどの情報について」が25.4%、「認知症の人への対応について」が24.1%などとなっています。
- ▶年齢別にみると、「認知症の症状について」は年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、「認知症の人への対応について」は年齢が上がるにしたがい低くなっています。

図表 2-83 認知症について知りたいこと・関心があること（複数回答）

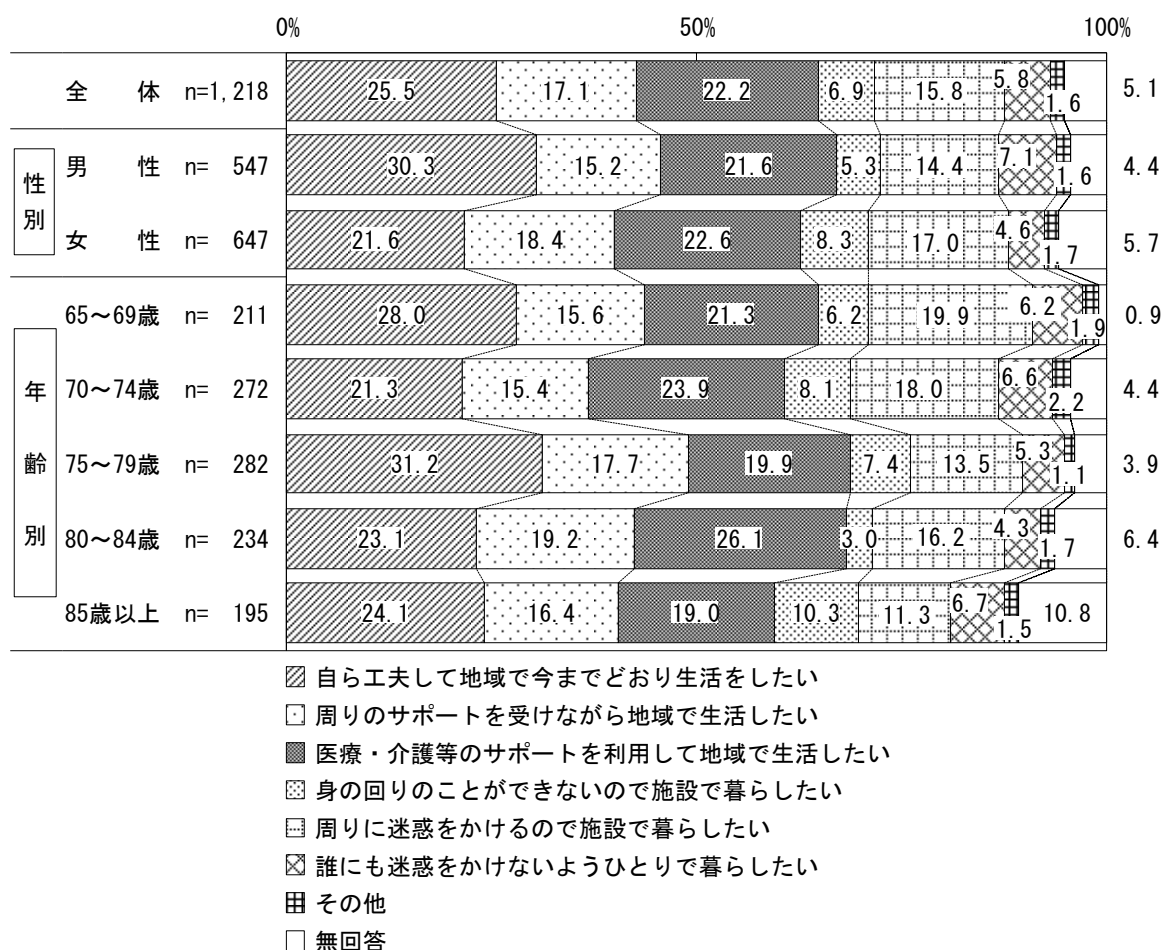


(5) 認知症になったらどのように暮らしたいか

▶「認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか」という設問に対しては、「自ら工夫して地域で今までどおり生活をしたい」が25.5%と最も高く、次いで「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活したい」が22.2%、「周りのサポートを受けながら地域で生活したい」が17.1%となっており、多くの人認知症になっても住み慣れた地域での生活を望んでいることがわかります。「周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい」は15.8%です。

▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい」が低下する傾向にあります。

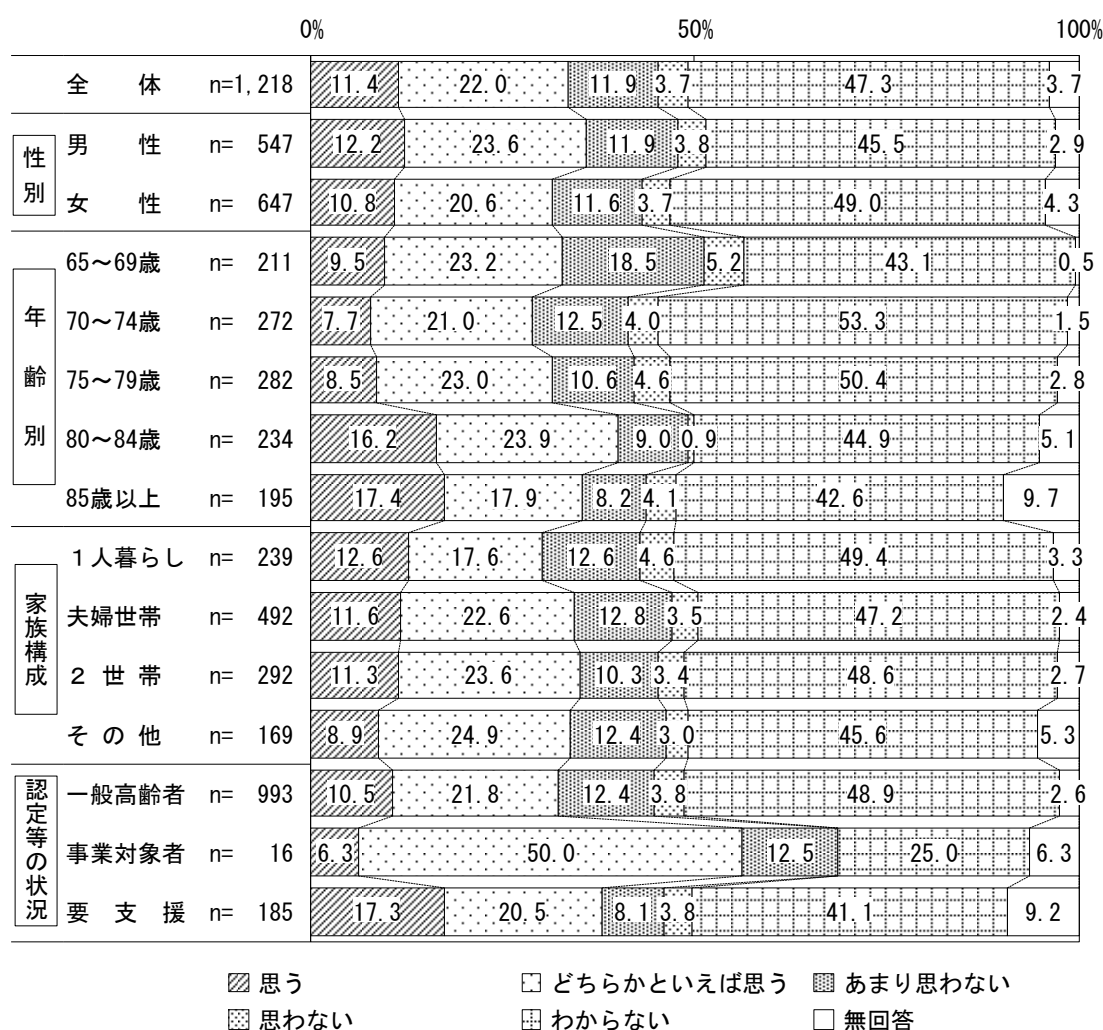
図表2-84 認知症になったらどのように暮らしたいか



(6) 新しい認知症感

- ▶「笠松町は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が40%以上を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が22.0%となっており、「思う」（11.4%）との合計《暮らし続けられると思う》は33.4%です。
- ▶《暮らし続けられると思う》を属性別にみると、性別では男性、年齢別では80～84歳、家族構成別では2世帯、認定等の状況別では総合事業対象者がそれぞれ他の区分に比べ高くなっています。

図表2－85 笠松町は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか



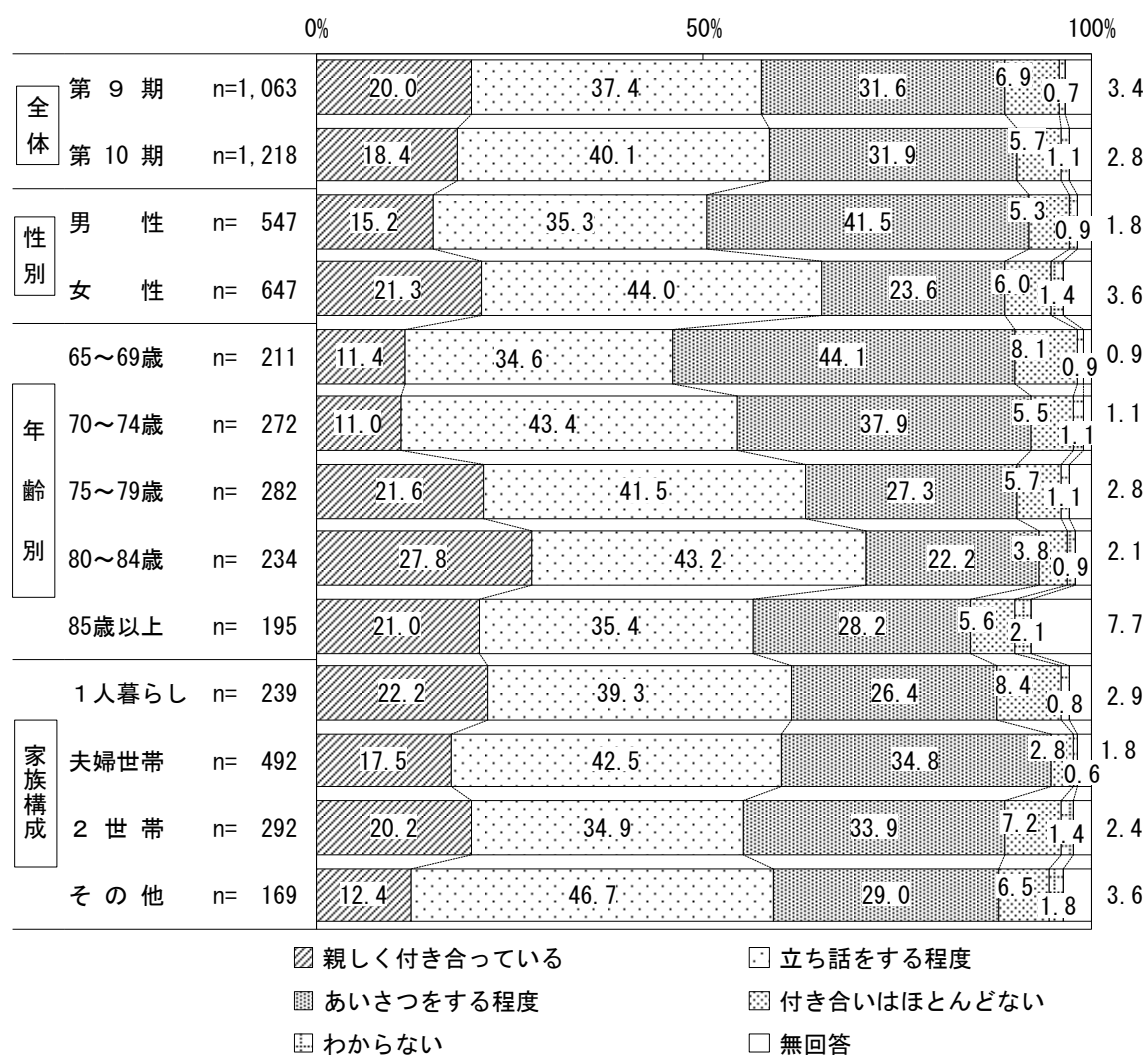
10 地域とのつながりについて

(1) 近所付き合い

① 近所付き合いの程度

- ▶近所の人との付き合いについてみると、「立ち話をする程度」が40.1%と最も高く、次いで「あいさつをする程度」が31.9%、「親しく付き合っている」が18.4%、「付き合いはほとんどない」が5.7%となっています。第9期の調査結果に比べ「親しく付き合っている」が1.6ポイント低下しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「親しく付き合っている」が上昇し、ピークの80～84歳では27.8%となりますが、85歳以上になると21.0%まで低下します。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「付き合いはほとんどない」が8.4%あります。

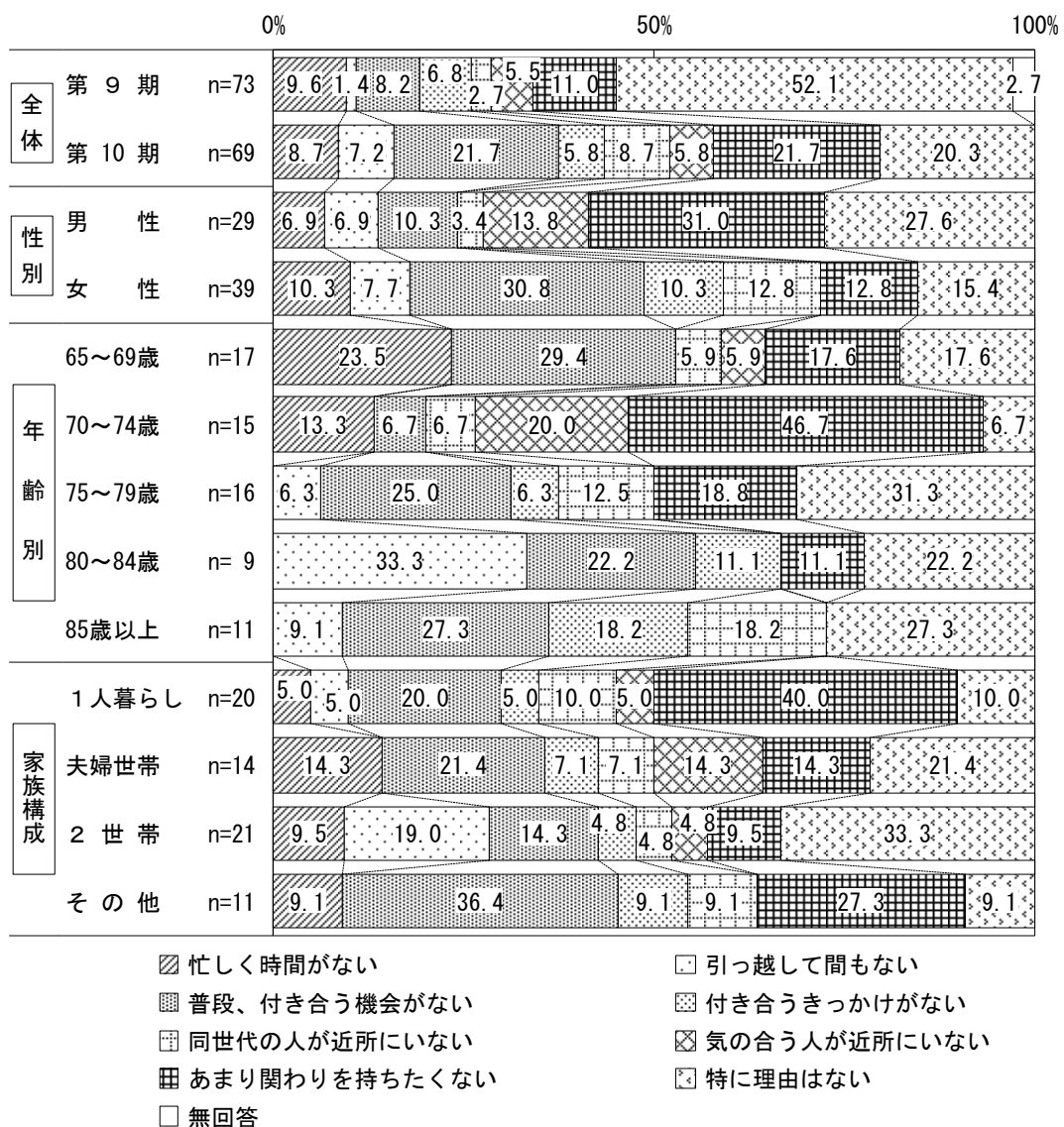
図表2-86 近所づきあいの程度



② 近所付き合いがない理由

- ▶近所の人との付き合いについて「付き合いはほとんどない」と回答した69人に、その理由をたずねたところ、「普段、付き合う機会がない」および「あまり関わりを持ちたくない」が21.7%と最も高く、次いで「特に理由がない」が20.3%となっています。第9期の調査結果に比べ「普段、付き合う機会がない」および「あまり関わりを持ちたくない」が10ポイント以上大きく上昇しています。
- ▶性別では男性、年齢別では70～74歳、家族構成別では1人暮らしの「あまり関わりを持ちたくない」がそれぞれ他の区分に比べ高くなっています。

図表 2-87 近所付き合いがない理由

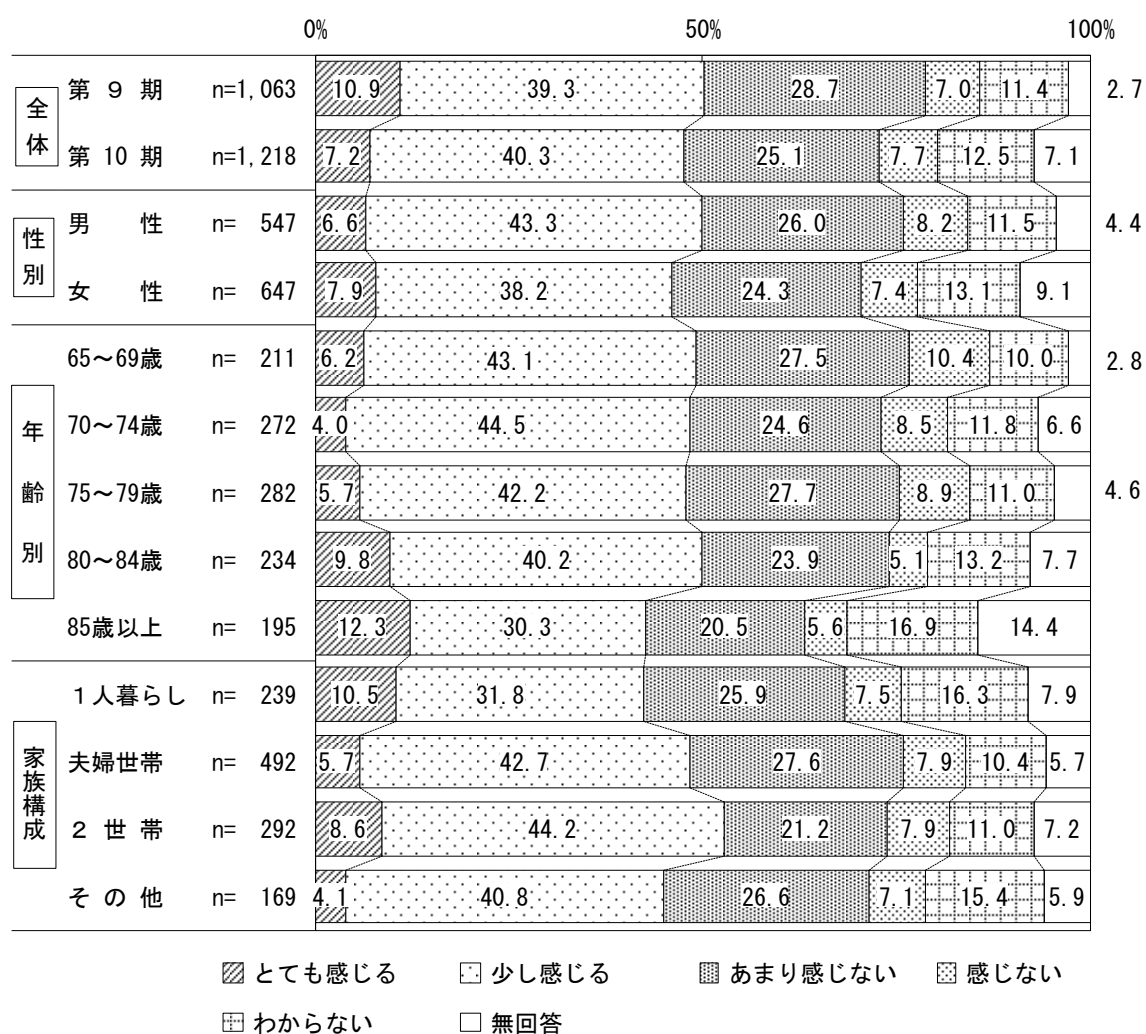


(2) 地域のつながり

① つながりがあると感じるか

- ▶住んでいる地域は、つながりがあると感じるかについては、「少し感じる」が40.3%と最も高く、次いで「あまり感じない」が25.1%、「わからない」が12.5%などとなっています。「とても感じる」(7.2%)と「少し感じる」の合計《感じる》は47.5%です。第9期の調査結果に比べ《感じる》が2.7ポイント低下しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたい「とても感じる」が上昇する傾向にあります。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「とても感じる」が10%を超えています。

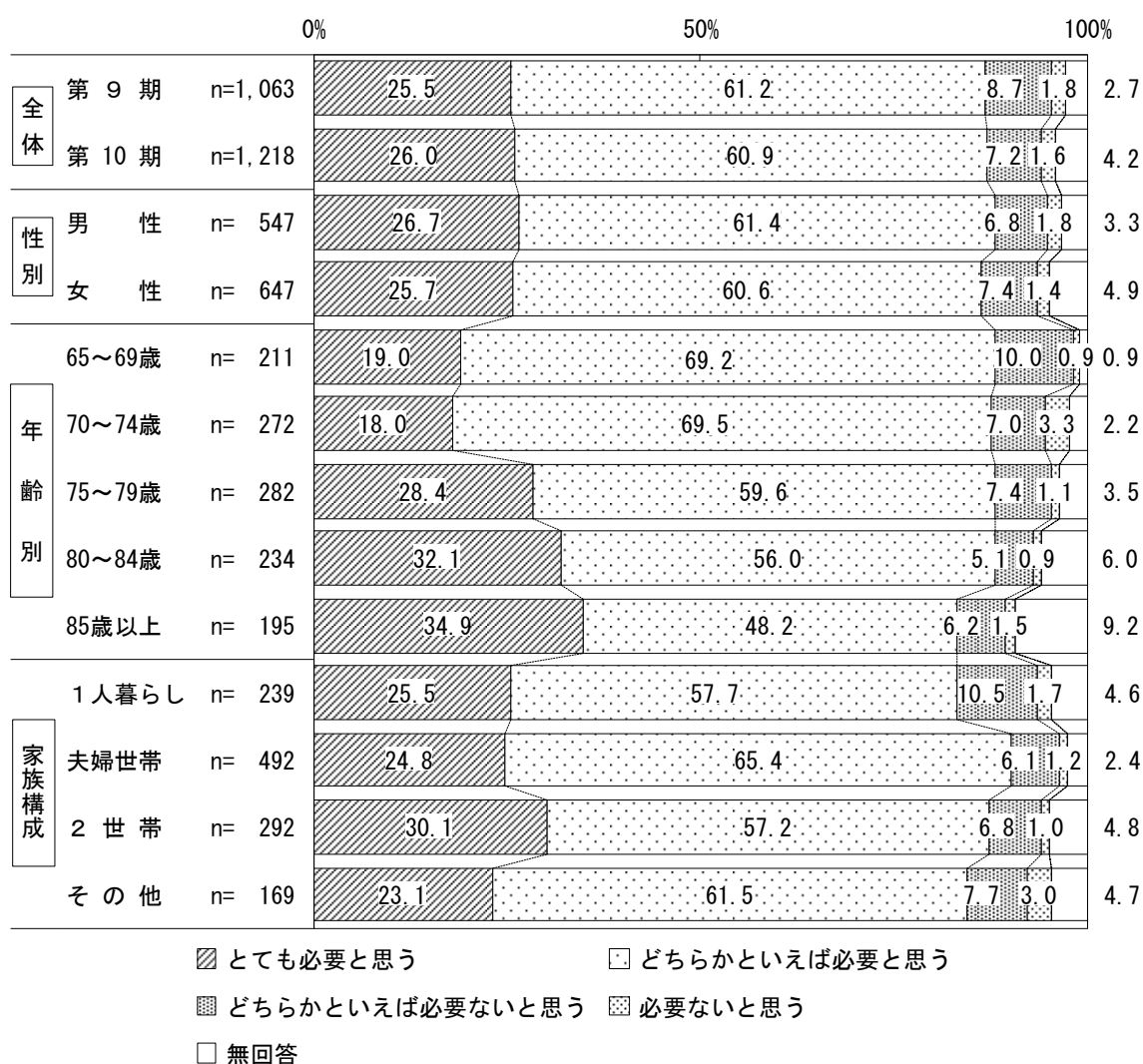
図表 2-88 つながりがあると感じるか



② 地域とのつながりは必要と思うか

- ▶ 日常の暮らしの中で、地域とのつながりは必要と思うかについては、「どちらかといえば必要と思う」が60.9%を占めており、「とても必要と思う」（26.0%）の合計《必要と思う》は86.9%です。第9期の調査結果に比べ大きな変化はありませんが、《必要と思う》が0.9ポイント上昇しています。
- ▶ 年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「とても必要と思う」が上昇する傾向にあります。
- ▶ 家族構成別にみると、2世帯では「とても必要と思う」が30%を超えています。

図表 2-89 地域とのつながりは必要と思うか

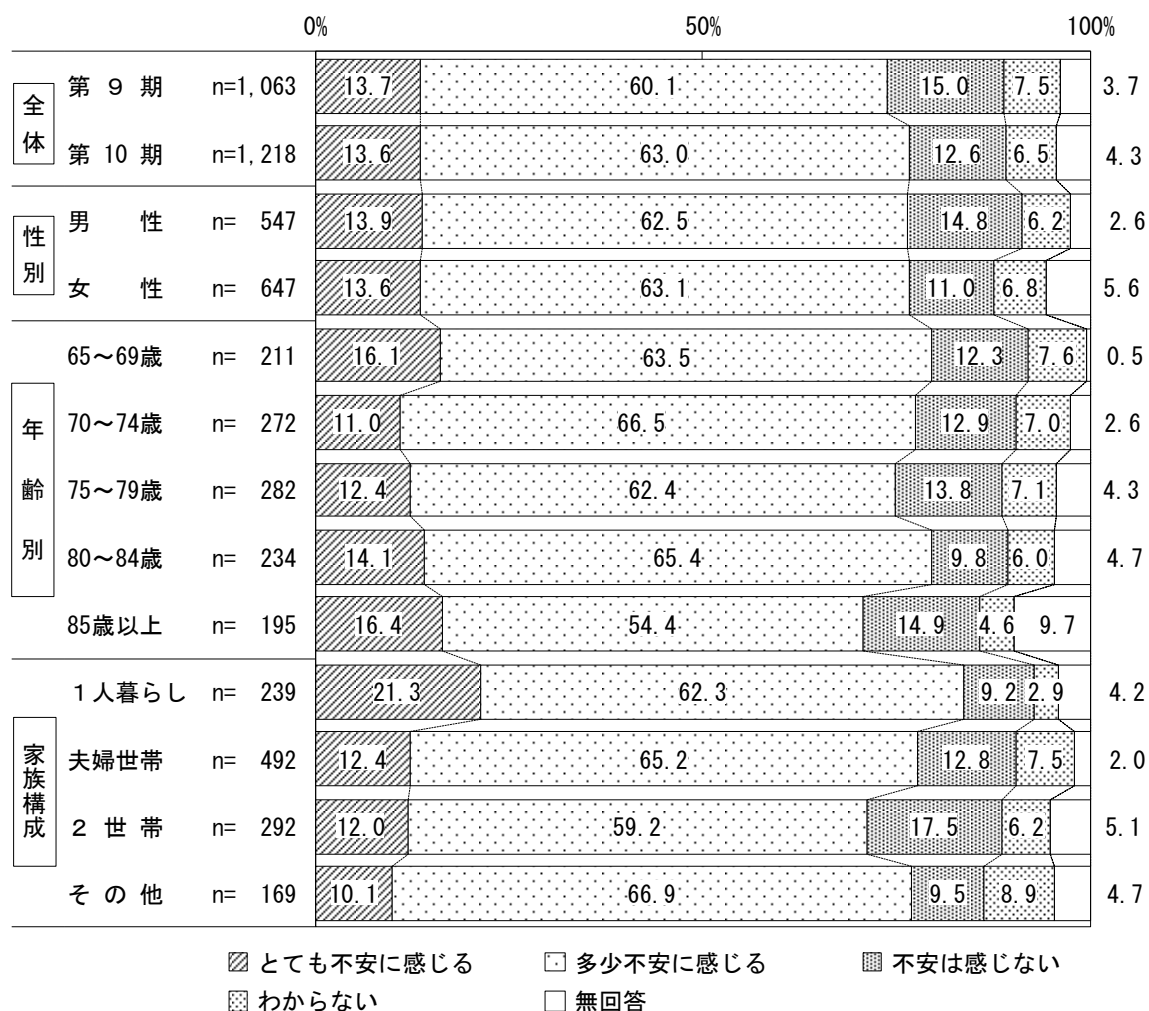


(3) 将来の不安

① 将来の自分について不安を感じるか

- ▶将来の自分について不安を感じるかについては、「多少不安を感じる」が63.0%と最も高く、次いで「とても不安を感じる」が13.6%、「不安は感じない」が12.6%などとなっています。「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」の合計《不安を感じる》は76.6%です。第9期の調査結果に比べ《不安を感じる》が2.8ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「とても不安を感じる」が上昇する傾向にあります。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「とても不安を感じる」が20%を超えています。

図表 2-90 将来の自分について不安を感じるか

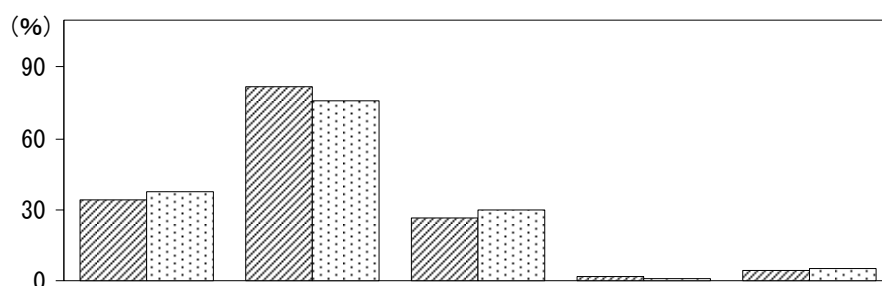


② 将来の自分について不安を感じる点

▶将来の自分について不安を感じると回答した933人の不安を感じる点については、「健康面」が75.8%と圧倒的に高く、次いで「金銭面」が37.5%、「暮らしぶり」が29.6%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「健康面」が低下した反面、「金銭面」および「暮らしぶり」が上昇しています。

▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「金銭面」が低下しています。

図表2-91 将来の自分について不安を感じる点（複数回答）



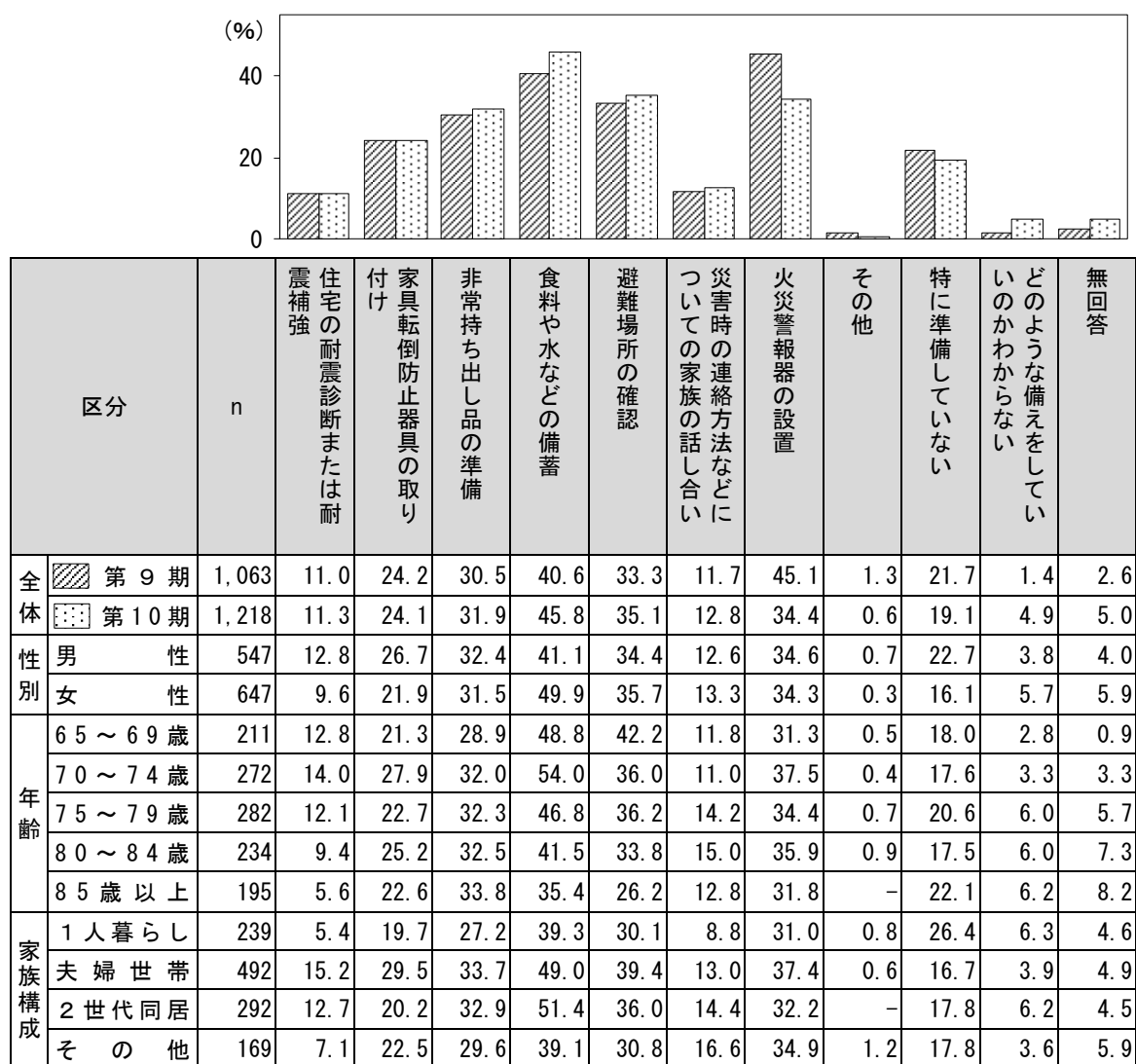
区分		n	金銭面	健康面	暮らしぶり	その他	無回答
全体	第9期	785	34.3	82.0	26.8	2.0	4.5
	第10期	933	37.5	75.8	29.6	1.5	5.5
性別	男性	418	39.2	74.4	27.8	1.7	6.2
	女性	496	35.9	76.8	30.6	1.4	5.0
年齢	65～69歳	168	51.2	76.8	29.8	0.6	6.0
	70～74歳	211	43.1	77.3	33.2	2.8	4.7
	75～79歳	211	37.0	78.7	22.3	1.4	5.7
	80～84歳	186	29.0	74.7	27.4	1.1	5.4
	85歳以上	138	23.9	68.8	36.2	1.4	6.5
家族構成	1人暮らし	200	29.0	75.0	28.5	1.5	8.0
	夫婦世帯	382	38.7	76.4	32.2	1.8	4.2
	2世代同居	208	37.5	77.4	27.9	1.0	5.3
	その他	130	45.4	74.6	26.9	1.5	4.6

1 1 災害時の対応について

(1) 災害時に対する備え

- ▶「あなたの家では、地震などの災害時に対してどのような備えをしていますか」という設問については、「食料や水などの備蓄」が45.8%と最も高く、次いで「避難所の確認」が35.1%、「火災警報器の設置」が34.4%、「非常持ち出し品の準備」が31.9%と選択肢として用意した7つの項目のうち4項目が30%を超えている一方で、「特に準備していない」が19.1%、「どのような備えをしていいのかわからない」が4.9%あります。第9期の調査結果に比べ「食料や水などの備蓄」が5ポイント以上上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「特に準備していない」および「どのような備えをしていいのかわからない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

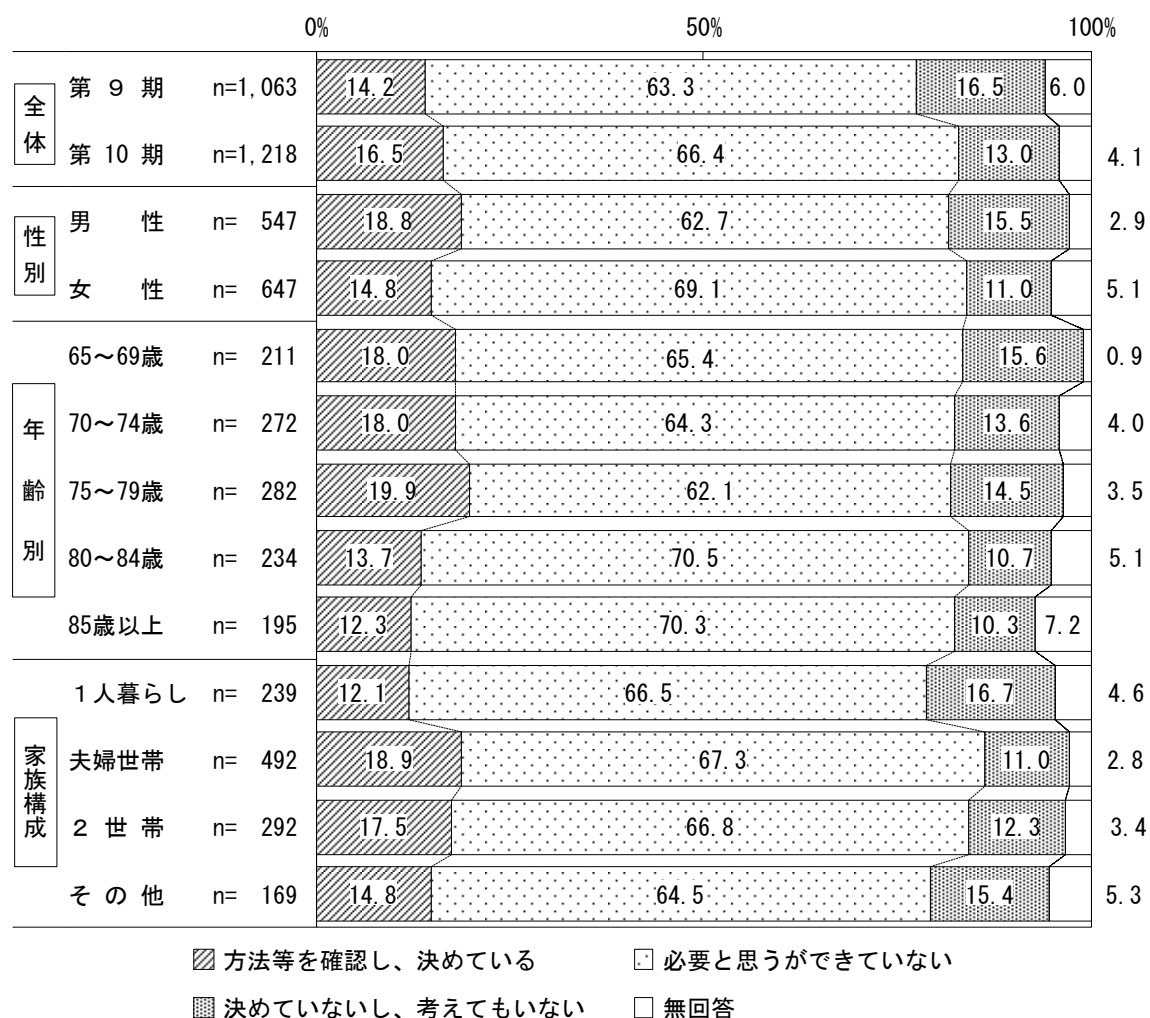
図表2-92 災害時に対する備え（複数回答）



(2) 避難方法や安否確認についての確認

- ▶「家族や地域の方等と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしていますか」という設問については、「必要と思うができていない」が66.4%を占めています。「方法等を確認し、決めている」は16.5%、「決めていないし、考えてもいない」は13.0%です。第9期の調査結果に比べ「方法等を確認し、決めている」が2.3ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、80歳未満では「方法等を確認し、決めている」が18～19%台ですが、80歳以上になると12～13%台に低下します。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「決めていないし、考えてもいない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

図表 2-93 家族や地域の人と避難方法などについて決めごとをしているか



1 2 これからの生活について

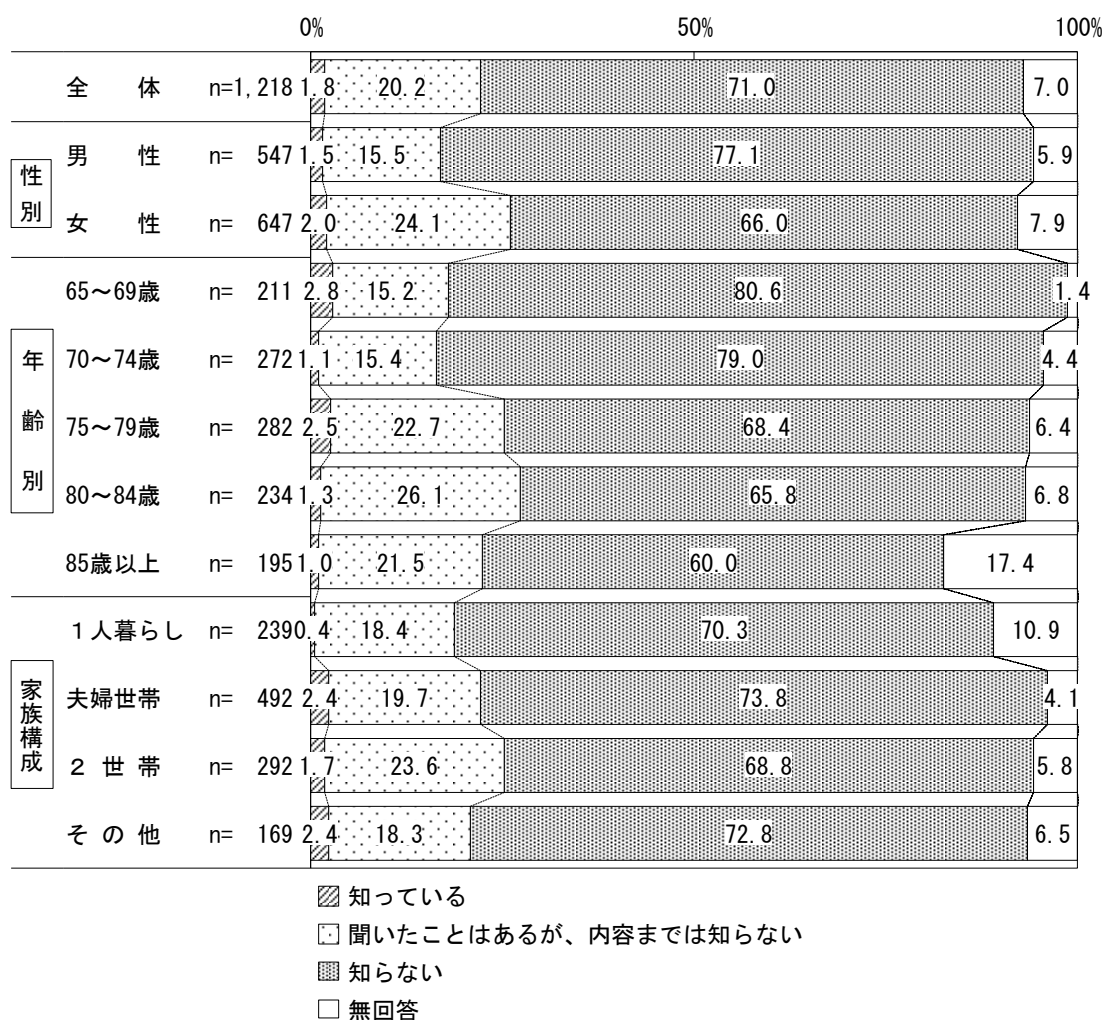
(1) 人生会議（ACP）の認知度

▶もしもの時のために、本人が望む医療や介護について、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みである人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度は、「知らない」が71.0%を占めており、「知っている」（1.8%）と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（20.2%）の合計《認知度》は22.0%となっています。

▶年齢別にみると、75～84歳では《認知度》が25%を超えています。

▶家族構成別にみると、2世帯では《認知度》が他の世帯類型に比べ高くなっています。

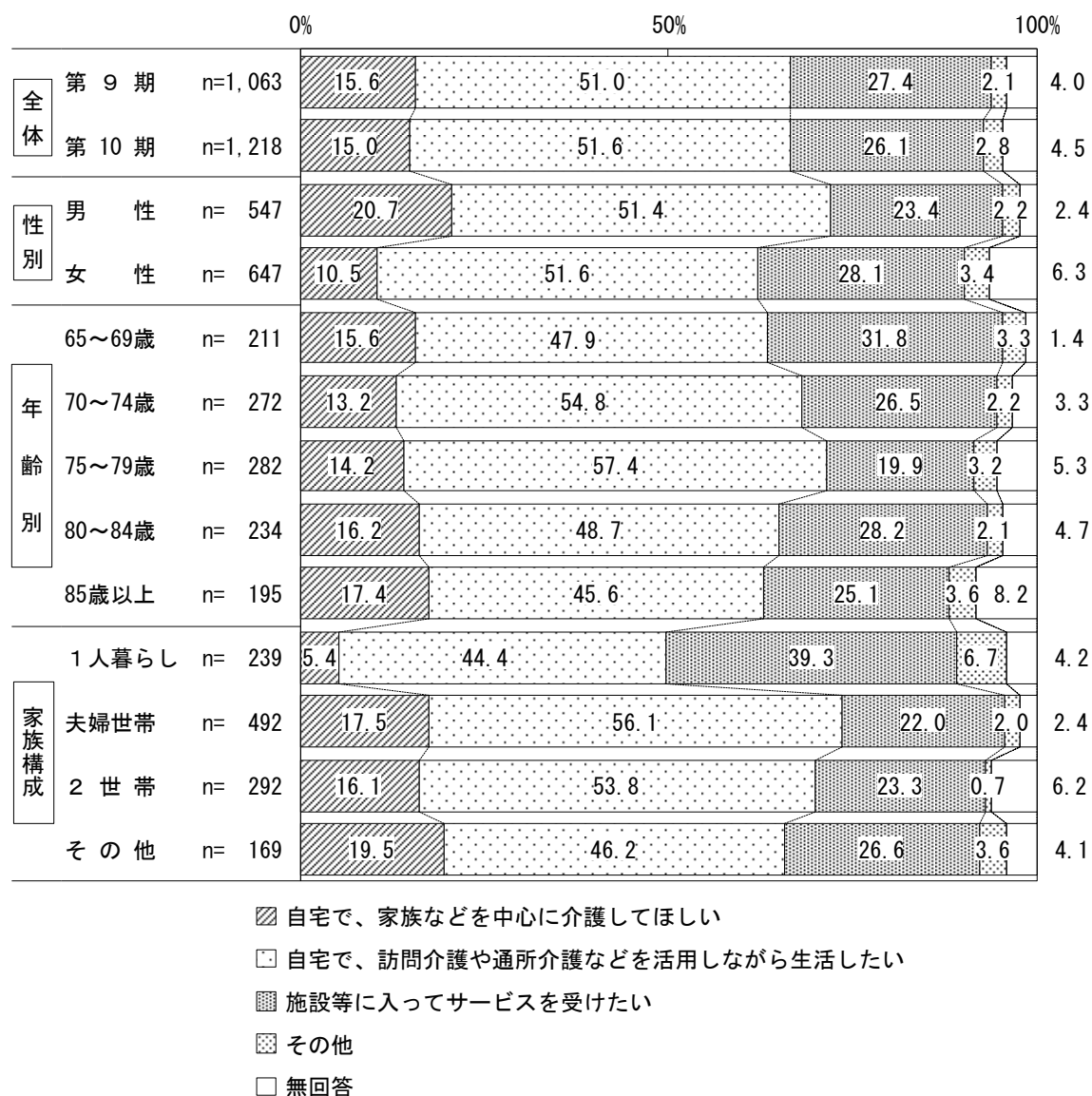
図表 2-94 人生会議（ACP）の認知度



(2) 自分に介護が必要になった場合の希望

- ▶自分に介護が必要になった場合の希望としては、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が51.6%を占めており、「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」（15.0%）との合計《在宅希望》は66.6%となっています。「施設等に入ってサービスを受けたい」は26.1%です。第9期の調査結果に比べ大きな変化はありません。
- ▶性別にみると、男性は女性に比べ「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」が10ポイント以上高くなっています。一方、女性は男性に比べ「施設等に入ってサービスを受けたい」が4.7ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「施設等に入ってサービスを受けたい」が40%近い率となっています。

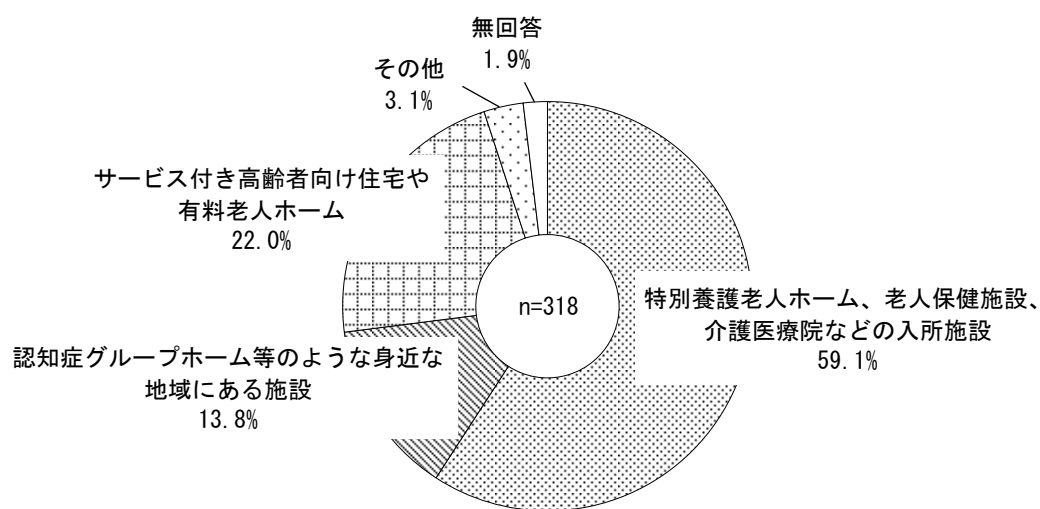
図表 2-95 介護が必要となった場合



(3) 希望する施設

▶自分に介護が必要になった場合の希望として「施設等に入ってサービスを受けたい」と回答した318人の希望する施設については、「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院などの入所施設」が59.1%と最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が22.0%、「認知症グループホーム等のような身近な地域にある施設」が13.8%となっています。

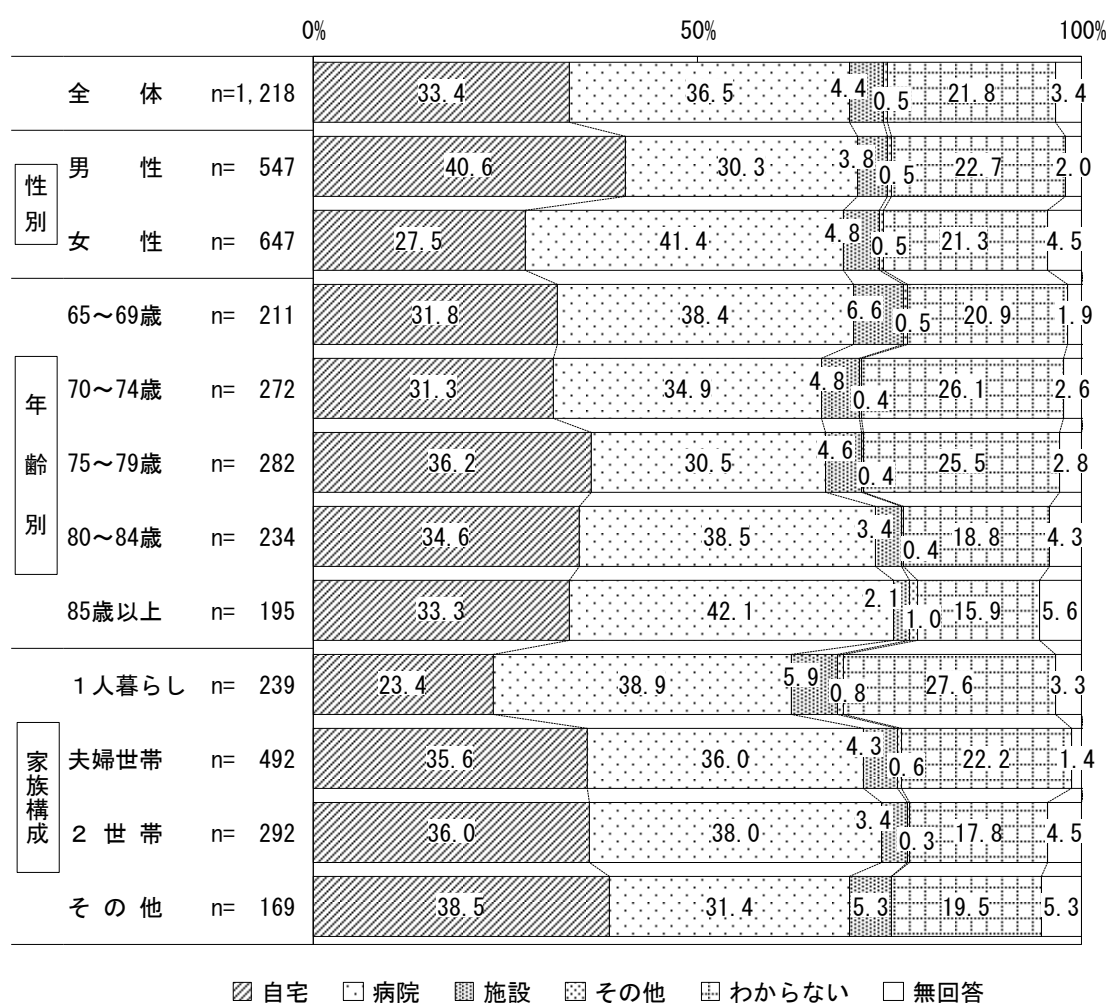
図表 2-96 希望する施設



(4) 人生の最期をどこで迎えたいか

- ▶仮に治る見込みがない病気等で死期が近い場合、どこで最期を迎えたいと思うかお聞きしたところ、「病院」が36.5%と最も高く、次いで「自宅」が33.4%、「わからない」が21.8%などとなっています。
- ▶性別にみると、男性は「自宅」、女性は「病院」が最も高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「自宅」が他の家族構成に比べ10ポイント以上低くなっています。

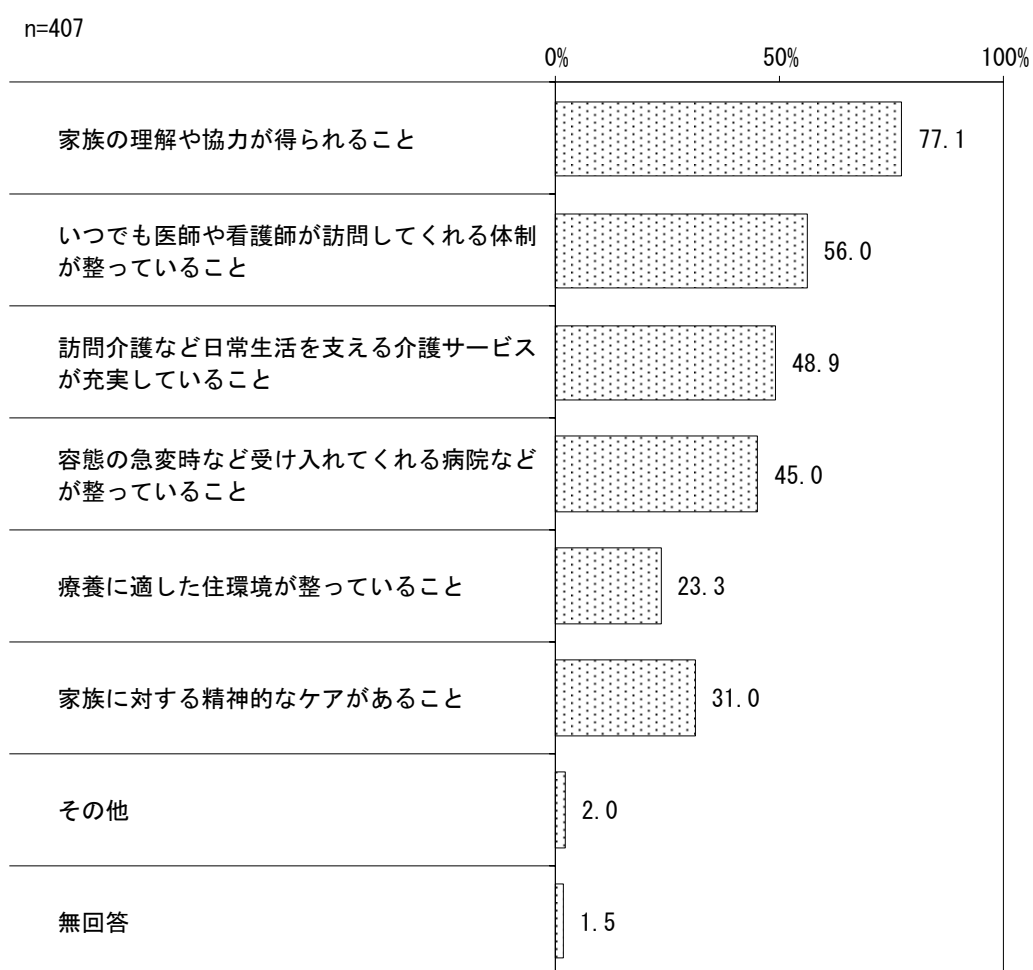
図表 2-97 人生の最期をどこで迎えたいか



(5) 自宅で最後を迎えるための条件

▶自宅で人生の最期を迎えたいと回答した407人に、どのような条件がそろえば、自宅で安心して最期を迎えられると思うかをお聞きしたところ、「家族の理解や協力が得られること」が77.1%と最も高く、次いで「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」が56.0%、「訪問介護など日常生活を支える介護サービスの充実していること」が48.9%、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が45.0%などとなっています。

図表2-98 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）



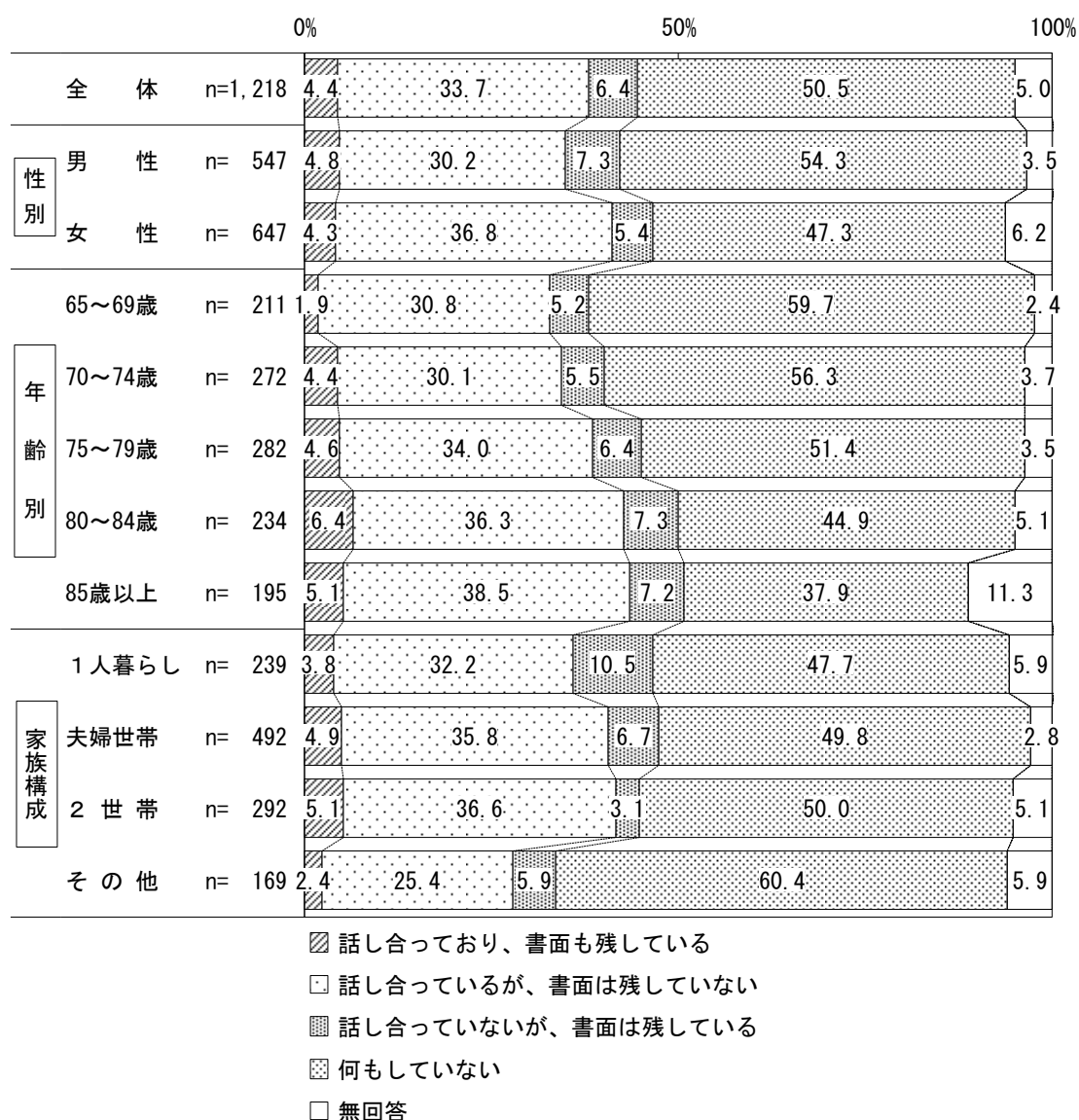
(6) もしものことを考えて家族と話し合ったりしているか

▶ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、家族（同居していない子どもや親族等を含む）と話し合ったり、書面に残しているかお聞きしたところ、「何もしていない」が50.5%と最も高くなっています。「話し合っており、書面も残している」（4.4%）と「話し合っているが、書面は残していない」（33.7%）の合計《話し合っている》は38.1%、「話し合っており、書面も残している」と「話し合っていないが、書面は残している」（6.4%）の合計《書面に残している》は10.8%です。

▶性別にみると、女性は男性に比べ《話し合っている》が5ポイント以上高くなっています。

▶年齢別にみると、《話し合っている》は年齢が上がるにしたがい上昇しています。

図表2-99 もしものことを考えて家族と話し合ったり、書面に残しているか

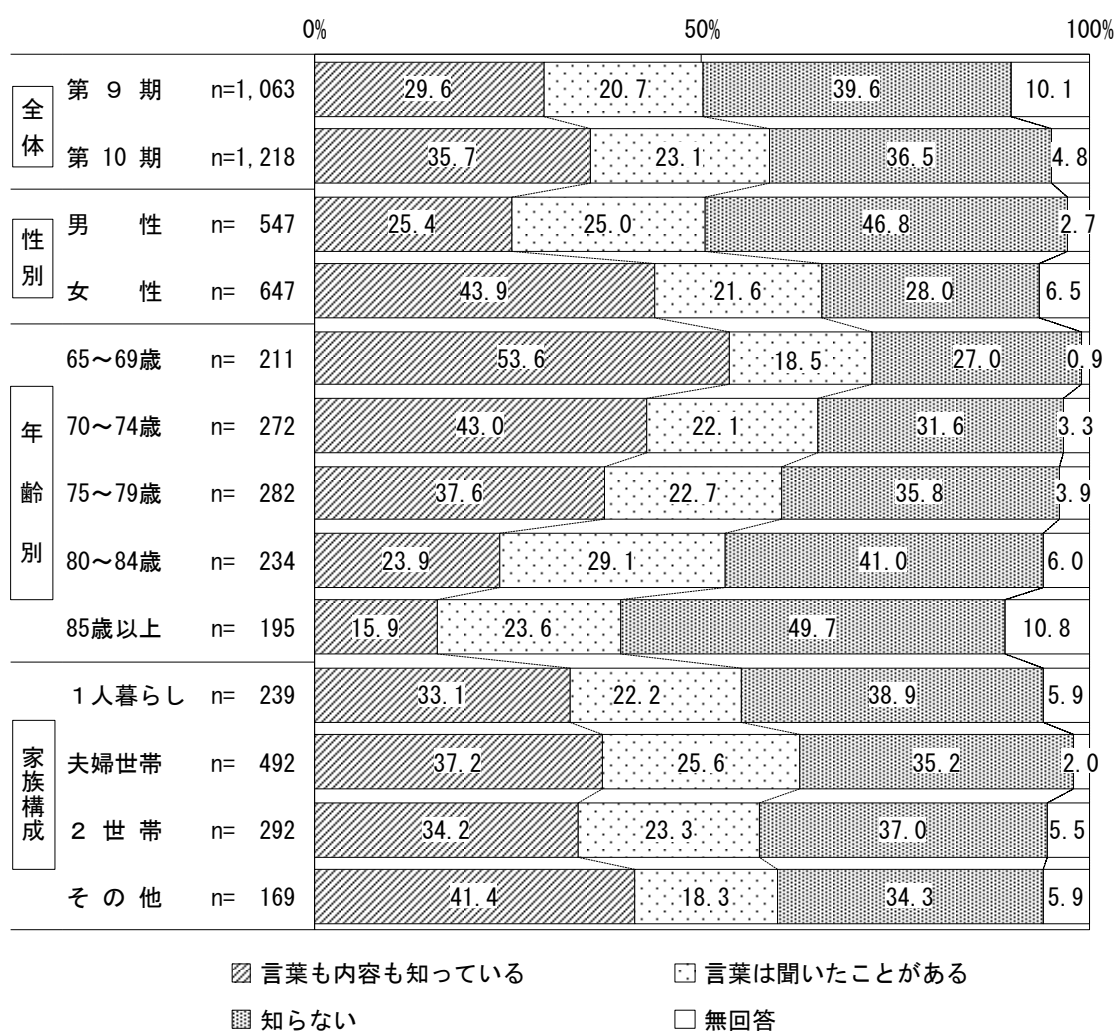


1 3 高齢者施策について

(1) ヤングケアラーの認知度

- ▶ヤングケアラー（家事や家族の世話、介護などを日常的に行っている子どもや若者）という言葉を知っているかについては、「言葉も内容も知っている」が35.7%、「言葉は聞いたことがある」が23.1%となっており、これらの合計《知っている》は58.8%です。第9期の調査結果に比べ《知っている》が8.5ポイント上昇しています。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい《知っている》は低下しています。

図表 2-100 ヤングケアラーの認知度

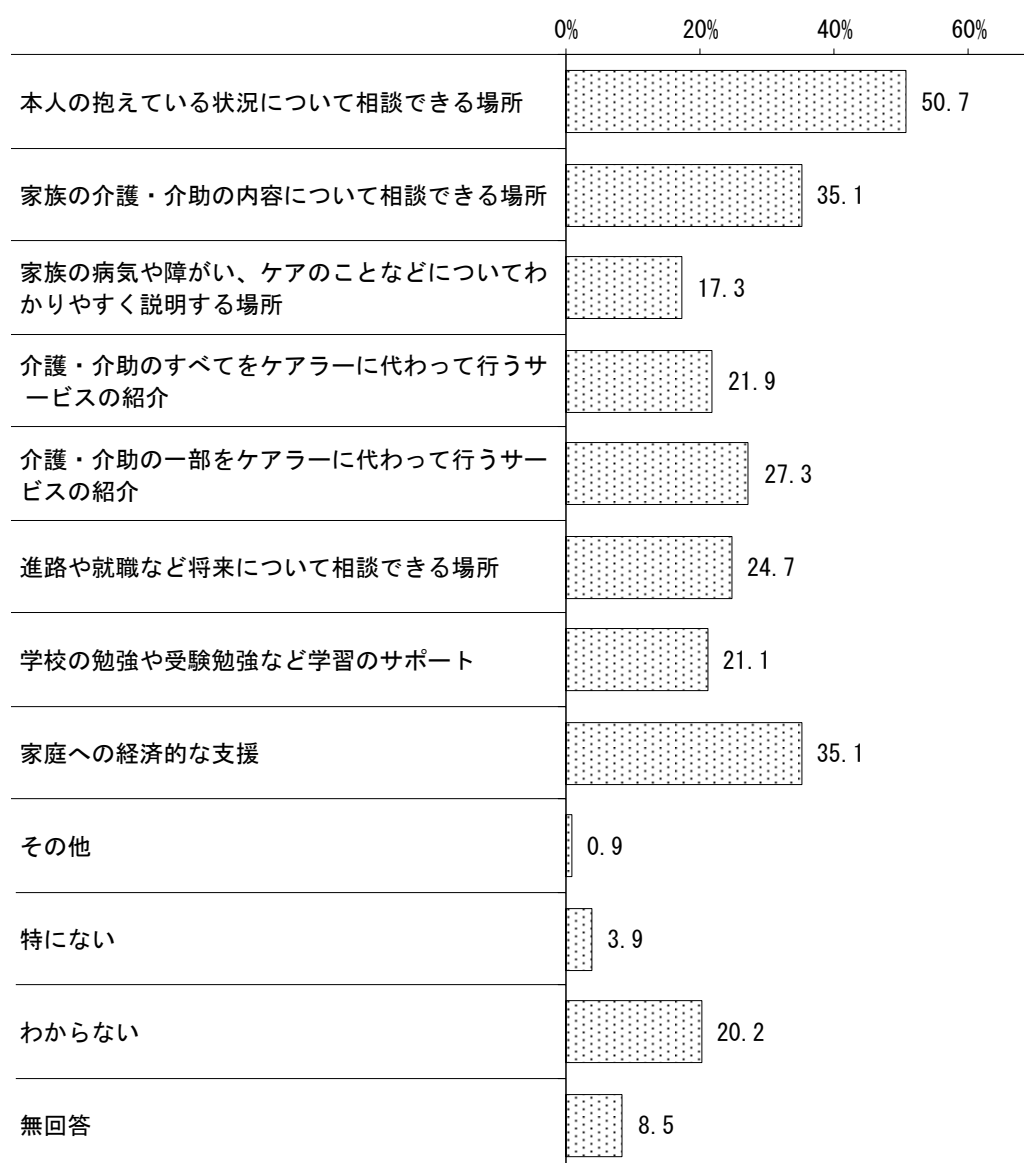


(2) ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

▶ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては「本人の抱えている状況について相談できる場所」が50.7%と突出して高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」および「家庭への経済的な支援」がそれぞれ35.1%、「介護・介助の一部をケアラーに代わって行うサービスの紹介」が27.3%などとなっています。選択肢として用意した8つの項目のうち7項目が20%を超えており、ヤングケアラーの支援には、多様な取組が求められていることがわかります。

図表 2-101 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

n=1,218



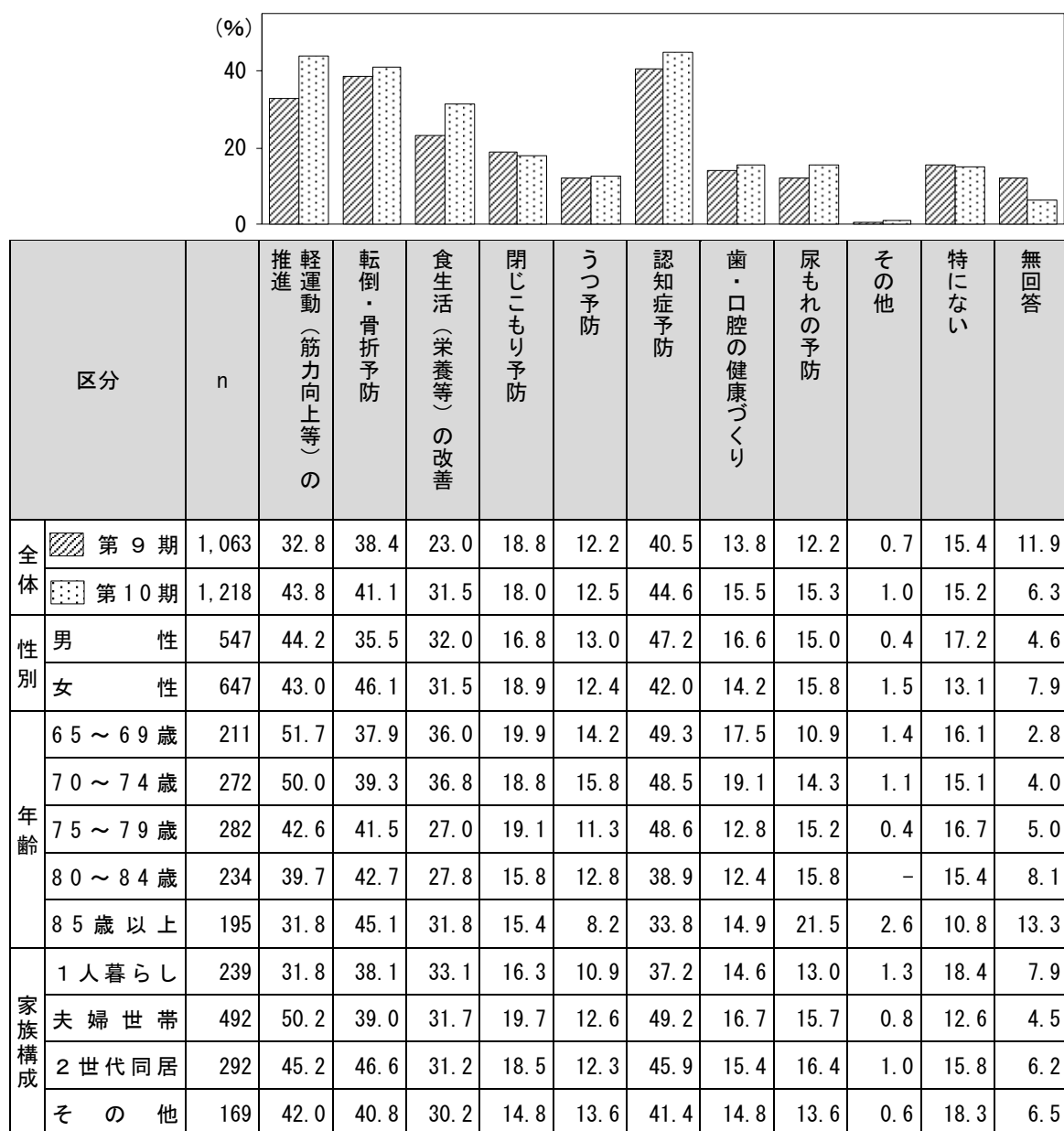
(4) 介護予防に関して充実してほしいこと

▶介護予防に関して今後、充実してほしいことについては、「認知症予防」が44.6%と最も高く、次いで「軽運動（筋力向上等）の推進」が43.8%、「転倒・骨折予防」が41.1%などとなっています。第9期の調査結果に比べ、多くの項目が上昇していますが、特に「軽運動（筋力向上等）の推進」は11.0ポイント、「食生活（栄養等）の改善」は8.5ポイントと大幅に上昇しています。

▶性別にみると、女性は男性に比べ「転倒・骨折予防」が10ポイント以上高くなっています。

▶家族構成別にみると、夫婦世帯では多くの項目が他の家族構成に比べ高くなっています。

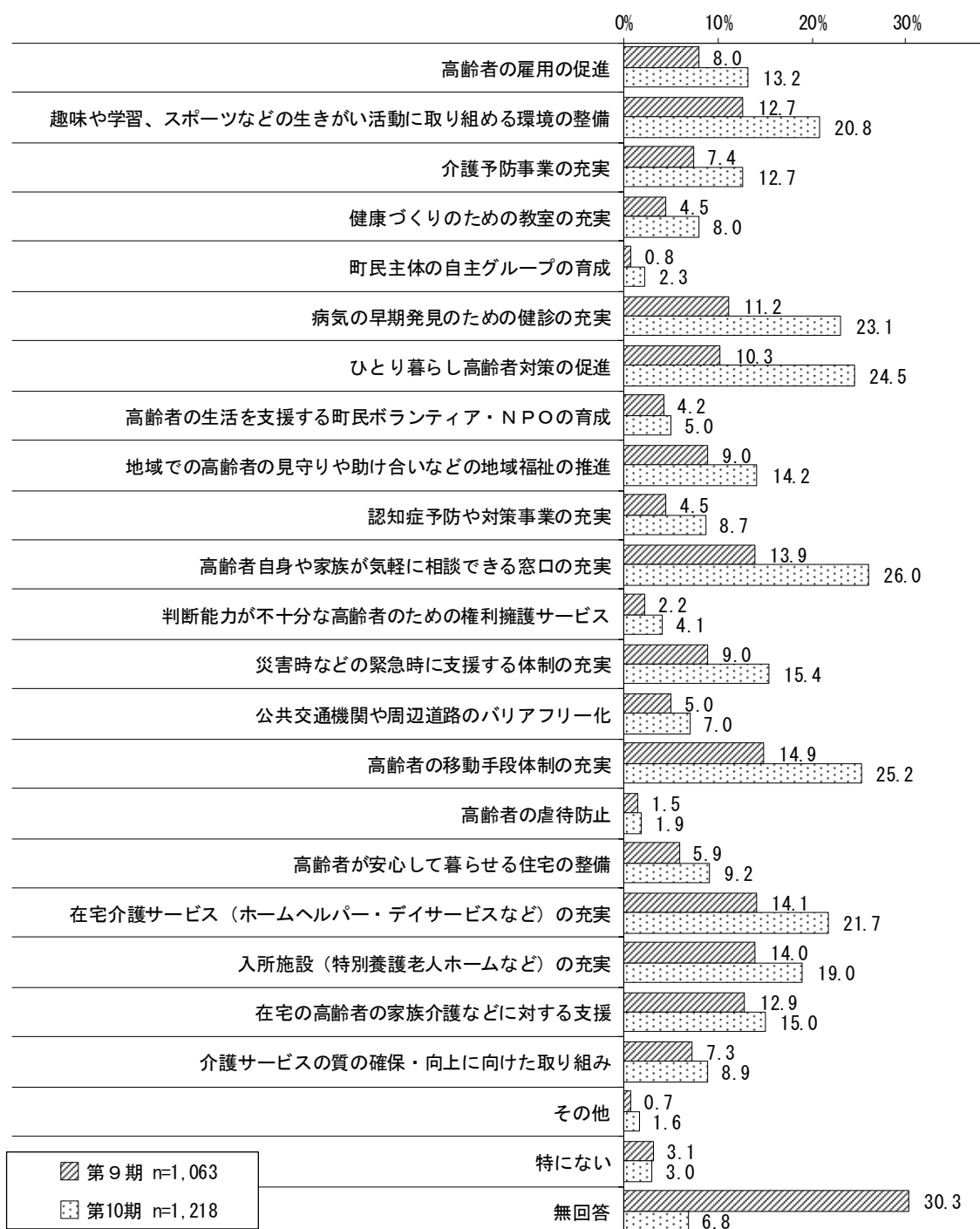
図表2-102 介護予防に関して充実してほしいこと（複数回答）



(5) 重点に置くべき高齢者施策

▶高齢社会に対して、今後何に重点を置くべきだと思うかについては、「高齢者自身や家族が気軽に相談できる窓口の充実」が26.0%と最も高く、次いで「高齢者の移動手段体制の充実」が25.2%、「ひとり暮らし高齢者対策の促進」が24.5%などとなっています。第9期の調査結果に比べ、ほとんどの項目が上昇していますが、特に「ひとり暮らし高齢者対策の促進」「高齢者自身や家族が気軽に相談できる窓口の充実」「病気の早期発見のための健診の充実」および「高齢者の移動手段体制の充実」が10ポイント以上上昇しています。

図表 2-103 重点に置くべき高齢者施策（複数回答・3つまで）



1 4 活動能力の指標について

(1) 手段的自立度（IADL）

- ▶高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標[※]のうち、手段的自立度（IADL）^{※※}をみると、低下者の割合は15.5%です。
- ▶性年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあり、男女とも85歳以上になると30%を超えます。

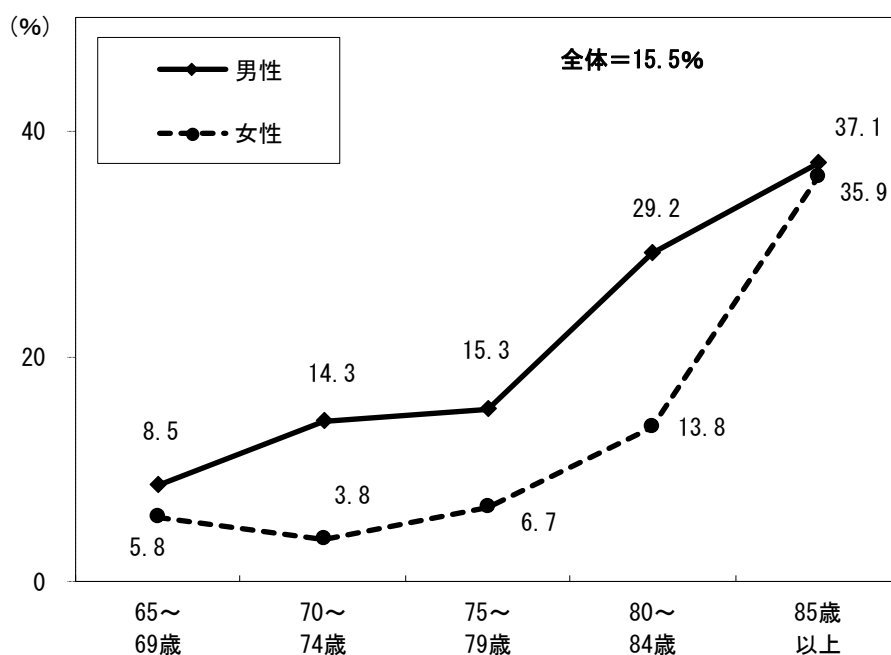
※老研式活動能力指標とは、1986年に東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）において開発された指標。評価の基礎となる13の設問の回答を点数化し、その点数に応じて「高い」「やや低い」「低い」などと評価します。本項では、「やや低い」と「低い」を「低下者」として評価しました。

※※手段的自立度とは、交通機関の利用や電話の応対、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理など、活動的な日常生活をおくるための動作の能力をいいます。

【評価基準】 下記5項目について、5点満点で、4点以下を「低下者」として評価しました。

区 分	できるし、している	できるけどしていない	できない
問31 バスや電車で一人で外出していますか	1点	1点	0点
問32 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	1点	1点	0点
問33 自分で食事の用意をしていますか	1点	1点	0点
問34 自分で請求書の支払いをしていますか	1点	1点	0点
問35 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1点	1点	0点

図表2-104 手段的自立度（IADL）低下者の割合（性・年齢別）



(2) 知的能動性

▶老研式活動能力指標のうち、知的能動性※の低下者の割合は48.9%です。

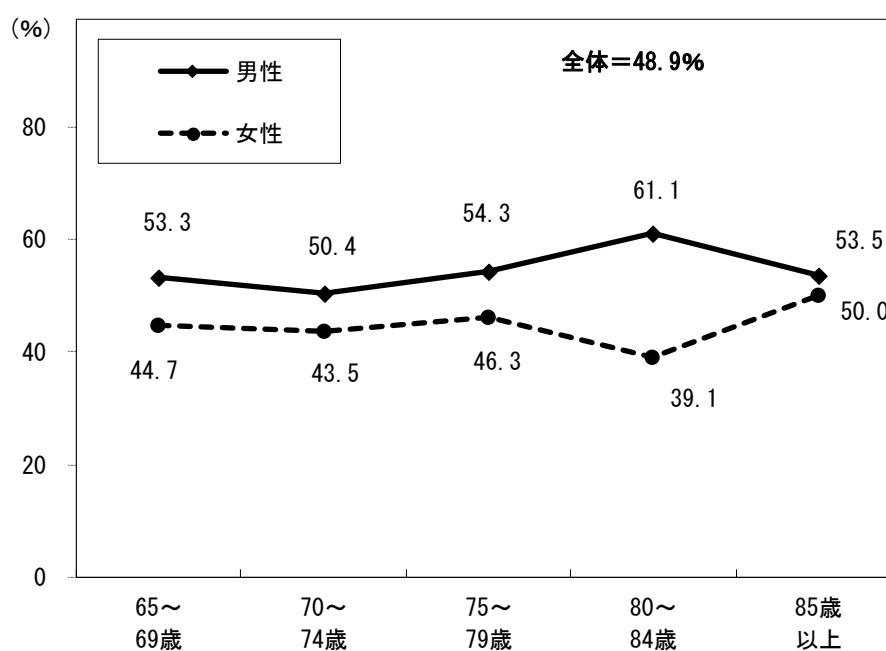
▶性年齢別にみると、男性は80～84歳、女性は85歳以上がピークです。

※知的能動性とは、役所の書類を書く、新聞や本などの読書、健康情報への関心など、余暇や創作など生活を楽しむ能力をいいます。

【評価基準】 下記4項目について、4点満点で、3点以下を「低下者」として評価しました。

区 分	は い	いいえ
問36 役所や病院などに出す書類（年金などの書類）が書けますか	1 点	0 点
問37 新聞を読んでいますか	1 点	0 点
問38 本や雑誌を読んでいますか	1 点	0 点
問39 健康についての記事や番組に関心がありますか	1 点	0 点

図表 2－105 知的能動性低下者の割合（性・年齢別）



(3) 社会的役割

▶老研式活動能力指標のうち、社会的役割※の低下者の割合は67.3%です。

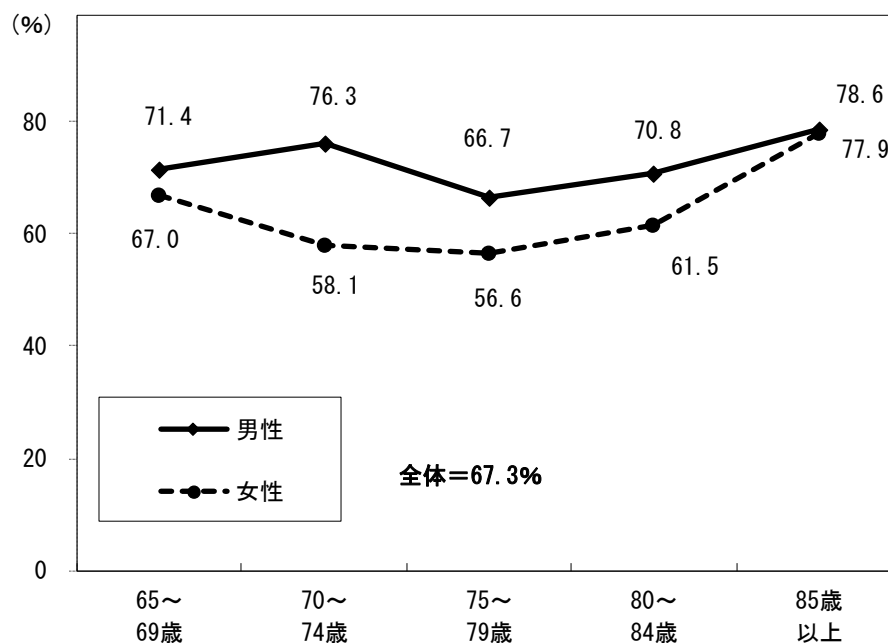
▶性年齢別にみると、男女とも75～79歳で一旦低下しますが、80歳から再び上昇し85歳以上になると80%近い率となります。

※社会的役割とは、主に友人宅への訪問、他人の相談、見舞いなど、地域で社会的な役割をはたす能力をいいます。

【評価基準】 下記4項目について、4点満点で、3点以下を「低下者」として評価しました。

区 分	は い	いいえ
問41 友人の家を訪ねていますか	1 点	0 点
問42 家族や友人の相談にのっていますか	1 点	0 点
問43 病人を見舞うことができますか	1 点	0 点
問44 若い人に自分から話しかけることがありますか	1 点	0 点

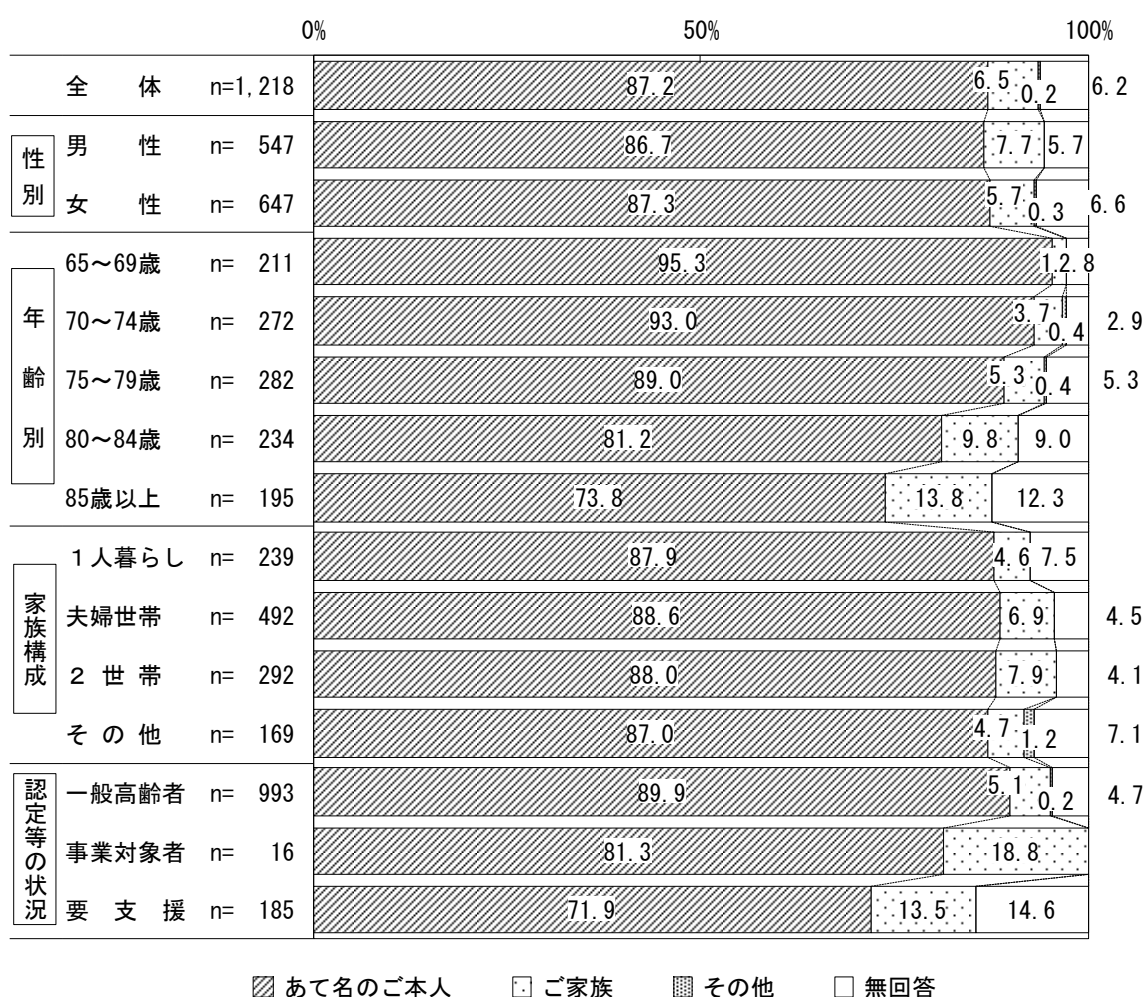
図表 2-106 社会的役割低下者の割合（性・年齢別）



1 5 調査票の記入者

- ▶調査票の記入者は「あて名のご本人」が87.2%を占めています。「ご家族」が6.5%、「その他」が0.2%です。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「あて名のご本人」は低下し85歳以上になると73.8%となります。
- ▶認定等の状況別にみると、「あて名のご本人」は一般高齢者では90%弱ですが、事業対象者では81.3%、要支援では71.9%となっています。

図表 2-107 調査票の記入者



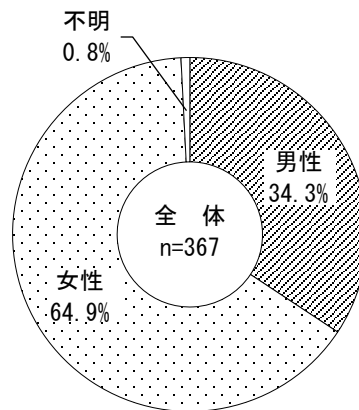
第3章 在宅介護実態調査

1 調査対象者の家族や生活の状況

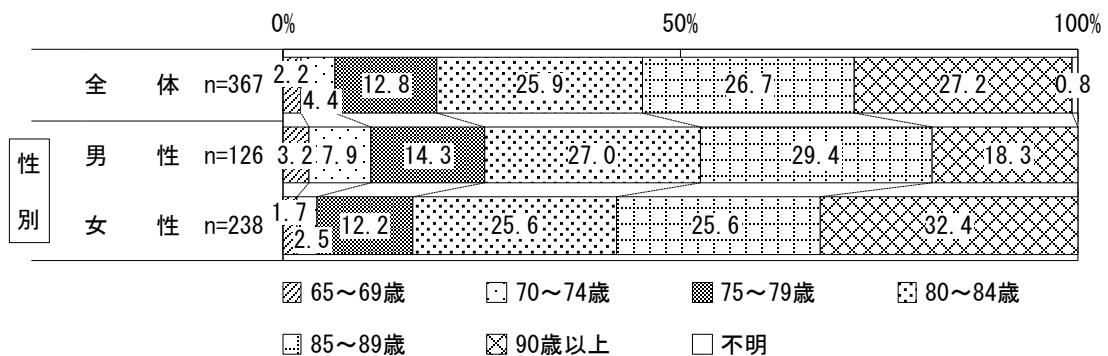
(1) 性別・年齢別

- ▶調査対象者の性別は、男性が34.3%、女性が64.9%、不明が0.8%です（図表3－1）。
- ▶年齢は、65～74歳が6.6%であり、75歳以上が92.6%を占めています（図表3－2）。

図表3－1 性別



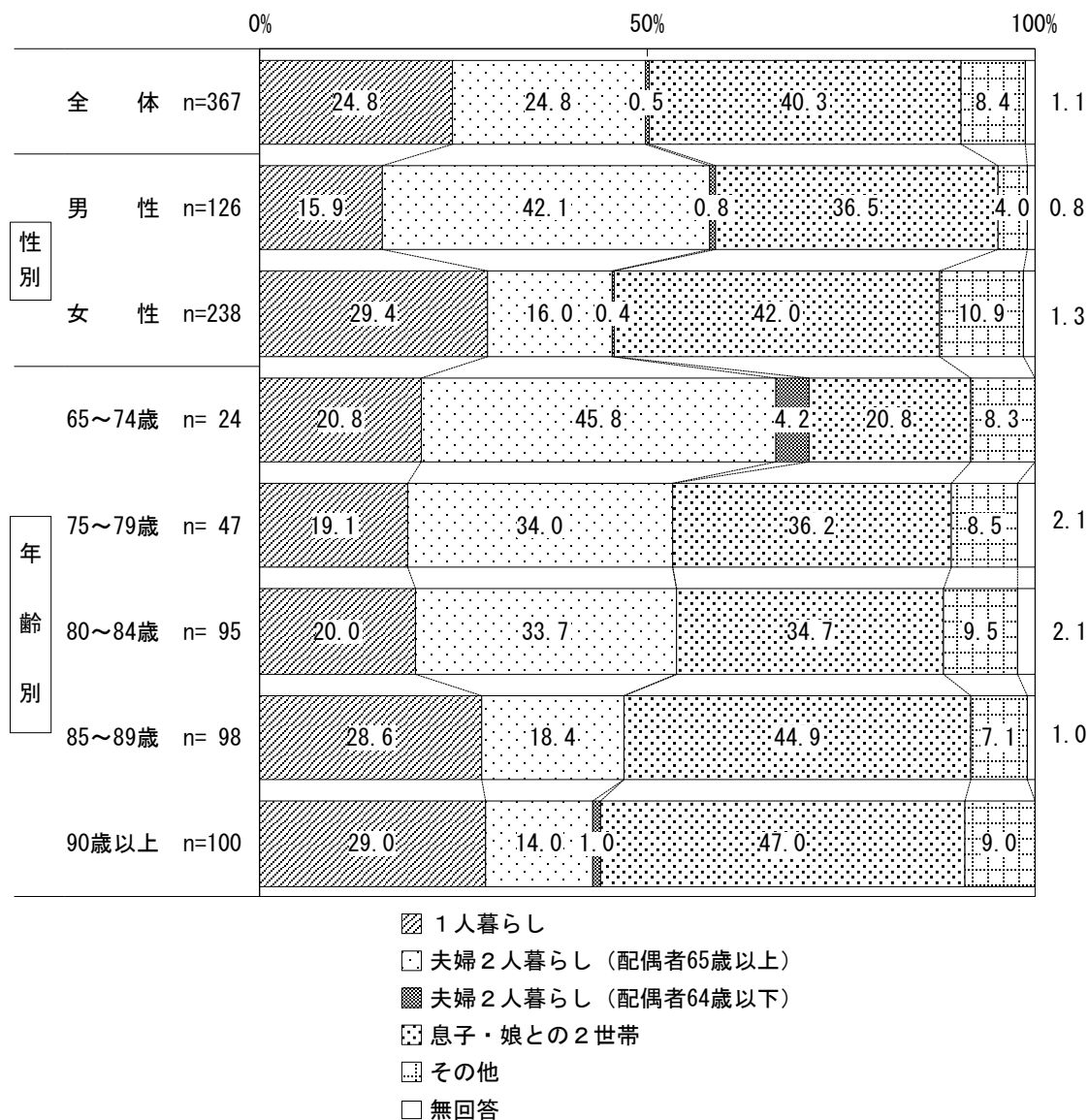
図表3－2 年齢別



(2) 家族構成

- ▶家族構成は、「息子・娘との2世帯」が40.3%と最も高くなっています。「1人暮らし」および「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」はそれぞれ24.8%で、その合計は49.6%です。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「1人暮らし」が上昇し、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が低下する傾向にあります。

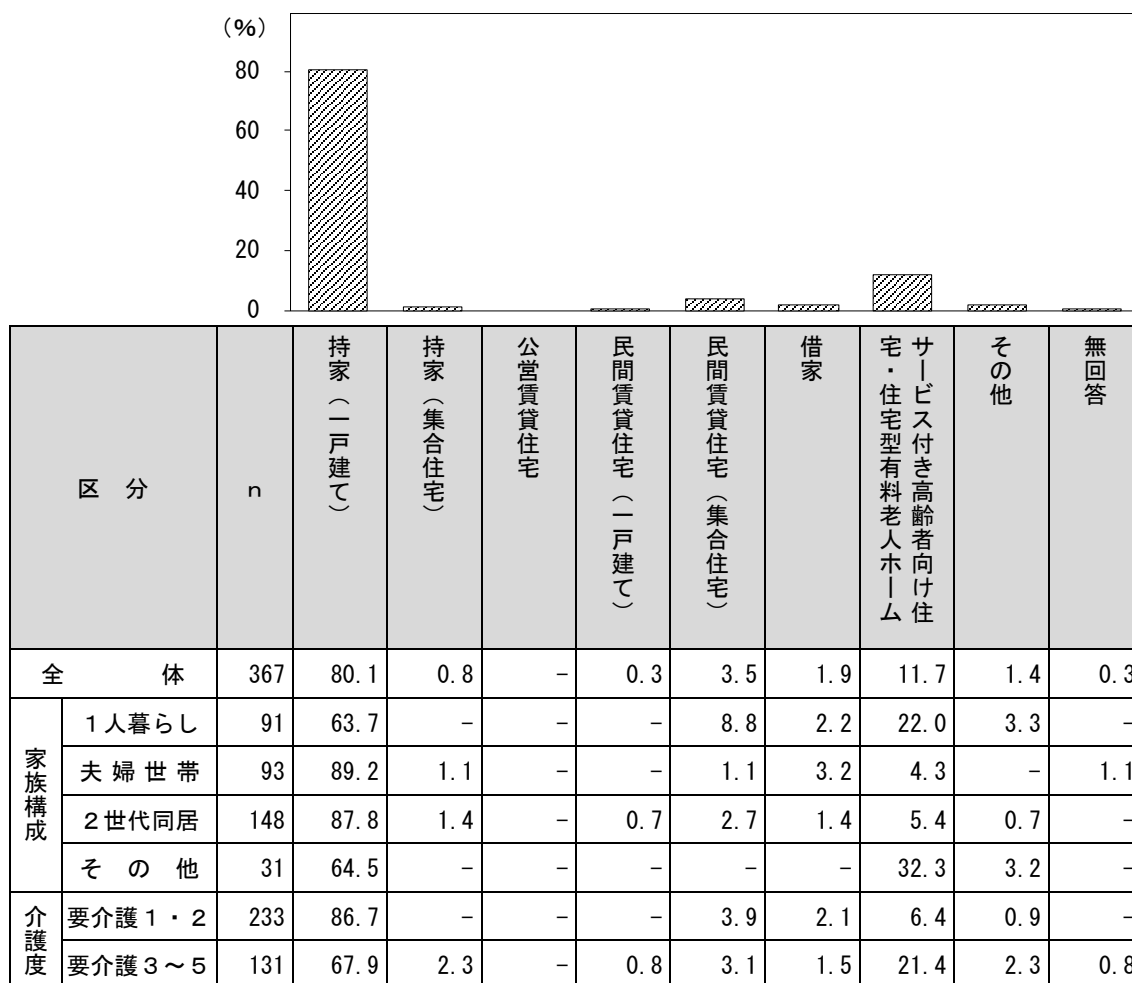
図表 3-3 家族構成



(3) 住まいの状況

- ▶住まいは、「持家（一戸建て）」が80.1%を占め、次いで「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が11.7%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が3.5%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「持家（一戸建て）」が低くなっている一方、「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」や「民間賃貸住宅（集合住宅）」が高くなっています。また、その他世帯では「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が30%以上あります。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が20%以上あります。
- ▶「その他」として「短期入所生活介護」「ナースিংホーム」等の記載がありました。

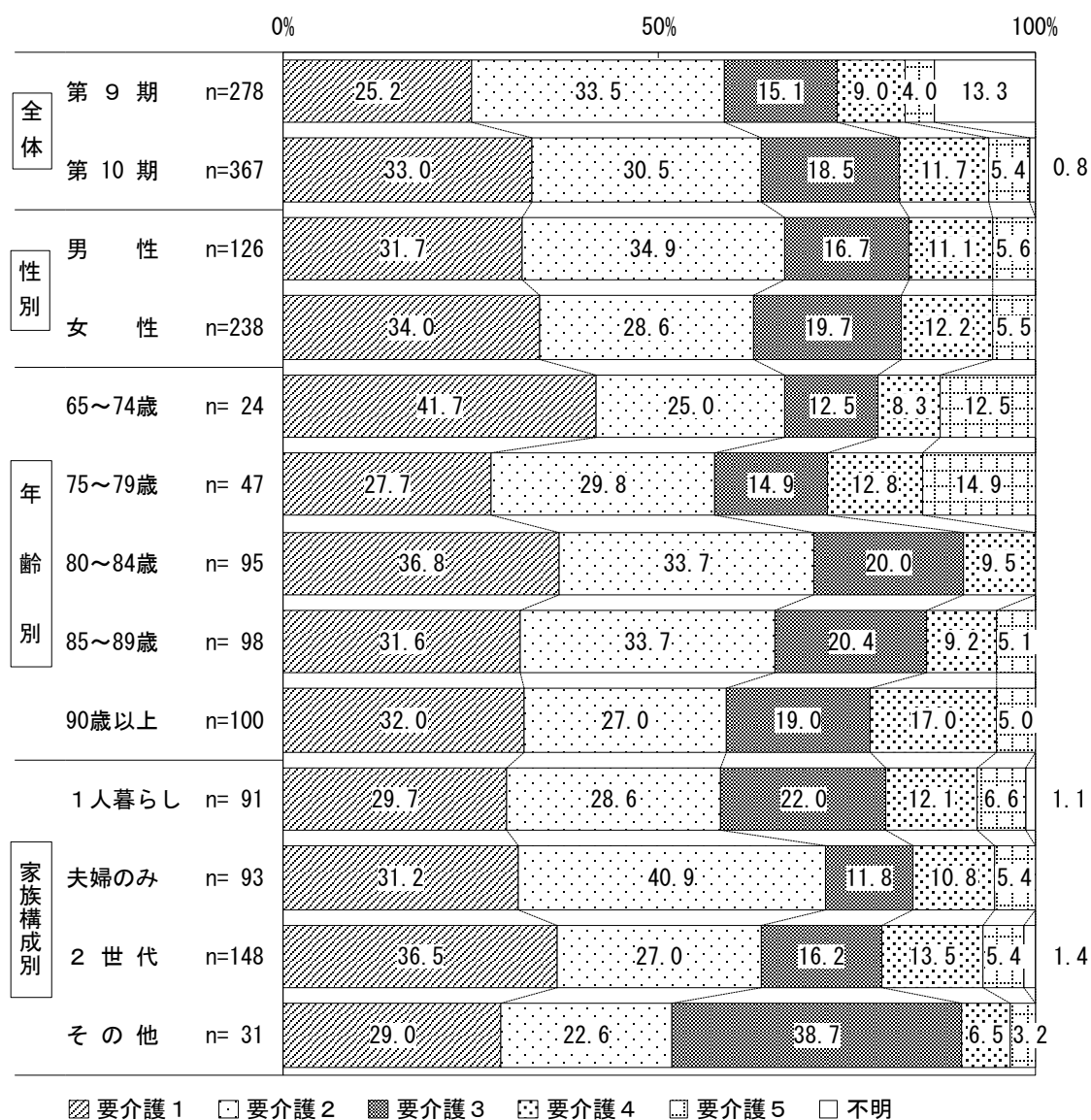
図表3-10 住まいの状況



(4) 要介護度

- ▶要介護度は、「要介護1」が33.0%と最も高く、次いで「要介護2」が30.5%、「要介護3」が18.5%、「要介護4」が11.7%、「要介護5」が5.4%と、要介護1・2で60%以上を占めています。
- ▶性別にみると、要介護1・2は男性、要介護3～5は女性が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでも最重度の「要介護5」が6.6%（6人）あります。

図表3-4 要介護度

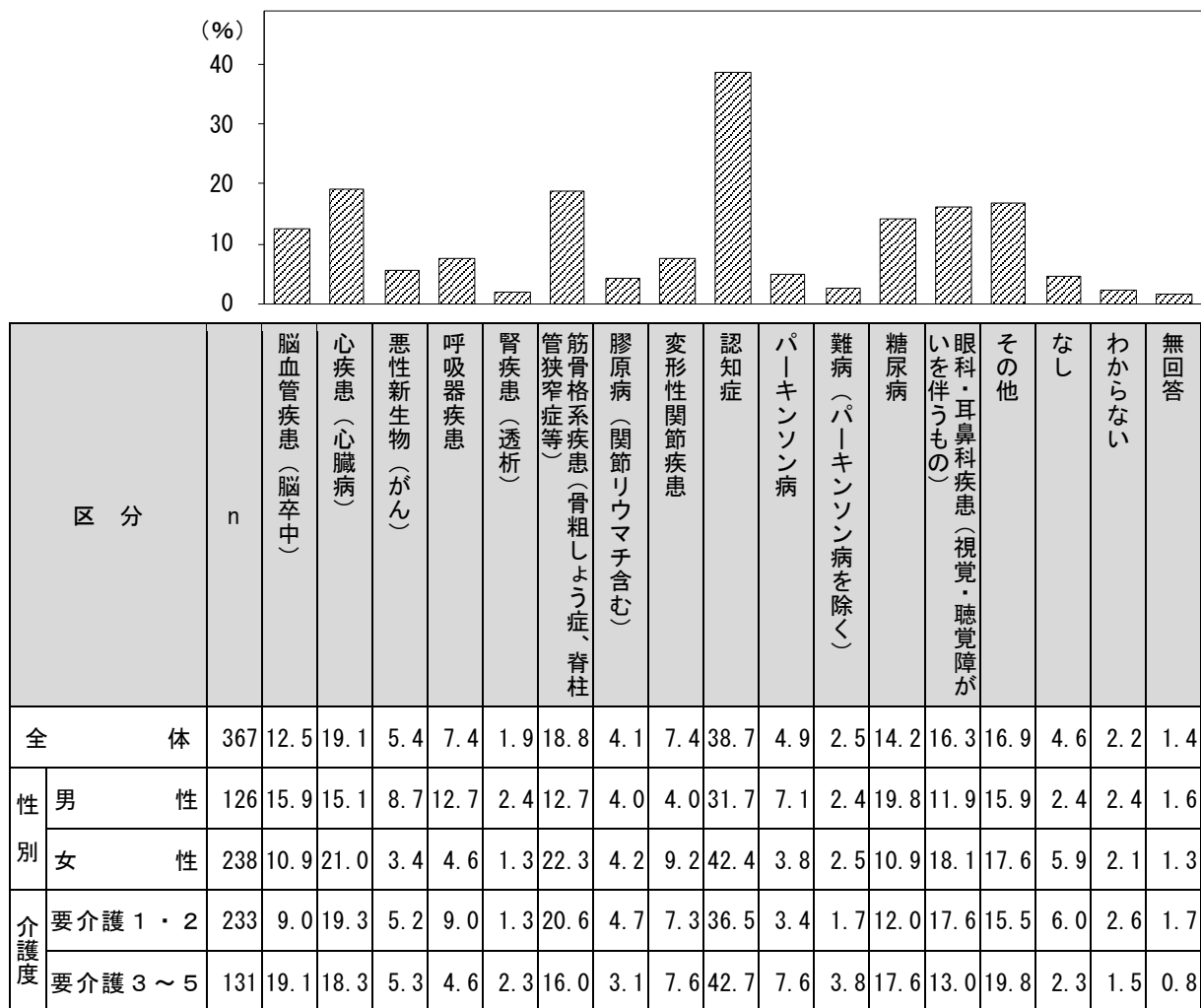


2 健康について

(1) 現在抱えている傷病

- ▶現在抱えている傷病については、「認知症」が38.7%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」が19.1%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が18.8%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」が16.3%などとなっています。
- ▶性別により大きな差があるのは、男性が高い「糖尿病」「呼吸器疾患」、女性が高い「認知症」「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」などです。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「脳血管疾患（脳卒中）」が10ポイント以上高くなっています。
- ▶「その他」として「高血圧症」「骨折」「高脂血症」などが多数記載されていました。

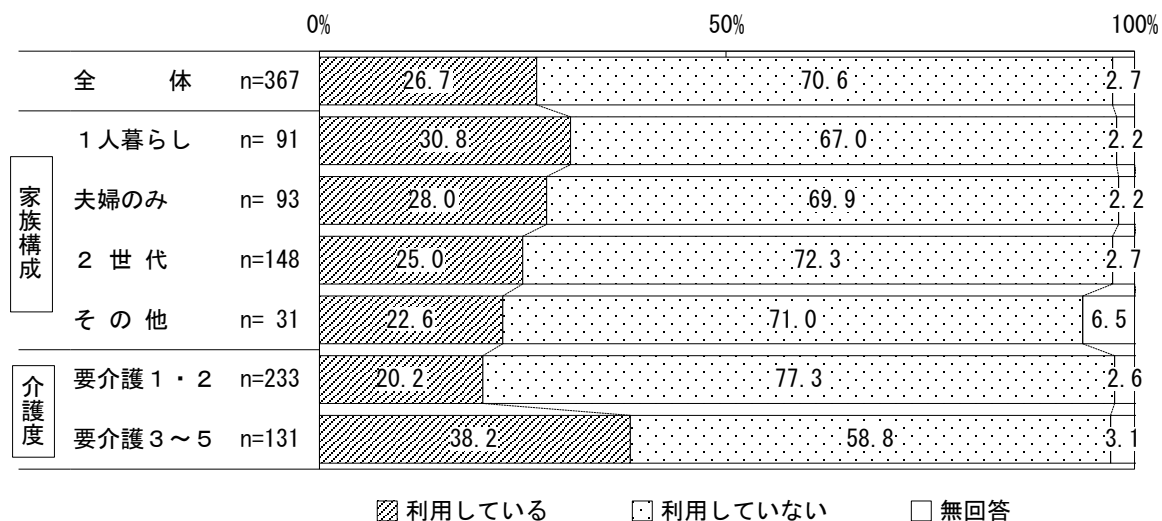
図表3-5 現在抱えている傷病（複数回答）



(2) 訪問診療の利用状況

- ▶現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が26.7%です。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは利用率が30%を超えています。
- ▶要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなっており、要介護3～5では38.2%となります。

図表3-11 訪問診療の利用状況

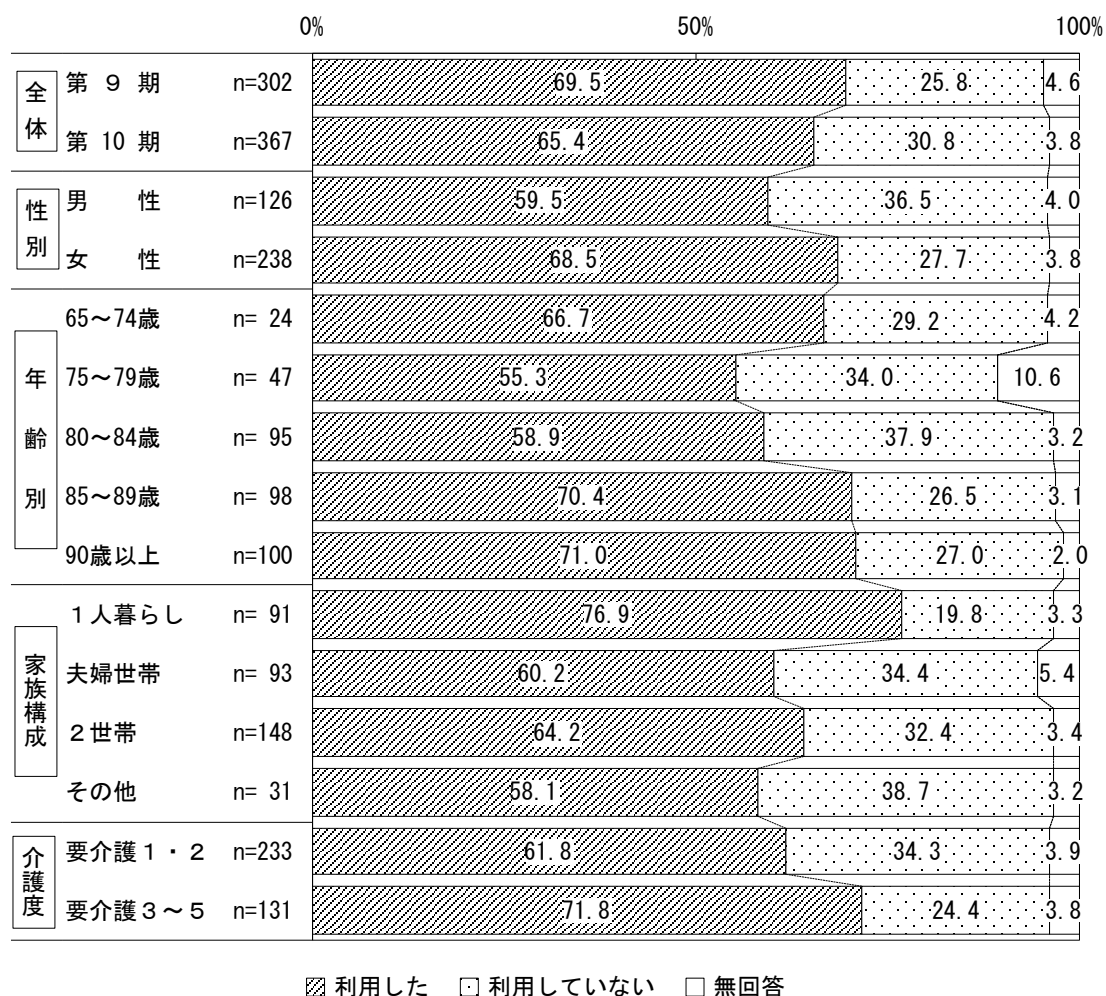


3 介護保険サービスについて

(1) 居宅サービスの利用状況

- ▶令和7年10月の1か月間に、介護保険の居宅サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）を「利用した」のは65.4%、「利用していない」は30.8%です。第9期の調査結果に比べ「利用した」は4.1ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、「利用した」は1人暮らしが76.9%と他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5は要介護1・2に比べ「利用した」が10ポイント高くなっています。

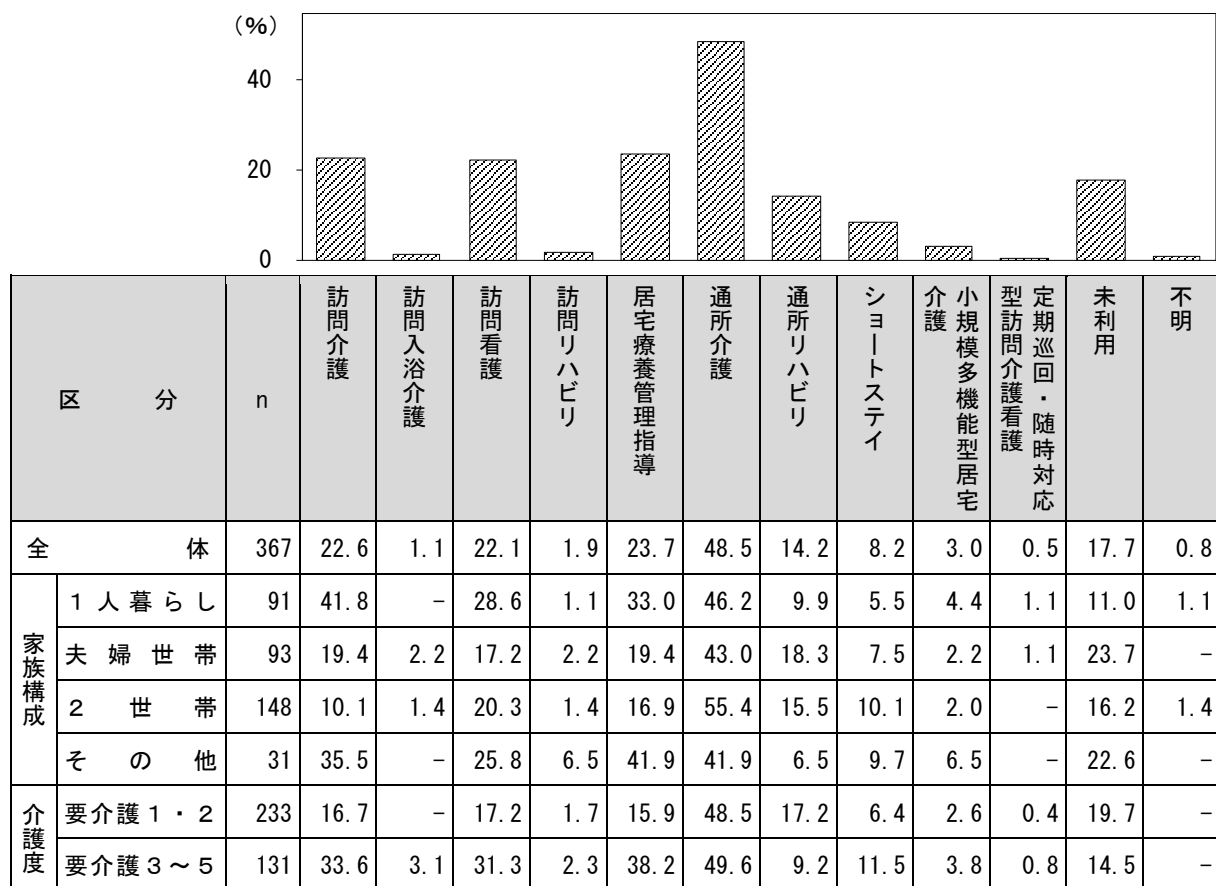
図表3-12 介護保険の居宅サービスの利用状況



(2) 種類別のサービス利用状況

- ▶介護保険の居宅サービスの利用状況は、「通所介護」が48.5%と最も高く、次いで「居宅療養管理指導」が23.7%、「訪問介護」が22.6%、「訪問看護」が22.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホーム入居者が多いその他世帯では全般的に利用率が高くなっています。また、1人暮らしの「訪問介護」、2世帯の「通所介護」および夫婦世帯の「未利用」が他の世帯構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「訪問介護」「訪問看護」および「居宅療養管理指導」の利用率が10ポイント以上高くなっています。

図表3-13 介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況（令和7年11月分の利用状況データ）

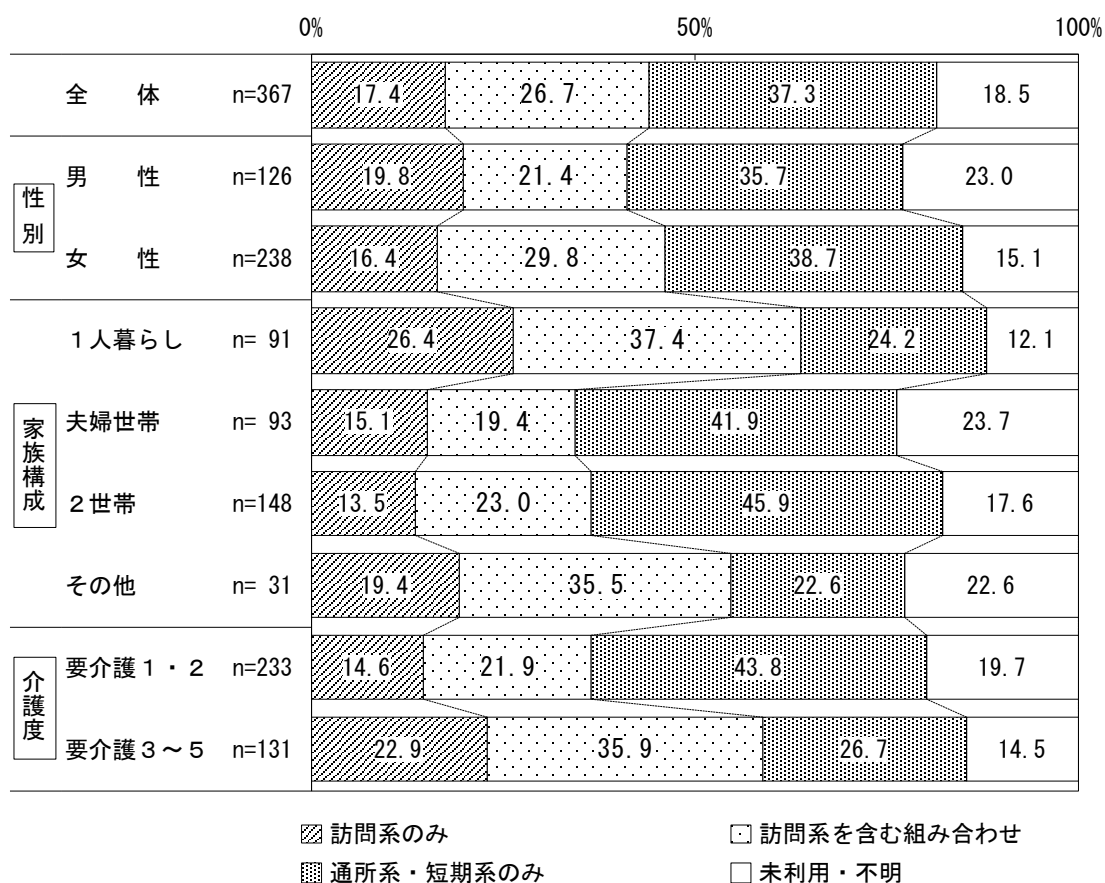


※「通所介護」には地域密着型通所介護を含む

(3) 利用しているサービスの組み合わせ

- ▶利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系・短期系のみ」が37.3%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.7%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く37.4%あります。一方、夫婦世帯および2世帯では「通所系・短期系のみ」が40%以上を占めています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が高く、「通所系・短期系のみ」が低くなっています

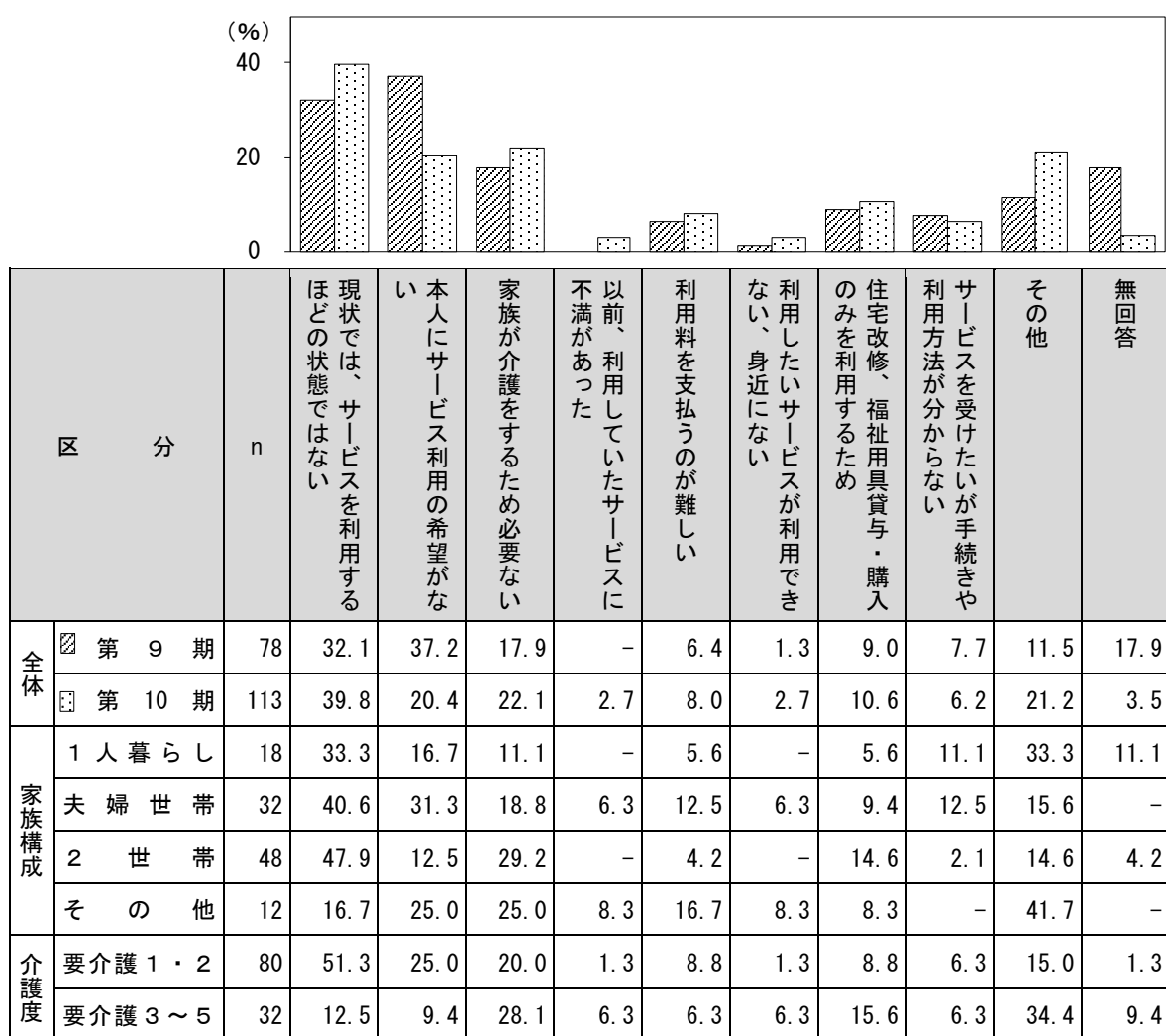
図表3-14 利用しているサービスの組み合わせ（令和7年11月分の利用状況データ）



(4) 介護サービスを利用しない理由

- ▶介護保険サービスを1つも利用していない113人に、利用していない理由をお聞きしたところ、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が39.8%と最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が22.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.4%などとなっています。
- ▶「その他」として、「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム入居中」「入院中」などの記載がありました。

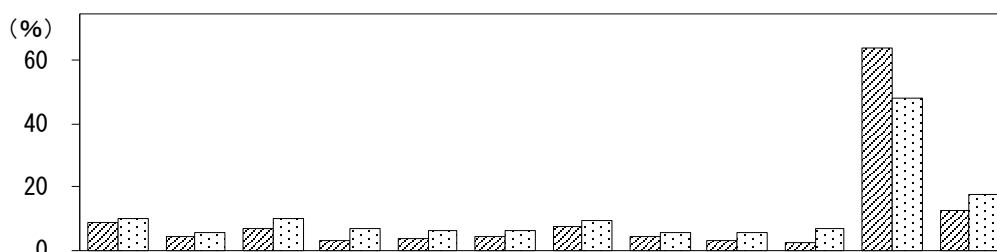
図表3-15 サービスを利用しない理由（複数回答）



(5) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用

- ▶現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「利用していない」が48.2%を占めています。利用しているサービスとしては、「配食」および「掃除・洗濯」が9.8%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が9.5%、「買い物（宅配は含まない）」が7.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「掃除・洗濯」や「配食」をはじめほとんどの項目で他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶「その他」として、「入院中」「施設入居中」「障害福祉サービス」「訪問理容」「ベッドなど福祉用具のリース」などの記載がありました。

図表3-16 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用（複数回答）

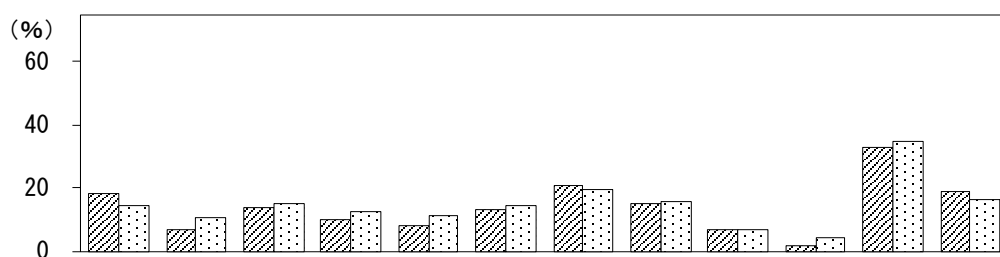


区 分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	第 9 期	302	8.6	4.0	7.0	3.3	3.6	4.6	7.3	4.0	3.0	2.6	63.9	12.3
	第 10 期	367	9.8	5.7	9.8	7.1	6.0	6.0	9.5	5.7	5.4	7.1	48.2	17.4
家族構成	1人暮らし	91	24.2	15.4	25.3	18.7	16.5	11.0	13.2	14.3	7.7	7.7	37.4	11.0
	夫婦世帯	93	6.5	3.2	7.5	6.5	3.2	5.4	10.8	3.2	5.4	8.6	47.3	16.1
	2世代同居	148	2.7	1.4	2.7	2.0	1.4	3.4	8.1	1.4	4.1	4.1	55.4	23.0
	その他	31	9.7	3.2	3.2	-	3.2	6.5	3.2	6.5	3.2	16.1	45.2	16.1
介護度	要介護1・2	233	8.6	5.6	9.9	6.9	6.4	6.0	9.0	5.6	6.9	6.9	49.8	15.5
	要介護3～5	131	11.5	6.1	9.2	6.9	4.6	5.3	9.9	5.3	2.3	7.6	46.6	20.6

(6) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

- ▶要介護認定者の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス」が19.3%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が15.5%、「掃除・洗濯」が15.3%、「外出同行」が14.7%、「配食」が14.2%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「調理」および「ゴミ出し」が3ポイント以上上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、全般的に1人暮らしが高くなっています。
- ▶「その他」として、「入院中」「施設入居中」「草刈り」「家具など重いものを移動させる支援」などの記載がありました。

図表3-17 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



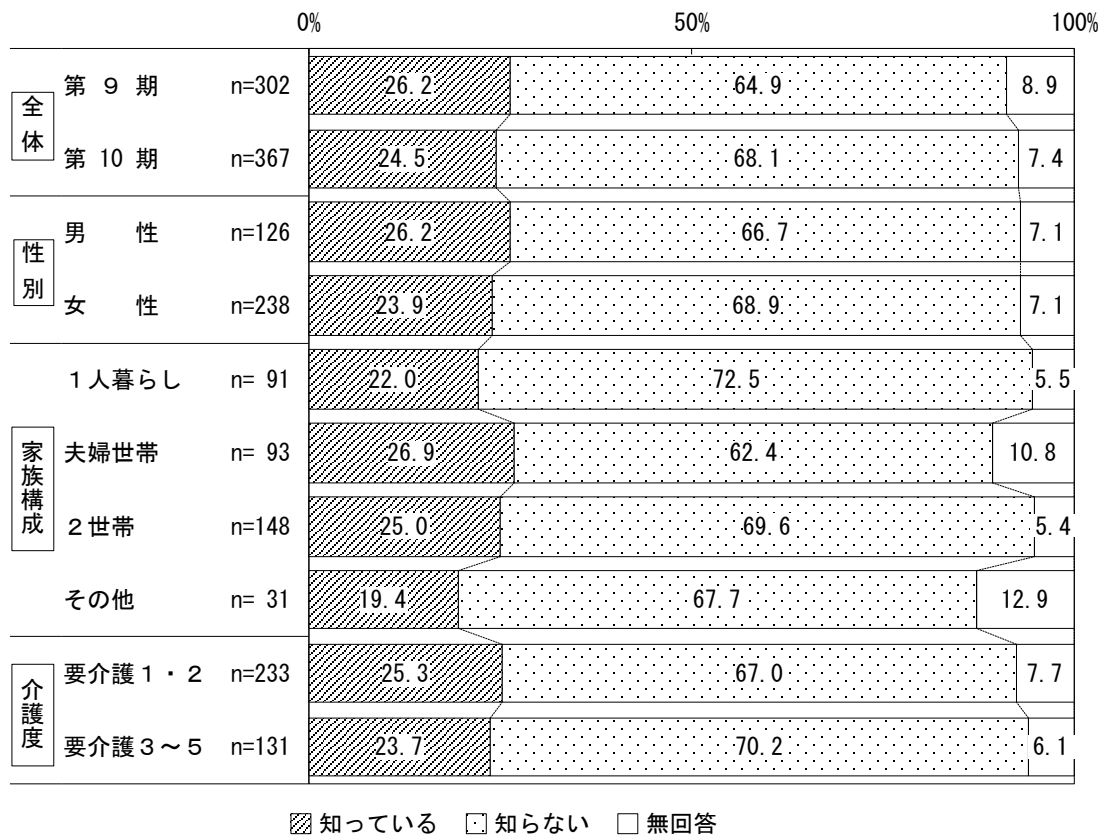
区 分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)	移送サービス (介護・福祉タクシー等)	見守り・声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	第 9 期	302	18.5	6.6	13.6	10.3	7.9	12.9	20.9	15.2	7.0	1.7	33.1	19.2
	第 10 期	367	14.2	10.4	15.3	12.3	11.2	14.7	19.3	15.5	7.1	4.4	35.1	16.3
家 族 構 成	1 人 暮 ら し	91	28.6	18.7	26.4	25.3	24.2	26.4	20.9	24.2	9.9	3.3	26.4	12.1
	夫 婦 世 帯	93	10.8	6.5	15.1	9.7	9.7	9.7	18.3	8.6	5.4	4.3	35.5	18.3
	2 世 代 同 居	148	8.8	9.5	10.1	8.1	4.7	10.8	18.2	15.5	7.4	2.7	40.5	16.2
	そ の 他	31	9.7	3.2	9.7	3.2	9.7	12.9	19.4	12.9	3.2	16.1	35.5	22.6
介 護 度	要介護1・2	233	14.6	9.0	15.0	13.3	12.0	14.2	19.3	14.6	6.9	2.6	34.8	14.2
	要介護3～5	131	13.0	12.2	14.5	9.9	9.2	15.3	19.8	16.0	6.9	7.6	36.6	19.8

4 認知症について

(1) 認知症サポーターの認知度

- ▶認知症を正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守る応援者として笠松町が養成を進めている『認知症サポーター』については、「知らない」が68.1%を占めており、「知っている」は24.5%です。第9期の調査結果に比べ「知っている」が1.7ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしおよびその他世帯は「知っている」が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では「知っている」が25%を超えています。

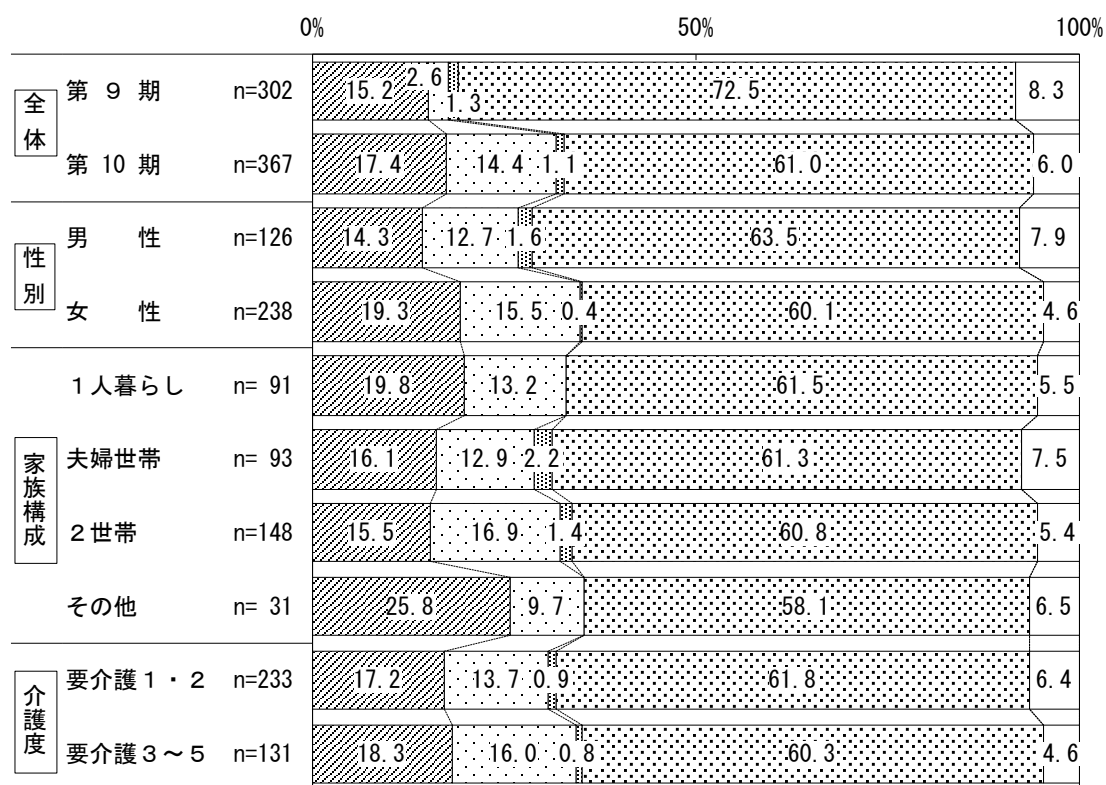
図表3-18 認知症サポーターの認知度



(2) 認知症カフェ（ふれあい喫茶）と認知症サロンの認知度

- ▶認知症の人や家族の地域におけるふれあいや情報交換の場である『認知症カフェ（ふれあい喫茶）』や『認知症介護者サロン』については、「両方とも知らない」が61.0%を占めており、「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている」が17.4%、「認知症カフェ」のみ知っている」が14.4%、「認知症介護者サロン」のみ知っている」が1.1%となっています。第9期の調査結果に比べ「認知症カフェ」のみ知っている」が11.8ポイントと大きく上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、その他世帯では「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている」が25%を超えています。

図表3-19 認知症カフェ（ふれあい喫茶）と認知症サロンの認知度

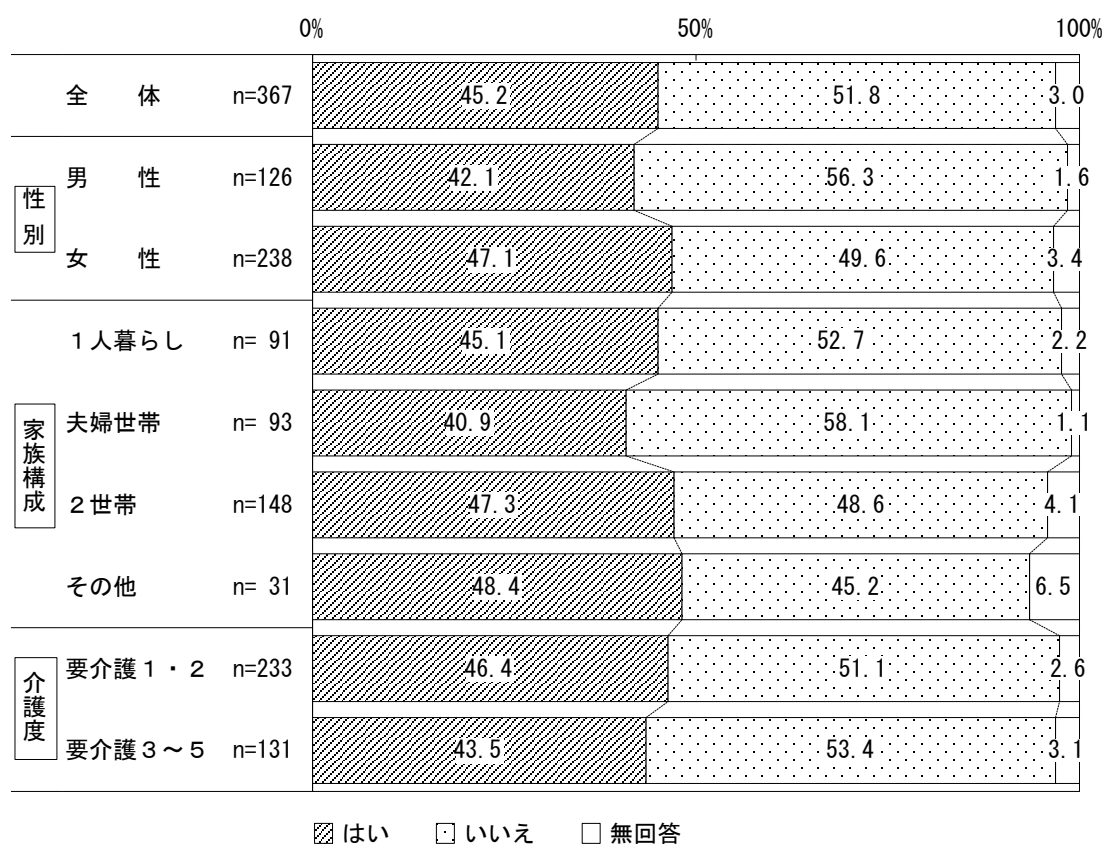


- ☒ 「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている
☐ 「認知症カフェ」のみ知っている
☒ 「認知症介護者サロン」のみ知っている
☒ 両方とも知らない
☐ 無回答

(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ▶「認知症に関する相談窓口を知っていますか」という設問については、「はい」が45.2%、「いいえ」が51.8%となっています。
- ▶性別にみると、認知度は男性に比べ女性が5ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、認知度は夫婦世帯が他の区分に比べ低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、認知度は要介護1・2が要介護3～5に比べ約3ポイント高くなっています。

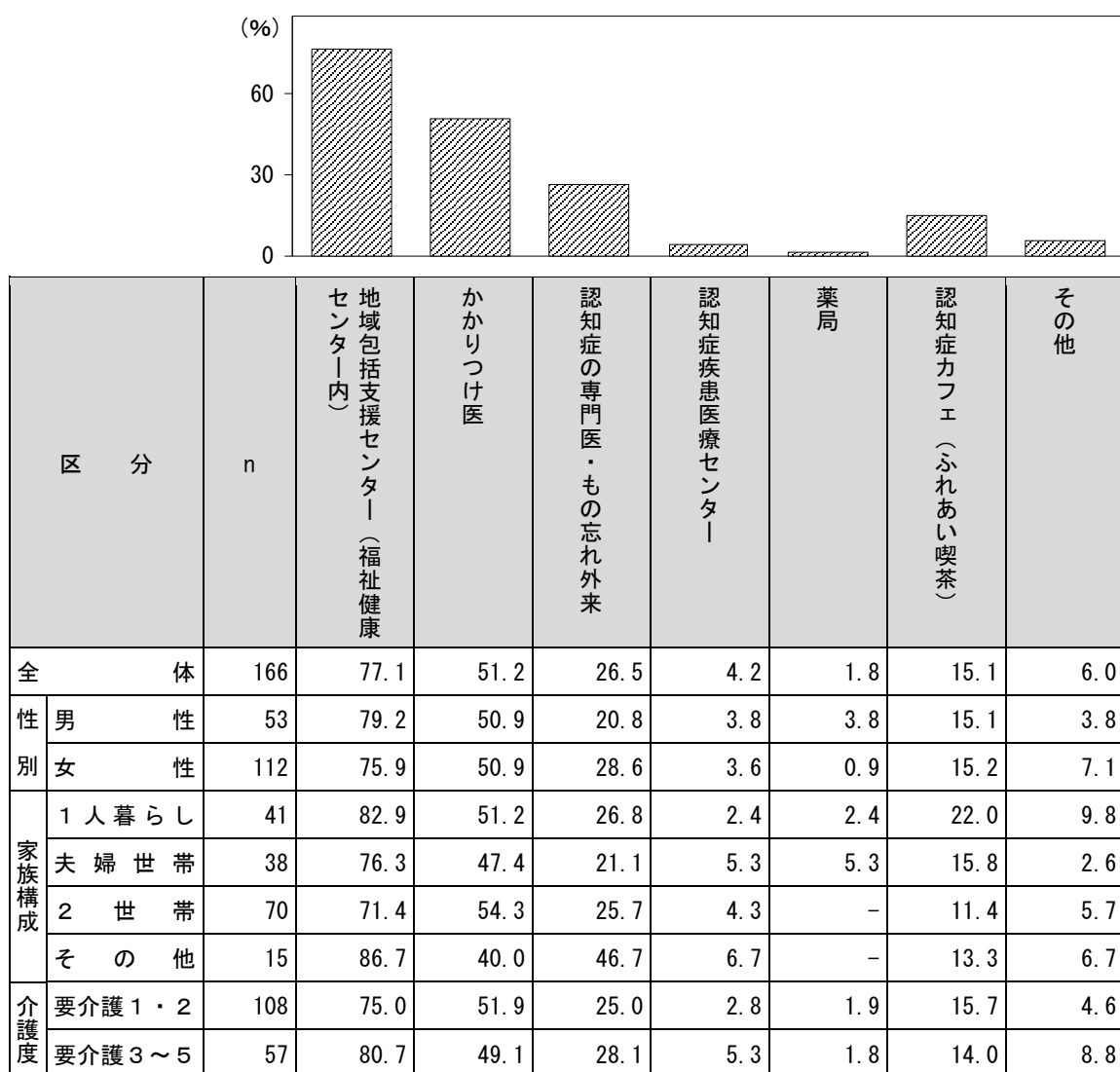
図表3-20 認知症に関する相談窓口の認知度



(4) 知っている認知症相談窓口

- ▶認知症に関する相談窓口を知っていると回答した166人の知っている相談窓口については、「地域包括支援センター（福祉健康センター内）」が77.1%と最も高く、次いで「かかりつけ医」が51.2%、「認知症の専門医・もの忘れ外来」が26.5%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、その他世帯および1人暮らしでは「地域包括支援センター（福祉健康センター内）」が80%を超えています。また、1人暮らしでは「認知症カフェ（ふれあい喫茶）」が他の家族構成に比べ高くなっています。

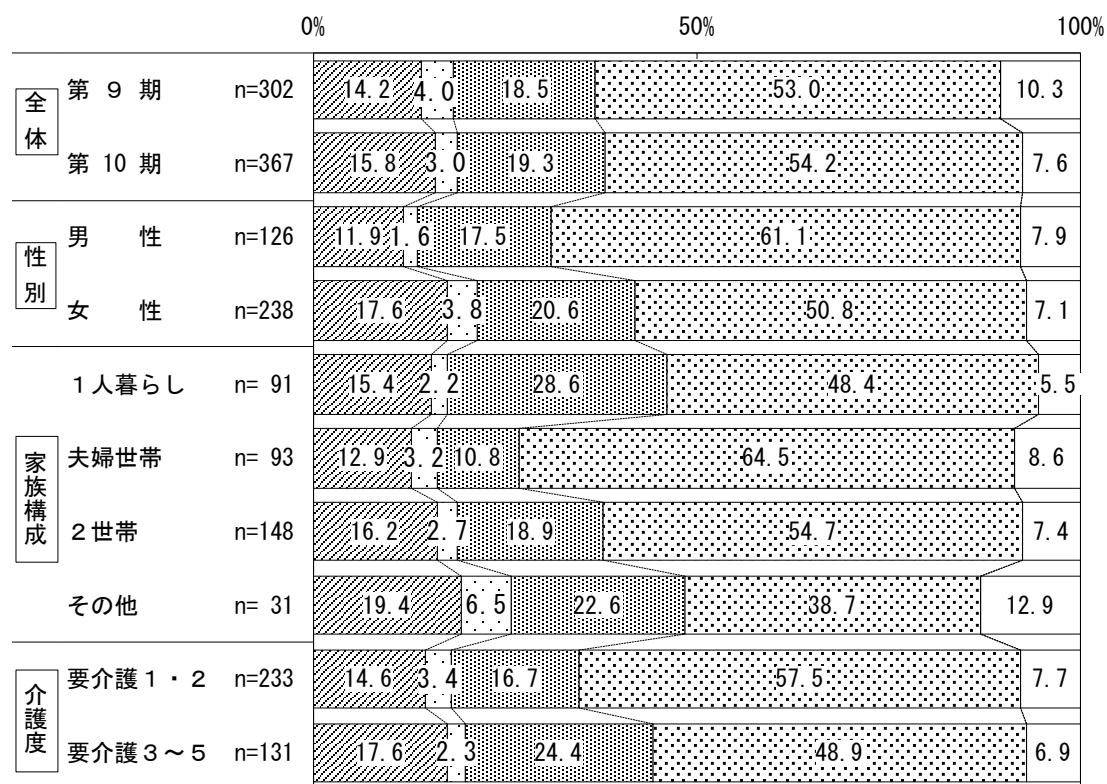
図表3-21 知っている認知症相談窓口（複数回答）



(5) 日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度

- ▶判断能力が不十分な人の権利を擁護するための制度である日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度については、「両方とも知らない」が54.2%を占めており、次いで「「成年後見制度」のみ知っている」が19.3%、「「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」両方とも知っている」が15.8%などとなっています。第9期の調査結果から大きな変化はありません。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯では「両方とも知らない」が他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では要介護3～5に比べ「両方とも知らない」が8.6ポイント高くなっています。

図表3-22 日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度

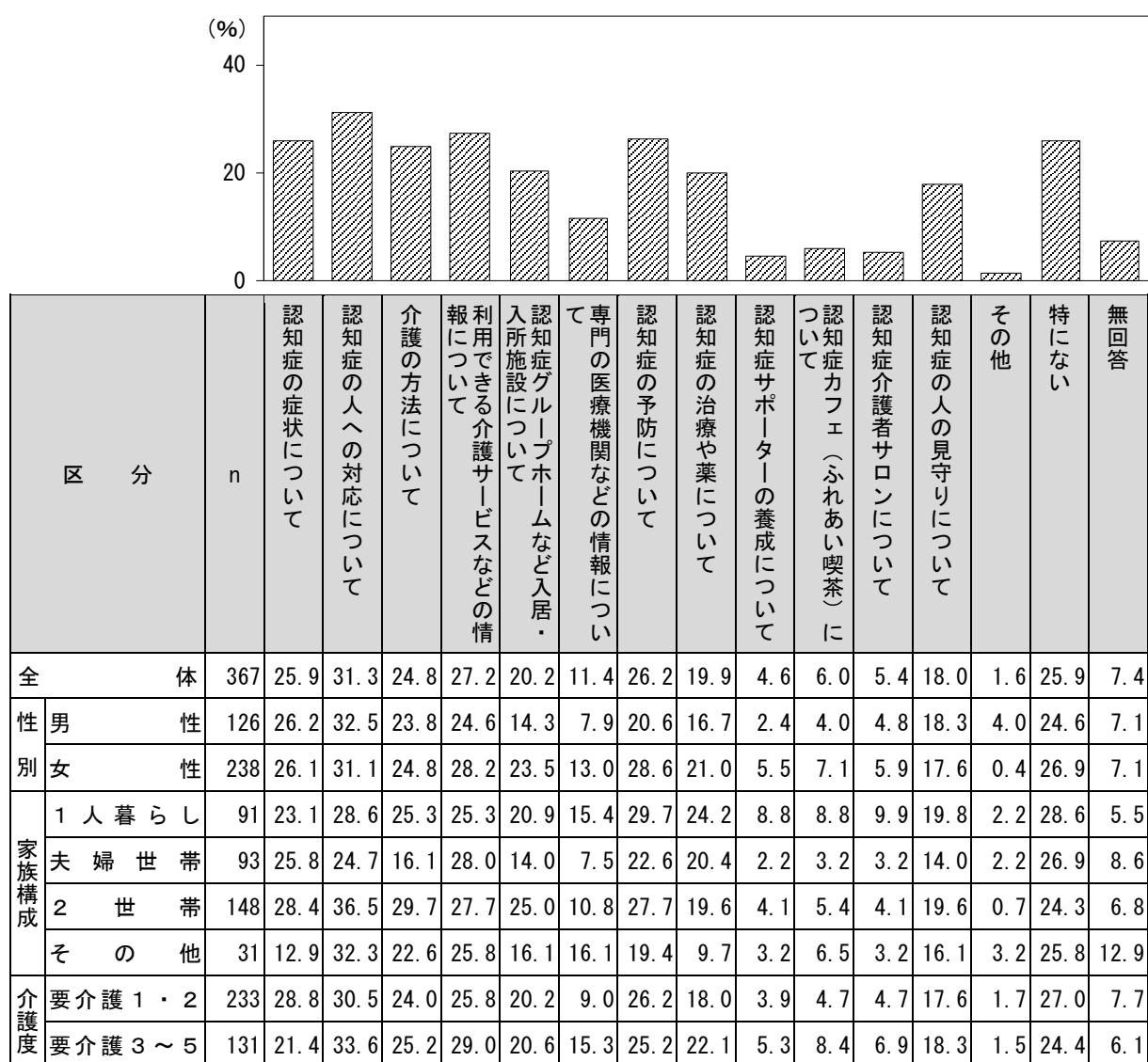


- 斜線 「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」両方とも知っている
- 点線 「日常生活自立支援事業」のみ知っている
- 格子 「成年後見制度」のみ知っている
- 空白 「両方とも知らない」
- 白 無回答

(6) 認知症について知りたいこと・関心があること

- ▶認知症について知りたいこと・関心があることについては、「認知症の人への対応について」が31.3%と最も高く、次いで「利用できる介護サービスなどの情報について」が27.2%、「認知症の予防について」が26.2%、「認知症の症状について」が25.9%、「介護の方法について」が24.8%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「認知症の予防について」、夫婦世帯では「利用できる介護サービスなどの情報について」、2世帯およびその他世帯では「認知症の人への対応について」がそれぞれ最も高くなっています。

図表3-23 認知症について知りたいこと・関心があること（複数回答）

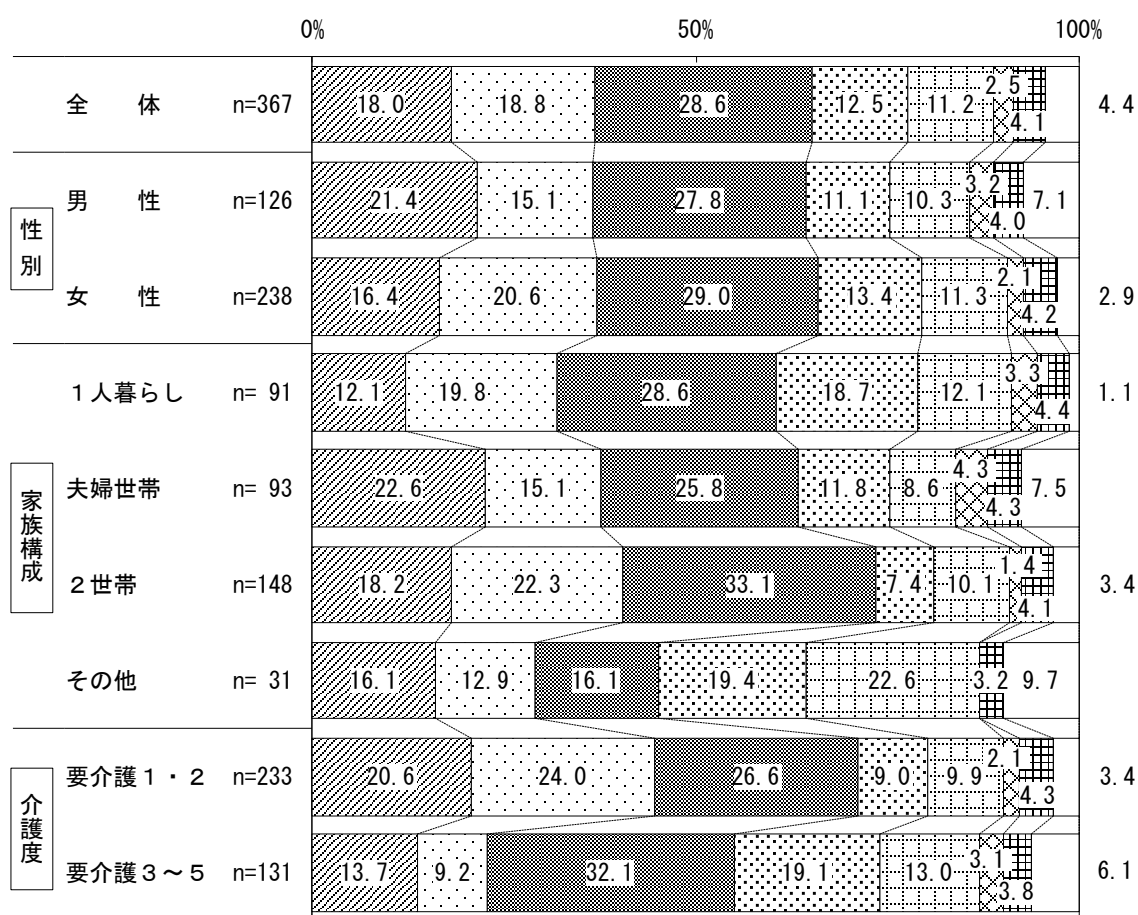


(7) 認知症になったらどのように暮らしたいか

▶「認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか」という設問に対しては、「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活したい」が28.6%と最も高く、次いで「周りのサポートを受けながら地域で生活したい」が18.8%、「自ら工夫して地域で今までどおり生活をしたい」が18.0%となっており、要介護認定者の多くが認知症になっても住み慣れた地域での生活を望んでいることがわかります。「身の回りのことができないので介護施設で暮らしたい」は12.5%、「周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい」は11.2%です。

▶要介護度別にみると、要介護3～5は要介護1・2に比べ施設意向が高くなっています。

図表3-24 認知症になったらどのように暮らしたいか

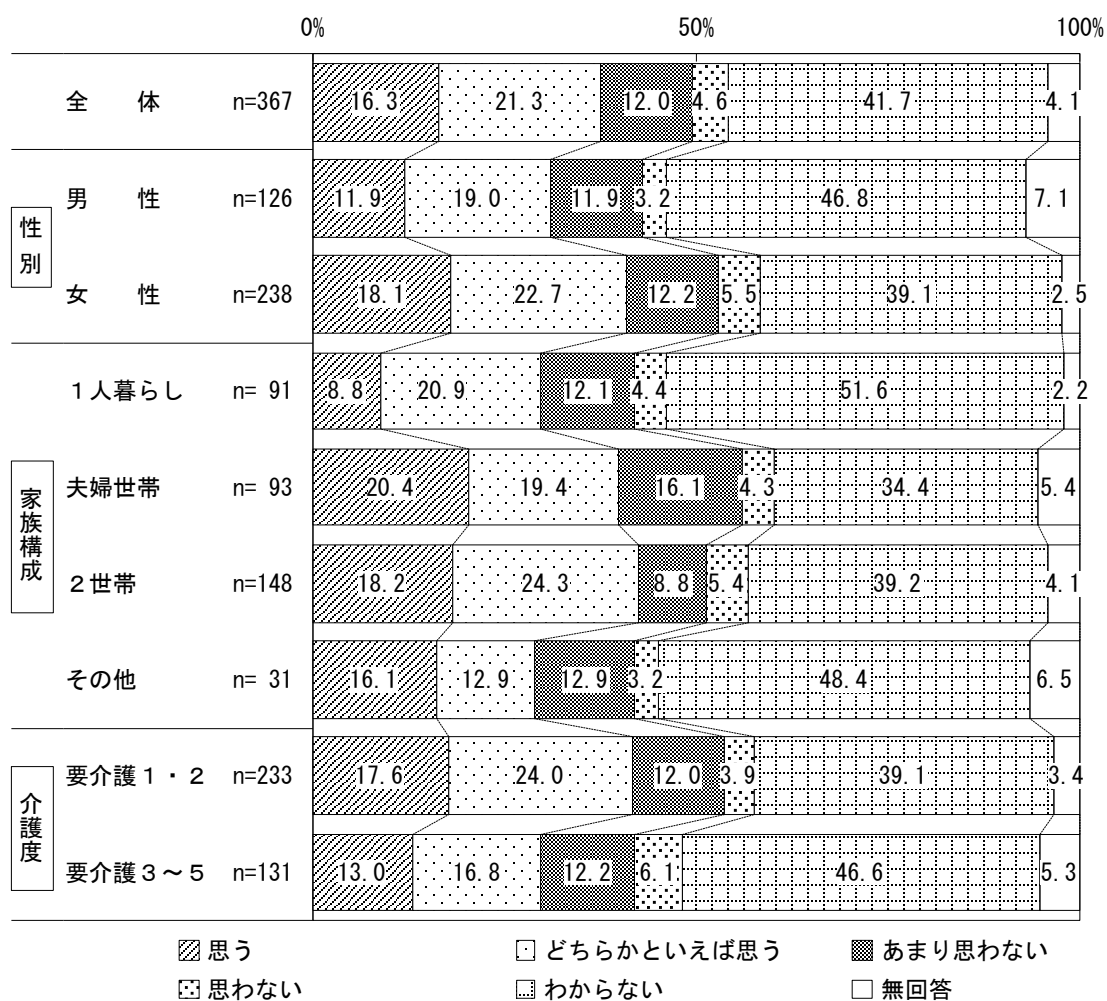


- 自ら工夫して地域で今までどおり生活をしたい
- 周りのサポートを受けながら地域で生活したい
- 医療・介護等のサポートを利用して地域で生活したい
- 身の回りのことができないので施設で暮らしたい
- 周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい
- 誰にも迷惑をかけないようひとりで暮らしたい
- その他
- 無回答

(8) 新しい認知症感

- ▶「笠松町は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が40%以上を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が21.3%となっており、「思う」（16.3%）との合計《暮らし続けられると思う》は37.6%です。
- ▶《暮らし続けられると思う》を属性別にみると、性別では女性、家族構成別では2世帯、要介護度別では要介護1・2がそれぞれ他の区分に比べ高くなっています。

図表3-25 笠松町は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか

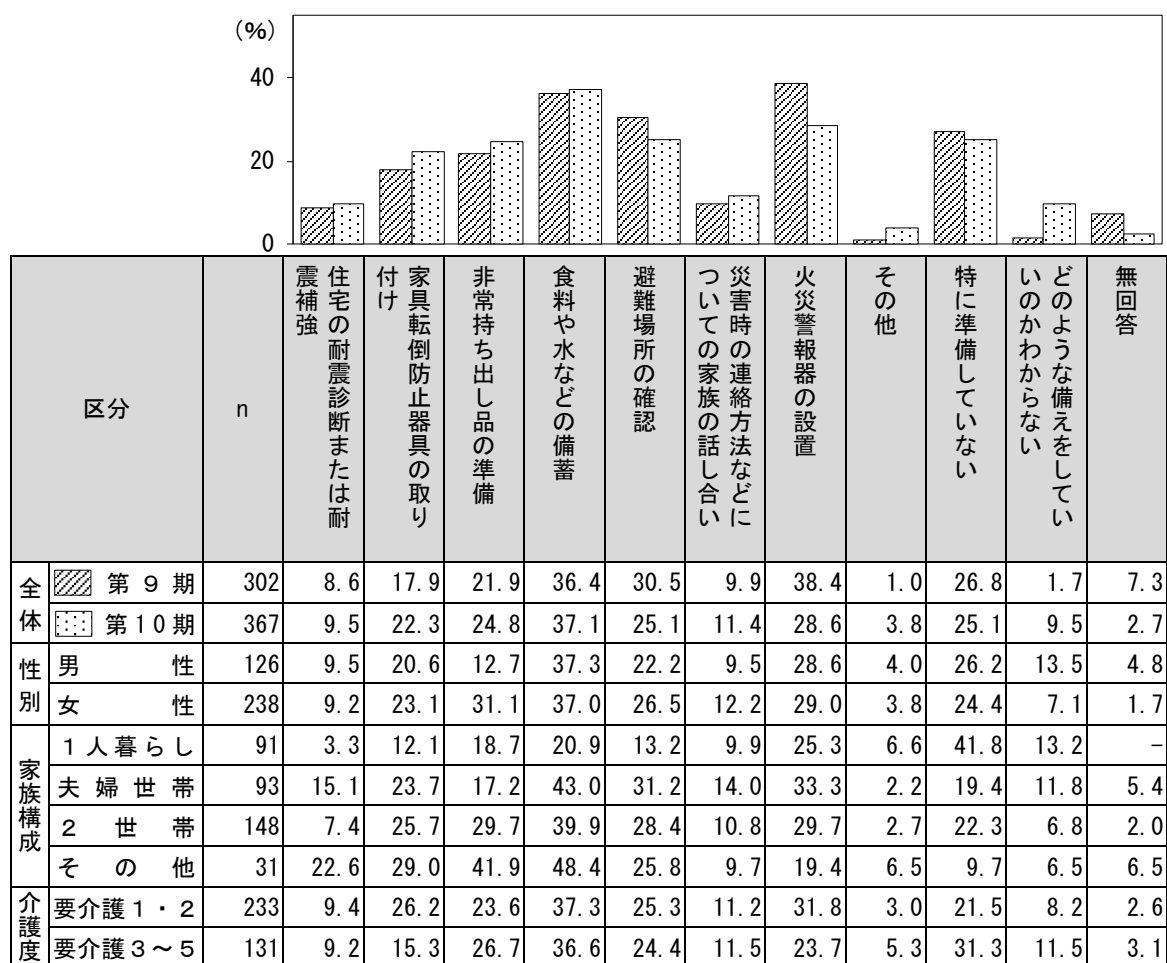


5 災害時の対応について

(1) 災害時に対する備え

- ▶「あなたの家では、地震などの災害時に対してどのような備えをしていますか」という設問については、「食料や水などの備蓄」が37.1%と最も高く、次いで「火災警報器の設置」が28.6%、「避難所の確認」および「特に準備していない」が25.1%、「非常持ち出し品の準備」が24.8%、「家具転倒防止器具の取り付け」が22.3%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「どのような備えをしていいのかわからない」が7.8ポイント上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「特に準備していない」および「どのような備えをしていいのかわからない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

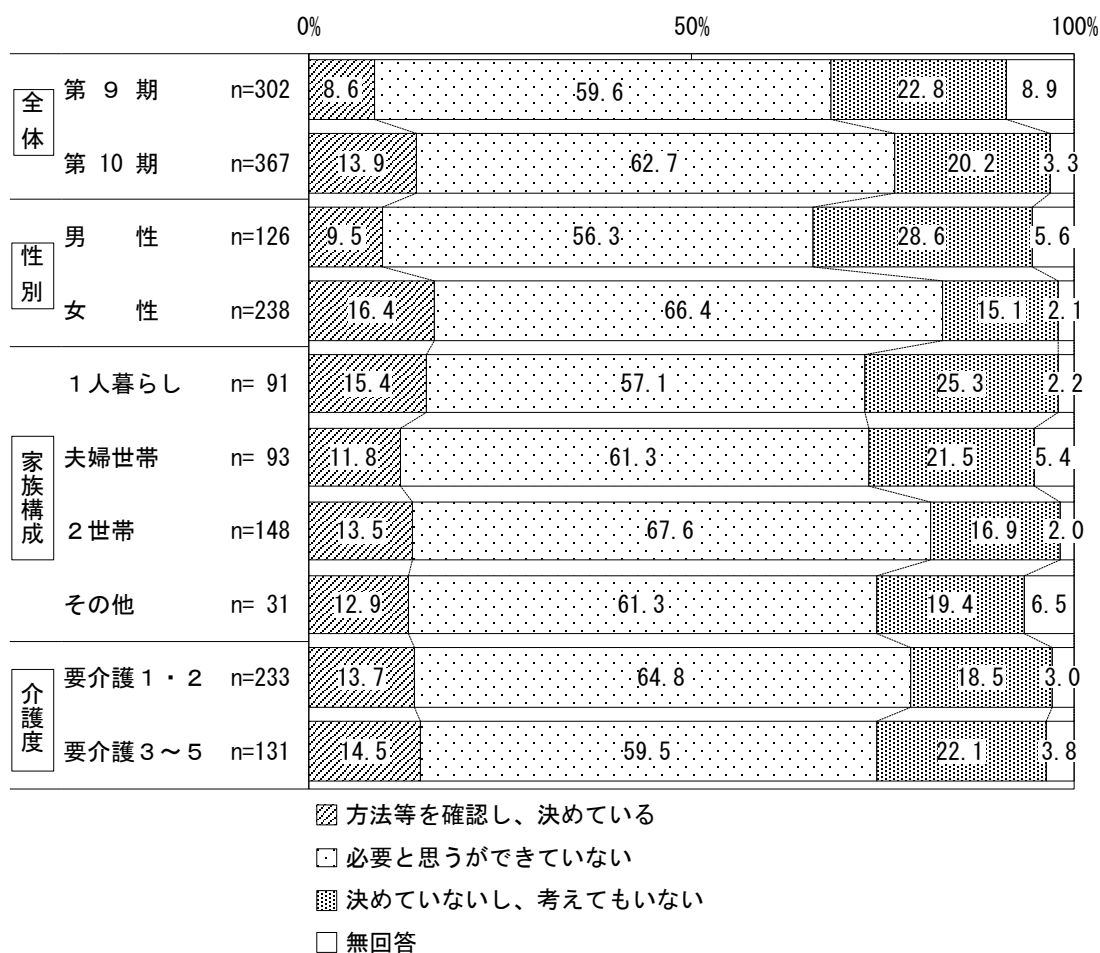
図表3-26 災害時に対する備え（複数回答）



(2) 避難方法や安否確認についての確認

- ▶「家族や地域の方等と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしていますか」という設問については、「必要と思うができていない」が62.7%を占めています。「方法等を確認し、決めている」は13.9%、「決めていないし、考えてもいない」は20.2%です。第9期の調査結果に比べ「方法等を確認し、決めている」が5.3ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、男性に比べ女性は「方法等を確認し、決めている」が6.9ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「決めていないし、考えてもいない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

図表3-27 家族や地域の人と避難方法などについて決めごとをしているか

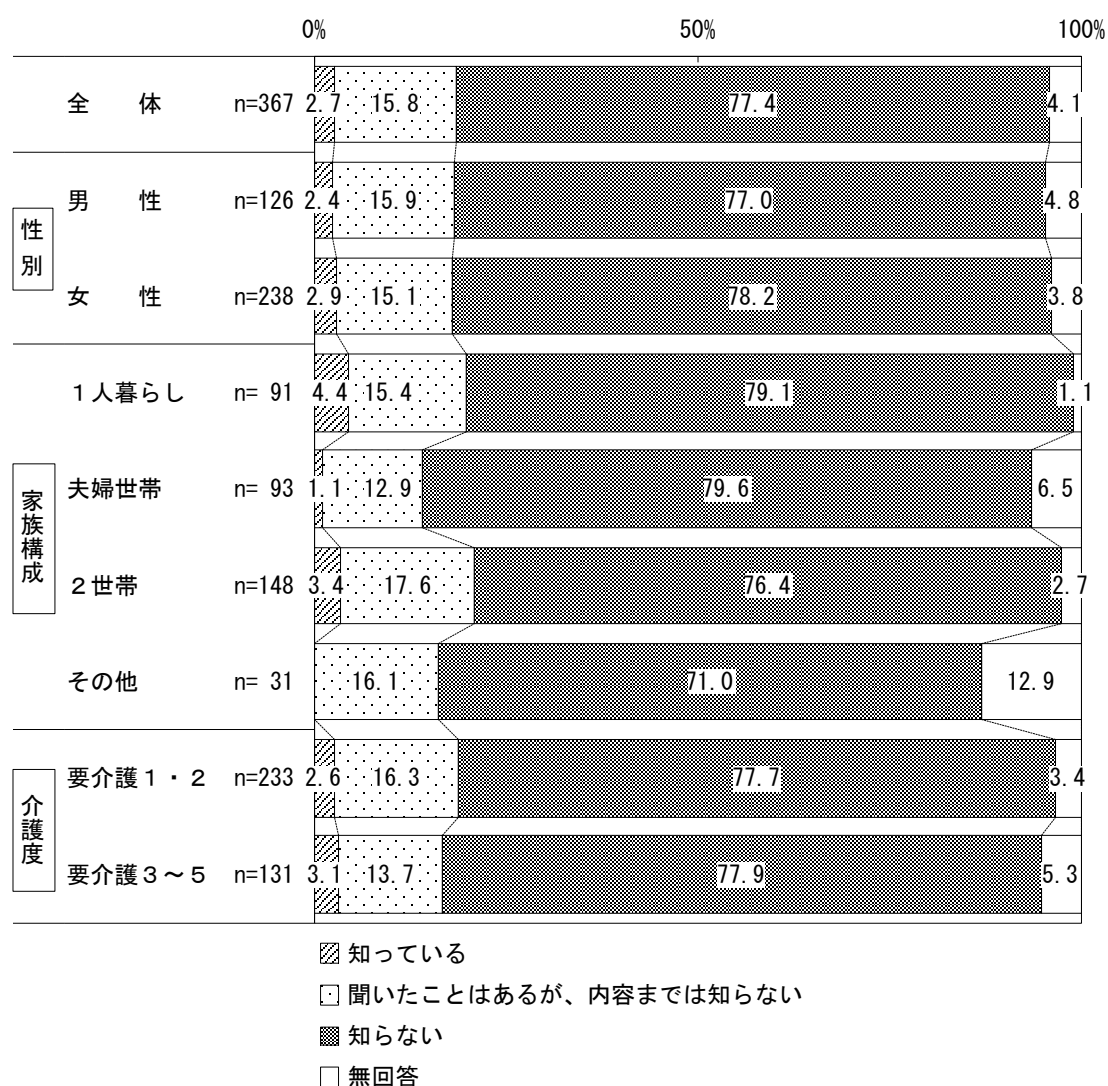


6 これからの生活について

(1) 人生会議（ACP）の認知度

- ▶もしもの時のために、本人が望む医療や介護について、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みである人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度は、「知らない」が77.4%を占めており、「知っている」（2.7%）と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（15.8%）の合計《認知度》は18.5%となっています。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯およびその他世帯では《認知度》が他の世帯類型に比べ低くなっています。

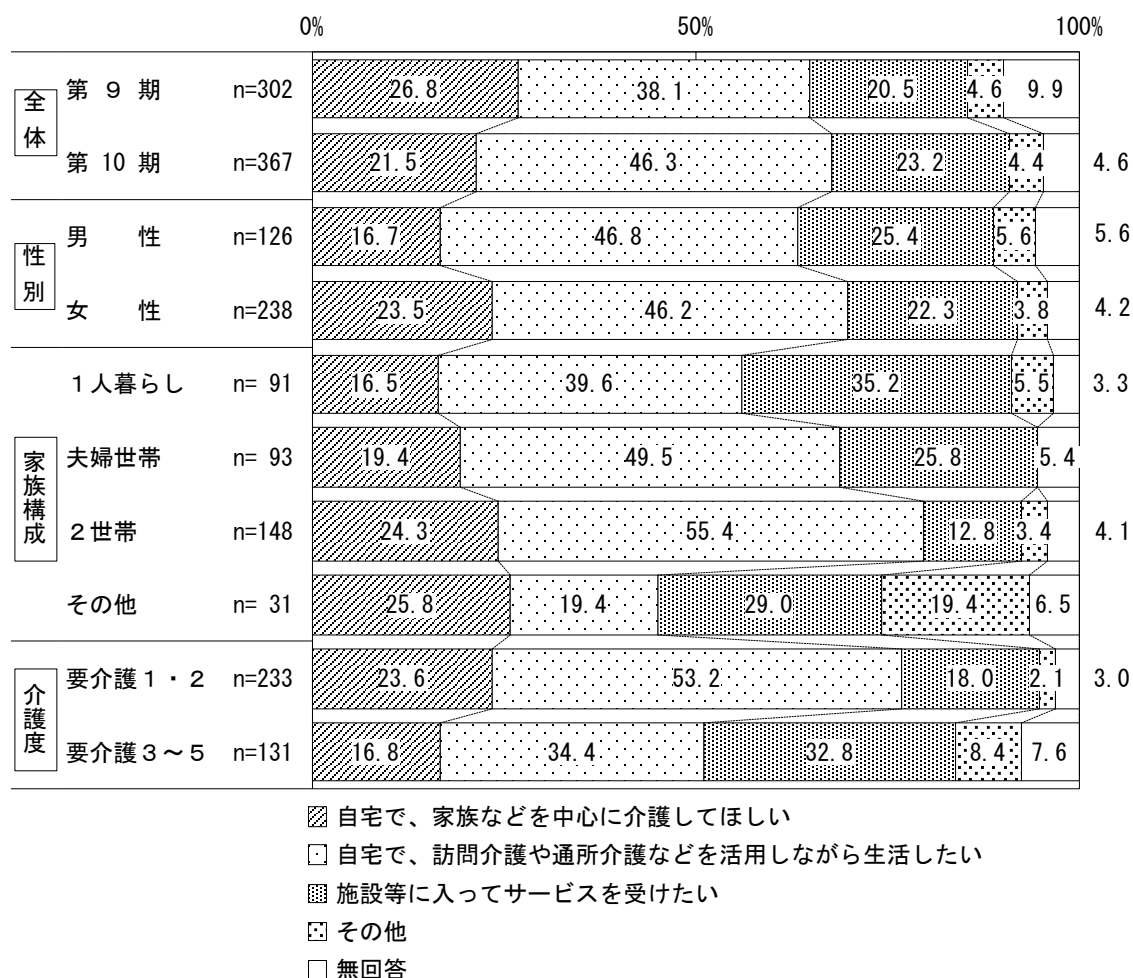
図表3-28 人生会議（ACP）の認知度



(2) 今後、どのような介護を受けたいか

- ▶今後、どのような介護を受けたいかについては、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が46.3%を占めており、「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」（21.5%）との合計《在宅希望》は67.8%となっています。「施設等に入ってサービスを受けたい」は23.2%です。第9期の調査結果に比べ「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が8.2ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、女性は男性に比べ「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」が6.8ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「施設等に入ってサービスを受けたい」が35.2%と他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が50%を超えています。

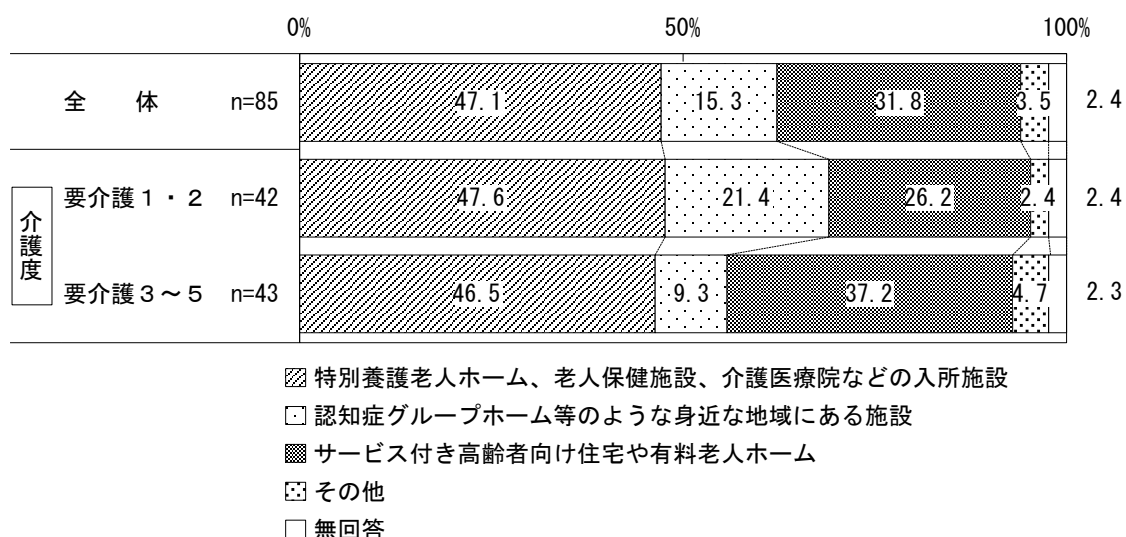
図表3-29 今後、どのような介護を受けたいか



(3) 希望する施設

- ▶今後、受きたい介護について「施設等に入ってサービスを受けたい」と回答した85人の希望する施設については、「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院などの入所施設」が47.1%と最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が31.8%、「認知症グループホーム等のような身近な地域にある施設」が15.3%となっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2、要介護3～5ともに「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院などの入所施設」が47%前後を占めていますが、要介護3～5では「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が、要介護1・2では「認知症グループホーム等のような身近な地域にある施設」が、それぞれ10ポイント以上高くなっています。

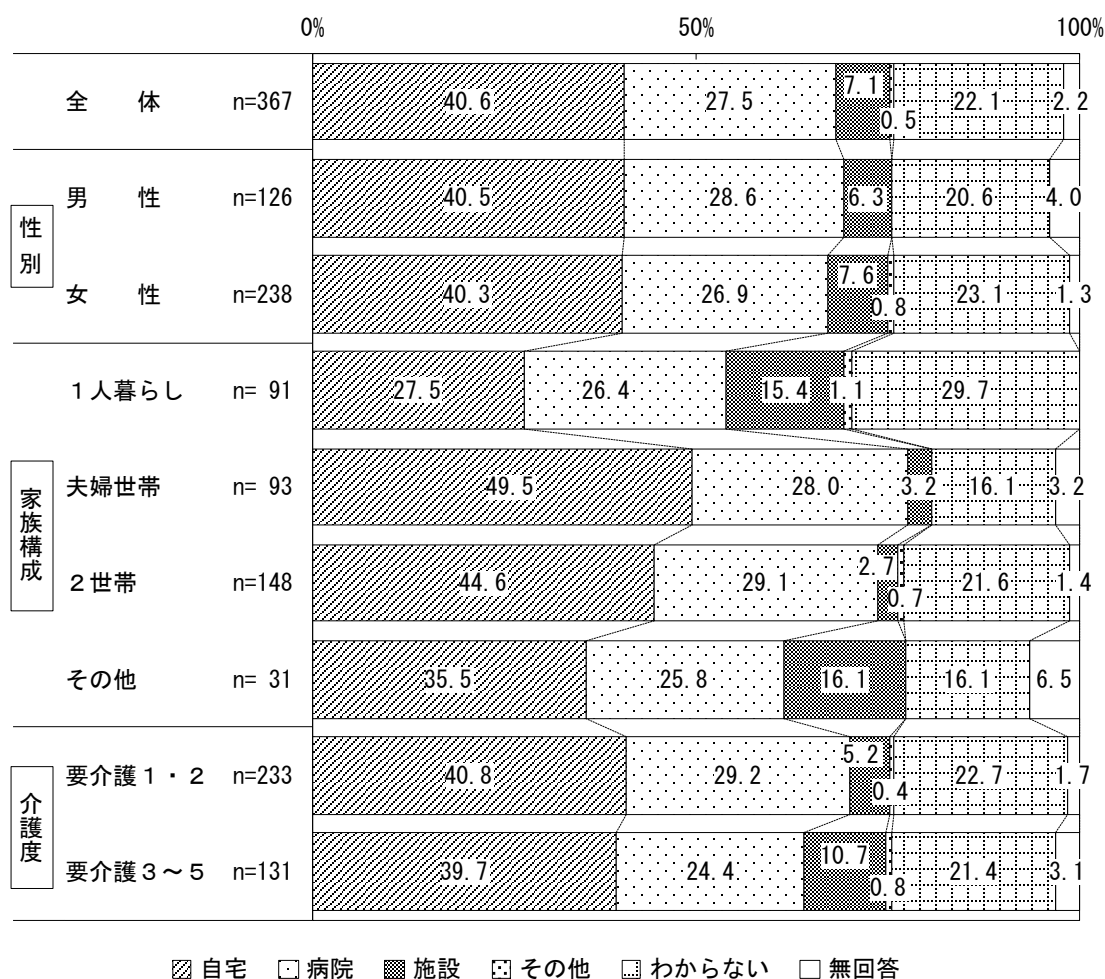
図表3-30 希望する施設



(4) 人生の最期をどこで迎えたいか

- ▶仮に治る見込みのない病気等で死期が近い場合、どこで最期を迎えたいと思うかお聞きしたところ、「自宅」が40.6%と最も高く、次いで「病院」が27.5%、「わからない」が22.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「自宅」が他の家族構成に比べ大幅に低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「施設」が5ポイント以上高くなっています。

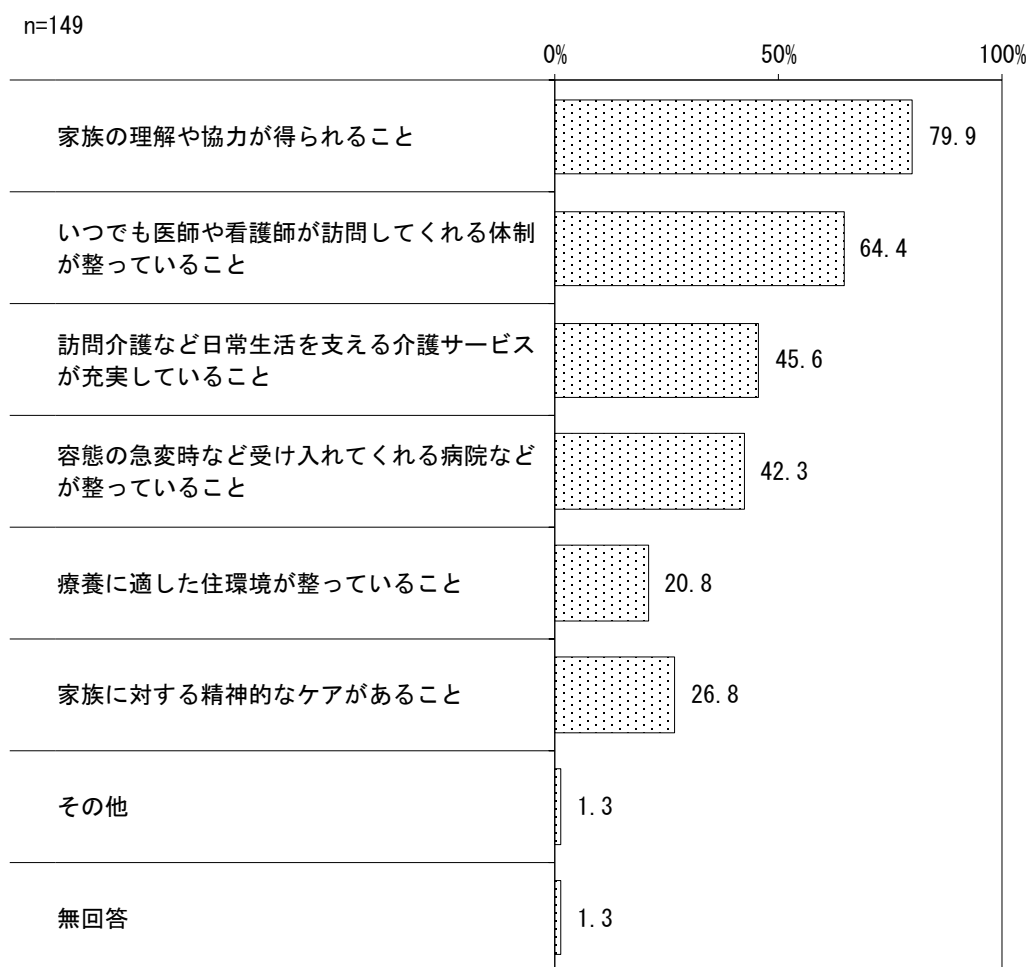
図表3-31 人生の最期をどこで迎えたいか



(5) 自宅で最後を迎えるための条件

▶自宅で人生の最期を迎えたいと回答した149人に、どのような条件がそろえば、自宅で安心して最期を迎えられると思うかをお聞きしたところ、「家族の理解や協力が得られること」が79.9%と最も高く、次いで「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」が64.4%、「訪問介護など日常生活を支える介護サービスの充実していること」が45.6%、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が42.3%などとなっています。

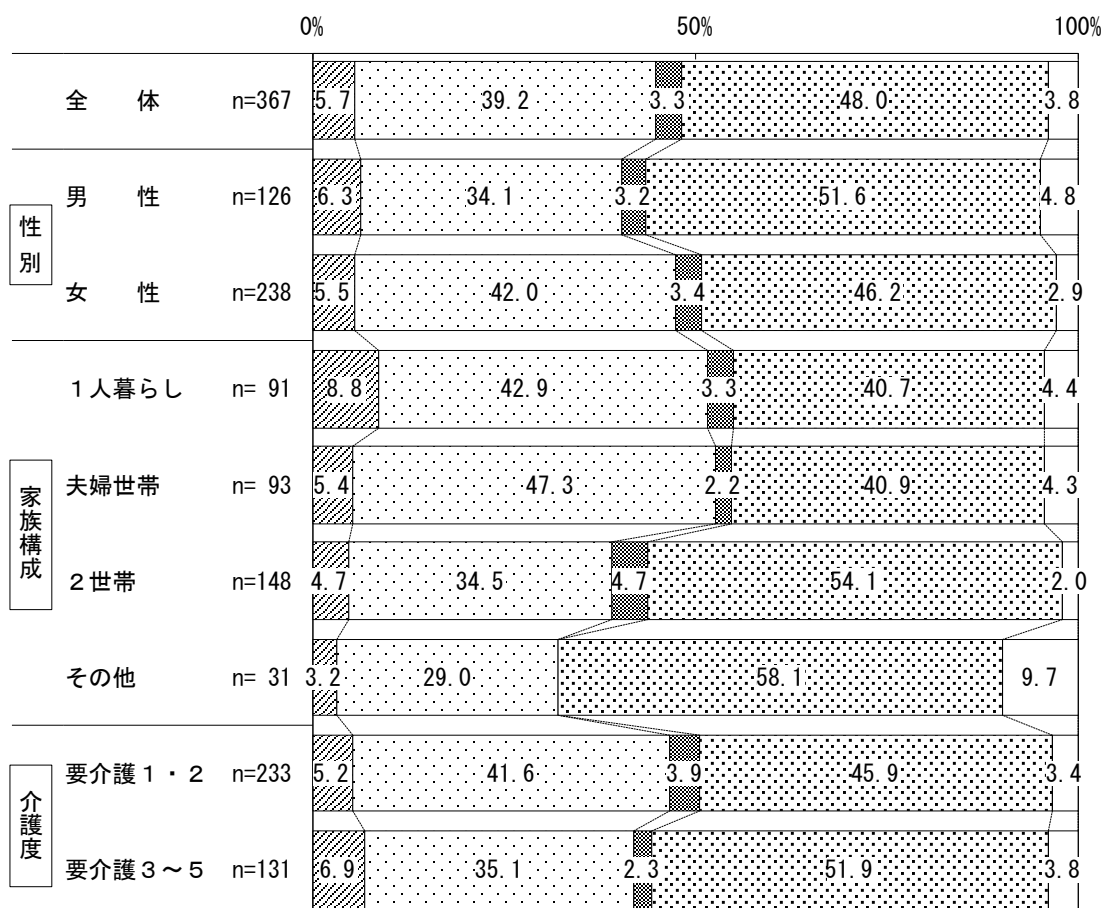
図表3-32 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）



(6) もしものことを考えて家族と話し合ったりしているか

- ▶ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、家族（同居していない子どもや親族等を含む）と話し合ったり、書面に残しているかお聞きしたところ、「何もしていない」が48.0%と最も高くなっています。「話し合っており、書面も残している」（5.7%）と「話し合っているが、書面は残していない」（39.2%）の合計《話し合っている》は44.9%、「話し合っており、書面も残している」と「話し合っていないが、書面は残している」（3.3%）の合計《書面に残している》は9.0%です。
- ▶性別にみると、女性は男性に比べ《話し合っている》が7.1ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯および1人暮らしでは《話し合っている》が50%を超えています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「何もしていない」が6ポイント高くなっています。

図表3-33 もしものことを考えて家族と話し合ったり、書面に残しているか

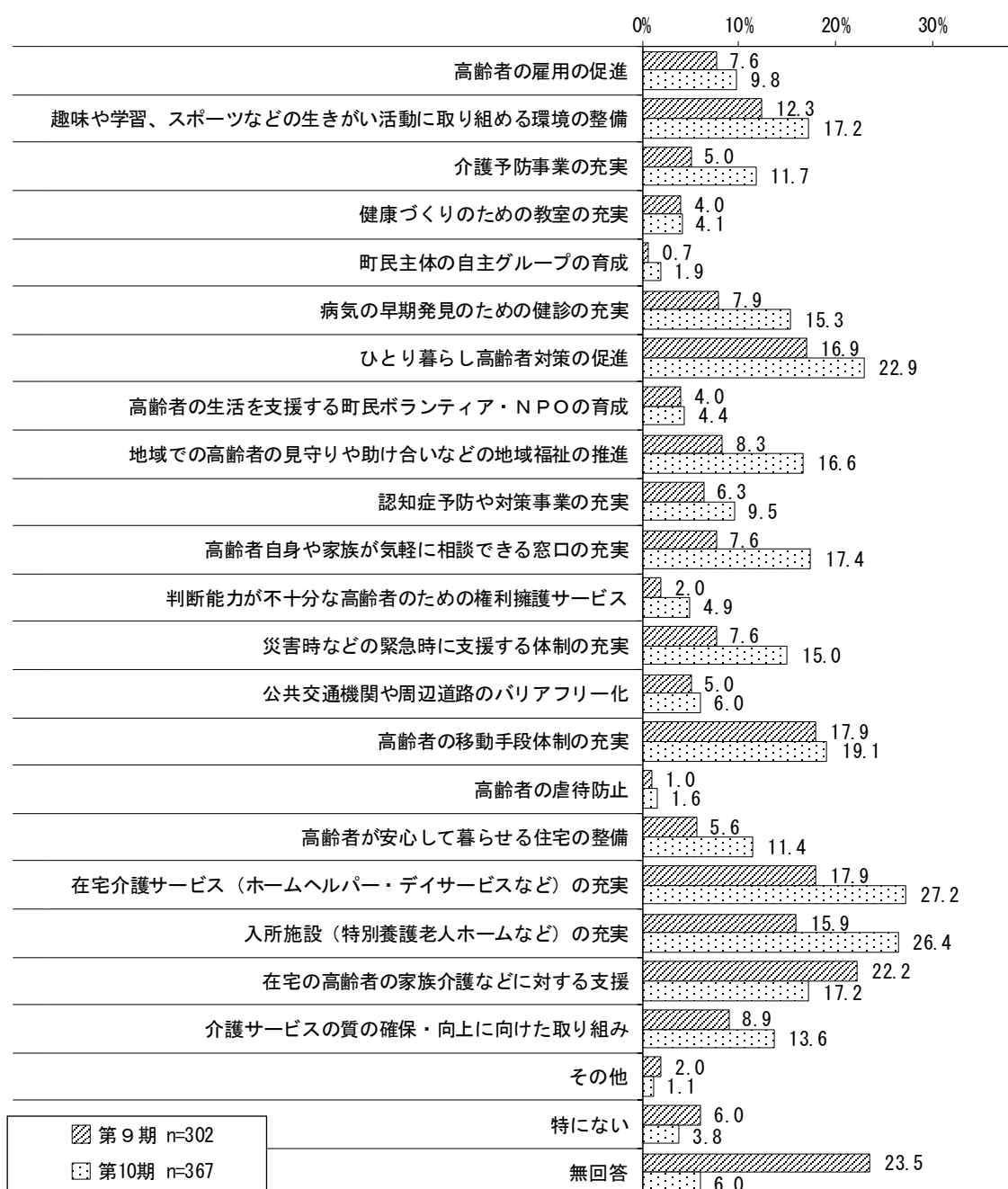


- 斜線 話し合っており、書面も残している
- 点線 話し合っているが、書面は残していない
- 格子 話し合っていないが、書面は残している
- 空白 何もしていない
- 白 無回答

7 高齢者施策（重点に置くべき高齢者施策）について

▶高齢社会に対して、今後何に重点を置くべきだと思うかについては、「在宅介護サービス（ホームヘルパー・デイサービスなど）の充実」が27.2%と最も高く、次いで「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が26.4%、「ひとり暮らし高齢者対策の促進」が22.9%などとなっています。第9期の調査結果に比べ、ほとんどの項目が上昇していますが、特に「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」「高齢者自身や家族が気軽に相談できる窓口の充実」および「在宅介護サービス（ホームヘルパー・デイサービスなど）の充実」が10ポイント前後上昇しています。

図表3-34 重点に置くべき高齢者施策（複数回答・3つまで）

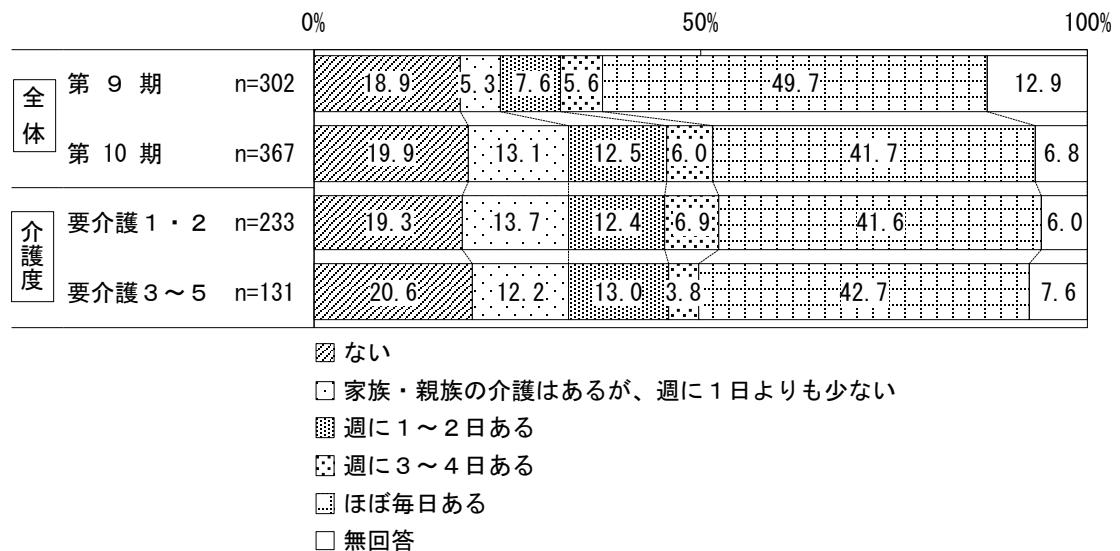


8 介護者について

(1) 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか

▶家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が41.7%を占めています。第9期の調査結果に比べ「ほぼ毎日ある」が8ポイント低下しています。

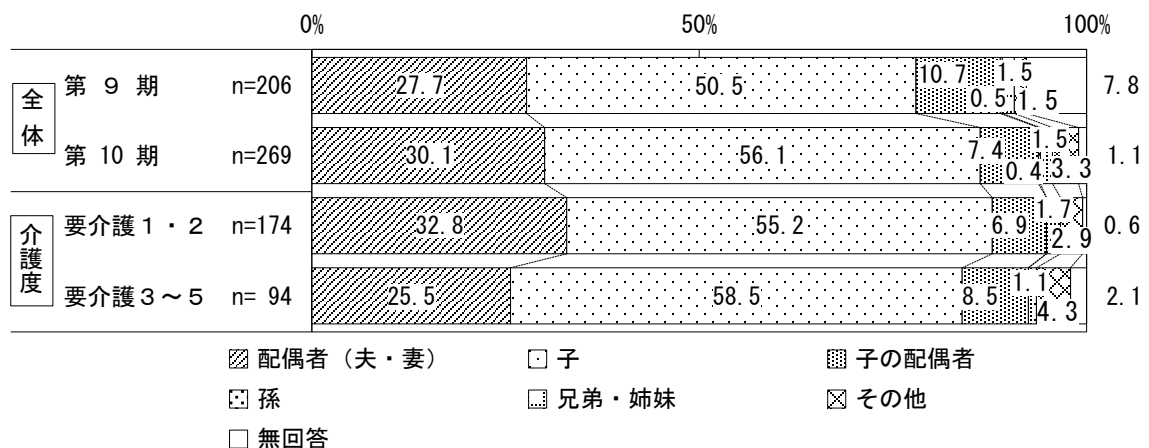
図表3-35 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか



(2) 家族の中の主な介護者

▶家族の中の主な介護者としては、「子」が56.1%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が30.1%、「子の配偶者」が7.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「子」および「配偶者(夫・妻)」が上昇し、「子の配偶者」が低下しています。

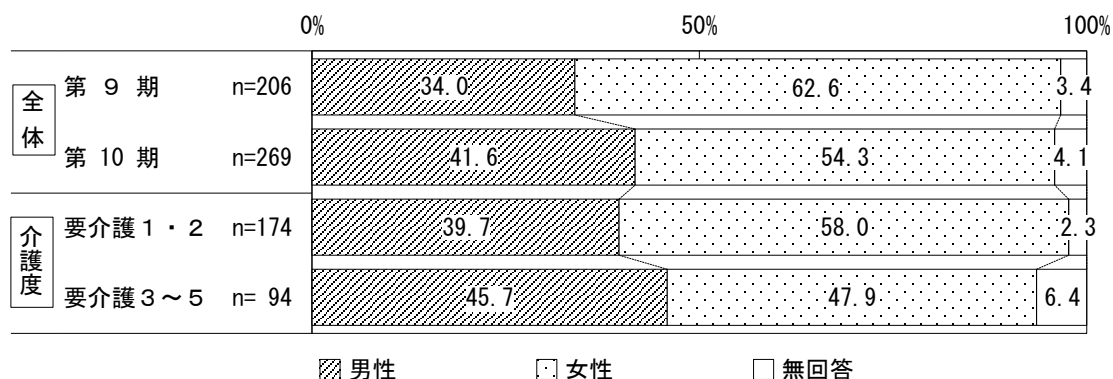
図表3-36 家族の中の主な介護者



(3) 主な介護者の性別

▶家族の中の主な介護者の性別は、「女性」が54.3%を占めていますが、第9期の調査結果に比べ8.3ポイント低下し、「男性」が7.6ポイント上昇しています。

図表 3-37 主な介護者の性別

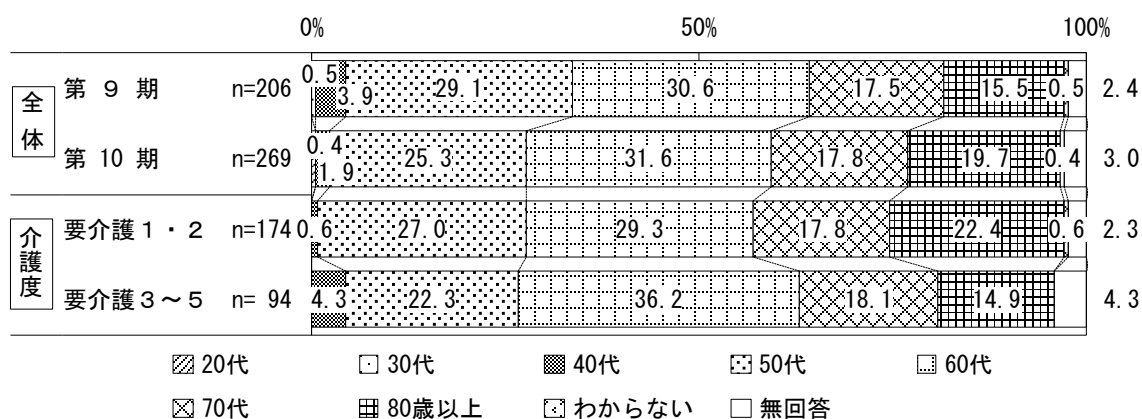


(4) 主な介護者の年齢

▶家族の中の主な介護者の年齢は、「60代」が31.6%と最も高く、次いで「50代」が25.3%、「70代」が17.8%、「80歳以上」が19.7%などとなっています。主な介護者の3人に1人以上が70歳以上です。また、「20歳未満」という回答はありませんでしたが、「20代」が0.4%（1人）あります。第9期の調査結果に比べ「80歳以上」が4.2ポイント上昇しています。

▶なお、別の設問として「問30 主な介護者（常時）で18歳未満の方はいますか」を設定しましたが、「いる」という回答はありませんでした。

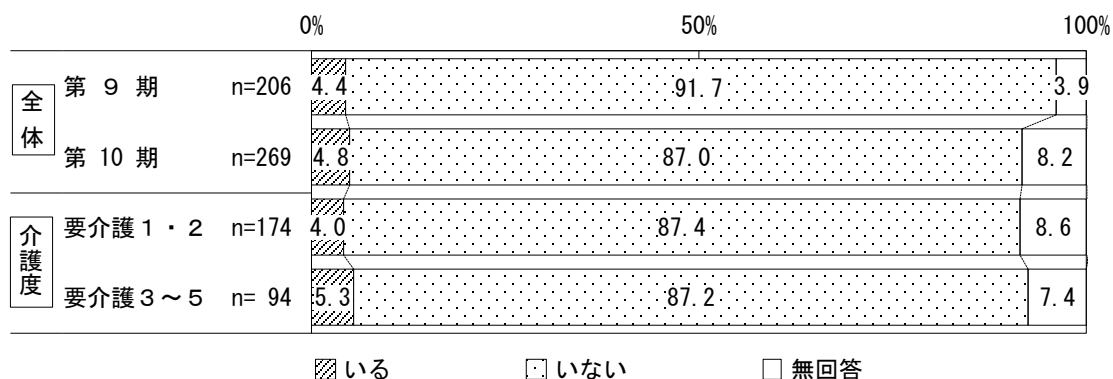
図表 3-38 主な介護者の年齢



(5) 介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人の有無

▶介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人については、「いる」が4.8%（13人）あります。第9期の調査結果に比べ大きな変化はありません。

図表 3-39 介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人の有無

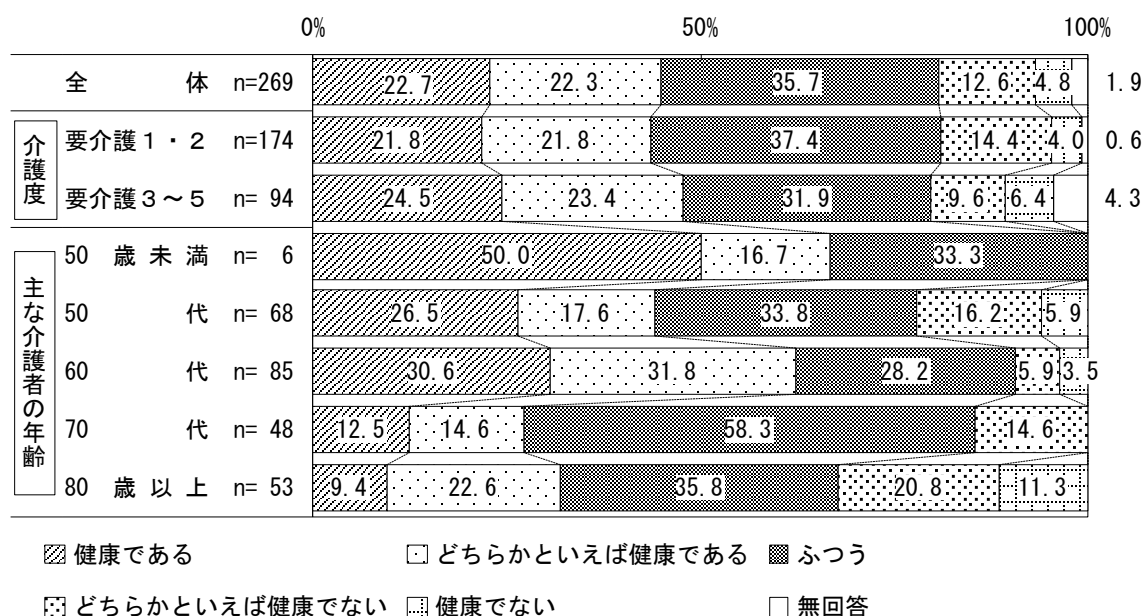


(6) 主な介護者の健康状態

▶家族の中の主な介護者の健康状態は、「ふつう」が35.7%と最も高く、次いで「健康である」が22.7%、「どちらかといえば健康である」が22.3%となっていますが、「どちらかといえば健康でない」が12.6%、「健康でない」が4.8%あり、これらを合計した《健康に問題がある》が17.4%あります。

▶主な介護者の年齢別にみると、80歳以上では《健康に問題がある》が30%以上あります。

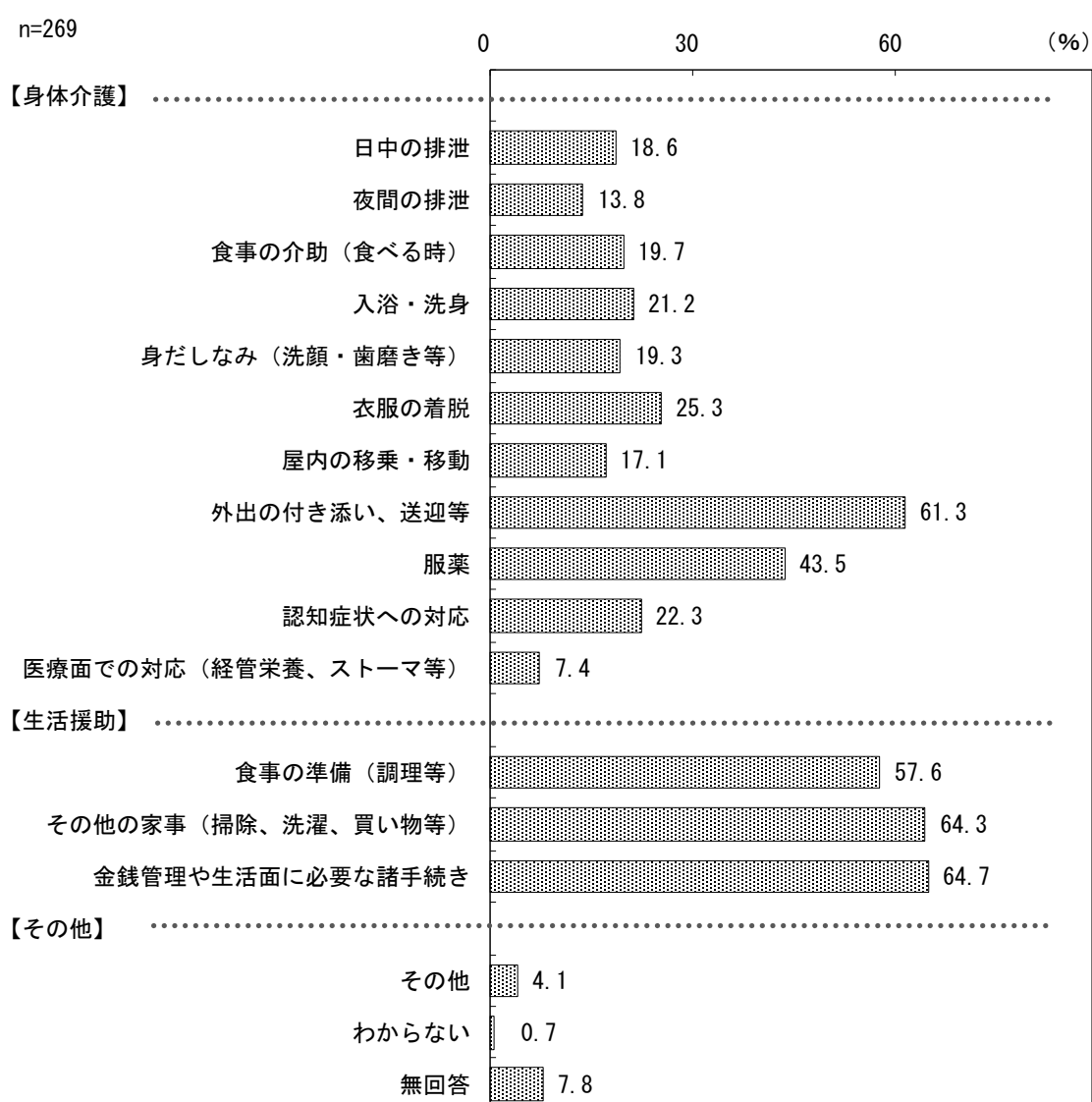
図表 3-40 主な介護者の健康状態



(7) 主な介護者が行っている介護等

- ▶現在、主な介護者が行っている介護等については、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が64.7%と最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が64.3%と生活援助にかかる2項目が64%台の高い率となっています。また、身体介護の「外出の付き添い、送迎等」が60%を超えています。
- ▶「その他」として「施設生活の見守り」「屋外へ出ないように見守る」「立ち上がる介助」「散髪」などの記載がありました。

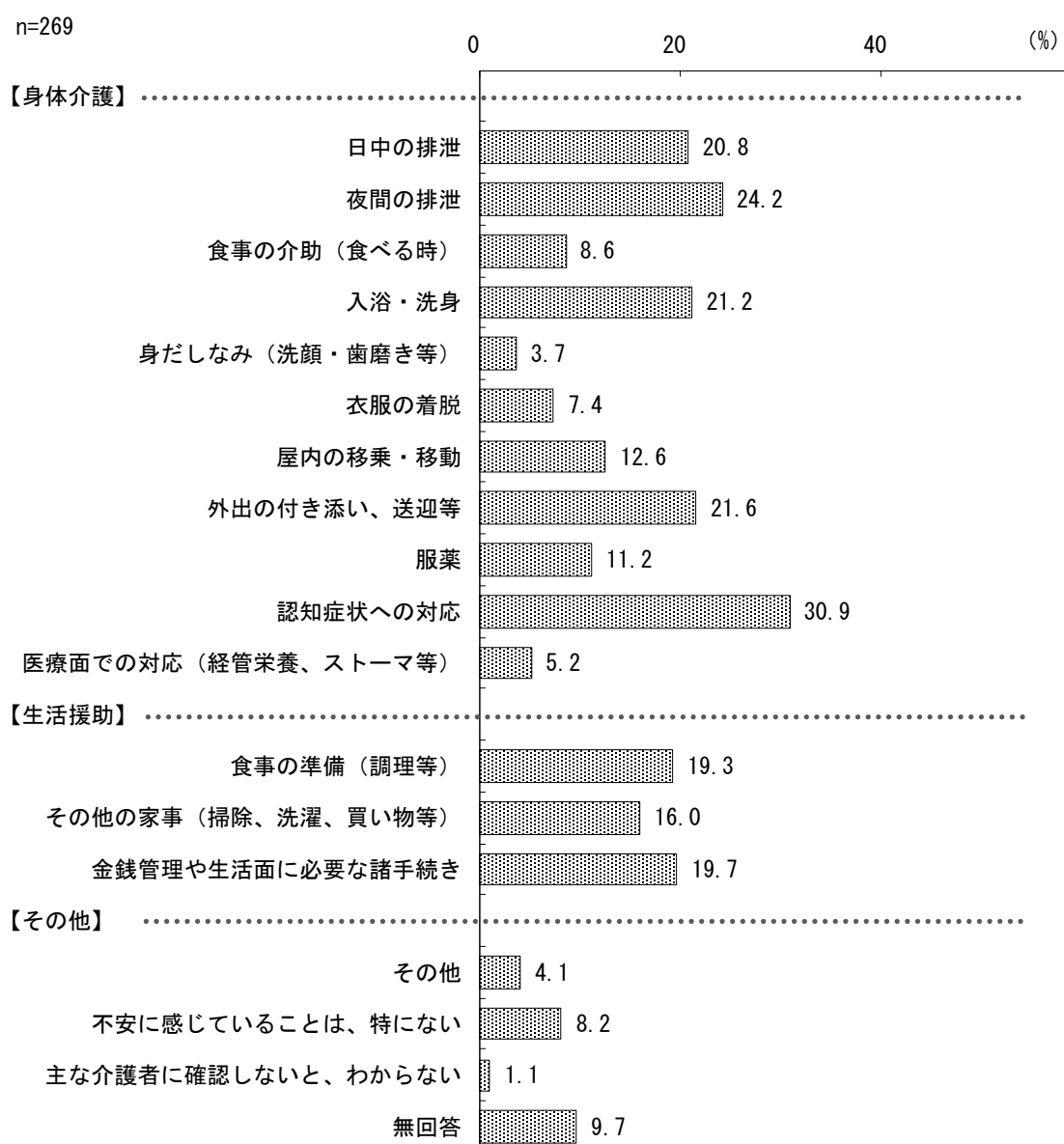
図表3-41 主な介護者が行っている介護等（複数回答）



(8) 主な介護者が不安に感じる介護等

- ▶現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症への対応」が30.9%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が24.2%、「外出の付き添い、送迎等」が21.6%、「入浴・洗身」が21.2%、「日中の排泄」が20.8%など身体介護にかかる項目が高くなっています。
- ▶「その他」として、「経済的な負担」「介護者自身の健康」などの記載がありました。

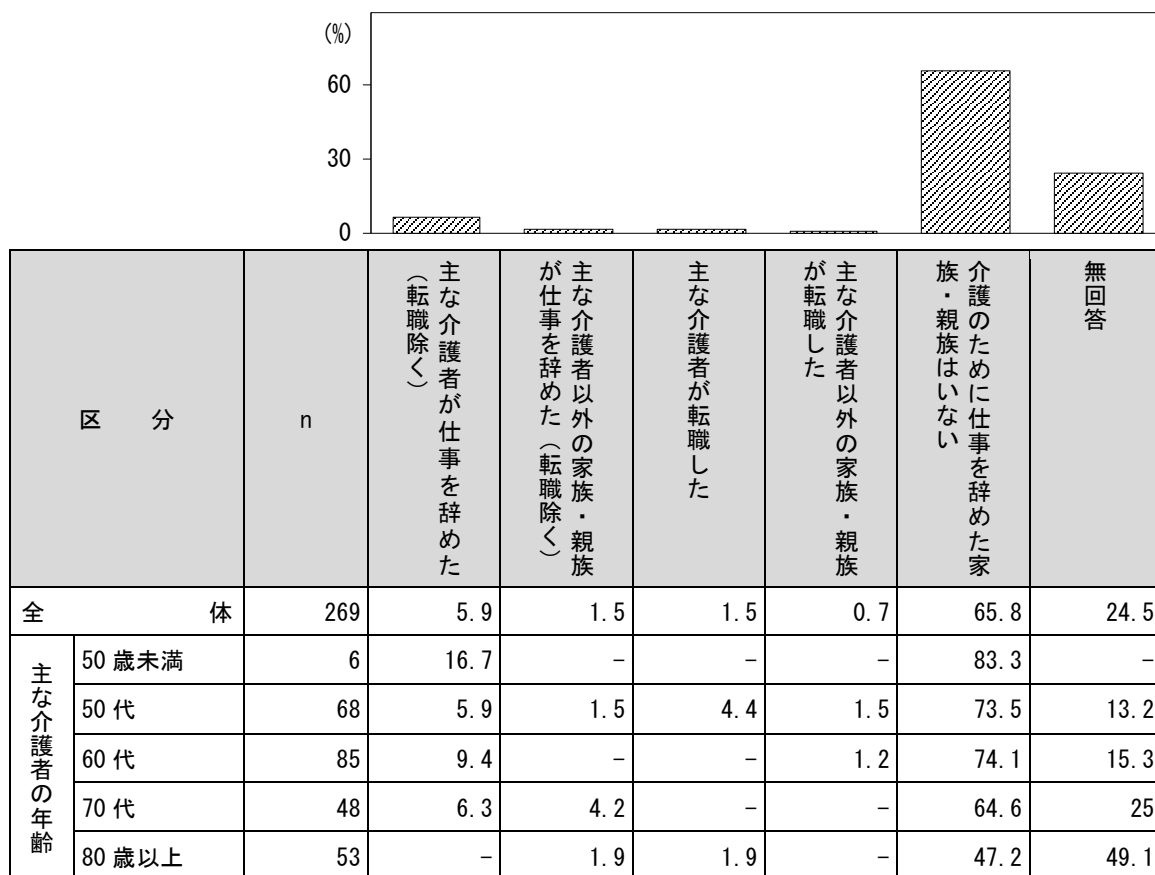
図表3-42 主な介護者が不安に感じる介護等(複数回答・3つまで)



(9) 介護を主な理由とした離職

- ▶家族や親族で、介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた人がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が65.8%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が5.9%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」および「主な介護者が転職した」が1.5%などとなっています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、50歳未満では「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が16.7%（1人）、60代では9.4%（8人）となっています。

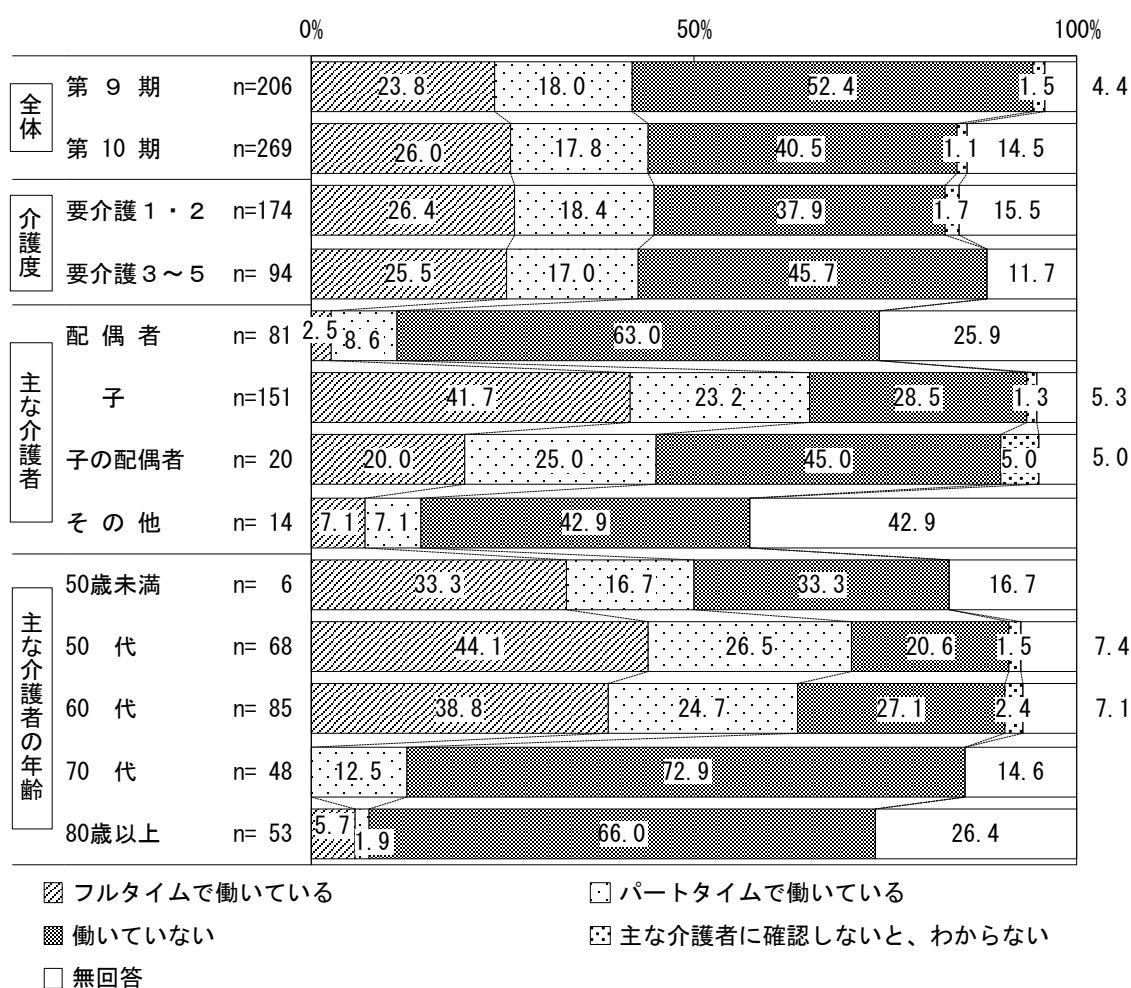
図表3-43 介護を主な理由とした離職（複数回答）



(10) 主な介護者の勤務形態

- ▶主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が40.5%を占めていますが、「フルタイムで働いている」が26.0%、「パートタイムで働いている」が17.8%あり、これらの合計《働いている》は43.8%で、第9期の調査結果に比べ2ポイント上昇しています。
- ▶主な介護者が子の場合、「フルタイムで働いている」が41.7%を占めています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、《働いている》は若い年齢層ほど高い傾向にあり、50代では70%、60代では60%を超えています。

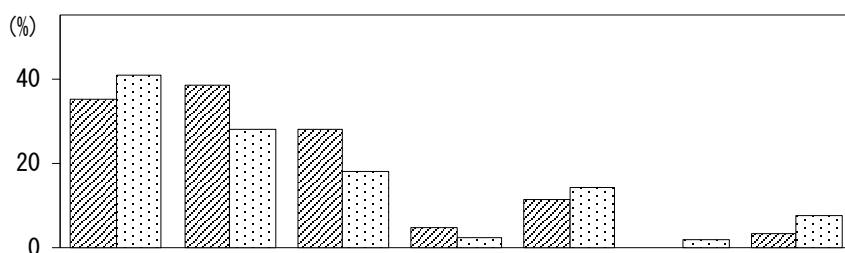
図表3-44 主な介護者の勤務形態



(11) 主な介護者が介護のためにしている働き方の調整

- ▶《働いている》主な介護者が介護のためにしている働き方の調整については、「特に行っていない」が40.7%と最も高くなっています。次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が28.0%、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている（B）」が17.8%、「A～C以外の調整をしながら、働いている」が14.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「特に行っていない」が5.8ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、パートタイムに比べフルタイムは「特に行っていない」が15.8ポイント高くなっています。また、フルタイムに比べパートタイムは「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が16.1ポイント、「A～C以外の調整をしながら、働いている」が14.3ポイント高くなっています。

図表3-45 主な介護者は、介護のために働き方を調整しているか（複数回答）

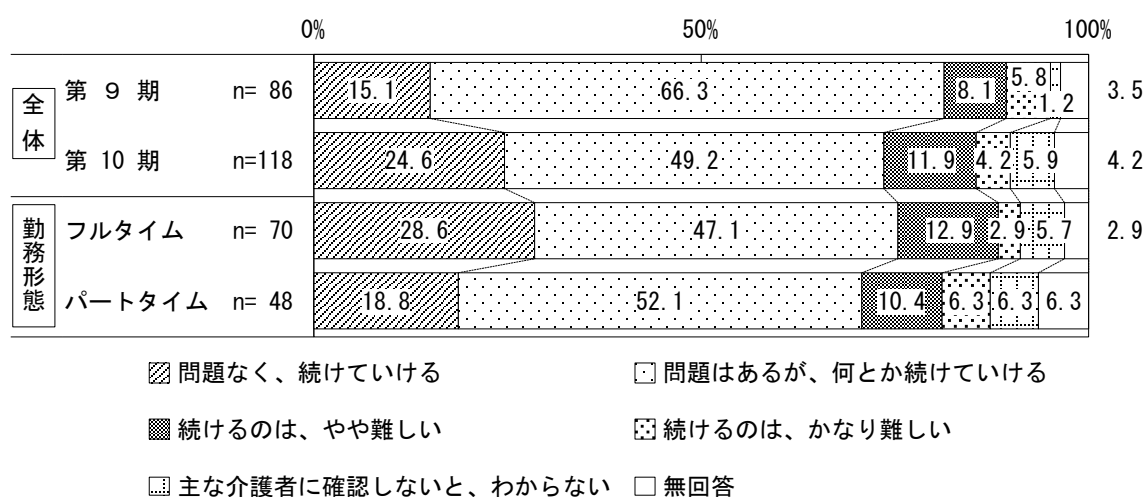


区 分		n	特に行っていない	「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」	「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（B）」	「在宅勤務」を利用しながら、働いている（C）」	A～C以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	第 9 期	86	34.9	38.4	27.9	4.7	11.6	—	3.5
	第 10 期	118	40.7	28.0	17.8	2.5	14.4	1.7	7.6
勤務形態	フルタイム	70	47.1	21.4	17.1	4.3	8.6	2.9	5.7
	パートタイム	48	31.3	37.5	18.8	—	22.9	—	10.4

(12) 仕事と介護の両立

- ▶《働いている》主な介護者に対する「今後も働きながら介護を続けていけそうですか」という設問については、「問題はあるが、何とか続けていける」が49.2%を占めています。次いで「問題なく、続けていける」が24.6%となっていますが、「続けるのは、やや難しい」が11.9%、「続けるのはかなり難しい」が4.2%あり、《継続困難》は16.1%となります。第9期の調査結果に比べ《継続困難》が2.2ポイント上昇していますが、「問題なく、続けていける」も9.5ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、「問題なく、続けていける」はパートタイムに比べフルタイムが9.8ポイント高くなっています。

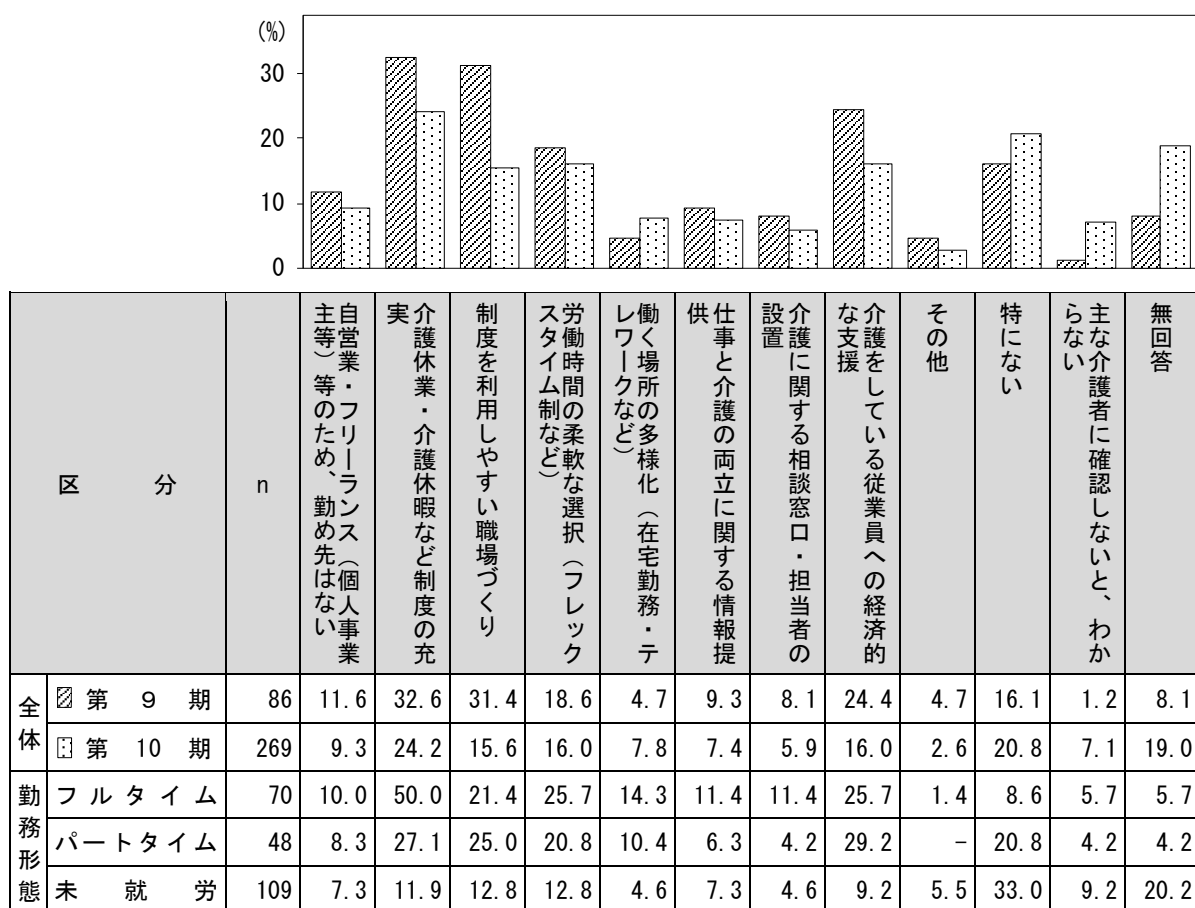
図表3-46 仕事と介護の両立



(13) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

- ▶仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇など制度の充実」が24.2%と最も高くなっています。次いで「特にない」が20.8%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」および「介護をしている従業員への経済的な支援」が16.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」が15.6%などとなっています。
- ▶勤務形態別にみると、フルタイムでは「介護休業・介護休暇など制度の充実」が、パートタイムでは「介護をしている従業員への経済的な支援」がそれぞれ最も高くなっています。

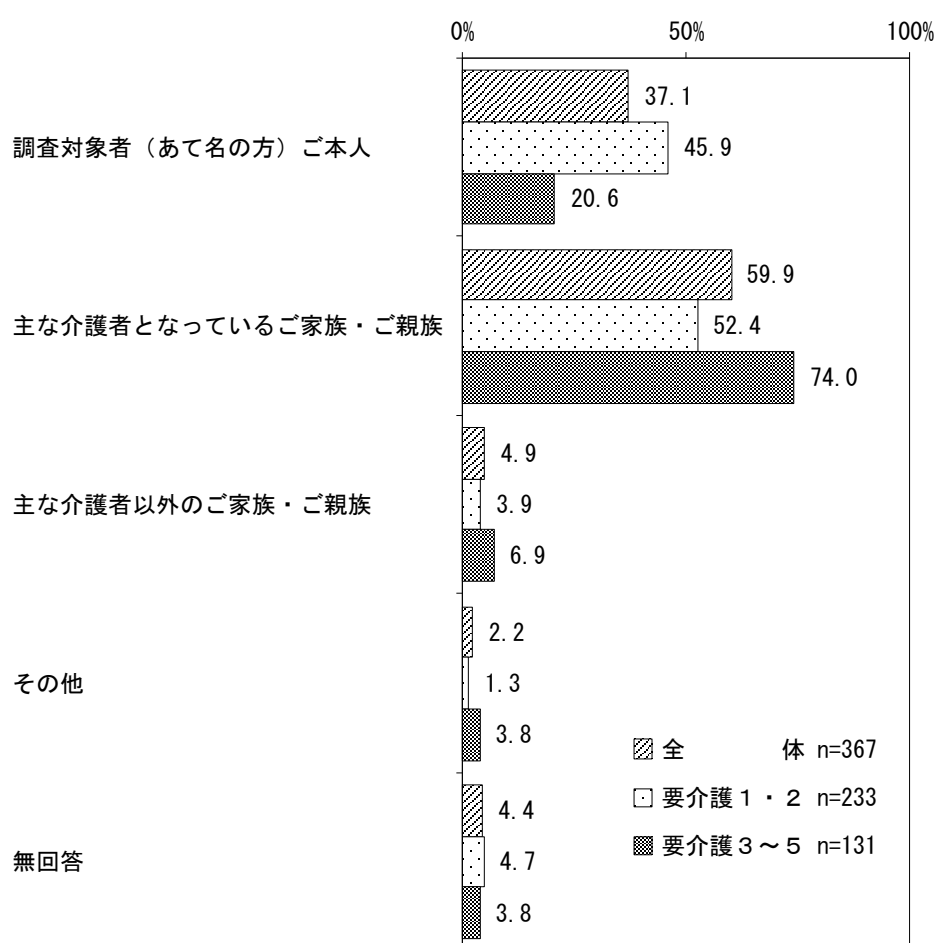
図表3-47 仕事と介護の両立に効果があると思われる支援（複数回答）



9 調査票の記入者

- ▶調査票の記入者は「調査対象者（あて名の方）ご本人」が37.1%、「主な介護者となっているご家族・ご親族」が59.9%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.9%、「その他」が2.2%です。
- ▶要介護度別にみると要介護1・2では「調査対象者（あて名の方）ご本人」が45.9%ですが、要介護3～5では20.6%となっています。

図表3-48 調査票の記入者（複数回答）



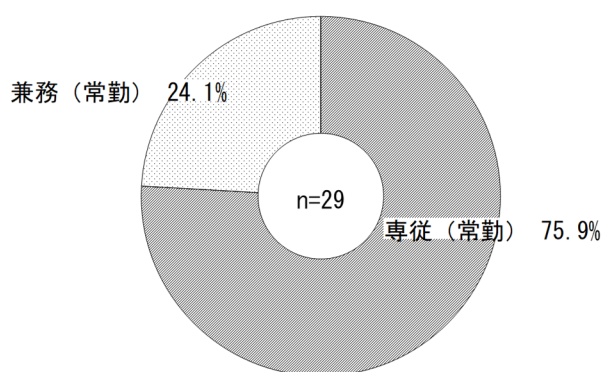
第4章 介護支援専門員調査

1 調査対象者の属性等

(1) 勤務形態

▶回答のあった29人の勤務形態は、「専従（常勤）」が75.9%、「兼務（常勤）」が24.1%です。「専従（非常勤）」および「兼務（非常勤）」という回答はありませんでした。

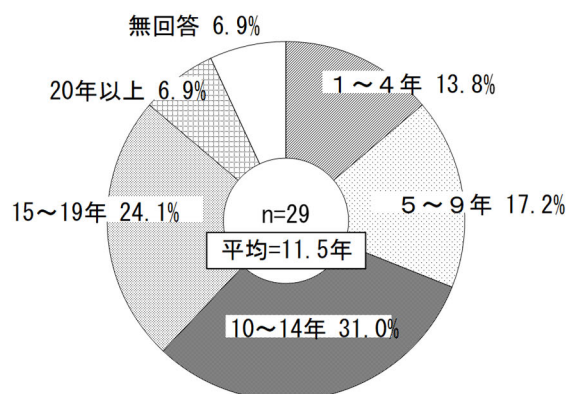
図表4-1 勤務形態



(2) 経験年数

▶介護支援専門員としての経験年数は、「10～14年」が31.0%と最も高く、次いで「15～19年」が24.1%などとなっています。「20年以上」も6.9%あり、10年以上の経験者が60%以上を占めています。平均経験年数は11.5年です。

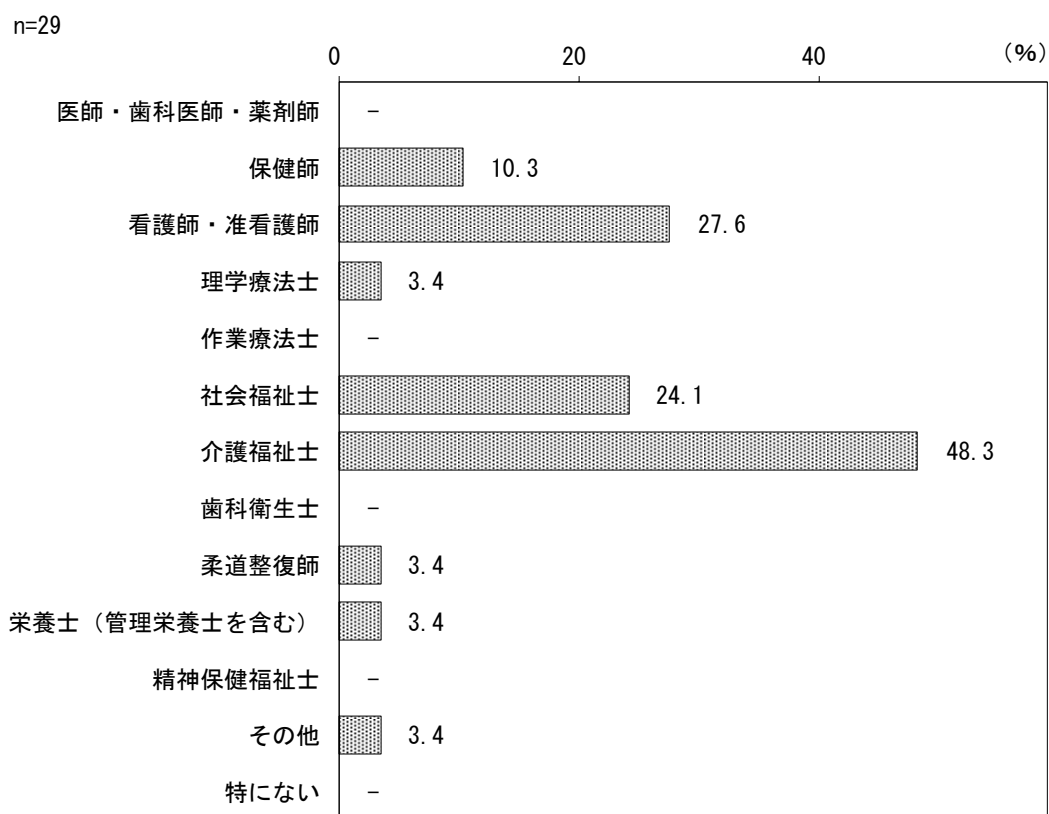
図表4-2 経験年数



(3) 保有資格

▶介護支援専門員以外に保有している保健医療福祉関係の資格については、「介護福祉士」が48.3%と最も高く、次いで「看護師・准看護師」が27.6%、「社会福祉士」が24.1%などとなっています。

図表4-3 保有資格



2 ケアマネジメントと笠松町の現状について

(1) ケアプランの作成件数

- ▶回答があった介護支援専門員27人が作成しているケアプランの総数は728件で、介護支援専門員1人あたりの平均作成件数は27.0件です。
- ▶内訳をみると、要介護1・2が46.4%を占め、次いで要介護3～5が26.5%、要支援1・2が19.8%、事業対象者が7.3%となっています。

図表4-4 ケアプラン作成の状況

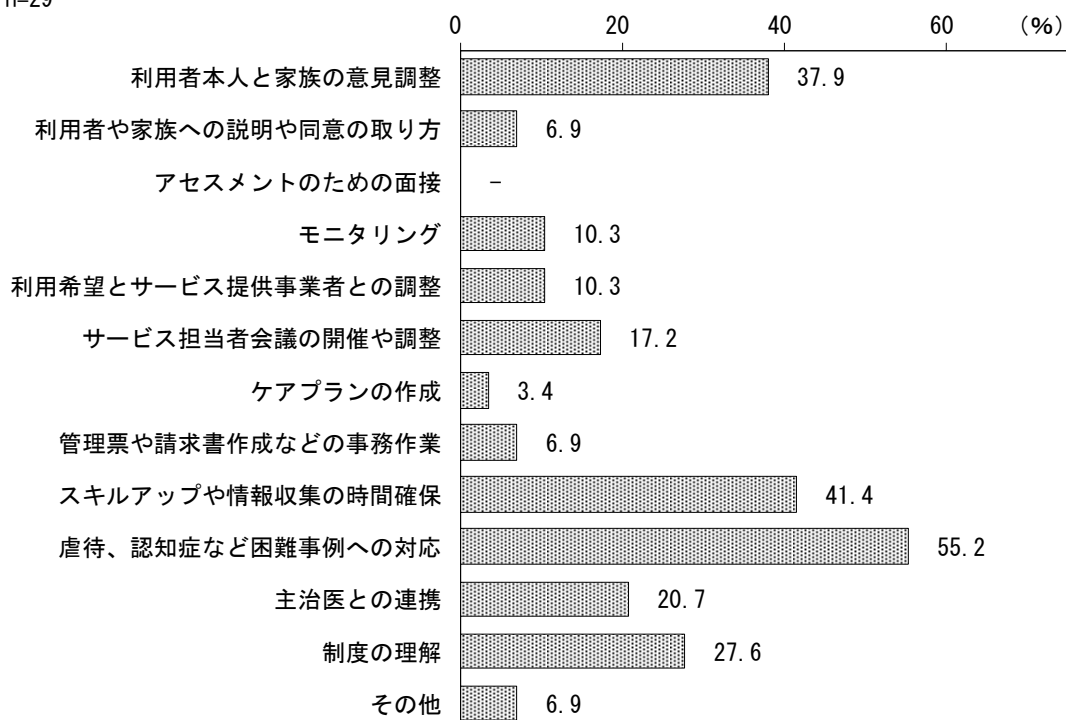
区 分	全 体	事業対象者	要支援 1・2	要介護 1・2	要介護 3～5
件 数 (件)	728	53	144	338	193
比 率 (%)	100.0	7.3	19.8	46.4	26.5
平 均 (件)	27.0	2.0	5.3	12.5	7.1

(2) 介護支援専門員の業務としてむずかしいこと

- ▶介護支援専門員の業務でむずかしいこととしては、「虐待、認知症など困難事例への対応」が55.2%と最も高く、次いで「スキルアップや情報収集の時間確保」が41.4%、「利用者本人と家族の意見調整」が37.9%などとなっています。

図表4-10 介護支援専門員の業務としてむずかしいこと（複数回答・3つまで）

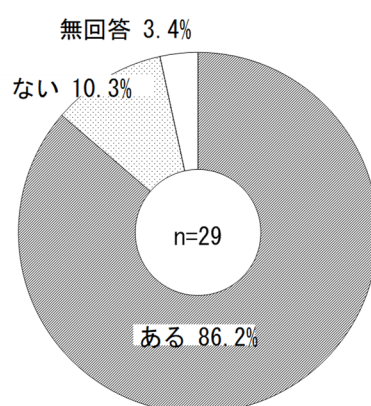
n=29



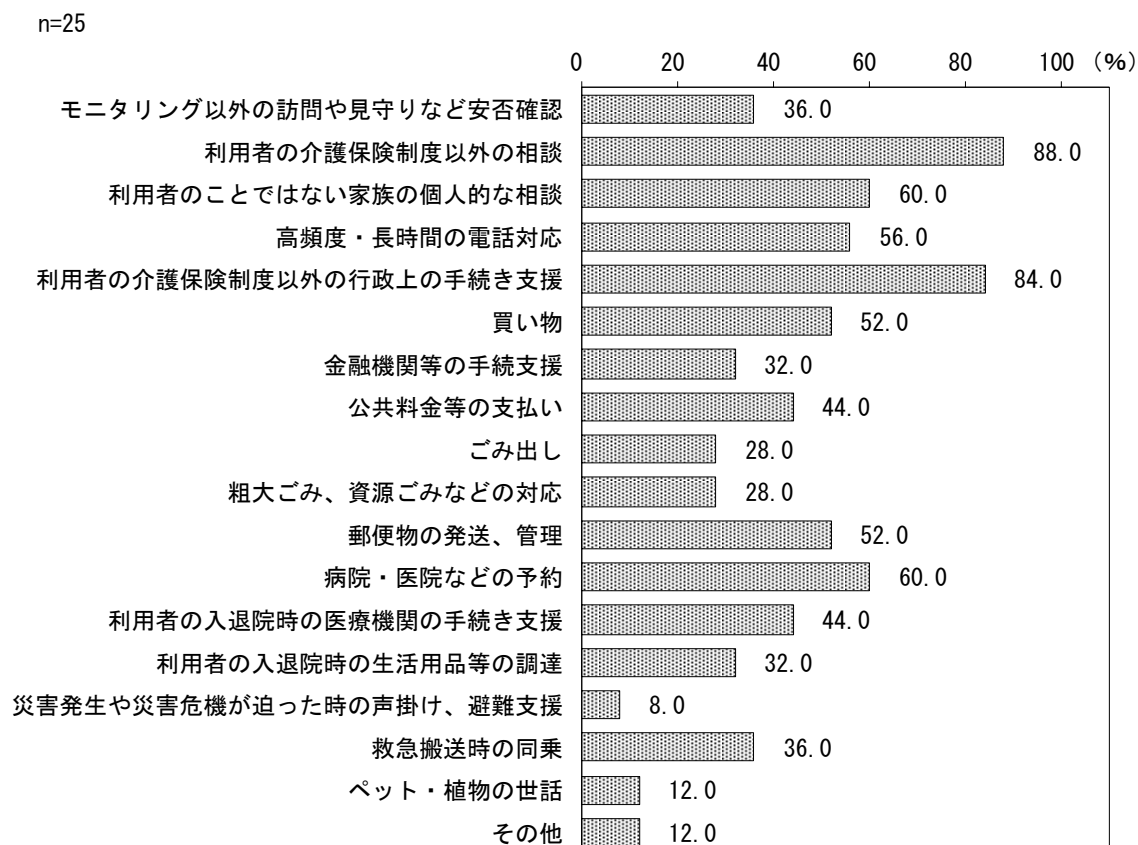
(3) 本来の業務以外のことを頼まれたことがあるか

- ▶利用者からケアマネジャーの本来の業務以外のことを頼まれたことがあるかについては、86.2%が「ある」と回答しています（図表4－5）。
- ▶本来の業務以外のことを頼まれたと回答した25人が、実際に頼まれた内容についてお聞きしたところ、「利用者の介護保険制度以外の相談」が88.0%と最も高く、次いで「利用者の介護保険制度以外の行政上の手続き支援」が84.0%、「利用者のことではない家族の個人的な相談」および「病院・医院などの予約」が60.0%、「高頻度・長時間の電話対応」が56.0%、「買い物」および「郵便物の発送、管理」が52.0%などとなっています（図表4－6）。

図表4－5 本来の業務以外のことを頼まれたことがあるか



図表4－6 本来の業務意外に頼まれた内容（複数回答）

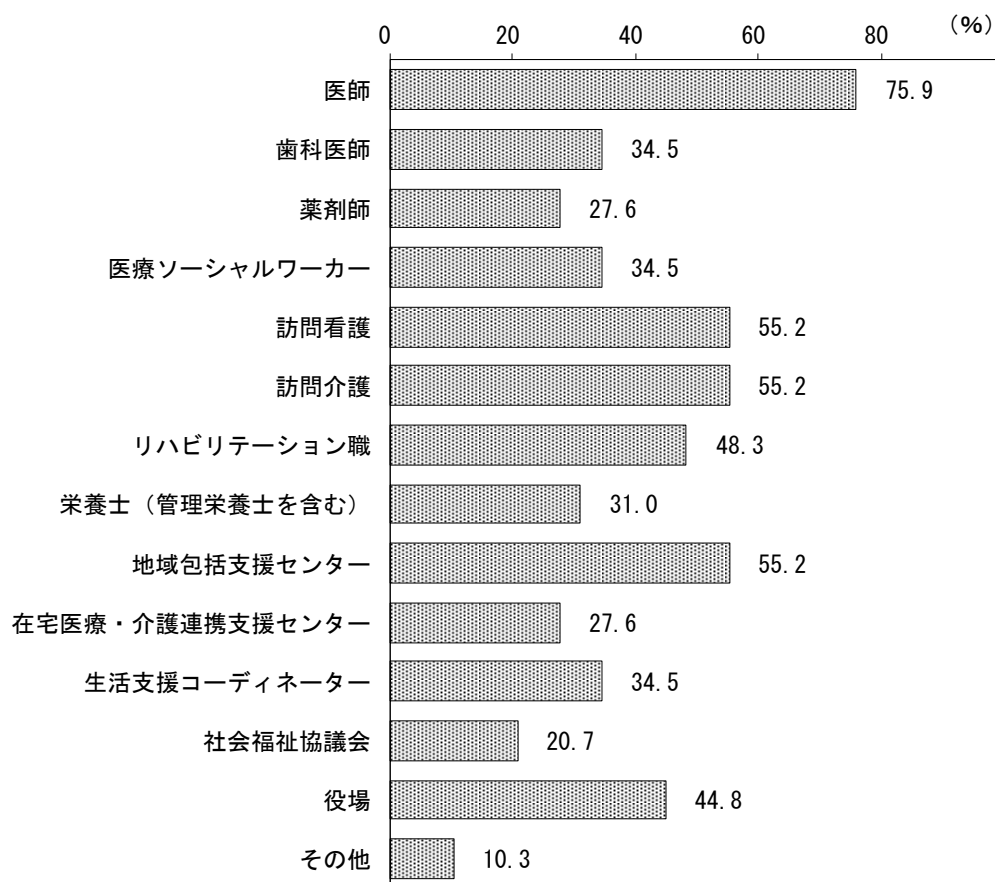


(4) 連携を強化したい機関・窓口

- ▶利用者の在宅生活を支えるために連携を強めたい機関・窓口については、「医師」が75.9%と最も高く、次いで「訪問看護」「訪問介護」および「地域包括支援センター」が55.2%、「リハビリテーション職」が48.3%、「役場」が44.8%などとなっています。
- ▶「その他」として「弁護士」「自費対応サービス」「相談支援専門員、地域福祉事務所、基幹相談支援センター」の記載がありました。

図表４－７ 連携を強化したい機関・窓口（複数回答）

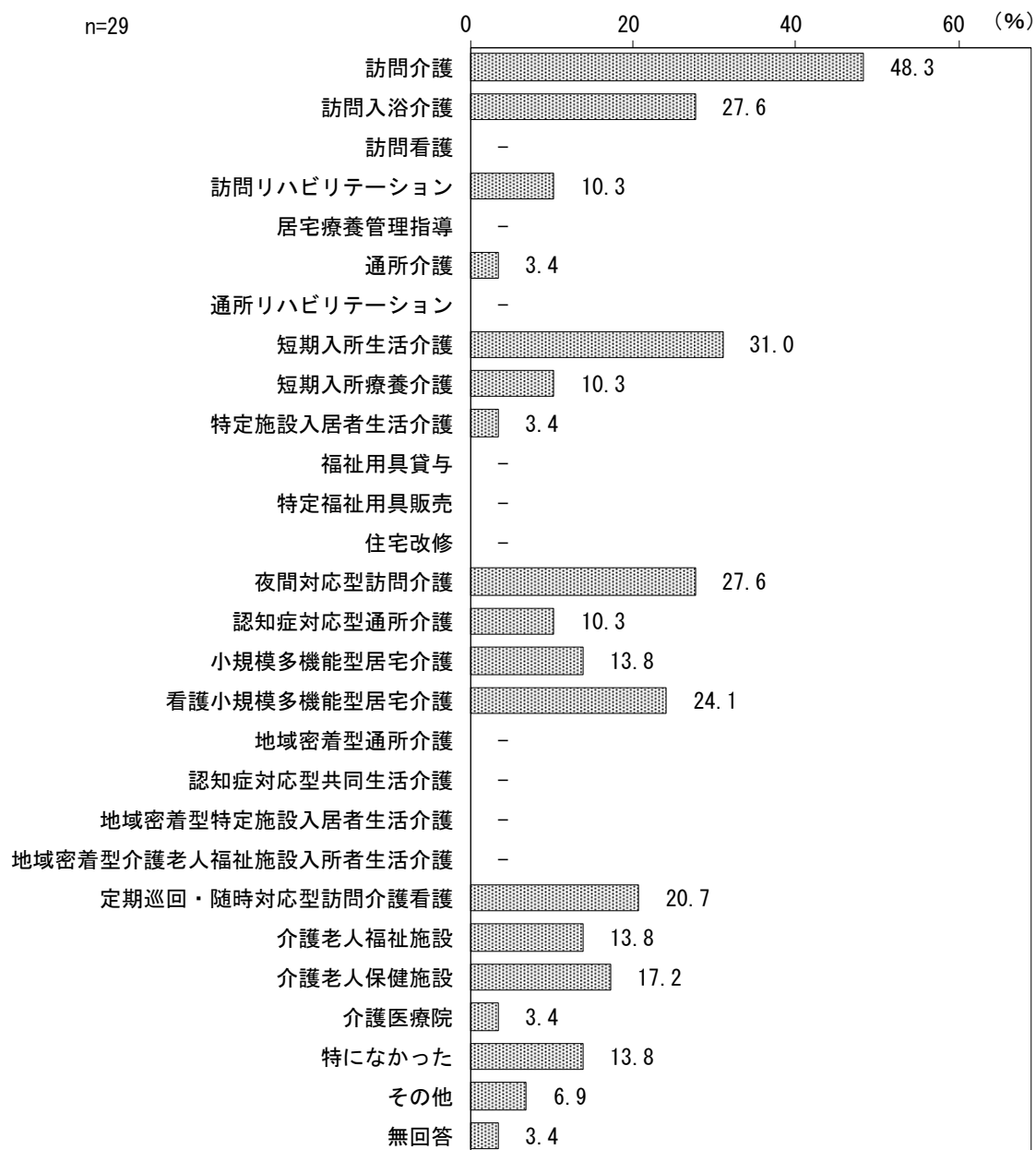
n=29



(5) 確保することが困難だったサービス

- ▶ケアプラン作成にあたり、確保することが困難だった介護サービスとしては、「訪問介護」が48.3%と最も高く、次いで「短期入所生活介護」が31.0%、「訪問入浴介護」および「夜間対応型訪問介護」がそれぞれ27.6%、「看護小規模多機能型居宅介護」が24.1%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が20.7%などとなっています。
- ▶「その他」として「自費サービス」「利用者家族の予算に合った入所施設」の記載がありました。

図表4-8 確保することが困難だったサービス（複数回答）

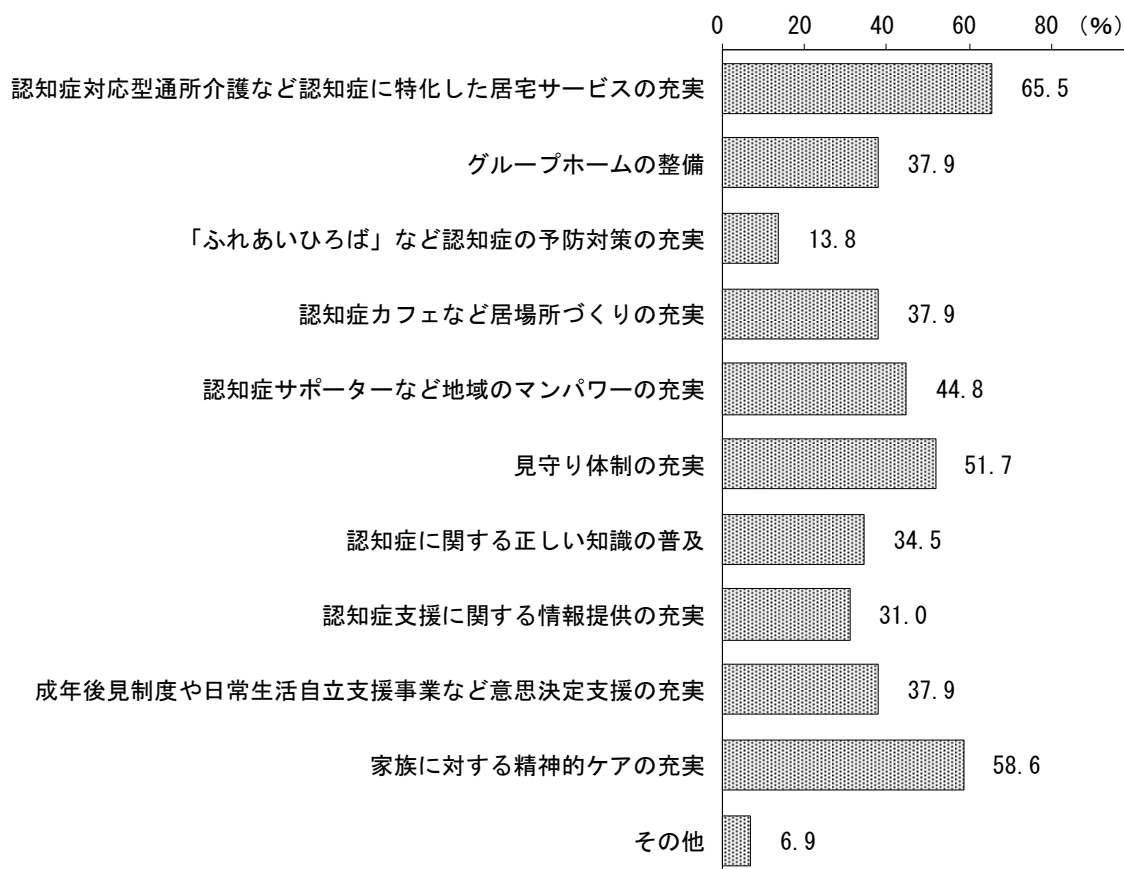


(6) 新しい認知症感

- ▶ 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるまちづくりを笠松町で進めるために重要だと思うことについては、「認知症対応型通所介護など認知症に特化した居宅サービスの充実」が65.5%と最も高く、次いで「家族に対する精神的ケアの充実」が58.6%、「見守り体制の充実」が51.7%、「認知症サポーターなど地域のマンパワーの充実」が44.8%などとなっています。
- ▶ 「その他」として「カフェやサロンへの送迎サービス」「仲間づくり、サークル活動」の記載がありました。

図表４－９ 認知症になっても自分らしく暮らし続けることができるまちづくりに重要なこと

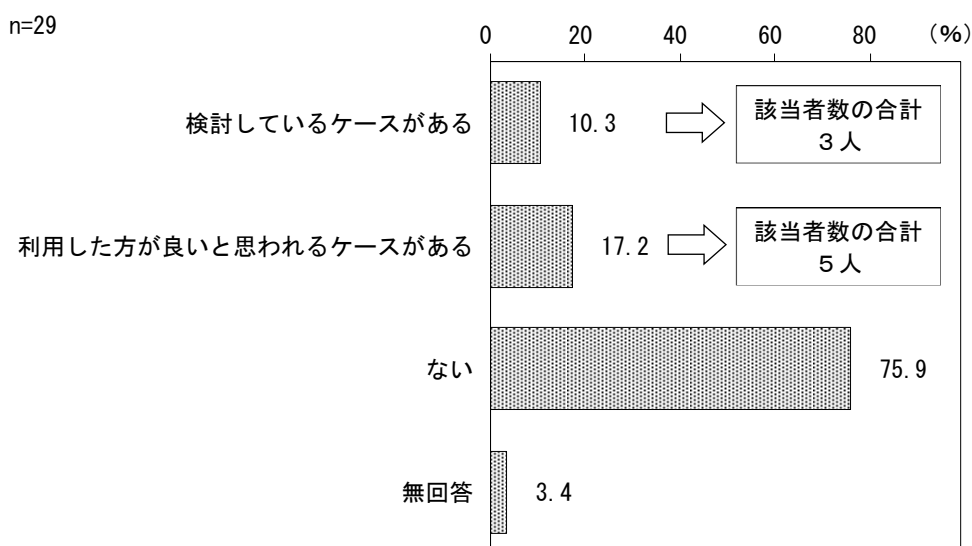
n=29



(7) 成年後見制度の利用を検討しているケース等

- ▶担当している利用者で、成年後見制度の利用を検討しているケースや利用した方がよいと思われるケースについては、「ない」が75.9%を占めていますが、「検討しているケースがある」が10.3%（3人）、「利用した方がよいと思われるケースがある」が17.2%（5人）ありました。
- ▶「検討しているケースがある」と回答した3人と、「利用した方がよいと思われるケースがある」と回答した5人に、それぞれの該当者数をお聞きしたところ、すべて1人という回答でした。

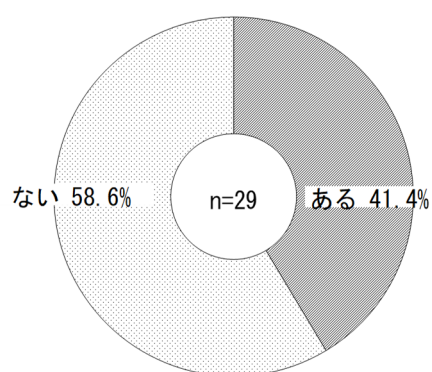
図表 4-10 成年後見制度の利用を検討しているケース等はあるか



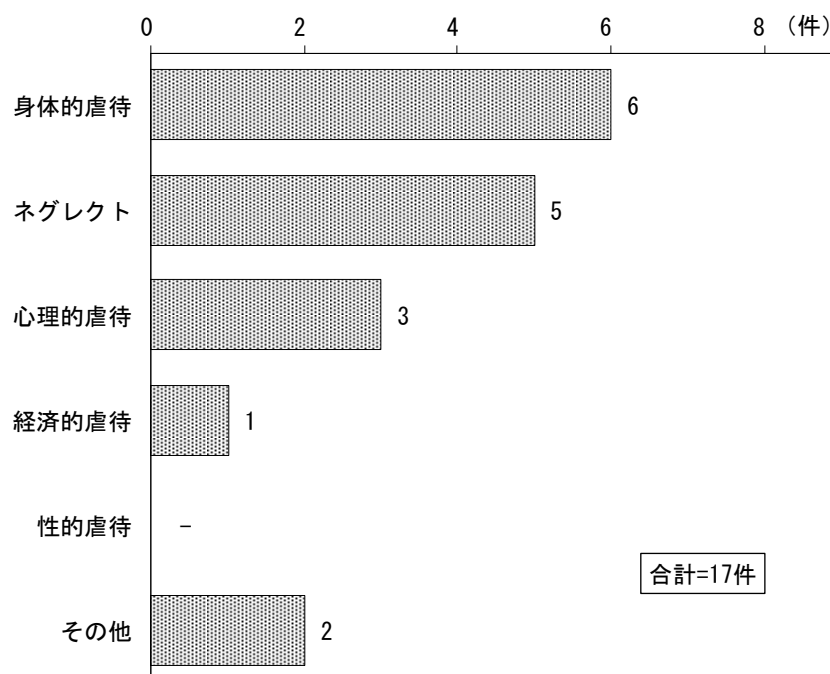
(8) 虐待の疑われるケースに関わったこと

- ▶この1年間に虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」のは41.4%（12人）です。
- ▶虐待の疑われるケースの合計は17件で、「身体的虐待」が6件、「ネグレクト」が5件、「心理的虐待」が3件、「経済的虐待」が1件、「その他」が2件となっています。
- ▶「その他」として「部屋への閉じ込め」という記載が2件ありました。

図表 4-11 虐待の疑われるケースに関わったこと



図表 4-12 虐待の分類（複数回答）

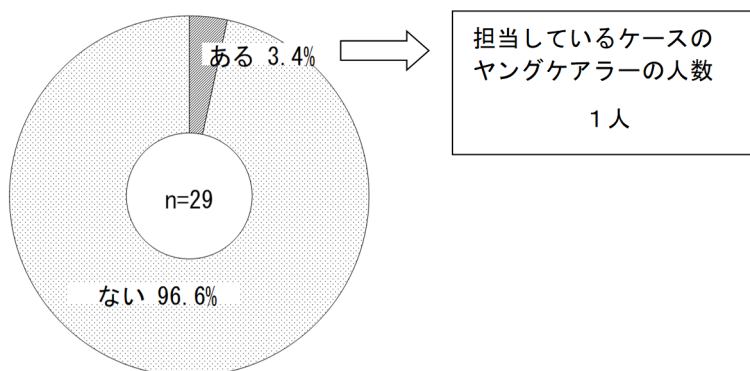


(9) 主な介護者がヤングケアラーであるケース

▶「担当している利用者と、主に介護しているのが、通学や仕事をしている子ども（ヤングケアラー）であるケースはありますか」とたずねたところ、「ある」が3.4%（1人）ありました。

▶「ある」と回答した人が担当しているケースのヤングケアラーの人数については1人です。

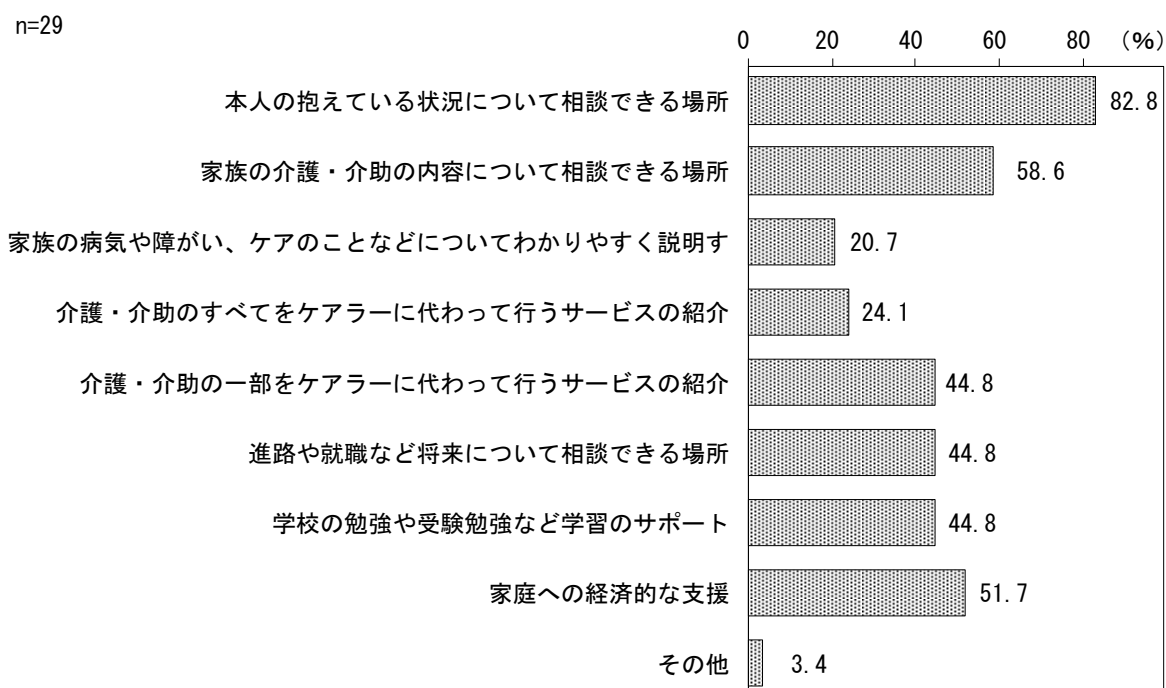
図表 4-13 主な介護者がヤングケアラーであるケースはあるか



(10) ヤングケアラーを支援するために必要なこと

▶ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては、「本人の抱えている状況について相談できる場所」が82.8%と最も高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」が58.6%、「家庭への経済的な支援」が51.7%などとなっています。

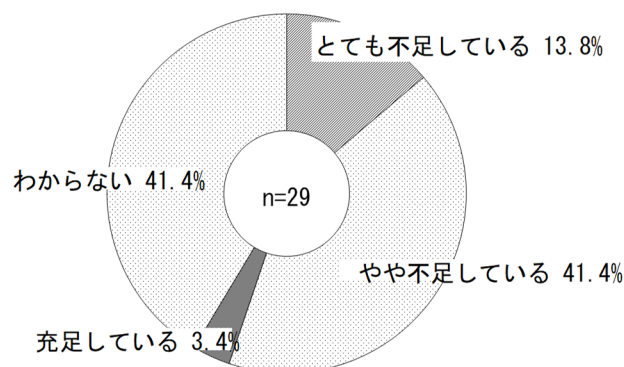
図表 4-14 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）



(11) 町内の介護支援専門員の数について

▶町内の介護支援専門員の数について、どのように感じているかについては、「やや不足している」および「わからない」が、それぞれ41.4%と最も高くなっています。「とても不足している」が13.8%であり、「やや不足している」との合計《不足している》は55.2%です。「充足している」は3.4%（1人）です。

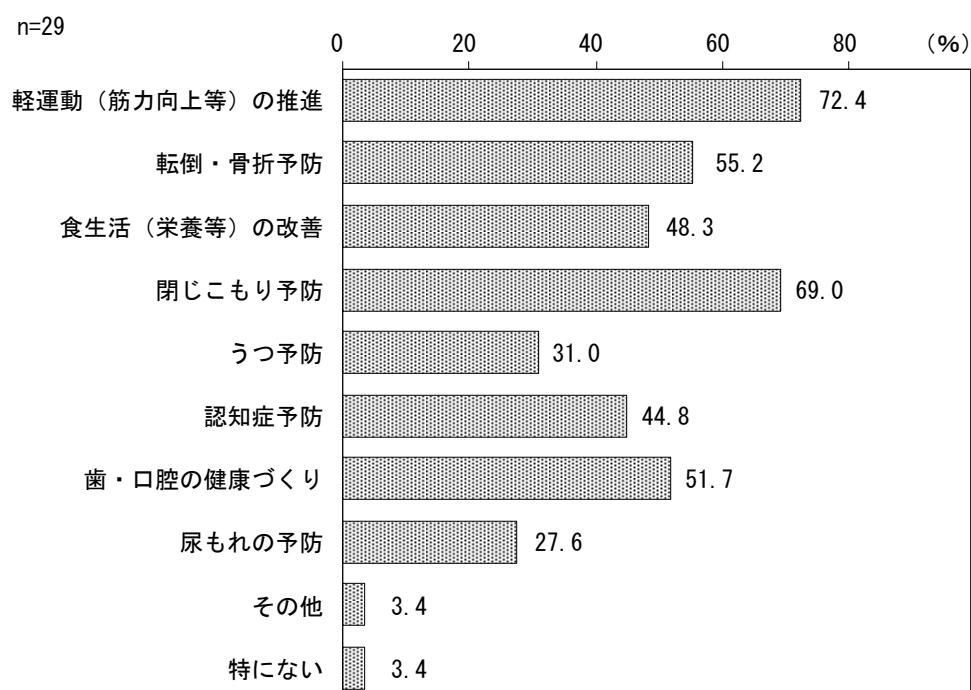
図表 4-15 町内の介護支援専門員の数について



(12) 効果的な介護予防の取り組み

▶効果的だと思う介護予防の取り組みとしては、「軽運動（筋力向上等）の推進」が72.4%と最も高く、次いで「閉じこもり予防」が69.0%、「転倒・骨折予防」が55.2%、「歯・口腔の健康づくり」が51.7%などとなっています。

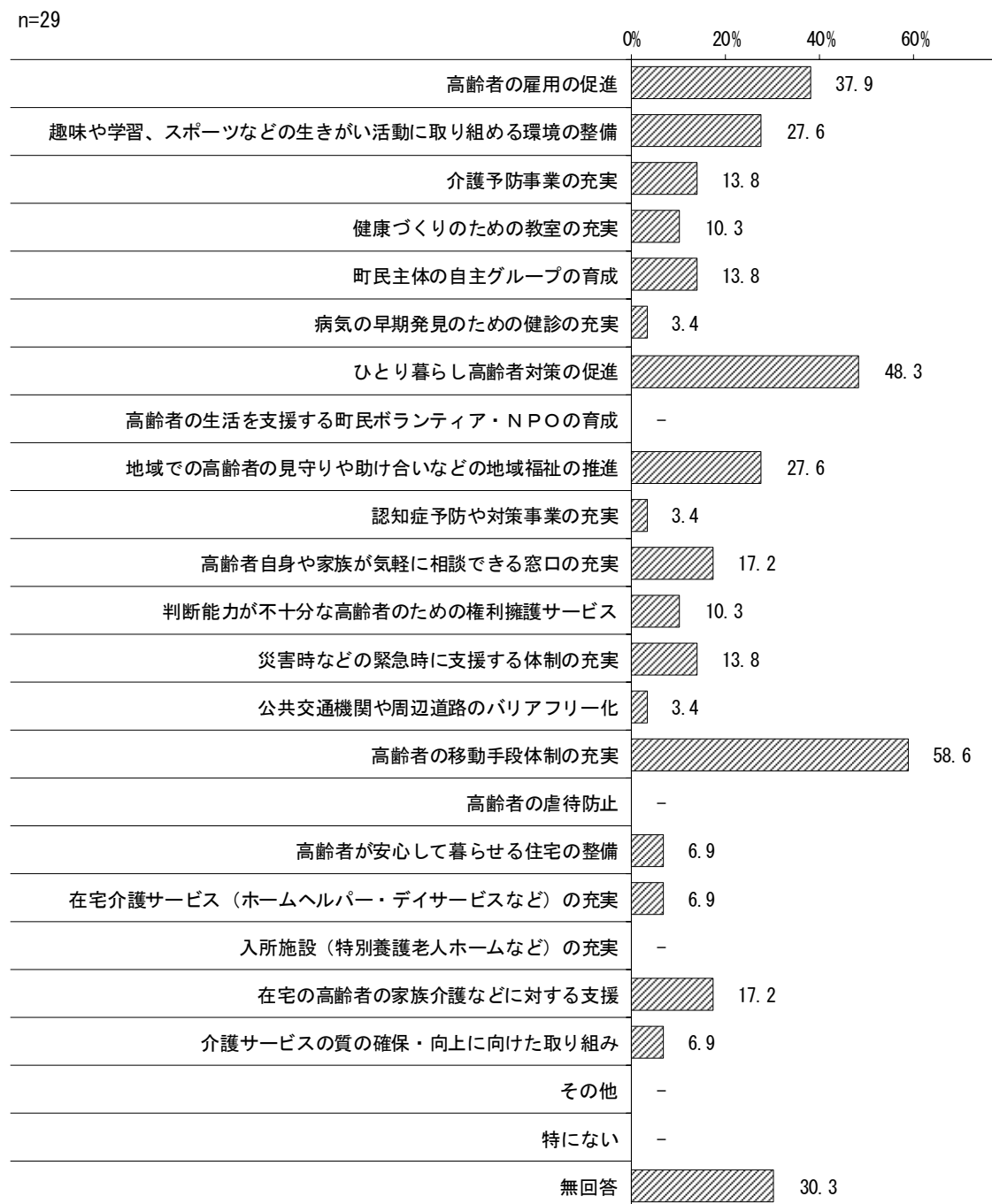
図表 4-16 介護予防に関して充実してほしいこと（複数回答）



(13) 重点に置くべき高齢者施策

▶高齢社会に対して、今後何に重点を置くべきだと思うかについては、「高齢者の移動手段体制の充実」が58.6%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者対策の促進」が48.3%、「高齢者の雇用の促進」が37.9%などとなっています。

図表4-17 市に希望すること（複数回答・3つまで）



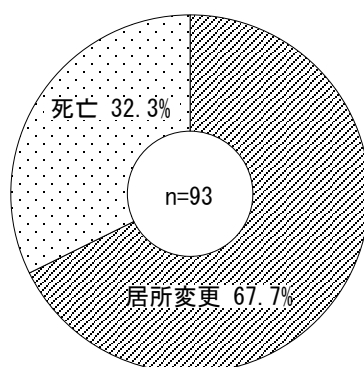
第5章 サービス事業所調査

1 在宅生活改善調査

(1) 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合

▶過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者と自宅等で死亡した利用者の割合をみると、「居所変更」は67.7%（63人）、「死亡」は32.3%（30人）です。

図表5-1 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



(2) 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

▶「居所変更」した63人の行先をみると、「住宅型有料老人ホーム」が19人と最も多く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が12人などとなっています。

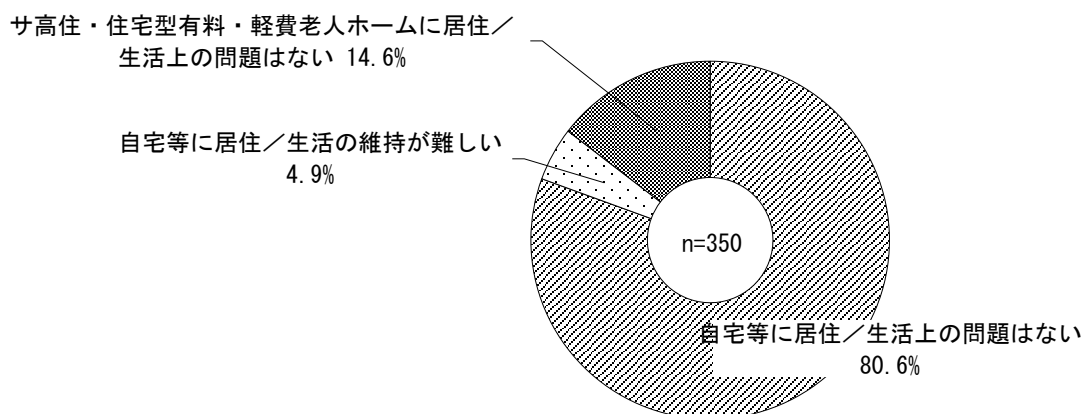
図表5-2 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行 先	町 内	町 外	合 計
兄弟・子ども・親戚等の家	0人（－）	1人（1.6%）	1人（1.6%）
住宅型有料老人ホーム	8人（12.7%）	11人（17.5%）	19人（30.2%）
サービス付き高齢者向け住宅	11人（17.5%）	1人（1.6%）	12人（19.0%）
グループホーム	1人（1.6%）	0人（－）	1人（1.6%）
地域密着型特定施設	2人（3.2%）	0人（－）	2人（3.2%）
介護老人保健施設	8人（12.7%）	1人（1.6%）	9人（14.3%）
介護医療院	3人（4.8%）	0人（－）	3人（4.8%）
特別養護老人ホーム	3人（4.8%）	3人（4.8%）	6人（9.5%）
地域密着型特別養護老人ホーム	0人（－）	1人（1.6%）	1人（1.6%）
病院・診療所	7人（11.1%）	2人（3.2%）	9人（14.3%）
合 計	43人（68.3%）	20人（31.7%）	63人（100.0%）

(3) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

▶現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者については、「自宅等に居住／生活の維持が難しい」が4.9%（17人）あります。

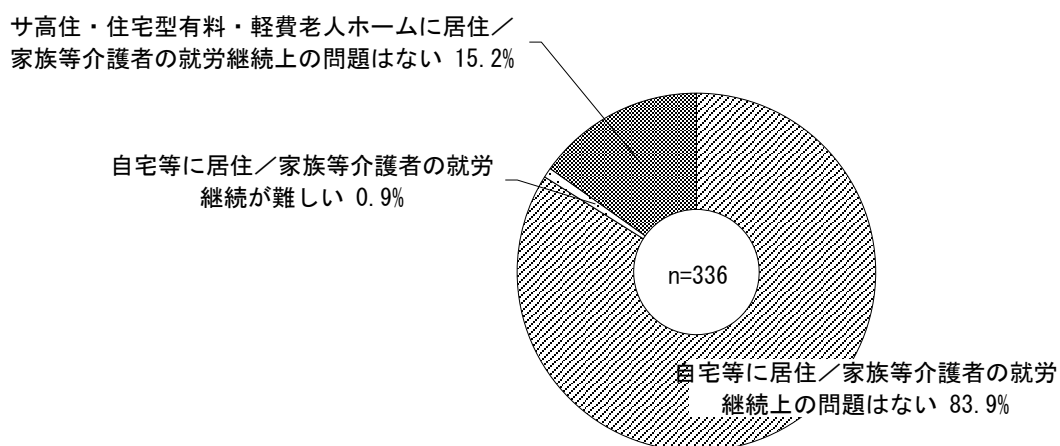
図表5-3 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



(4) 現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者

▶家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者については、「自宅等に居住／家族等介護者の就労継続が難しい」が0.9%（3人）あります。

図表5-4 現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



2 居所変更実態調査

(1) 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

▶過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合をみると、死亡の割合が80%以上で高いのは特別養護老人ホームと住宅型有料老人ホームです。

図表5-5 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

図表5-6 サービス種別	居所変更	死 亡	合 計
住宅型有料老人ホーム (n=2)	6 人 (20.0%)	24 人 (80.0%)	30 人 (100.0%)
サービス付き高齢者向け住宅(n=1)	4 人 (50.0%)	4 人 (50.0%)	8 人 (100.0%)
グループホーム (n=1)	9 人 (100.0%)	0 人 (-)	9 人 (100.0%)
介護老人保健施設 (n=1)	66 人 (76.7%)	20 人 (23.3%)	86 人 (100.0%)
介護医療院 (n=2)	25 人 (45.5%)	30 人 (54.5%)	55 人 (100.0%)
特別養護老人ホーム (n=1)	4 人 (12.5%)	28 人 (87.5%)	32 人 (100.0%)
合 計 (n=8)	114 人 (51.8%)	106 人 (48.2%)	220 人 (100.0%)

(2) 居所変更した理由

▶入居・入所者が退居する理由については、「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が75.0%と最も高くなっています。

図表5-7 居所変更した理由（複数回答／3つまで）

単位：%

区分	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他
(n=8)	—	25.0	25.0	75.0	12.5	12.5	12.5	12.5	50.0	50.0

3 介護人材実態調査

(1) 介護職員数の変化

▶過去1年の介護職員数の変化をみると、施設・居住系サービスでは採用者数に対し離職者数が少なく職員数は増加していますが、通所系サービスおよび訪問系サービスでは採用者数に対し離職者数が多く職員数が減少しています。

図表5-8 介護職員数の変化

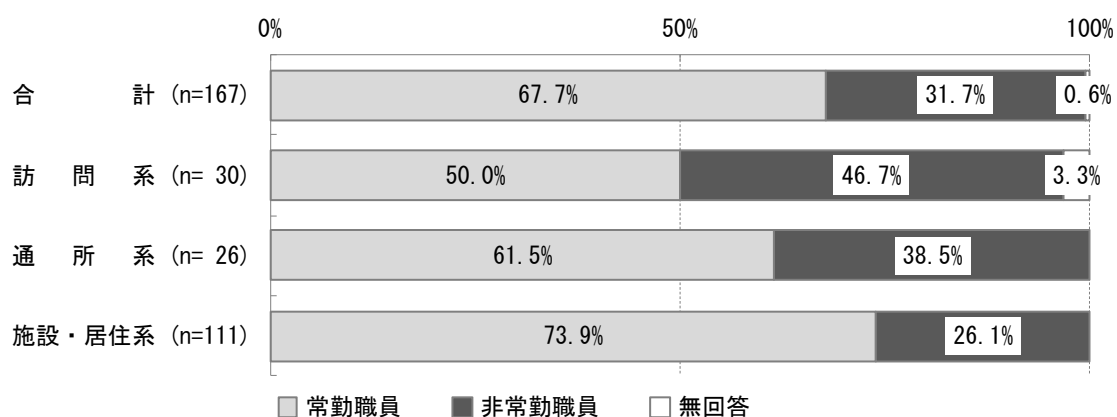
サービス 系統	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統 (n=19)	133人	57人	190人	30人	17人	47人	22人	14人	36人	106.4%	105.6%	106.1%
訪問系 (n=3)	13人	3人	16人	2人	1人	3人	3人	1人	4人	92.9%	100.0%	94.1%
通所系 (n=4)	13人	10人	23人	4人	1人	5人	4人	4人	8人	100.0%	76.9%	88.5%
施設・居住系 (n=12)	107人	44人	151人	24人	15人	39人	15人	9人	24人	109.2%	115.8%	111.0%

※nは事業所数

(2) 介護職員のサービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合

▶サービス系統別に介護職員の常勤・非常勤の割合をみると、施設・居住系サービスでは「常勤職員」が70%以上を占めていますが、訪問系サービスでは50.0%となっており、「非常勤職員」の割合と拮抗しています。

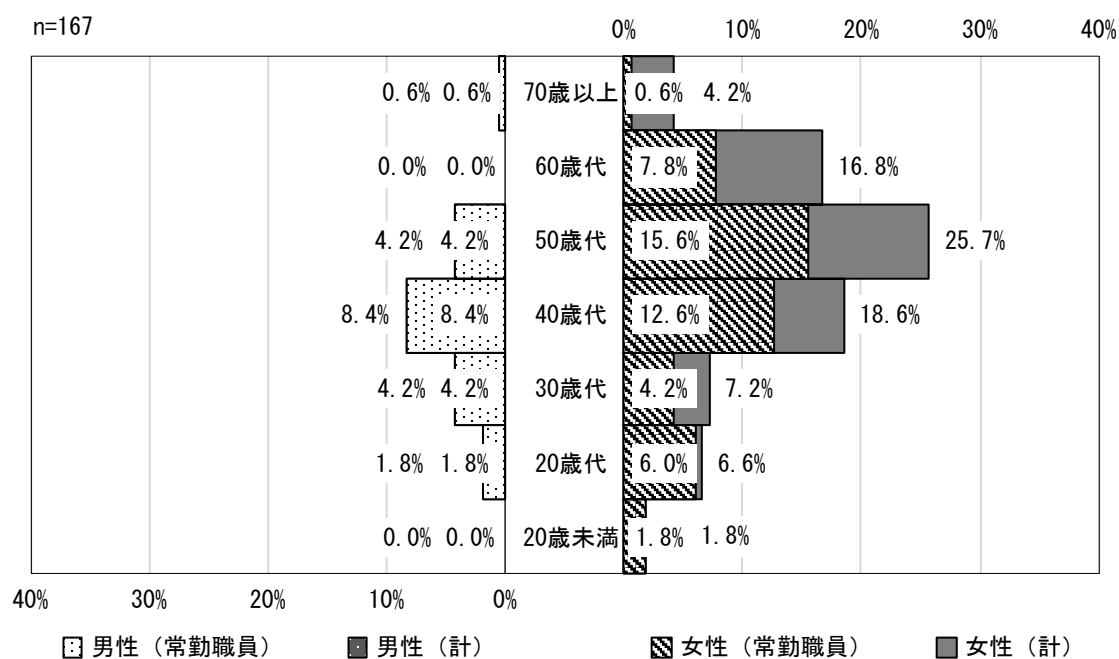
図表5-9 介護職員のサービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合



(3) 介護職員の性別・年齢別の雇用形態の構成比

- ▶介護職員を性別・年齢別にみると、50歳代以上が50%以上を占めており、特に女性の50歳代が25.7%、60歳代が16.8%となっています。
- ▶性別・年齢別に雇用形態の構成比をみると、男性は全員が「常勤職員」ですが、女性は年齢が上がるにしたがい非常勤の割合が高くなる傾向にあり、60歳代以上では過半数を占めています。

図表5-10 性別・年齢別の雇用形態の構成比



**笠松町老人福祉計画・第10期介護保険事業計画
のためのアンケート結果報告書**

発 行◇◇令和8年3月

発行者◇◇笠松町

住民福祉部 健康介護課

〒501-6063

羽島郡笠松町長池408番地の1 福祉健康センター内

TEL:058-388-7171 FAX:058-388-5955